SONY

4-085-431-04 (1)

FD Trinitron
WEGA
SUPER FINE PITCH

digital Hi-Vision

トリニトロンデジタルテレビ取扱説明書

KD-28HD800
KD-32HD800
KD-36HD800

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

操作

次のページにつづく

準備

接続

受信設定

他機との接続

i.LINKでの接続

その他

この取扱説明書での放送の表記について

地上波
NHKや民放各局のテレビ放送(VHF/UHF)のことです。東京タワーなど地上にある電波塔や中継塔から放送信号が送られるため地上波と呼びます。

BS(またはBSデジタル)
2000年12月に本放送が開始されたBSデジタル放送のことです。
例：BS放送、BSチャンネル、BSテレビ、BSラジオ、BSデータなど

BSアナログ
従来からのBSアナログチューナー内蔵テレビやビデオで受信できるBSアナログ放送の4チャンネル(NHK BS1、NHK BS2、NHKハイビジョン、WOWOW)と、独立音声ラジオ放送(St. GIGA)のことです。
例：BSアナログ放送、BSアナログチューナー内蔵テレビ、BSアナログチューナー内蔵ビデオなど

ハイビジョン放送
BSアナログでのBS9チャンネル(NHKハイビジョン)の放送のことです。
BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン信号 HD ではありません。

デジタルCS
2001年9月現在放送されているスカイパーフェクTV!のことです。
110度CS放送ではありません。

この取扱説明書は、地上波やBSデジタル放送をご覧いただくための操作や設定を説明しています。新しいデジタル放送の110度CSデジタル放送については、同梱の「110度CS操作ガイドブック」で補足説明しています。110度CSデジタル放送をご覧になるための操作や機能は、BSデジタル放送とほぼ同じです。詳しくは、「110度CS操作ガイドブック」を参照してください。

チャンネルの選びかたガイド

テレビ（地上波）・BSそれぞれに、状況に合わせて、チャンネルの選びかたを使い分けると便利です。

テレビ（地上波）を見る

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンで直接選ぶ

ちょっと一言

BSデジタルや、本機につないだ他の機器の画像を見ている（☞21ページ）ときに押しても、選んだ地上波チャンネルに切り換わります。

チャンネル＋/－ボタンで選ぶ

① 地上波になっていないときは、地上ボタンを押して、地上波に切り換える。

② チャンネル＋/－ボタンを押す。

ちょっと一言

地上波のチャンネルの中で順送り選局します。

d（連動データ）ボタン

自動的に電源が入るチャンネルポン

次のボタンは、テレビ本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときに押せば、自動的に電源が入り、（　）内のチャンネルが映ります。

- チャンネル＋/－ボタン（最後に見ていたチャンネル）
- ①～⑫/選局の地上波用数字ボタン（選んだ地上波チャンネル）
- 1～12/選局 のBS用数字ボタン（選んだBSテレビチャンネル）

BSテレビやBSラジオと連動しているBSデータを見るときは

BSテレビやBSラジオを視聴しているときにd（連動データ）ボタンを押す。

詳しくは、「BSテレビやBSラジオと連動したBSデータを見る［d（連動データ）ボタン］」（☞36ページ）をご覧ください。

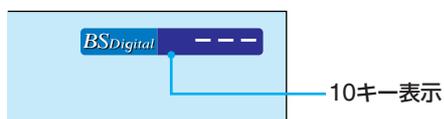
番組表やMYプラスで選ぶ☞40～55ページ

テレビ画面で番組表や番組説明を見ながら、簡単に選局できます。

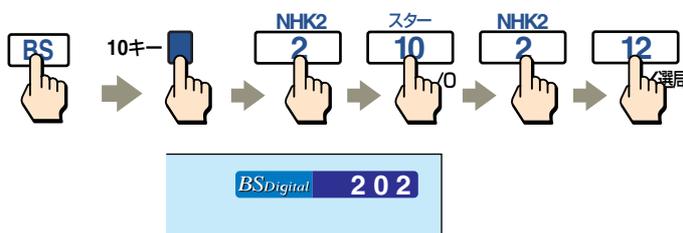
- 番組表：BSの番組表から見たい番組を選ぶ（☞42ページ）
- MYチャンネル選局：好みのBSチャンネル一覧からBSチャンネルを選ぶ（☞45ページ）
- MYチャンネル番組表：好みのBSチャンネルの番組表から番組を探す（☞47ページ）
- MYジャンル検索：好みのジャンルの一覧から番組を探す（☞49ページ）
- 全ジャンル検索：すべてのジャンルの一覧から番組を探す（☞53ページ）

3ケタのチャンネル番号で直接選ぶ

① BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

② 10キー■ボタンを押す。

③ 1～10/0までのBS用数字ボタンで3ケタのチャンネル番号を百の位から順に押す。

④ 12/選局ボタンを押す。（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。）

例）202chを見るとき

ご注意

チャンネルを選ぶ前に10キー表示が消えたときは、10キー■ボタンを押して、手順②からやり直してください。

BSテレビを 1～12/選局 のBS用数字ボタンで直接選ぶ

選んだBSテレビ局の代表チャンネルになります。

ちょっと一言

- 地上波を見ているときに押しても、選んだBSテレビ局の代表チャンネルに切り換わります。
- 11、12/選局ボタンに、お好きなBSチャンネルを登録できます（☞156ページ）。

チャンネル+/−ボタンで選ぶ

① BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

② 見たいBSを選ぶ。

または
または
③ チャンネル+/−ボタン押す。

押し続けるとチャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのチャンネルが映ります。

ちょっと一言

選んだBSのチャンネル内で順送り選局します。例えば、BSテレビのときは、BSラジオやBS独立データに切り換わることなく、BSテレビのチャンネルの中で順送り選局します。

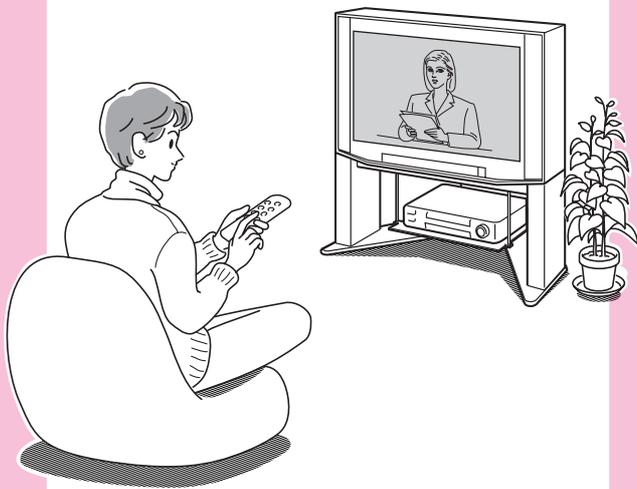
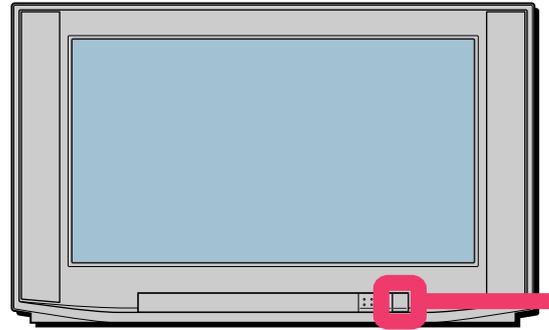
ちょっと一言

BS視聴中、テレビボタン、ラジオボタン、独立データボタンは、見たいBSに切り換えるときに便利です。BSテレビを見ているときに、ラジオボタンを押せば、最後に選んでいたBSラジオチャンネルに切り換わります。**本体のサービス切換ボタンでも切り換えられます。**

見る

テレビ（地上波）を見る

ここでは、テレビ（地上波）をはじめ、ビデオやテレビゲームなど本機につないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。また、ワイド画面の楽しみかたを説明しています。
加えて、地上波やBSデジタル、本機につないだ映像のどれを見ているときでも選べる、お好みの画質や音質モード、サラウンド、節電しながらの視聴など多彩な機能の操作も説明しています。

テレビを設置するときは、必ず、「準備5：地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する」（☞131ページ）を、行ってください。
地磁気などの影響により、画像が傾いたり、上下位置がずれたり、色むらなどが発生したりする場合があるためです。

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。もう1度押すと表示は消えます。

地上ボタン
地上波になっていないときに、地上波に切り換えます。地上ボタンを押すと、チャンネル＋/－ボタンで、地上波のチャンネルが選べるようになります。

💡ちょっと一言
省電力のため、地上波放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的に電源スタンバイになります。放送局の信号によっては「オートシャットオフ」機能が働かないことがあります。

本機の電源を入れる。

地磁気*などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が約10秒前後で映ります。

* 地球が一つの大きな磁石となって発生する磁場で、方位磁石が南北を示すのも地磁気によるものです。色むらの原因になることがあります。

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは
リモコンの電源ボタンを押す。

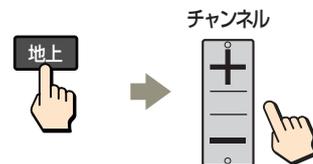
スタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは
本体の電源スイッチを押す。

自動的に電源が入るチャンネルポン
①～⑫/選局の地上波用数字ボタンを押してください。
本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときに押せば、自動的に電源が入り、選んだ地上波チャンネルが映ります。

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

💡ちょっと一言
BSデジタルや本機につないだ他の機器の画像を見ているときに押しても、選んだ地上波チャンネルに切り換わります。

チャンネル+/－ボタンで選ぶには

① 地上波になっていないときは、地上ボタンを押して、地上波に切り換える。
② チャンネル+/－ボタンを押す。

音量+/－ボタンで音量を調節する。

💡ちょっと一言
音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

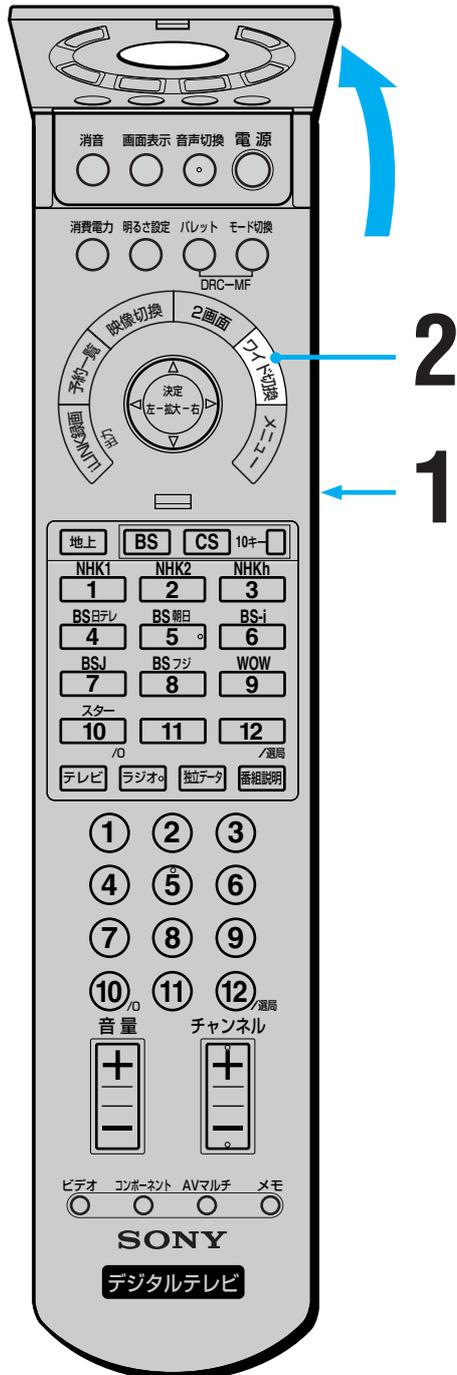
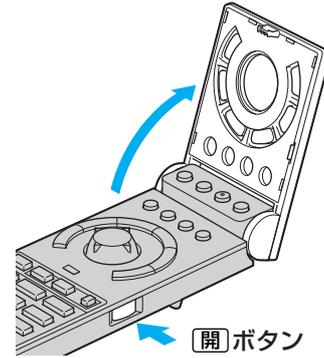
テレビ（地上波）をワイド画面で楽しむ

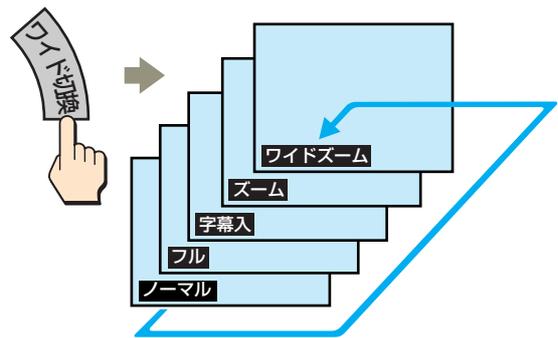
自動でワイド画面にする［オートワイド］

通常のテレビ（地上波）放送も、ワイドクリアビジョン放送や映画など横長サイズの映像も、下のイラストのように、本機が最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。これをオートワイド機能と言います。下の例では、「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されているとき（☞90～91ページ）を示しています。BSデジタルのワイド画面での画像の見えかたについては、「BSをワイド画面で楽しむ」（☞74ページ）をご覧ください。

オリジナルの映像（映像の種類）		画面モード	オートワイドの映像	
• 画面横縦比4：3のテレビ（地上波）		ワイドズームになる		違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
• ワイドクリアビジョン放送（横縦比16:9） • ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画（横縦比1.85:1） • 横縦比情報の入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）		ズームになる		画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）
• シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画（横縦比2.35:1）		字幕入になる		画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。
• 横縦比情報の入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS2方式）		フルになる		天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。
• 「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定したとき（☞90～91ページ）		ノーマルになる		拡大せずに、横縦比4:3のままの映像になります。

手動でワイド画面に切り換える［ワイド切換ボタン］

オートワイド機能とは別に好きな画面モードを手動でも選べます。また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 ワイド切換ボタンをくり返し押す。

1回押すと、映像のサイズや種類に応じて、本機が最適な画面モードをすばやく選んで表示します*。その後、押すたびに、次のように画面モードが変わります。画面モードの詳しい説明については、☞10、74ページをご覧ください。

* 「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定しているとき（☞90～91ページ）は、オリジナルの映像が4:3のときはワイド画面にならないで、画面横縦比4:3の映像のまま（「ノーマル」のまま）になります。

ちょっと一言

手動でワイド画面を楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞90～91ページ）。

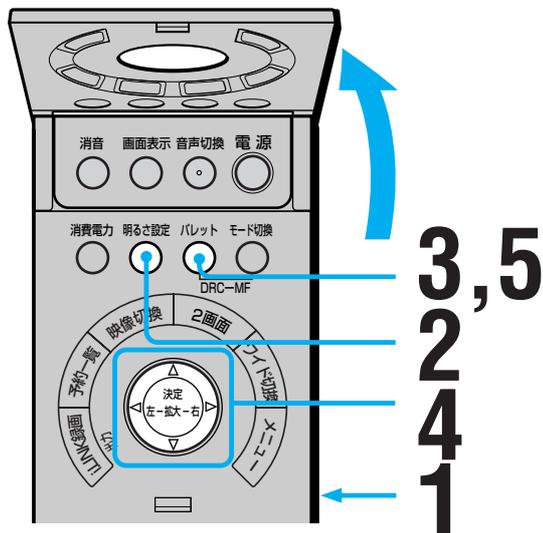
映像に合った好みの画質に調整する［DRC-MFパレットボタン］

明るさ設定ボタンで「リビング」や「AVプロ」を選ぶ（☞15ページ）と、**画質の「くっきり」（リアル感）、「すっきり」（映像のざらつき感）を、お好みに合わせて調整できます。**

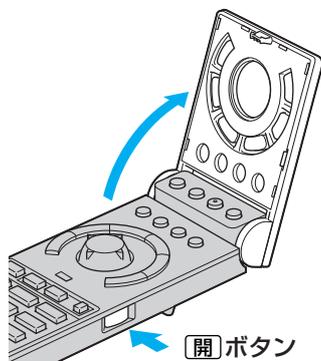
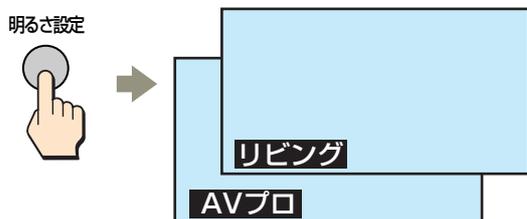
「リビング」、「AVプロ」それぞれで調整できます。調整した内容は、テレビ（地上波）、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

●を動かすだけで、映像に合った画質を自由に調整できます。

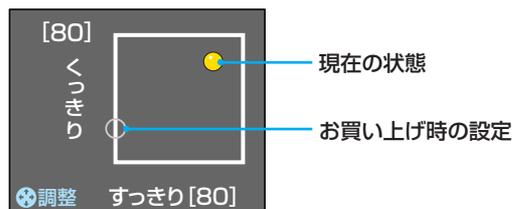
お買い上げ時の設定
「くっきり」は 25
「すっきり」は　1
良好な受信状態での標準的なテレビ放送のときに適した位置です。リアル感を下げることもできます。

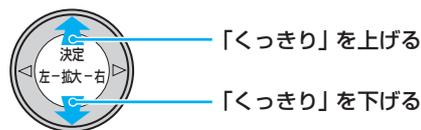
DVDソフトなどノイズが少ない映像は「1」のままで十分に高画質映像を楽しめます。

1 [開]ボタンを押して、フタを開ける。

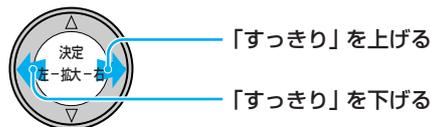
2 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「リビング」または「AVプロ」を選ぶ。

ご注意

「ダイナミック」と「スタンダード」(☞15ページ)では、画質調整できません。

3 DRC-MFパレットボタンを押す。

4 △/▽/◁/▷で●(現在の状態)を動かして、好みの画質に調整する。

押し続けると早く動きます。

「くっきり」(リアル感)を調整するには

△を押すと、映像の細部をよりリアル感のある画質にします。

「すっきり」(映像のざらつき感)を調整するには

▷を押すと、映像のざらつき(ノイズ)を抑えます。

ちょっと一言

「くっきり」、「すっきり」の数値を、1〜100の範囲で調整できます。調整するときの目安にしてください。

5 調整し終わったら、DRC-MFパレットボタンを押す。

DRC-MFパレットが消えます。

ご注意

以下のときは、DRC-MFパレットの調整はできません。

- BSデジタルやi.LINK端子につないだi.LINK対応機器から、525i(480i)* SD 以外の信号を受信しているとき
- 2画面
- メモ画面
- AVマルチ入力でCGゲームモード(☞23ページ)が「入」のとき
- 明るさ設定(☞15ページ)が「ダイナミック」、「スタンダード」のとき
- AVマルチ入力端子、コンポーネント1入力端子およびコンポーネント2(D4映像)入力端子につないだ機器から525i(480i)* SD 以外の信号を受信しているとき
- "メモリースティック"に記録された静止画像を表示しているとき(☞109〜117ページ)

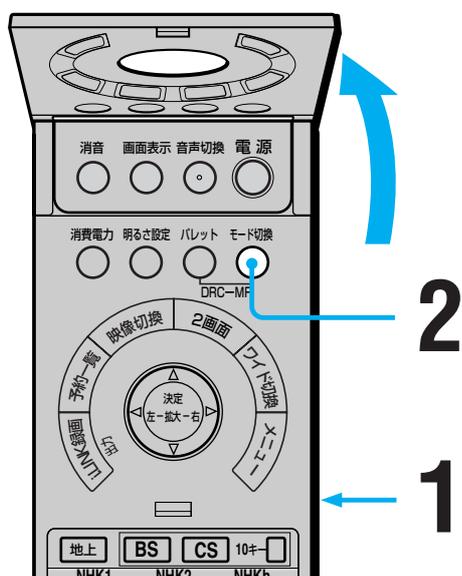
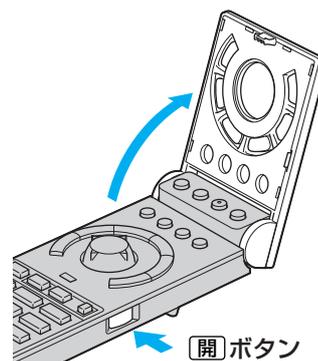
* 詳しくは、「BSデジタルの画質について」(☞27ページ)をご覧ください。

映像に合ったリアル高画質で見る［DRC-MFモード切換ボタン］

本機搭載の高画質回路「DRC-MF」（デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチファンクション）で、テレビ（地上波）とBSデジタルの525i（480i）*標準テレビ信号SDなどの信号を4倍の情報量で映し出し、きめ細かくて質感のあるリアルな画像を楽しめます。

通常ご覧になるときは、**お買い上げ時の設定であるDRC4倍密（標準）モードのまま、お楽しみください。**
静止画の文字などのチラツキが気になるときは、**DRCプログレッシブ**モードに切り換えてください。525i（480i）の信号を525p（480p）*に変換して順次走査（プログレッシブ）を行い、チラツキを抑えた映像にします。

なお、DRC-MFモードの設定は、すべての信号（地上波、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力）に共通の設定になります。

* 詳しくは、「BSデジタルの画質について」（☞27ページ）をご覧ください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 DRC-MFモード切換ボタンをくり返し押す。

この画像のときは	この画面表示を選ぶ
テレビ（地上波）やBSデジタル、ビデオなどの一般的な映像を見るとき	
静止画の文字やグラフィックス、細かい横線などが多い映像で、部分的な映像の揺れやチラツキが気になるとき	

ちょっと一言

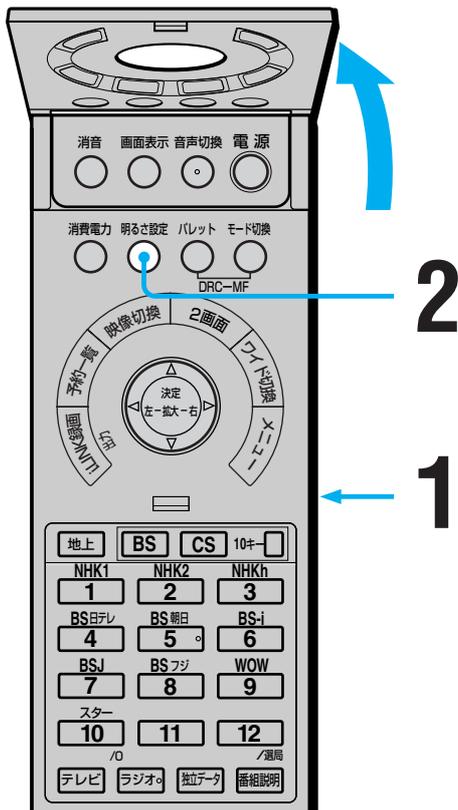
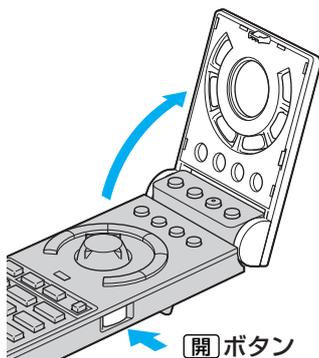
メニュー画面でも操作できます。「（画質/音質）」メニューで「DRC-MF」を選び、「DRC4倍密・標準」か「DRCプログレッシブ」を選んでください。

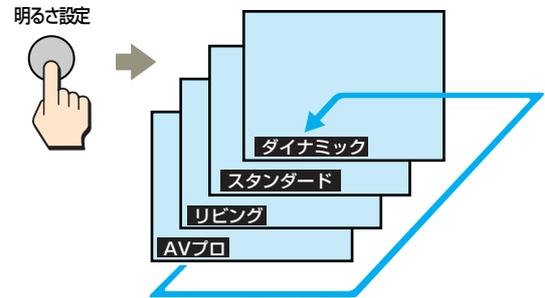
ご注意

以下のときは、DRC-MFモード切換はできません。
- BSデジタルやi.LINK端子につないだi.LINK対応機器から、525i（480i）SD以外の信号を受信しているとき
- 2画面
- メモ画面
- AVマルチ入力でCGゲームモード（☞23ページ）が「入」のとき
- AVマルチ入力端子、コンポーネント1入力端子およびコンポーネント2（D4映像）入力端子につないだ機器から525i（480i）*SD以外の信号を受信しているとき
- “メモリースティック”に記録された静止画像を表示しているとき（☞109～117ページ）

* 詳しくは、「BSデジタルの画質について」（☞27ページ）をご覧ください。

部屋の明るさに合った映像を選ぶ [明るさ設定ボタン]

明るさ設定ボタンを押すだけで、部屋の明るさに合った映像を選べます。また、「リビング」や「AVプロ」を選ぶと、より細かく画質を調整できます（☞93ページ）。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「リビング」を選ぶことをおすすめします。
画質は、テレビ（地上波）、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

1 [開]ボタンを押して、フタを開ける。

2 明るさ設定ボタンをくり返し押す。

1回押すと、現在の明るさ設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように変わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い映像になります。

スタンダード
明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある映像になります。

リビング
明るさや色あい、色の濃さなど基本的な調整ができます（☞93ページ）。「標準」では、標準的な部屋の明るさに合わせた適度なコントラストのある映像になります。

AVプロ
色温度や黒補正など、よりきめ細かな調整ができます（☞93ページ）。「標準」では、コントラストと輪郭強調を抑えて、オリジナルにできるかぎり忠実な、DRC（☞12〜14ページ）の性能をより引き出した映像になります。

ご注意

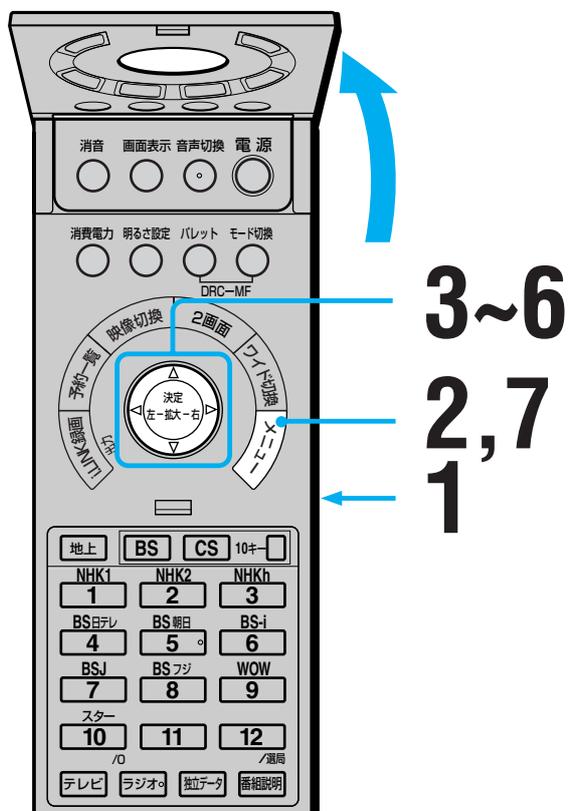
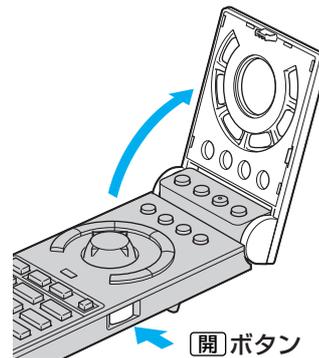
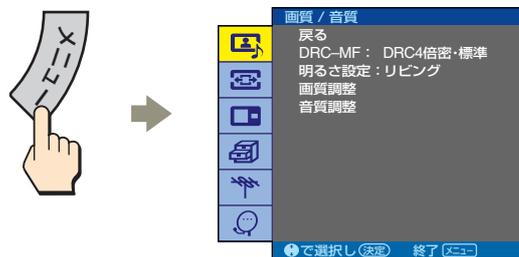
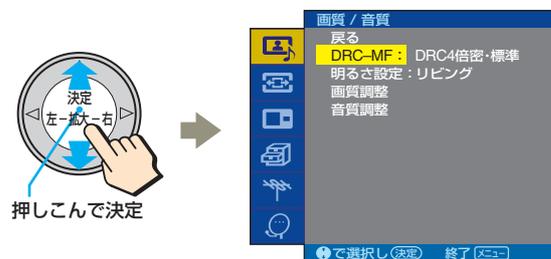
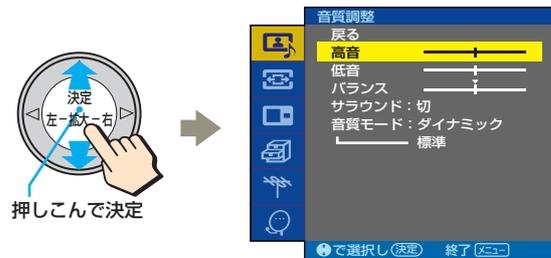
映像切換ボタンを押しても、画質は切り換わりません。
映像切換ボタンは、BSのマルチビュー放送や第2映像などを見るとき（☞76ページ）に使います。

音質を選ぶ
[音質モード]

「(画質/音質)」メニューの「音質モード」で、映像の内容や音声に合わせた音質設定を楽しめます。

「音質モード」は、テレビ（地上波）やBSデジタル、本機につないだ映像のどれを見ているときでも楽しめます。また、地上波、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

ちょっと一言

「音質モード」以外の音質調整も同時にできます。詳しくは、「立体感のある音声にする［サラウンド］」（☞17ページ）や「音質を調整する」（☞95ページ）をご覧ください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「音質モード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「ダイナミック」または「ナチュラル」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ダイナミック
重低音を響かせながら、高音も通るように、明瞭感あふれるメリハリのきいた音質です。映画やロックコンサート、モータースポーツ番組など、迫力ある映像や音声の番組に向いています。

ナチュラル
オリジナルの音源を生かし、全音域がバランスよく自然に広がっていく音質です。クラシック音楽や自然ドキュメンタリーなどの番組に適しています。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

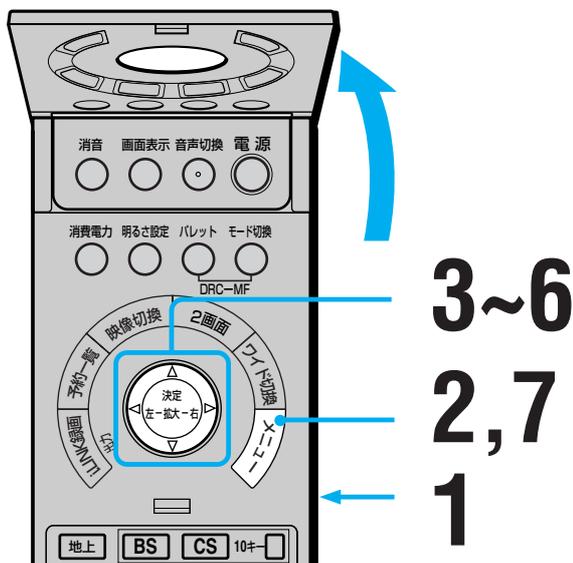
見る

立体感のある音声にする [サラウンド]

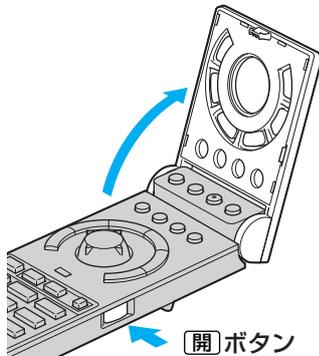
「(画質/音質)」メニューで、「サラウンド」を「TruSurround」*に設定すると、映画館にいるような立体感にあふれ、動きのある音声を楽しめます。
それまで前方からだけ聞こえていた音声が、サラウンド（取り囲む）の言葉どおり、音場が広がり、音の空間に包み込まれたように聞こえてきます。

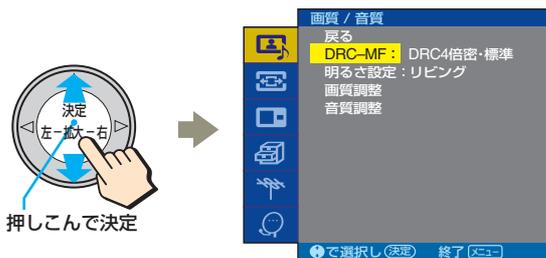
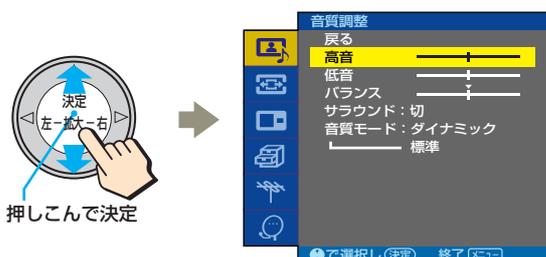
「サラウンド」は、テレビ（地上波）やBSデジタル、本機につないだ映像のどれを見ているときでも楽しめます。また、地上波、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

* TruSurroundと(●)記号はSRS Labs,Inc.の商標です。TruSurround技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

ちょっと一言
「サラウンド」以外の音質調整も同時にできます。詳しくは、「音質を選ぶ［音質モード］」（☞16ページ）や「音質を調整する」（☞95ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

立体感のある音声にする［サラウンド］（つづき）

1 開 ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

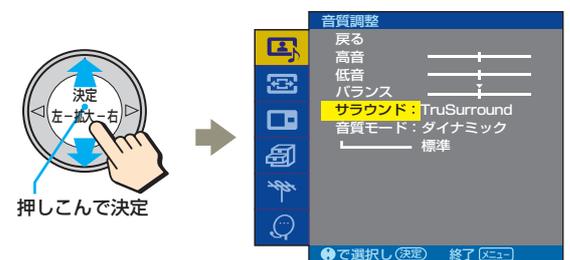
3 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「サラウンド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「TruSurround」または「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

通常の放送やステレオ放送のときに

TruSurround（トゥルーサラウンド）:	本機のスピーカーから、映画館にいるような臨場感あふれる音声を再現します。
切:	オリジナルの音声をそのまま再現します。

BSデジタルのサラウンド放送のときに

TruSurround（トゥルーサラウンド）:	映画などに使われている5.1ch（チャンネル）サラウンドなどの音声を、本機のスピーカーで仮想的に再現します。（TruSurround（トゥルーサラウンド） Digital（デジタル） 5.1ch（チャンネル））
切:	5.1chサラウンドなどの音声を、通常のステレオ放送（2ch）に変換して再現します。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

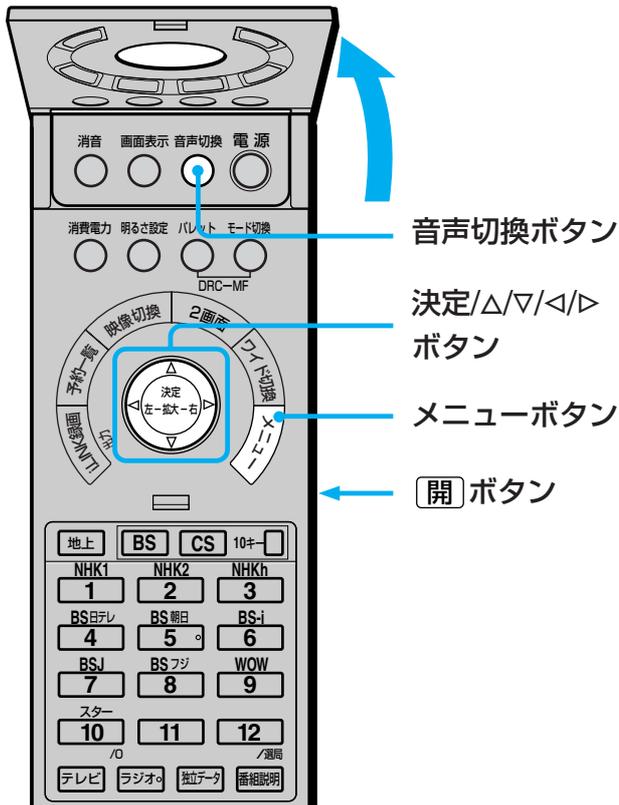
テレビ(地上波)の音声を切り換える［音声切換ボタン］

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

ご注意

二重音声放送がないときは切り換わりません。

ちょっと一言

BSデジタルでの二重音声や第2音声への切り換えは、☞75ページをご覧ください。

音声切換ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。

画面表示	テレビの左スピーカーの音声	テレビの右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主／副	主音声	副音声

例:「主／副」を選んだとき

ちょっと一言

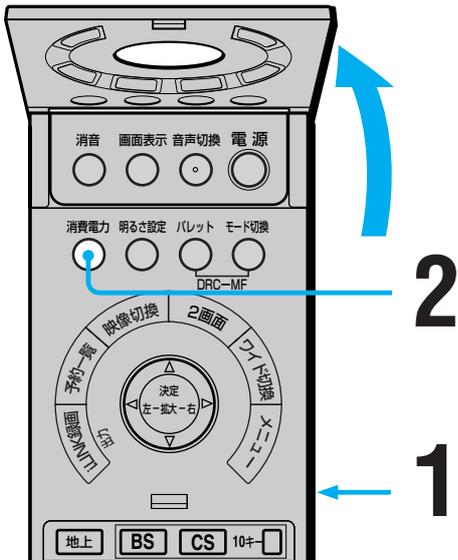
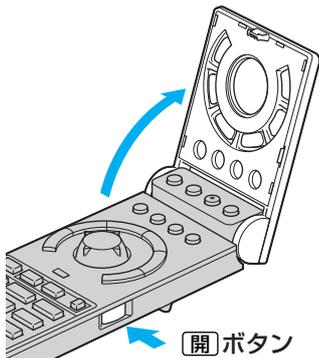
2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

1. リモコン右横の［開］ボタンを押して、フタを開ける。
2. 雑音の多いチャンネルを映した状態で、メニューボタンを押して、メニューを出す。
3. △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
4. △/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
5. 「オートステレオ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
6. △/▽で「切」にして、真ん中を押しこんで決定する。
7. メニューボタンを押して、メニューを消す。

節電しながら見る
[消費電力ボタン]

画面の明るさを下げて、節電しながら見ることができます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

開ボタン

2 消費電力ボタンを押す。
節電中になります。

節電をやめるには

もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力：標準」と表示されます。

さらに節電するには

「消費電力：減」のときのみ、「(テレビ設定)」メニューの「初期設定」でさらに節電できます。「消費電力：標準」で行っても節電効果はありません。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「消費電力減レベル」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

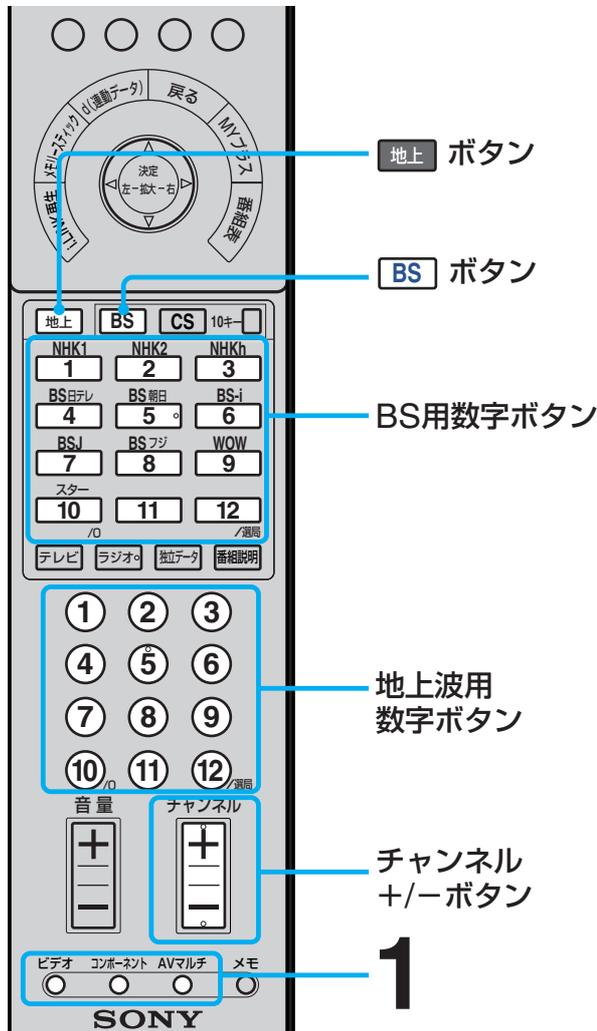
6 △/▽で「小」(お買い上げ時の設定)または「大」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

- 「消費電力:減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力:減」のままになります。
- メニュー画面でも操作できます。「(各種切換)」メニューで「消費電力」を選び、「標準」または「減」にしてください。
- 明るさ設定ボタンで「リビング」または「AVプロ」を選んでいるときは、「消費電力:減」でも、画質を調整できます(☞93ページ)。ただし、「ピクチャー」や「明るさ」を上げると節電にならなくなる場合があるため、おすすめしません。

テレビにつないだ機器の画像を見る
［入力切換］

入力を切り換えて、本機につないだビデオ機器やデジタルCSチューナー、テレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞164～179ページをご覧ください。
また、i.LINK端子につないだi.LINK対応機器については、「i.LINKで操作する」（☞98～108ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

本体の入力切換ボタンをくり返し押しても、次のように入力を切り換えられます。

地上波 → BS/110度CS/i.LINK*1 → ビデオ1 → ビデオ2 → ビデオ3 → ビデオ4 → コンポーネント1 → コンポーネント2（D端子） → AVマルチ RGB → AVマルチ Y/CB/CR → 地上波

*1 最後に選んでいた放送または入力の画面になります。

1 入力切換用のボタンを押して、見たい画面を選ぶ。

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ	• ビデオ1入力端子 • ビデオ2入力端子 • ビデオ3入力端子 • ビデオ4入力端子	ビデオ1*2 → ビデオ2*2 → ビデオ3*2 → ビデオ4*2 →（ビデオ1に戻る）
コンポーネント	• コンポーネント1入力端子 • コンポーネント2入力端子	コンポーネント1 → コンポーネント2（D端子） →（コンポーネント1に戻る）
AVマルチ	• AVマルチ入力端子 詳しくは、「AVマルチ入力端子につないだとき」（☞22ページ）をご覧ください。	AVマルチRGB ↔ AVマルチY/CB/CR

*2 S2映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」～「Sビデオ4」と表示されます。

2 つないでいる機器を操作する。

詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ（地上波）に戻すときは

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは
地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1～12/選局のBS用数字ボタンまたは
BS ボタンを押す。

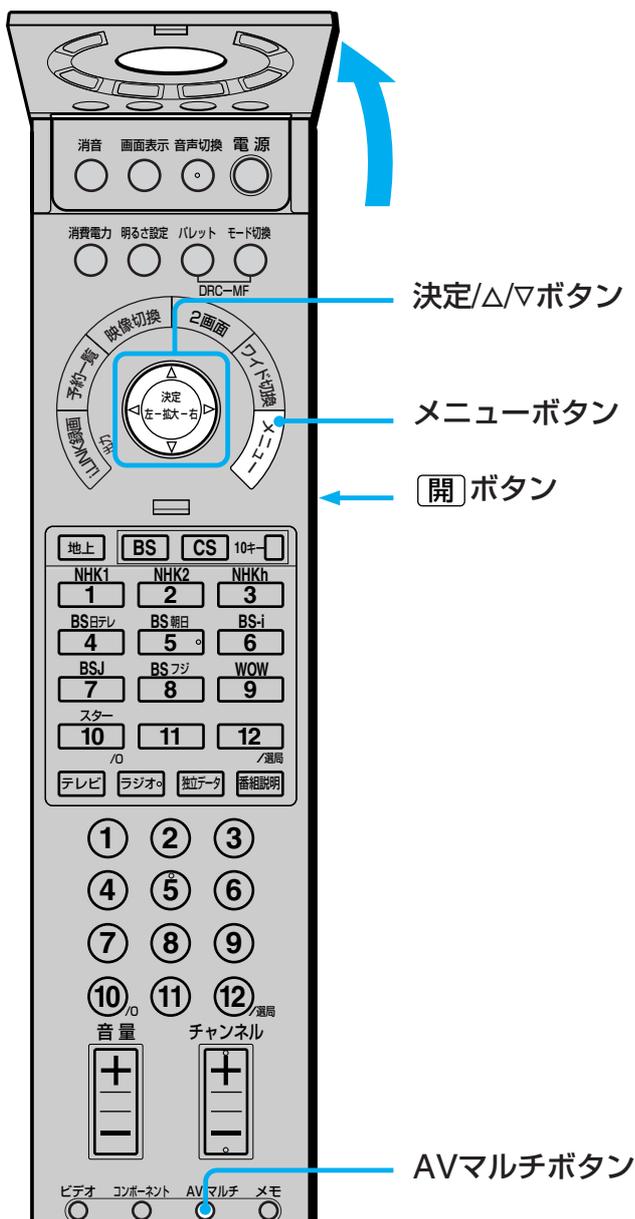
ちょっと一言

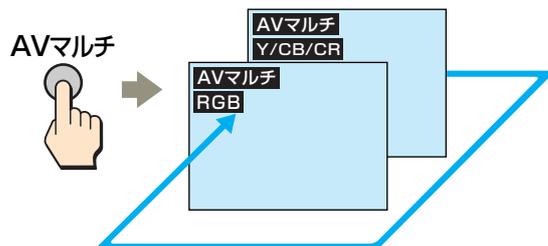
チャンネル＋/－ボタンを押すと最後に見ていた地上波またはBSのチャンネルになります。

"プレイステーション 2"、"プレイステーション"(PS one) および "プレイステーション" を楽しむ

"プレイステーション 2"、
"プレイステーション"(PS one)および
"プレイステーション"の取扱説明書もあわせてお読みください。

AVマルチ入力端子につないだとき(☞173ページ)

RGB接続または、Y/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

AVマルチボタンをくり返し押す。

押すたびに、AVマルチ入力が、次のように切り換わります。

"プレイステーション 2" を使うには
AVマルチボタンをくり返し押して、"プレイステーション 2" の映像が出る入力(「AVマルチRGB」または「AVマルチY/CB/CR」)にする。

ご注意

下の表のように、"プレイステーション 2" 側の設定に本機側のAVマルチ入力を合わせてください。
設定が異なっていると、映像が乱れたり、正しく表示されないことがあります。

"プレイステーション 2" 側のシステム設定画面で「コンポーネント映像出力」が	本機側のAVマルチ入力を
「RGB」のときは、	「AVマルチRGB」にする。
「Y CB/PB CR/PR」のときは、	「AVマルチY/CB/CR」にする。

"プレイステーション"(PS one) および "プレイステーション" を使うには
AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」を選ぶ。

ご注意

- 電子的なライフルやガン(銃)などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- AVマルチ入力端子は、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なって見える場合がありますが、本機に影響はありません。
- AVマルチ入力端子につないだ機器の映像や、本機の設定によっては、DRC-MFパレットボタン(☞12ページ)やDRC-MFモード切換ボタン(☞14ページ)が働かないことがあります。
- ソフトウェアの信号によっては、AVマルチ入力端子のRGB、Y/CB/CR映像信号に適していないものもあります。
- 将来の "プレイステーション 2" 用の高解像度ゲームソフトなどには、このテレビは対応していません。
詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

CGゲームモードの設定をするには

CGゲームモードを「入」にすると、CG（コンピューター・グラフィックス）の多いゲームに適した映像を楽しめます。また、CGゲームモードを「切」にすると、DVDの映画などの自然画に適した映像を楽しめます。ソフトに合わせて選んでください。

1 リモコン右横の[開]ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「CGゲームモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 現在のAVマルチ入力（「RGB」または「Y/CB/CR」）が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。
現在のAVマルチ入力のみ選べます。

6 △/▽で「入」か「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- AVマルチ入力以外の入力を選んでいるときは、CGゲームモードの切り換えはできません。
- “プレイステーション”（PS one）および“プレイステーション”用のゲームソフトによっては、CGゲームモードを切り換えられないことがあります。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”（PS one）および“プレイステーション”の画面の左右位置を調整するには

1 リモコン右横の[開]ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

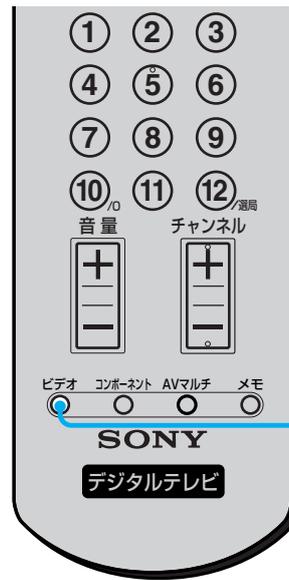
4 △/▽で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で画面の左右位置を調整する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

「AVマルチ画面位置」は、「AVマルチ」の映像でのみ、調整できます。

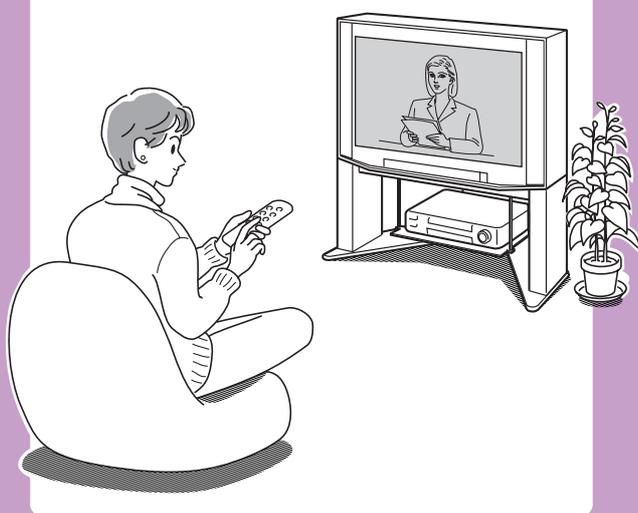
ビデオ入力端子につないだとき（☞174ページ）

ビデオボタンをくり返し押す。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”（PS one）および“プレイステーション”などの映像が出る入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」）にする。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

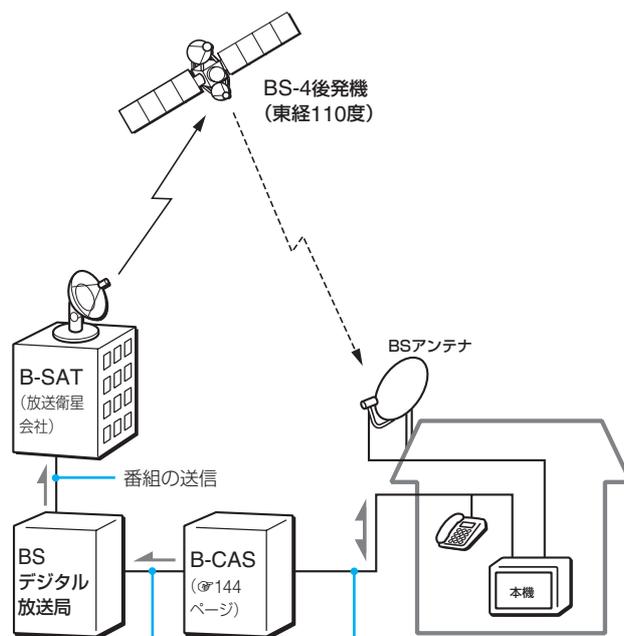
ご注意

「CGゲームモード」の設定はできません。

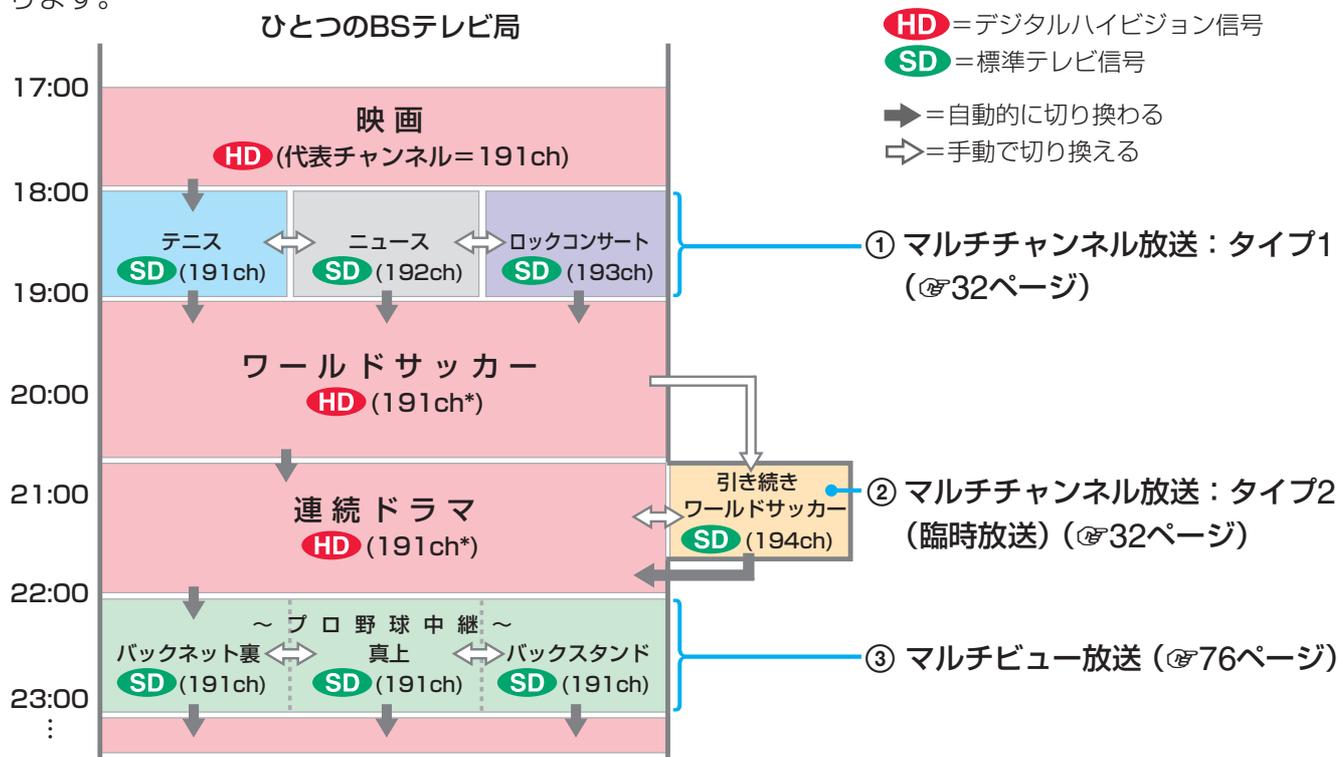
BSテレビを見る

ここでは、BSデジタルの特長や、BSテレビやBSテレビと連動しているBSデータを見るときの操作について説明しています。

BSデジタル放送って何？

2000年12月に本放送が開始された放送衛星BS-4後発機を利用したデジタル衛星放送（BS*）です。従来のテレビ放送（VHF/UHF）やBSアナログ放送と違い、映像や音声をデジタル化して大容量の情報を扱えるため、高画質な映像や多チャンネルの番組を楽しめます。幅広いジャンルの番組内容で、デジタルハイビジョン信号HDを中心に、ラジオ放送、データ放送（双方向サービス）が楽しめます。
特に**「デジタルハイビジョン信号HD」**では1125iと750pの画像方式があり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、臨場感あふれる高精細画質を楽しめます**。

* BSはBroadcasting Satellite（放送衛星）の略です。
**BSデジタルの画質や画像方式、走査線についての詳しい説明は、☞27ページをご覧ください。

BSデジタル独自の多チャンネル放送って何？

BSデジタルでは、ひとつのBS放送局が、デジタルハイビジョン信号HDの1チャンネル放送と、標準テレビ信号SDの多チャンネル（2～5チャンネル）放送を、下のイラストのように時間帯によって切り換えながら放送する場合があります。

また、下のイラストのように、標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用したサービスには、**①マルチチャンネル放送：タイプ1、②マルチチャンネル放送：タイプ2、③マルチビュー放送**があります。

* 18:00から192chや193chを見ていたときは、代表チャンネルの191chに切り換わらないまま、見ていたチャンネルで引き続き、その後の番組をご覧いただけることもあります。

① マルチチャンネル放送：タイプ1

同じBS放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送します。

例：テニス、ニュース、ロックコンサートを、同じ放送局の別のチャンネルで、同じ時間帯に放送する

→ **詳しくは、「画面に視聴中の番組以外のチャンネル番号が表示されたときは［マルチチャンネル放送］」（☞32ページ）をご覧ください。**

② マルチチャンネル放送：タイプ2（臨時放送）

同じBS放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。

例：サッカー中継で、放送時間内に試合が終わらないときに、同じ放送局の別チャンネルで引き続き試合終了まで放送し、元のチャンネルでは予定どおりに、その後の連続ドラマを放送する

→ **詳しくは、「画面に視聴中の番組以外のチャンネル番号が表示されたときは［マルチチャンネル放送］」（☞32ページ）をご覧ください。**

③ マルチビュー放送

生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめる放送です。それぞれのカメラからの映像を、本機のリモコンの映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

例：プロ野球中継で、3方向（バックネット裏、真上、バックスタンド）からの画面を切り換えて見る

→ **詳しくは、「BSのマルチビュー放送や第2映像などを見る［映像切換ボタン］」（☞76ページ）をご覧ください。**

この他にも、緊急時に同じBS放送局の別チャンネルで行われる**緊急放送**があります。

例：地震などの災害時に、緊急ニュース番組を放送する

→ **詳しくは、「緊急放送のお知らせが出たときは」（☞33ページ）をご覧ください。**

BSデジタル放送って何？（つづき）

BSデジタルでは、BSテレビ以外にもサービスがあるの？

BSラジオとBSデータがあります。
本機では、すべての放送を楽しめます。

BSラジオ

音楽CD並み（BSアナログ・Bモード並み）の高音質放送などがあります。
➜「BSラジオを聞く」（☞70ページ）

BSデータ

テレビ放送を、従来の「見るもの」から「参加するもの/使うもの」へと変化させようと、双方向的な番組が実現されています。
BSテレビやBSラジオの番組と**連動して放送されるBSデータ**（☞36ページ）と、BSデータだけを専門に放送する**BS独立データ**（☞72ページ）があります。

たくさんのBSチャンネルから、どうやって見たい番組を探すの？

見たい番組を簡単に探し出せるように、**番組表**（EPG: Electronic Program Guide）があります。
番組表では、テレビ画面上でそのチャンネルの番組表を見ることができます。
また、本機では**MYプラスボタン**を使ってチャンネル別の番組表を見たり、ジャンル別の番組表を見たりすることができます。
➜「BSの番組を選ぶ」（☞40〜55ページ）

BSデジタルは有料なの？

2000年12月から新たに放送開始された民放系BS新会社5局は無料放送を行っています。
ただし、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）やWOWOW、スター・チャンネルBS、セント・ギガなどは有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局への加入申し込みと契約が必要です。

BSデジタルは、録画できるの？

本機では、i.LINKを使って、デジタルハイビジョン信号HDも標準テレビ信号SDも、オリジナル画像を生かした高画質のまま録画できます。また、i.LINKを使わなくても、現行のテレビ（地上波）と同等の画質のアナログ信号に変換し録画できます。
ただし、有料BS局などでは、著作権上の問題から、録画できない番組もあります。
➜「BSの番組を予約する」（☞56〜68ページ）

BSアナログ放送はなくなるの？

従来のNHK（BS1、BS2）、ハイビジョンの3チャンネルは、デジタルとアナログの同時放送（サイマル放送）が行われるため、お持ちのBSアナログチューナー内蔵のテレビやビデオで引き続き見ることができます。ただし、2007年以降にBSアナログは終わり、BSデジタルに1本化される予定です。

加入申し込みが必要な有料BS放送局のカスタマーセンター（お問い合わせ先）一覧

以下のBSは有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。

加入申し込み方法はBS放送局により異なります。詳しくは、ご覧になりたいBS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

なお、無料放送でも登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたいBS放送局へお問い合わせください。

また、B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）を本体のICカード挿入口に入れて、B-CAS用ユーザー登録はがきを投函してください（☞144ページ）。

2001年9月現在の電話番号とホームページアドレスです。

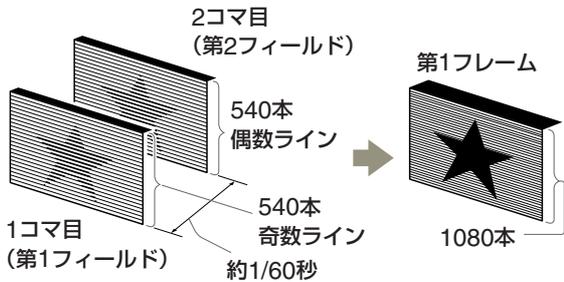
BS放送局	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
NHK BS1 NHK BS2 NHK デジタルハイビジョン	03-3465-1111 受付 9:00〜23:00（平日） 9:00〜22:00（土日） http://www.nhk.or.jp/
WOWOW	0570-008080 （携帯電話などをお使いの方は、045-683-8080） 受付 9:00〜20:00 http://www.wowow.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。ラジオ放送（WOWOW wave：491、492ch）と独立データ放送（WOWOW navi：791、792ch）は無料放送です。	
スター・チャンネルBS	0570-010-110 （携帯電話などをお使いの方は、045-339-1555） 受付 10:00〜20:00 http://www.star-ch.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。	
セント・ギガ	0120-336-765 受付 10:00〜21:00 http://www.stgiga.co.jp/
ラジオ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（633、636ch）は無料放送です。	

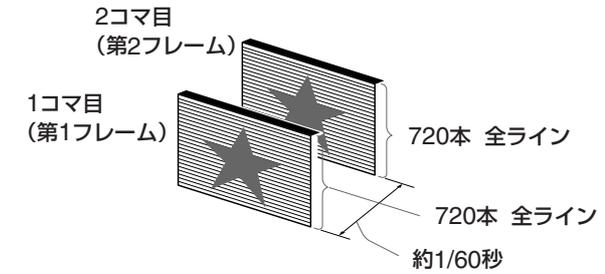
ご注意

加入申し込みを行わずに、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）を受信すると、テレビ画面に連絡をお願いする案内が、自動表示されることがあります。

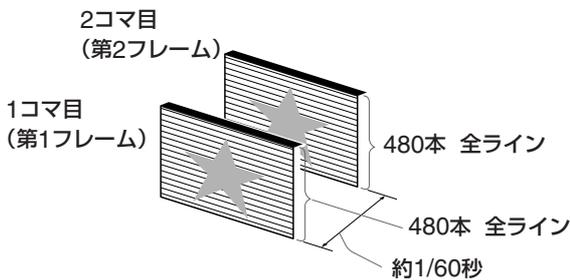
BSデジタルの画質について

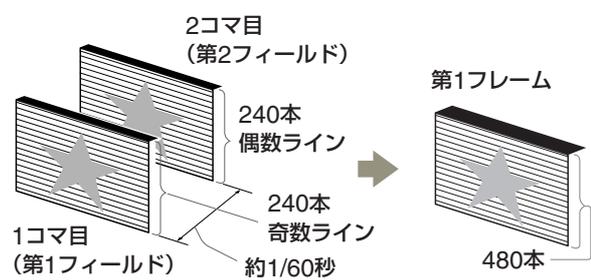
BSデジタルには、高画質のデジタルハイビジョン信号 HD と、テレビ（地上波）と同等の画質の標準テレビ信号 SD の2種類があります。
それぞれの放送に2つずつ、以下のように**全部で4種類の画像方式があります。**
本機では、すべての画像方式を受信できます。

1125i（1080i）のデジタルハイビジョン信号 HD

1125本（1080本）の走査線*を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式*）の画像方式。

750p（720p）のデジタルハイビジョン信号 HD

750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式*）の画像方式。画面や文字のちらつきが少ないため、静止画放送に適しています。
本機では、750pの画像方式を1125iの画像方式に変換して表示します。

525p（480p）の標準テレビ信号 SD

2コマ目
（第2フレーム）
1コマ目
（第1フレーム）
480本 全ライン
480本 全ライン
約1/60秒

525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（プログレッシブ方式*）の画像方式。画面や文字のちらつきが少なくなります。

525i（480i）の標準テレビ信号 SD

525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（インターレース方式*）の画像方式。テレビ（地上波）放送やBSアナログ放送と同等の解像度です。

iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。（　）内は有効走査線数*で数えたときの別称です。
* の詳しい説明は、用語集（☞208～209ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

BSデジタル放送って何？（つづき）

BSデジタルの音声について

BSデジタルには、次のような音声モードがあります。

モノラルモード
通常のニュース放送などに使われています。

ステレオモード
音楽番組などに使われています。
- ステレオ
- ステレオ（高音質モード）：「番組説明」画面（☞35ページ）で右側の番組情報欄の「音声情報」に、「圧縮Bモード」が表示されます。

サラウンド
映画などに使われています。
- サラウンド
- 5.1chサラウンド

また、上記の音声の他にも、二か国語番組などの二重音声や、音声信号が複数ある番組の第2音声などがあります。
詳しくは、☞75ページをご覧ください。

本機のスピーカーで音声を聞くとき

5.1ch（チャンネル）サラウンドなどの音声は、通常のステレオ放送（2ch）に変換されます。

（L：左フロント、R：右フロント、RL：左リア、RR：右リア、C：センター）

「番組説明」画面（☞35ページ）での表示	テレビの左スピーカーの音声	テレビの右スピーカーの音声
モノラル	モノラル	モノラル
ステレオ*1	ステレオ（L）	ステレオ（R）
圧縮Bモード*1	ステレオ（L）	ステレオ（R）
3/1サラウンド*2 3/2サラウンド*2 5.1サラウンド*2	ステレオ （L+RL+C）	ステレオ （R+RR+C）

*1「(画質/音質)」メニューの「音質調整」で、「サラウンド」を「TruSurround」にしているとき（☞17ページ）は、映画館にいるような臨場感あふれる音声を再現します。
*2「(画質/音質)」メニューの「音質調整」で、「サラウンド」を「TruSurround」にしているとき（☞17ページ）は、5.1chサラウンドなどの音声を、本機のスピーカーで仮想的に再現します。どのサラウンド信号を送信するかは、BS放送局側が決定するため、本機側では好みのサラウンド信号に切り換えられません。

本機後面の音声出力端子から出力される信号について（☞177、179ページ）

「(各種切換)」メニューで、「5.1ch→2ch切換」を選び、本機後面の音声出力端子から出る音声を「5.1ch」と「2ch」（お買い上げ時の設定）に切り換えられます。

5.1ch（チャンネル）入力対応のオーディオ機器をつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで「5.1ch→2ch切換」を「5.1ch」に設定してください。
下の表のように音声信号が出力されます。

「番組説明」画面（☞35ページ）での表示	本機後面の音声出力端子からの音声信号の有無 左フロント	センター	右フロント	左リア	右リア	ウーファー
モノラル	○	×	○	×	×	×
ステレオ	○	×	○	×	×	×
圧縮Bモード	○	×	○	×	×	×
3/1サラウンド*1	○	○	○	○*2		×
3/2サラウンド*1	○	○	○	○	○	×
5.1サラウンド*1	○	○	○	○	○	○

○：音声が出力されている
×：音声が出力されていない

*1：どのサラウンド信号を送信するかは、BS放送局側が決定するため、本機側では好みのサラウンド信号に切り換えられません。
*2：1つのサラウンド信号を左右に振り分けて、左右リアとも同じ音声が出力されます。

その他のオーディオ機器（2ch入力対応）をつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで「5.1ch→2ch切換」を「2ch」（お買い上げ時の設定）に設定してください。
すべての音声が通常のステレオ音声（2ch）に変換され、本機後面の音声出力端子の左フロント端子と右フロント端子からのみ出力されます。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは
「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。

本機後面の光デジタル音声出力端子から出力される信号について（☞178ページ）

光デジタル入力対応のオーディオ機器に接続すると、BSデジタルの高音質な音声を楽しめます。
「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を設定してください。

AACデコーダー内蔵のAVアンプなどをつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を「オート」に設定してください。

放送の種類	本機後面の光デジタル出力端子から出力する信号
BSデジタルのデジタル音声	AAC音声（BSデジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上波やビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどをつないでいるときは

「(各種切換)」メニューで、「光デジタル出力」を「PCM」（お買い上げ時の設定）に設定してください。
BSデジタルのデジタル音声も、地上波やビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換されて、本機後面の光デジタル音声出力端子から出力されます。

BSテレビを見る

BSテレビを見る

画面表示ボタン
番組タイトル/チャンネルが表示されます。
番組タイトルの表示は数秒後に自動的に消えます。もう1度押すと、チャンネル表示も消えます。

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

d（連動データ）ボタン
BSテレビに連動しているBSデータを見るときに押します（☞36ページ）。

BS ボタン
BSになっていないときに、BSに切り換えます。

テレビ ボタン
BSテレビに切り換えます。チャンネル＋/－ボタンでBSテレビのチャンネルが選べるようになります。

1 ～ 12 のBS用数字ボタンには、暗い場所でも操作しやすいように、ほのかに青白く光る蓄光材が入っています。そのため、太陽光や明るい照明の下などに約10分間以上置くと光が蓄えられ、暗くなると数時間光り続けます。暗い場所に放置したときは、光りません。

ペイ・パー・ビュー（PPV）を選んだときは

あらかじめ、「準備9:B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）を入れて登録する」を行ってください（☞144ページ）。その後、「BSのペイ・パー・ビュー（PPV）を見る」（☞37ページ）の手順に従って、操作してください。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

暗証番号入力画面が表示されます。1 ～ 10 までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号（☞160ページ）を入力すると見ることができます。

ご注意

- BSデジタルのときは、放送終了後または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎても、テレビ（地上波）と異なり、自動的に電源スタンバイにはなりません（省電力のための「オートシャットオフ」機能が働きません）。
- BSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、BSチャンネルを切り換えた直後（約2分以内）に、本体の電源スイッチでテレビの主電源を切ると、次に電源スイッチを押して電源を入れたときに、最後に見ていたBSチャンネルに戻らないことがあります。

本機の電源を入れる。

地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が10秒前後で映ります。

リモコン

本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは、リモコンの電源ボタンの代わりに、本体の電源スイッチを押してください。

自動的に電源が入るチャンネルポン

1 ～ 12 のBS用数字ボタンを押してください。本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときに押せば、自動的に電源が入り、選んだBSテレビチャンネルが映ります。

1 ～ 12 のBS用数字ボタンを押し、BSテレビ局の代表チャンネルを選ぶ。

NHK1 1 / NHK2 2 / NHKh 3 / BS日テレ 4 / BS朝日 5 / BS-i 6 / BSJ 7 / BSフジ 8 / WOW 9 / スター 10 /0 / 11 / 12 /選局

ちょっと一言

- 地上波を見ているときに押しても、選んだBSテレビ局の代表チャンネルに切り換わります。* の付いたBS放送局は有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります（☞26ページ）。
- 11 、12 ボタンに、お好きなBSチャンネルを登録できます（☞156ページ）。

数字ボタン	BS放送局（代表チャンネル）
1	NHK　BS1（101）*
2	NHK　BS2（102）*
3	NHK　デジタルハイビジョン（103）*
4	BS日テレ（141）
5	BS朝日（151）

数字ボタン	BS放送局（代表チャンネル）
6	BS-i（161）
7	BSジャパン（171）
8	BSフジ（181）
9	WOWOW（191）*
10/0	スター・チャンネルBS（200）*

（2001年9月現在）

次の方法でも、チャンネルを選べます。
代表チャンネル以外のチャンネルを選ぶときは、次の方法で選んでください。

チャンネル+/−ボタンで選ぶには

① BSになっていないときは、BS ボタンを押す。
② テレビ ボタンを押す。
③ チャンネル+/−ボタンを押す。

押し続けると、BSテレビ内でチャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのBSテレビのチャンネルが映ります。

3ケタのチャンネル番号で直接選ぶには

① BSになっていないときは、BS ボタンを押す。
② 10キー ボタンを押す。
③ 1 ～ 10 までのBS用数字ボタンで、BSテレビの3ケタのチャンネル番号を百の位から順に押す。
④ 12 ボタンを押す。（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。）

例）202chを見るとき

番組表やMYプラスからBSテレビを選ぶには

「BSの番組を選ぶ」（☞40～55ページ）をご覧ください。
BSテレビを見ているときは、BSテレビの番組表のみが表示されます。

3 音量+/−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

選局についてのちょっと一言

- BSテレビを見ているときに、画面上に、臨時ニュースなどの文字スーパーが表示されることがあります。文字スーパー放送は、終了するまで消せません。
- 1～12 のBS用数字ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます。（「11 ボタン、12 ボタンに好みのBSチャンネルを登録する」☞156ページ）
- チャンネル＋/－ボタンを押して選局できるチャンネルは、お好みで変更できます。（「チャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるBSチャンネルを設定する」☞158ページ）
- BSテレビを見ている状態で、リモコンの電源ボタンを押して電源を切ったときは、次に電源を入れたときに画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- テレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像を見ているときは、リモコンの テレビ、ラジオ、独立データ ボタンを押してもBSには切り換わりません。まず、リモコンの BS ボタン（または本体のサービス切換ボタン）を押して、BSに切り換えてから、押してください。

「降雨対応放送に切り換わりました」と表示されたときは

降雨対応放送を受信しています。
お買い上げ時は、降雨時に受信状態が悪くなると、降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています（対応していない番組もあります）。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

ご注意

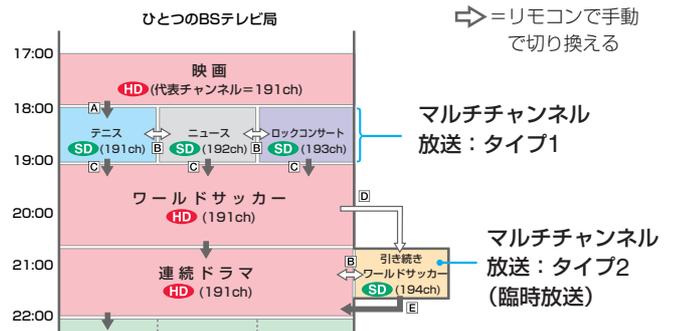
降雨時「受信できません　大雨・大雪やアンテナの調整ズレなどの場合もあります」と表示されて、映像や音声が出なくなる場合は、受信中の放送が降雨対応でないためか、降雨対応放送で対応できない気象状況となっているためです。

降雨対応放送についてのちょっと一言

- お買い上げ時は、天候回復後、自動的に通常の放送に戻るように設定されています。
- 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で「降雨対応放送受信」を「切」にすると、降雨対応放送に切り換わりません。

画面に視聴中の番組以外のチャンネル番号が表示されたときは［マルチチャンネル放送］

標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用した、マルチチャンネル放送が行われています。
マルチチャンネル放送には2タイプあります。

- **マルチチャンネル放送：タイプ1**
  同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送します。
  例：テニス、ニュース、ロックコンサートを、同じ放送局の別のチャンネルで、同じ時間帯に放送する。
- **マルチチャンネル放送：タイプ2（臨時放送）**
  同じ放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。
  例：サッカー中継で、放送時間内に試合が終わらないときに、同じ放送局の別チャンネルで引き続き試合終了まで放送し、元のチャンネルでは予定どおりに、その後の連続ドラマを放送する。

A マルチチャンネル放送（タイプ1）開始
…代表チャンネルへ自動的に移行します。

B マルチチャンネル放送中の選局
…10キー ボタンと 1～10 までのBS用数字ボタンで3ケタのチャンネル番号を入力して切り換えます。

C マルチチャンネル放送（タイプ1）終了
…18:00から192chや193chを見ていたときは、代表チャンネルの191chに切り換わらないまま、見ていたチャンネルで引き続き、その後の番組（ワールドサッカーや連続ドラマ）をご覧いただけることもあります。

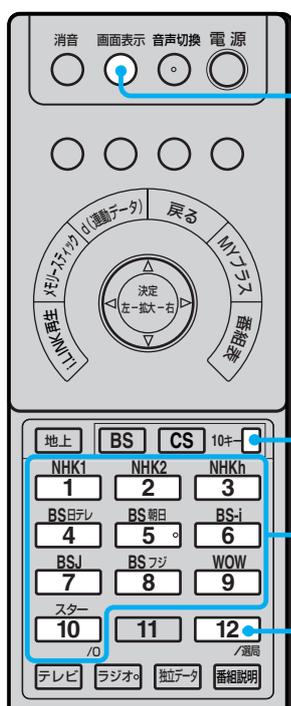
D 臨時放送開始
…中継延長になりHDからSDに変わり、引き続き放送します。ご覧になるときは、10キー ボタンと 1～10 までのBS用数字ボタンで3ケタの新しいチャンネル番号（上の例では194ch）を入力して切り換えます。

E 臨時放送終了
…代表チャンネルへ自動的に移行します。

現在視聴中の放送局でマルチチャンネル放送が始まると

画面右端にマルチチャンネル放送のチャンネル番号*が数秒間表示されます。

* チャンネル+/−ボタンや番組表で選べるように設定したチャンネル（☞158ページ）は表示されません。

マルチチャンネル放送を見るときは

1 10キー ■ ボタンを押す。

2 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで、マルチチャンネル放送を行っている3ケタのチャンネル番号を、百の位から順に押す。

3 12 ボタンを押す（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐ切り換わります）。

マルチチャンネル放送を見ることができます。

例）257chで行われているマルチチャンネルを見るとき

ご注意

チャンネル+/−ボタンでは、マルチチャンネル放送のチャンネルは選べません。

マルチチャンネル放送を行っているか確認するときは

画面表示ボタンを押す。

マルチチャンネル放送を行っているときは、チャンネル番号*が数秒間表示されます。

* チャンネル+/−ボタンや番組表で選べるように設定したチャンネル（☞158ページ）は表示されません。

緊急放送のお知らせが出たときは

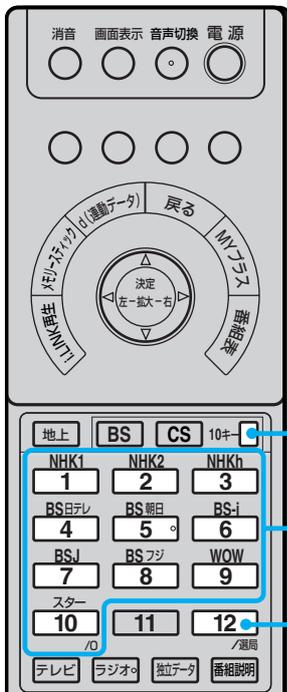
標準テレビ信号 SD の多チャンネル放送を利用した緊急放送が行われています。
緊急放送には、地震などの災害時に放送される緊急ニュース番組などがあります。

緊急放送が始まると

放送局から緊急放送のお知らせが表示され、緊急放送を行っているチャンネル番号が表示されます。

ご注意

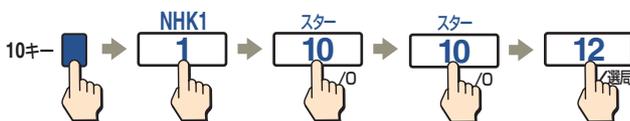
緊急放送のお知らせは、約30秒間表示されます。

次のページにつづく

緊急放送を見るときは

1 10キー ボタンを押す。

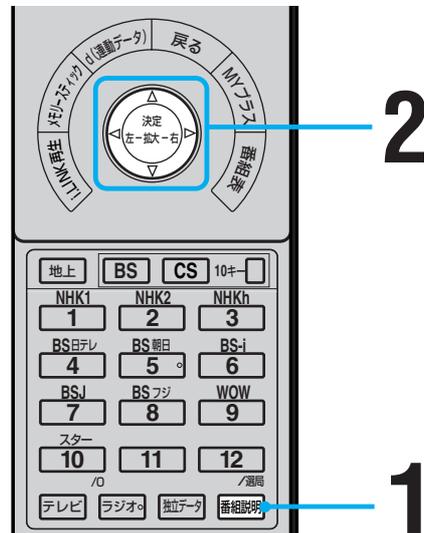
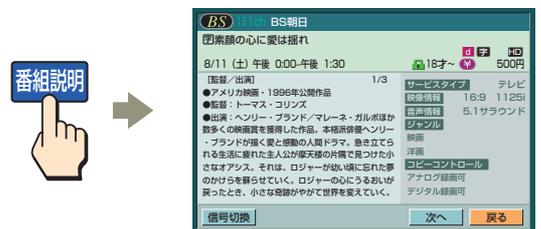
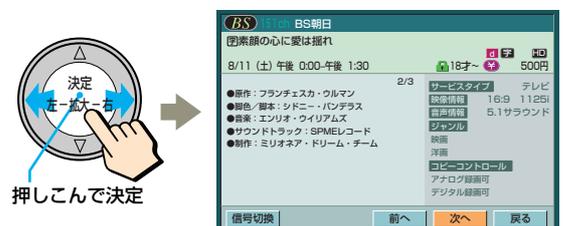
2 1 ～ 10 までのBS用数字ボタンで、緊急放送を行っている3ケタのチャンネル番号を百の位から順に押す。

3 12 ボタンを押す。（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。）
緊急放送を見ることができます。

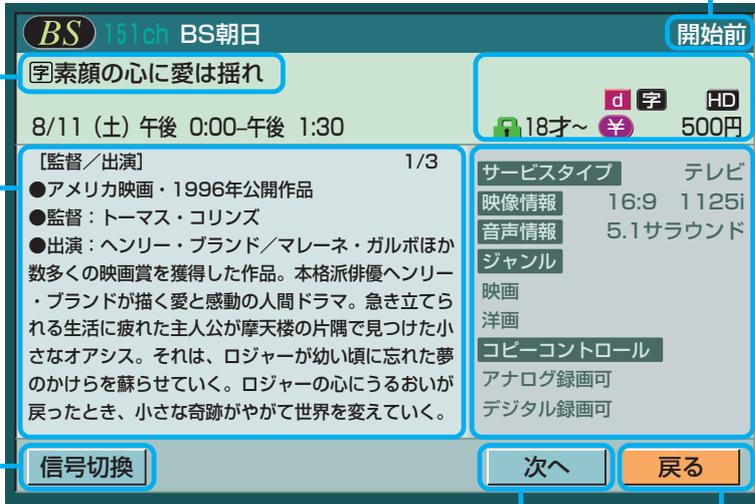
例）100chで行われている緊急放送を見るとき

ご注意

チャンネル+/−ボタンでは、緊急放送のチャンネルは選べません。

番組説明を見る
［番組説明ボタン］

視聴中の番組の出演者やあらすじ、ジャンルや各種情報など、番組内容を見ることができます。
また、番組表ボタン（☞42～44ページ）やMYプラスボタン（☞45～55ページ）で表示される番組一覧から、放送開始前の番組を選ぶと、番組説明を見ることができ、そのまま予約に進めます（☞56～68ページ）。

1 番組を見ているときに、番組説明ボタンを押す。
「番組説明」画面が表示されます。

2 番組説明が2ページ以上あるときは、◁/▷で「次へ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「番組説明」画面について

下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

番組タイトル

番組説明
番組の出演者やあらすじなどの番組内容です。番組説明が複数ページあるときは、ページ数が表示されます。この例では、3ページ中の1ページ目を表します。

信号切換
「信号切換」画面（☞77ページ）を表示します。第2音声など、映像や音声、データに信号が複数ある番組のときに切り換えられます。

「前へ」、「次へ」
前ページまたは次ページを表示します。

「戻る」
「番組説明」画面を消します。もう1度、番組説明ボタンを押しても消せます。

番組の状況
「プレビュー」や「開始前」、「予約済」、「終了」などが表示されます。

マーク表示欄

番組情報欄
「サービスタイプ」：テレビ、ラジオ、データのいずれか
「映像情報」：画面の横縦比（16:9か4:3）と画像方式（1125i、750p、525p、525i）（☞27ページ）
「音声情報」：ステレオや二重音声、5.1chサラウンドなど（☞28ページ）
「ジャンル」：番組のジャンル（分野やテーマ）（☞49～55ページ）
「コピーコントロール」：録画が可能かの情報

番組説明を消すときは

もう1度、番組説明ボタンを押す。
または、◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

表示マークについて

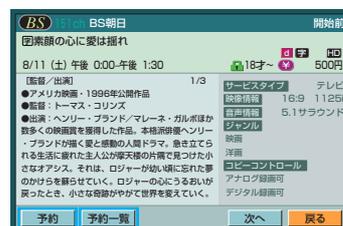
- 字：字幕のある放送（☞79ページ）
- d：BSテレビやBSラジオと連動しているBSデータ放送（☞36ページ）
- MV：マルチビュー放送（☞76ページ）
- HD：デジタルハイビジョン信号HD（☞27ページ）
- SD：標準テレビ信号SD（☞27ページ）
- 🔒：視聴年齢制限付き番組です。（☞30ページ）
- ¥：ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞37ページ）
- 録画予約した番組（☞56～63ページ）
- 視聴予約した番組（☞64ページ）

ちょっと一言
MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

番組一覧から「番組説明」画面を表示したときは

以下の番組一覧から、「番組説明」画面を表示すると、「信号切換」の代わりに「予約」や「予約一覧」の項目が表示されて、そのまま録画予約や視聴予約、予約の確認/取消に進めます。
予約方法については、☞56～68ページをご覧ください。

- 番組表ボタンで「番組表」から☞42～44ページ
- MYプラスボタンで「MYチャンネル番組表」画面から☞47～48ページ
- MYプラスボタンで「MYジャンル番組表」画面から☞49～52ページ
- MYプラスボタンで「全ジャンル番組表」画面から☞53～55ページ

ご注意
すでに放送が終了した番組は予約できません。

「予約」
番組予約の画面を表示します。

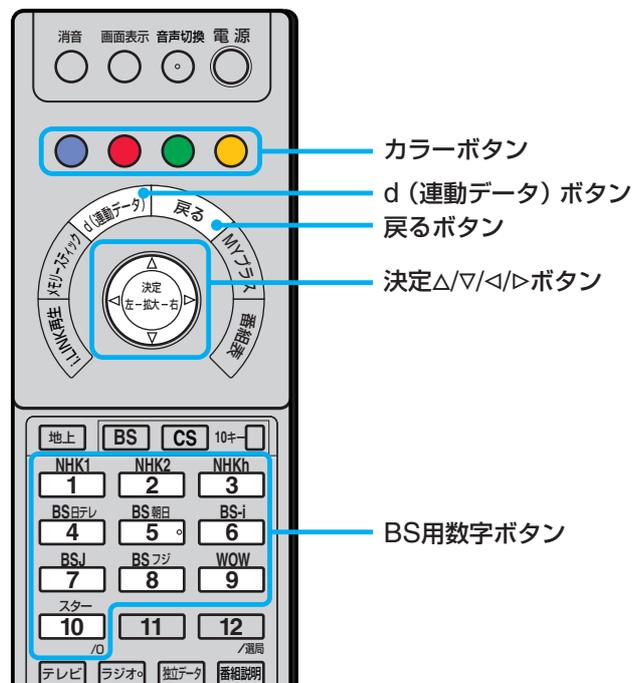
「予約一覧」
予約一覧を表示します。

BSテレビやBSラジオと連動しているBSデータを見る [d (連動データ) ボタン]

BSテレビ（☞30ページ）やBSラジオ（☞70ページ）を視聴しているときに、番組に連動しているBSデータを見ることができます。
視聴するだけではなく、視聴者がリモコンのボタンを使って参加できる番組もあります。
番組と連動してBSデータを行っているかどうかの案内は、各BS局によって異なります。

ご注意

- あらかじめ電話回線の接続（☞127ページ）と設定（☞146ページ）を行ってください。視聴者参加型の番組に参加できなかったり、情報を選べなかったりする場合があります。
- BSテレビやBSラジオに連動しているBSデータでは、本機に接続された電話回線を使って通信を行う場合があるため、電話回線の通話料がかかる場合があります。
- 番組によっては、BSテレビやBSラジオに連動しているBSデータが自動的に画面に表示されることがあります。
- リモコンや本体のボタンは、BSデータの番組で使うときだけ機能が変わる場合があります。この場合の操作については、テレビ画面に表示されるBSデータ番組の指示にしたがってください。
- BSデータの番組では、本機につないだ電話回線を使って通信を行う場合があります。通信中（本体前面の通信ランプが点灯）は、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。

ちょっと一言
BSデータだけを専門に放送するBS独立データもあります。（☞72ページ）

1 BSテレビやBSラジオを視聴中、d（連動データ）ボタンを押して、番組と連動しているBSデータが行われているか確認する。

番組と連動しているBSデータの放送が行われているときは、そのBSデータの画面が表示されます。

「データ取得中です」と表示された場合は、しばらくお待ちください。

2 BS番組と連動しているBSデータがあるときは、画面の指示に従って、リモコンを操作する。

BSデータ番組の指示に従って、次のボタンを使ってください。

「データ取得中です」と表示された場合は、しばらくお待ちください。

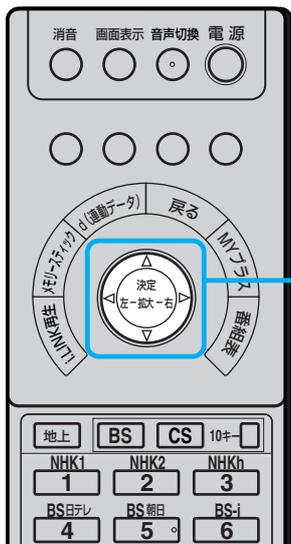
- 決定△/▽/◁/▷ボタン（選んで決定するときなど）
- 戻るボタン
- [1]～[10/0]までのBS用数字ボタン*（数字を入力するときなど）
- カラーボタン（●・●・●・●）

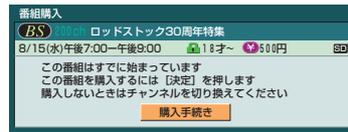
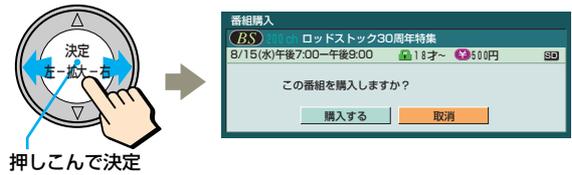
* ①～⑫/選局の地上波用数字ボタンは使わないでください。地上波に切り換わってしまいます。

ちょっと一言
終了する場合も、画面の指示に従って操作してください。指示が無い場合は、d（連動データ）ボタンや戻るボタンで終了できる場合もあります。

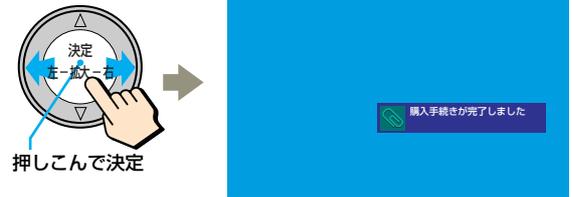
BSのペイ・パー・ビュー（PPV）を見る

ペイ・パー・ビュー（PPV：PAY PER VIEW）とは、「見るたびに支払う」の意味で、番組単位で随時、視聴購入します。また、一日ずつ契約できるペイ・パー・デイ（PPD）もあります。
ペイ・パー・ビュー（PPV）には、購入前に内容を確認（プレビュー：事前視聴）できる番組もあります。

プレビューについて
- PPV番組により見られる回数、時間が異なります。プレビューが終了しても、購入操作は引き続き行えます。
- プレビューを見た後、購入をやめるときは、チャンネルを変えてください。

PPV番組を見る前に
- 必ず電話回線をつないでください（☞127、146ページ）。
- B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）を本体のICカード挿入口に入れて、B-CAS用ユーザー登録はがきを投函してください（☞144ページ）。
- 加入申し込みが別途必要になるBS放送局もあります（☞151ページ）。

1 PPV番組を選ぶ。

2 「購入手続き」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

3 購入手続きを行う。

購入するときは

◁/▷で「購入する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
購入したPPV番組が映ります。

購入をやめるときは

◁/▷で「取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

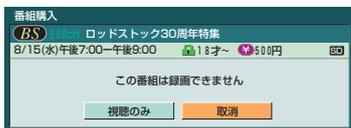
ご注意

購入操作の途中に他のチャンネルを選ぶと、購入は中止されます。この場合は、手順1から操作し直してください。

次のページにつづく

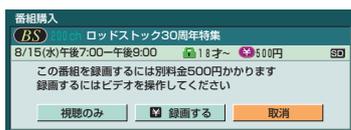
BSのペイ・パー・ビュー（PPV）を見る（つづき）

こんなメッセージが表示されたら

「この番組は録画できません」

購入するときは
⊲/⊳で「視聴のみ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

購入をやめるときは
⊲/⊳で「取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「この番組を録画するには別途料金がかかります」

録画有料番組となります。「録画する」の前に「¥」マークが付きます。

見るだけのときは
⊲/⊳で「視聴のみ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

録画するときは
⊲/⊳で「録画する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
録画防止信号が解除され、本機のi.LINK端子につないだハードディスクレコーダーVRP-T1や、BS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオで録画できるようになります。

購入をやめるときは
⊲/⊳で「取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「この番組はi.LINKでは録画できません」

本機で受信したデジタル信号に、デジタルコピープロテクトがかかっています。本機のi.LINK端子につないだハードディスクレコーダーVRP-T1などにデジタル録画できません。
BS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでデジタル信号をアナログ信号に変換し、テレビ（地上波）と同等の画質でアナログ録画できます。

「ICカードのデータがいっぱいになったので購入できません　電話線をつなぐと自動的にデータが送られて購入できるようになります」

購入額がカードの上限金額を越えています。
また、番組の購入可能件数を越えたときにも、この表示が出ます。
電話回線をつないでください。

「購入時間が過ぎているため購入できません」

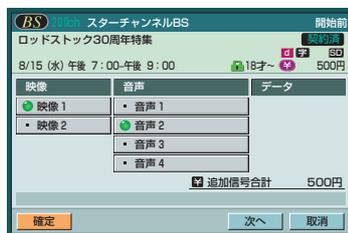
番組によっては購入可能時間が決まっているため購入できない場合があります。

録画防止機能について

i.LINKでデジタル録画するとき
本機は、DTLAのコピープロテクション技術に対応しています。したがって、コピーを許可されていない番組は録画することはできません。
コピープロテクションについて詳しくは、☞181ページをご覧ください。

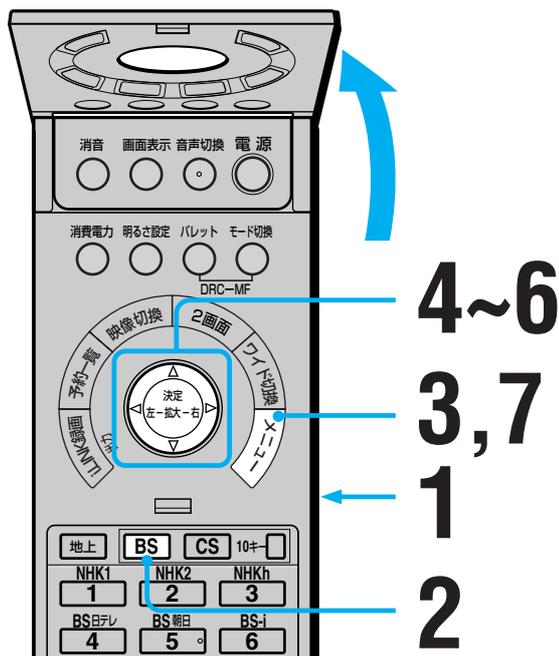
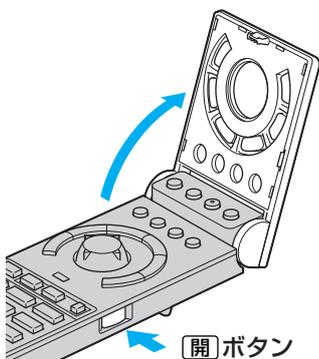
ビデオなどにアナログ録画するとき
本機は、録画防止機能（コピープロテクション）が付いています。そのため、番組によっては、正常な画像で録画できなかったり、録画したものを正常な画像で再生できなかったりするものがあります。
また、音声に関しても、本機後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、正しく録音できない番組があります。ご注意ください。
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

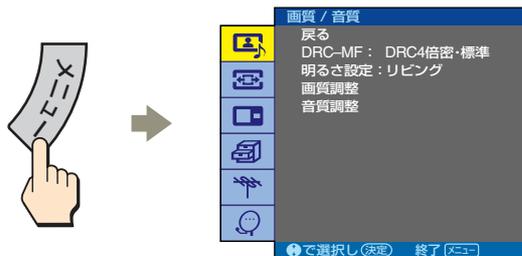
追加信号について

PPV番組によっては、最大4種類の映像、最大8種類の音声から切り換えられます。映像/音声を選ぶ画面で、追加したい信号を選んで番組を楽しめます。
なお、「¥」マークの付いた映像、音声などを選ぶと、選んだ分の追加料金が発生します。

ペイ・パー・ビュー（PPV）の購入概算額を見る

先月分と今月分の購入概算額を確認できます。正確な購入合計額については、ご覧になっている各BS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞26ページ）。

ご注意

- 「ペイパービュー購入合計額」にはペイ・パー・シリーズなどの購入金額は含まれません。
- ペイ・パー・デイ（PPD）の月極契約では、概算金額と実際に請求される金額が大きく異なることがあります。概算金額では、見た日数分だけの合計金額が加算されます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

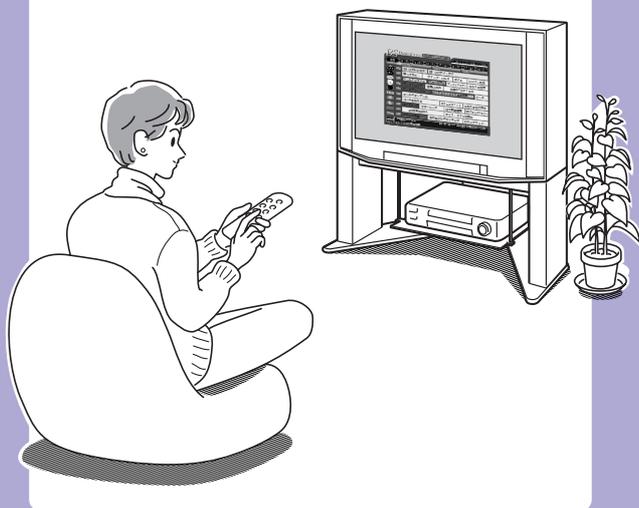
5 「（お知らせ）」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「ペイパービュー購入合計額」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

購入したPPV番組の前月分と今月分の概算金額が表示されます。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

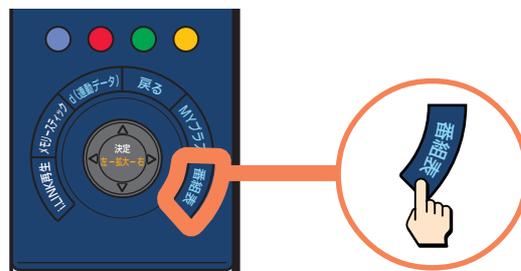
BSの番組を選ぶ

ここでは、テレビ画面に表示されるBSの番組一覧を使ってできる操作について説明しています。
番組一覧から見たいBS番組を探して選局したり、番組説明を見たりできます。
また、リモコンのMYプラスボタンを使って、チャンネル別やジャンル別の番組表を表示し、簡単に視聴したい番組を選べます。

こんな番組一覧があります

BS放送は、テレビ画面に番組一覧を表示しながら、簡単に選局や検索ができます。

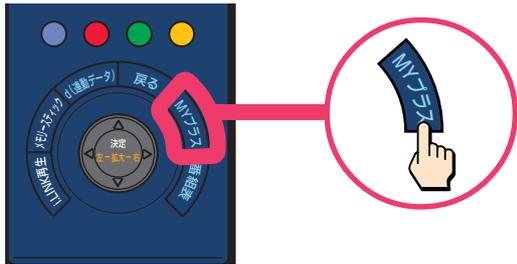
BSになっていないときは、最初に BS ボタンを押して、BSに切り換えてください。

番組表（EPG*）からすばやく選ぶ

* EPGは、電子番組表（Electronic Program Guide（エレクトロニック・プログラム・ガイド））の略です。

番組表（EPG）

番組表ボタンで、約1週間先までの番組表から視聴したい番組を選べます（☞42ページ）。

現在放送中の番組を選ぶと、その番組を視聴できます。
また、放送開始前の番組を選ぶと「番組説明」画面から、そのまま録画予約や視聴予約に進めます。
予約方法については、☞56〜68ページをご覧ください。

MYプラスで視聴したい番組をすばやく探して選ぶ

MYプラスボタンで、お好みのチャンネルやジャンル（分野やテーマ）から視聴したい番組を簡単に探せます。MYプラスでは、4とおりの中から番組を探したり選んだりできます。

MYチャンネル選局

よく視聴するチャンネルを一覧表示して簡単に選べます（☞45ページ）。

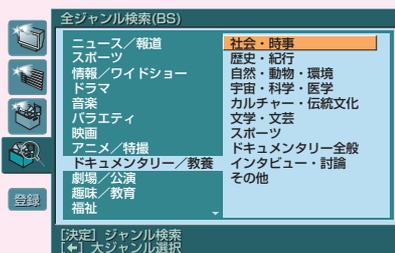
MYチャンネル番組表

特定のBSチャンネルの番組表だけを表示して簡単に探せます（☞47ページ）。

MYジャンル検索

よく視聴するジャンルから番組を絞り込んで探せます（☞49ページ）。

全ジャンル検索

すべてのジャンルから番組を絞り込んで探せます（☞53ページ）。

現在放送中の番組を選ぶと、その番組を視聴できます。
また、放送開始前の番組を選ぶと「番組説明」画面から、そのまま録画予約や視聴予約に進めます。
予約方法については、☞56～68ページをご覧ください。
ただし、MYチャンネル選局からは、放送開始前の番組を選べないので予約はできません。

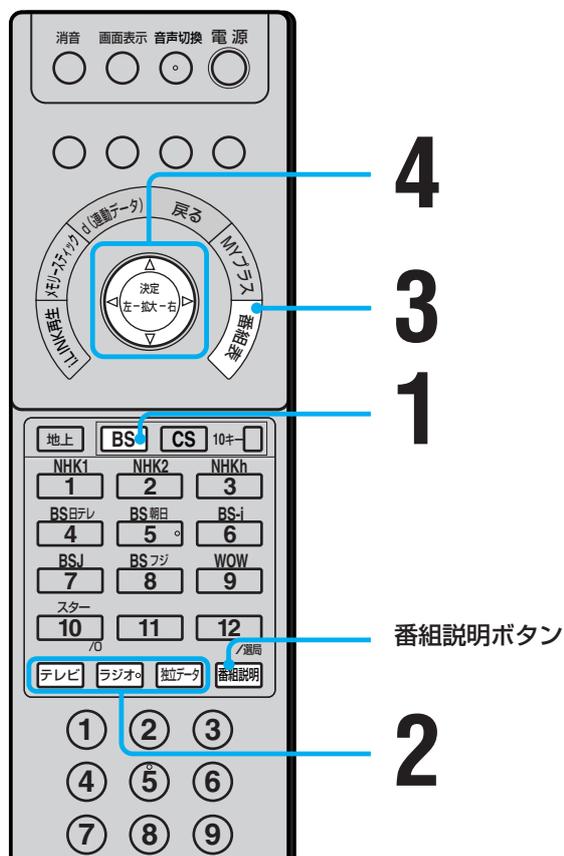
BSの番組表から見たい番組を選ぶ
[番組表ボタン]

BS放送では、BS放送局が送信する番組情報を元に、BSの番組表：EPG*を約1週間先まで見ることができます。
1度に1つの放送サービス（BSテレビ、BSラジオ、BS独立データ）の番組表を表示できます。

* EPGは、電子番組表（Electronic Program Guide）の略です。

放送開始前の番組を選ぶと、番組説明を見ることができ、そのまま録画予約や視聴予約に進めます。予約方法については、☞56〜68ページをご覧ください。

ご注意

一部のテレビ（地上波）局が行っている地上波の番組表（EPG）信号には対応していません。そのため、地上波の番組表はありません。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 見たい番組表のBSの種類（放送サービス）を選ぶ。
選んだBSに切り換わります。

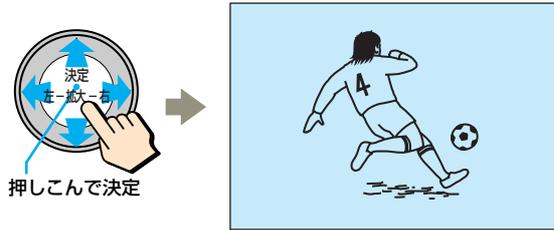
放送サービス	押すボタン
BSテレビ	テレビ
BSラジオ	ラジオ
BS独立データ	独立データ

3 番組表ボタンを押す。
選んだBSの番組表（例えば、BSテレビのときはBSテレビの番組表）が表示されます。
約1週間先までの番組情報を見ることができます。
「データ取得中です」と表示された場合は、しばらくお待ちください。

番組表についての詳しい説明は☞44ページをご覧ください。

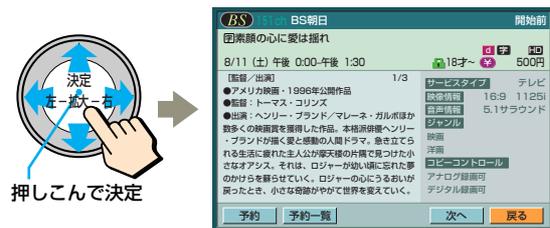
4 △/▽/◁/▷で見たい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

放送中の番組を選ぶと

選んだ番組になります。

ちょっと一言

真ん中を押しこんで決定する代わりに番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

放送開始前の番組を選ぶと

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示されます。また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

録画予約するときは
- ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画するとき（☞56ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞59ページ）

視聴予約するときは

☞64ページ

予約しないときは

△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ちょっと一言

日時をすばやく移動したいときは（高速スクロール）

◁/▷を押し続け、見たい時間帯になったらボタンを離します。高速スクロール中は番組タイトル欄の表示が消えます。

真ん中を押しこんで決定する代わりに番組説明ボタンを押すと

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示されます。放送中の番組を選んでも、「番組説明」画面が表示されます。また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

「番組表」画面を消すときは

もう1度、番組表ボタンを押す。

ちょっと一言

［1］〜［12／選局］のBS用数字ボタンで選べないチャンネルを番組表に表示するには☞158ページをご覧ください。

次のページにつづく

番組表（EPG）について

下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

表示マークについて

- ：マルチチャンネル放送（同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送☞32ページ）
- 字：字幕放送（☞79ページ）
- d：BSテレビやBSラジオと連動しているBSデータ放送（☞36ページ）
- MV：マルチビュー放送（☞76ページ）
- HD：デジタルハイビジョン信号HD（☞27ページ）
- SD：標準テレビ信号SD（☞27ページ）
- ：視聴年齢制限付き番組（☞30ページ）
- ￥：ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞37ページ）
- ：録画予約した番組（☞56、59ページ）
- ：視聴予約した番組（☞64ページ）

ちょっと一言

、MV、HDまたはSDは同じ場所に表示されるため、いずれか1つが表示されます。

他に、BS放送局から、二か国語放送やニュースなど番組の種類を表すマークが付いてくる場合があります。
以下はその一例です。

- 二：二か国語放送（☞75ページ）
- S：ステレオ放送（☞28ページ）
- 字：字幕放送
- B：圧縮Bモードステレオ放送（☞28ページ）
- N：ニュース番組

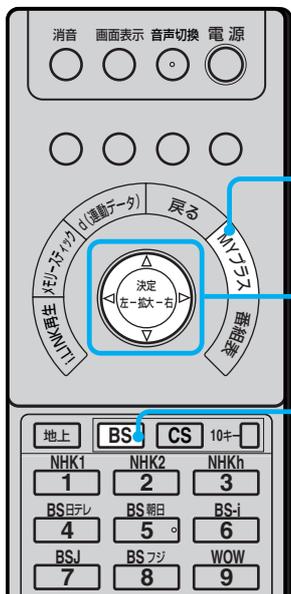
番組の表示色について

- ：現在選んでいる番組（カーソル）
- ：現在放送中の番組
- ：すでに終了した番組
- ：放送開始前の番組
- ：録画予約した番組（☞56、59ページ）
- ：視聴予約した番組（☞64ページ）

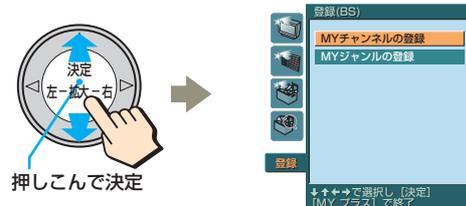
好みのBSチャンネル一覧からBSチャンネルを選ぶ［MYチャンネル選局］

よく視聴するBSチャンネルをテレビ、ラジオ、独立データの区別なく登録し、登録したBSチャンネルの一覧［**MYチャンネル選局**］を表示し、すばやくチャンネルを選べます。
さらに登録した中から、チャンネル別の番組表も表示できます［**MYチャンネル番組表**］
（☞47ページ）。

よく視聴するBSチャンネルをあらかじめMYチャンネルに登録する

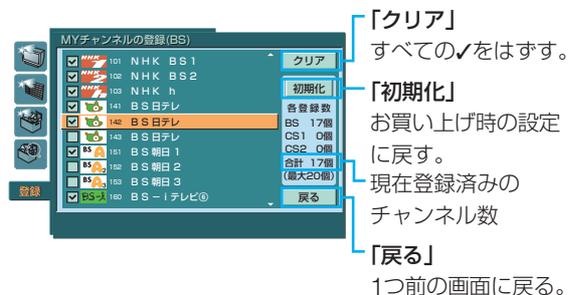
BSのテレビ、ラジオ、独立データの区別なく、最大20チャンネルまで登録できます。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で 登録 を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「MYチャンネルの登録」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で登録したいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

お買い上げ時は、あらかじめ、BSテレビとBS独立データの代表チャンネルが登録されています（□に、✓がすでに付いています）。

選んだBSチャンネルの□に✓が付き、MYチャンネルに登録されます。

ご注意

臨時チャンネルは□も表示されず登録できません。

✓をはずすには

✓の付いているチャンネルを選び、決定する。

BSの番組を選ぶ

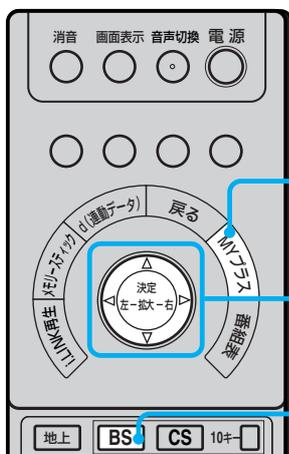
好みのBSチャンネル一覧からBSチャンネルを選ぶ［MYチャンネル選局］（つづき）

6 引き続きチャンネルを登録するときは、手順5をくり返す。

テレビ、ラジオ、独立データの区別なく最大20チャンネルを登録できます。

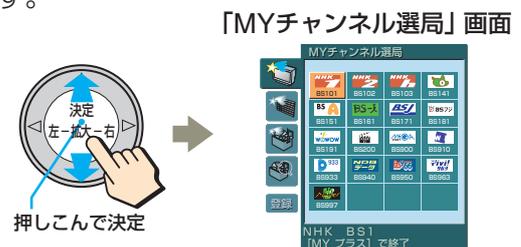
7 MYプラスボタンを押して、「MYチャンネルの登録」画面を消す。

「MYチャンネル選局」画面からBSチャンネルを選ぶ

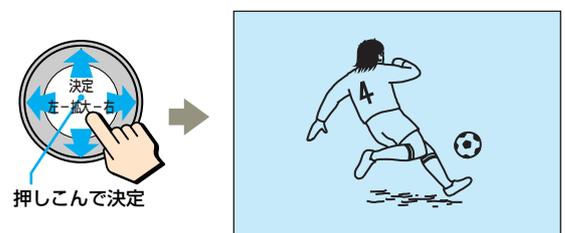
あらかじめ登録したMYチャンネルから、視聴したいチャンネルを選びます。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で「（MYチャンネル選局）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「MYチャンネル選局」画面が表示されます。

「MYチャンネル選局」画面

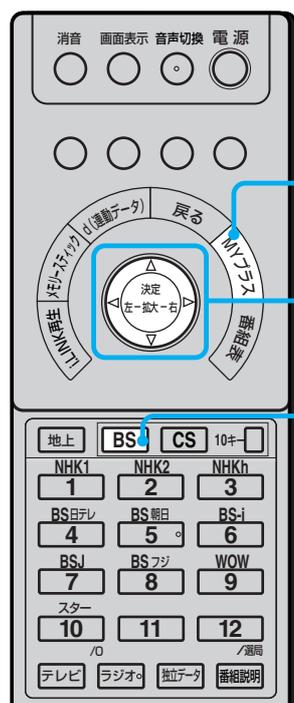
4 △/▽/◁/▷で視聴したいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

選んだBSチャンネルになります。

「MYチャンネル選局」画面を消すときは

もう1度、MYプラスボタンを押す。

好みのBSチャンネルの番組表から番組を探す［MYチャンネル番組表］

MYチャンネルに登録したチャンネル（☞45～46ページ）の中から、チャンネル別の番組表を約1週間先まで見ることができます。

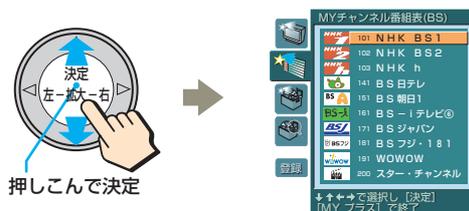
放送開始前の番組を選ぶと、番組説明を見ることができ、そのまま録画予約や視聴予約に進めます。予約方法については、☞56～68ページをご覧ください。

1 番組表を表示したいチャンネルを、MYチャンネルにあらかじめ登録しておく。

「よく視聴するBSチャンネルをあらかじめMYチャンネルに登録する」（☞45～46ページ）を行ってください。
すでに登録済みのときは、この操作は不要です。

2 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

3 MYプラスボタンを押す。

4 △/▽で「（MYチャンネル番組表）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

MYチャンネルに登録したBSチャンネルが一覧表示されます。

5 △/▽でチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

現在放送中の番組を先頭に、選んだチャンネルだけの番組表が表示されます。

ご注意

お買い上げ時、または長時間本体の電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れた後は、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときはBS放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

「MYチャンネル番組表」画面

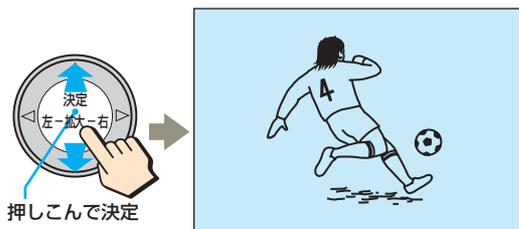
他のチャンネルの番組表を見たいときは
◁を押してから、チャンネルを選び直す。

「MYチャンネル番組表」画面についての詳しい説明は☞48ページをご覧ください。

BSの番組を選ぶ

次のページにつづく

好みのBSチャンネルの番組表から番組を探す［MYチャンネル番組表］（つづき）

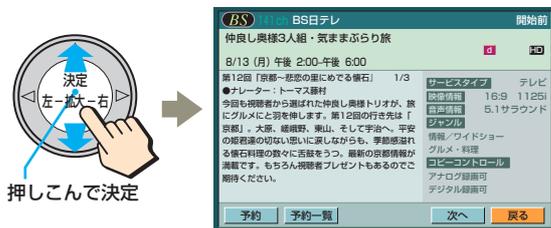
6 △/▽で番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

放送中の番組を選ぶと

その番組になります。

💡 **ちょっと一言**

真ん中を押しこんで決定する代わりに番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

放送開始前の番組を選ぶと

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示されます。また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

録画予約するときは

- ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画するとき（☞56ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞59ページ）

視聴予約するときは

☞64ページ

予約しないときは

△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「MYチャンネル番組表」を消すときは

もう1度、MYプラスボタンを押す。

「MYチャンネル番組表」画面について

下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

チャンネルロゴ（マーク）とチャンネル番号

表示件数

カーソル

黄色で表示され、リモコンの△/▽で移動できます。

番組タイトルと放送開始日時

上下に▲/▼があるときは、リモコンの△/▽で前後の番組を見ることができます。

番組情報欄

（カーソル）で選んでいる番組の情報です。

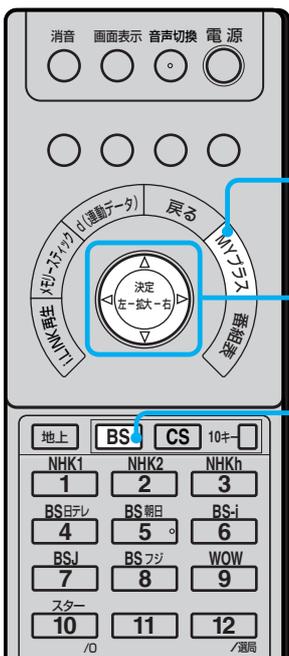
番組の表示色や表示マークについては、☞44ページをご覧ください。

好みのジャンルの一覧から番組を探す［MYジャンル検索］

BS放送局が送信する番組ジャンル情報*を元に、よく視聴するジャンル（分野やテーマ）を登録しておけば、視聴したいジャンル別の番組一覧をテレビ、ラジオ、独立データの区別なく約1週間先まで最大999番組を表示し、すばやく番組を探せます［**MYジャンル検索**］。
また、すべてのジャンルから視聴したい番組を探し出すこともできます［**全ジャンル検索**］
☞53～55ページ。

* 1つの番組が最大3つのジャンル情報を持ち、それぞれのジャンルで検索できます。ただし、「番組説明」画面（☞35ページ）の番組情報欄に表示される「ジャンル」には代表的なジャンルが1つだけ表示されます。

よく視聴するジャンルをあらかじめMYジャンルに登録する

最大5つのジャンルを、大ジャンルまたは、さらに細かいジャンル（小ジャンル）で登録できます。

ここでは例として、「登録4」に「大ジャンル：映画、小ジャンル：洋画」を登録する手順を説明します。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で登録を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「MYジャンルの登録」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

お買い上げ時にあらかじめ設定されている3つのジャンルが表示されます。

ご注意

新たにジャンルを追加したり、登録済みのジャンルを入れ換えて上書きできますが、登録済みのジャンルを空欄にはできません。

好みのジャンルの一覧から番組を探す［MYジャンル検索］（つづき）

5 **△/▽で新たに追加または入れ換えたいジャンル（ここでは「登録4」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

ジャンルが一覧表示されます。

6 **ジャンルを選ぶ。**

大ジャンルと小ジャンルを登録したいときは

△/▽で登録したい大ジャンル（ここでは「映画」）を選び、▷を押す。
小ジャンルを選ぶ画面になります。

大ジャンルだけ登録したいときは

△/▽で登録したい大ジャンル（ここでは「映画」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

小ジャンルは、MYジャンルに「すべて」として登録されます。

手順8に進んでください。

7 **△/▽で登録したい小ジャンル（ここでは「洋画」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

選んだ大ジャンルとその小ジャンルが、MYジャンルに登録されます。

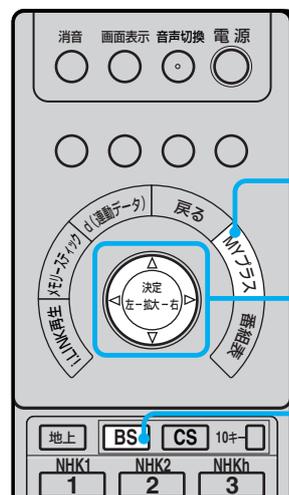
8 **引き続きジャンルを登録するときは、手順5～7をくり返す。**

最大5つのジャンルを登録できます。

9 **MYプラスボタンを押して、「MYジャンルの登録」画面を消す。**

「MYジャンル検索」画面から番組を探す

あらかじめ登録したMYジャンルから、視聴したいジャンル別の番組一覧をテレビ、ラジオ、独立データの区別なく約1週間先まで最大999番組まで表示し、視聴したい番組を探せます。

放送開始前の番組を選ぶと、番組説明を見ることができ、そのまま録画予約や視聴予約に進めます。予約方法については、☞56～68ページをご覧ください。

ここでは例として、「大ジャンル：映画、小ジャンル：洋画」を探す手順を説明します。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 ∆/∇で「(MYジャンル検索)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「MYジャンル検索」画面が表示されます。

「MYジャンル検索」画面

4 ∆/∇で視聴したいジャンルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

現在放送中の番組を先頭に、選んだジャンルだけの番組表が開始時刻順に表示されます。

ご注意

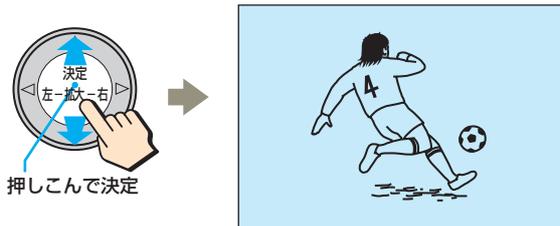
お買い上げ時、または長時間本体の電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れた後は、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときはBS放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

「MYジャンル番組表」画面

他のジャンルの番組表を見たいときは

◁を押してから、視聴したいジャンルを選び直す。

「MYジャンル番組表」画面についての詳しい説明は☞52ページをご覧ください。

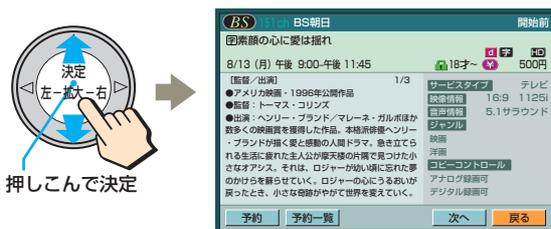
5 ∆/∇で番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

放送中の番組を選ぶと

その番組になります。

ちょっと一言

真ん中を押しこんで決定する代わりに番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

放送開始前の番組を選ぶと

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示されます。また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

録画予約するときは

- ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画するとき（☞56ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞59ページ）

視聴予約するときは

☞64ページ

予約しないときは

∆/∇/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「MYジャンル番組表」画面を消すときは

もう1度、MYプラスボタンを押す。

BSの番組を選ぶ

好みのジャンルの一覧から番組を探す［MYジャンル検索］（つづき）

「MYジャンル番組表」画面について

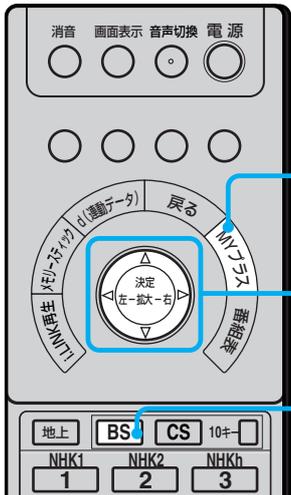
下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

番組の表示の色や表示マークについては、☞44ページをご覧ください。

すべてのジャンルの一覧から番組を探す

[全ジャンル検索]

BS放送局が送信する番組ジャンル情報*を元に、すべてのジャンル（分野やテーマ）[**全ジャンル検索**] から、視聴したいジャンル別の番組一覧をテレビ、ラジオ、独立データの区別なく約1週間先まで最大999番組を表示し、すばやく番組を探せます。

* 1つの番組が最大3つのジャンル情報を持ち、それぞれのジャンルで検索できます。ただし、「番組説明」画面（☞35ページ）の番組情報欄に表示される「ジャンル」には代表的なジャンルが1つだけ表示されます。

ここでは例として、「大ジャンル：ドキュメンタリー/教養、小ジャンル：歴史・紀行」を探す手順を説明します。

1 BSを視聴していないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 MYプラスボタンを押す。

3 △/▽で「(全ジャンル検索)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

すべてのジャンルが一覧表示されます。

「全ジャンル検索」画面

大ジャンルを一覧表示します。

4 ジャンルを選ぶ。

大ジャンルと小ジャンルを選んで検索したいときは

△/▽で大ジャンルを選び、▷を押す。
小ジャンルを選ぶ画面になります。

小ジャンルを一覧表示します。

大ジャンルだけで検索したいときは

△/▽で大ジャンルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

現在放送中の番組を先頭に、選んだ大ジャンルの番組表が開始時刻順に表示されます。

ご注意

お買い上げ時、または長時間本体の電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れた後は、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときはBS放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

手順6に進んでください。

「全ジャンル番組表」画面

「全ジャンル番組表」画面についての詳しい説明は☞55ページをご覧ください。

他のジャンルの番組表を見たいときは

◁を押してから、視聴したいジャンルを選び直す。

次のページにつづく

すべてのジャンルの一覧から番組を探す［全ジャンル検索］（つづき）

5 △/▽で小ジャンルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

現在放送中の番組を先頭に、選んだ小ジャンルの番組表が開始時刻順に表示されます。

ご注意

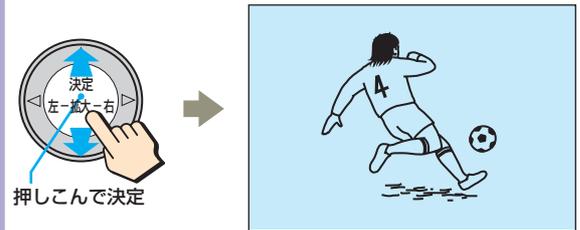
お買い上げ時、または長時間本体の電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れた後は、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときはBS放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。

「全ジャンル番組表」画面

他のジャンルの番組表を見たいときは

◁を押す。

「全ジャンル番組表」画面についての詳しい説明は☞55ページをご覧ください。

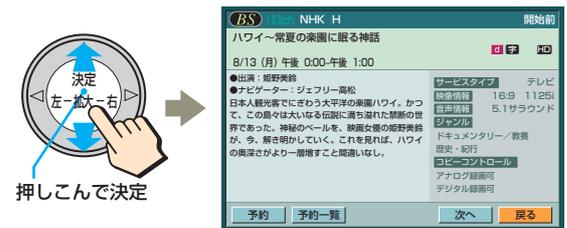
6 △/▽で番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

放送中の番組を選ぶと

その番組になります。

ちょっと一言

真ん中を押しこんで決定する代わりに番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。

放送開始前の番組を選ぶと

受信中の映像と音声が消えて「番組説明」画面が表示されます。また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子やi.LINK端子からの信号も出力されなくなります。

録画予約するときは

- ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画するとき（☞56ページ）
- ビデオにAVマウスでアナログ録画するとき（☞59ページ）

視聴予約するときは

☞64ページ

予約しないときは

△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「全ジャンル検索」画面を消すときは

もう1度、MYプラスボタンを押す。

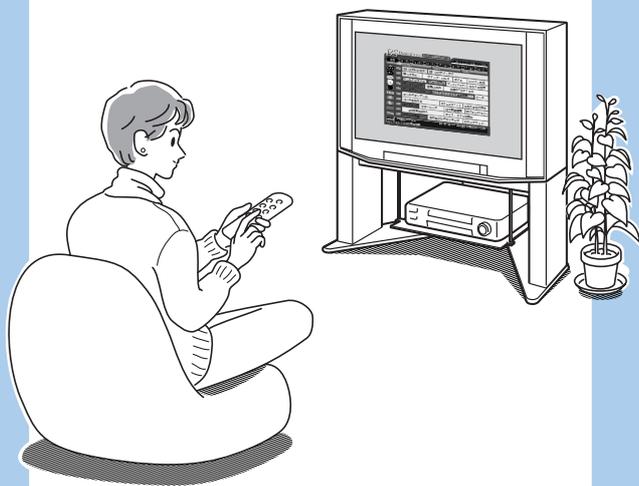
「全ジャンル番組表」画面について

下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

番組の表示の色や表示マークについては、☞44ページをご覧ください。

BSの番組を選ぶ

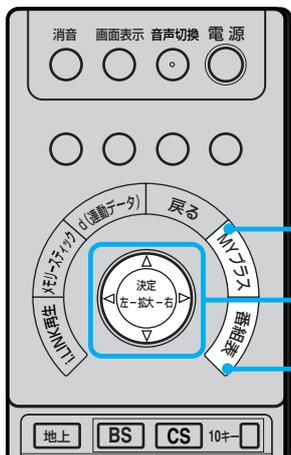
BSの番組を予約する

ここではBSの番組を予約する操作を説明しています。例えば、ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画したり、ビデオにAVマウスでアナログ録画したり、見たい番組に自動的に切り換えたり、予約内容を確認/取消したりする操作です。
また、放送開始時刻の変更に対応して録画したり、アナログ録画で二重音声放送の録画音声を選んだりする操作についても説明しています。

ハードディスクレコーダーVRP-T1にi.LINKでデジタル録画予約する

本機とハードディスクレコーダーVRP-T1*をi.LINKで連動させて、**BSデジタル放送をデジタル高画質でデジタル録画できます。**
他の予約（☞59～64ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

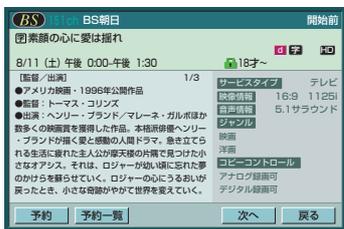
* ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）です。i.LINK操作画面（☞102、104ページ）では「HDR」と表示されます。

ご注意

- **次の番組はデジタル録画予約できません。**
  - －放送時間が未定のとき
  - －コピープロテクションにより録画できない番組のとき
  - －未契約チャンネルのとき
  - －視聴できないデータサービスのとき
  - －すでに予約が15件あるとき（☞65ページ）
  - －PPV番組ですでに放送開始しているとき
  - －視聴予約（☞64ページ）を行っているとき
- **本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています（☞38、59、181ページ）。**

予約する前に確認してください。

- ハードディスクレコーダーVRP-T1を本機と正しくつないでください。また、ハードディスクレコーダーVRP-T1に必要な設定も行ってください（☞98、182ページ）。
- B-CASカード（BSデジタル用ICカード）を正しく入れ、ICカード挿入口のふたを閉めてください（☞144ページ）。
- 前の番組が延長されて、開始時刻が変更される可能性があるときは、「放送開始時刻の変更に対応してBS録画予約する」（☞68ページ）を行ってください。

1 予約したい番組の「番組説明」画面を表示させる。

- 番組表ボタンで「番組表」から☞42～44ページ
- MYプラスボタンで「 MYチャンネル番組表」画面から☞47～48ページ
- MYプラスボタンで「 MYジャンル番組表」画面から☞49～52ページ
- MYプラスボタンで「 全ジャンル番組表」画面から☞53～55ページ

すでに番組が放送中のときは

番組説明ボタンを押して「番組説明」画面を表示させます。

ご注意

- 番組の終了時刻前2分を切っているときは、録画予約はできません。
- 番組を視聴中に番組説明ボタンを押しても「予約一欄」ボタンは表示されないので、手順2以降の録画予約操作はできません。

2 ◁/▷で「予約」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

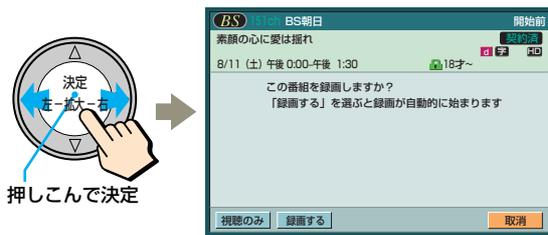
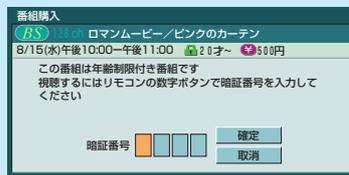
「この番組はi.LINKでのデジタル録画はできません」と表示されたときは

デジタル録画はできません。番組によっては、本機のBS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでアナログ録画できます（☞59～63ページ）。

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは

◁/▷で「予約する」を選び、真ん中を押しこんで決定すれば予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞65ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

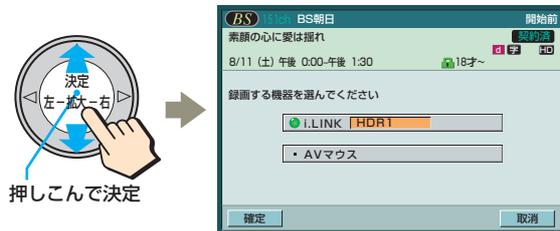
暗証番号入力画面が表示されます。1～10までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

3 ◁/▷で「録画する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

録画するのときは

PPV番組のため、別途料金がかかります（☞37～38ページ）。

4 △/▽で「i.LINK」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

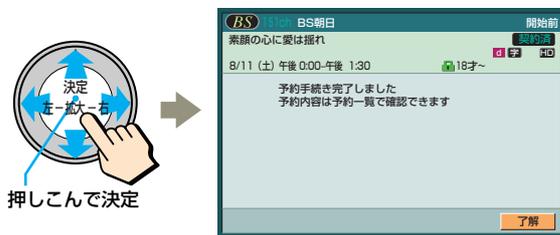
BSの番組を予約する

次のページにつづく

5 △/▽で録画したい「HDR」を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

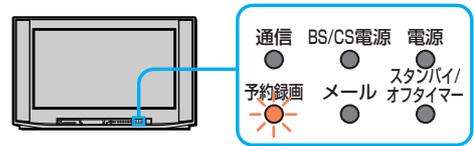
予約した時刻になると選んだハードディスクレコーダーVRP-T1が自動的にLINCされます（☞100ページ）。

6 △/▽/◁/▷で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

映像/音声/データの信号などが複数ある番組のときは

信号を選ぶ画面が表示されます。「次へ」を選ぶと、5種類目以降の信号が表示されます。
無料信号は、自動ですべて録画されます（録画しないようには変更はできません）。
有料信号は、△/▽/◁/▷で録画したい信号を複数選べます。選べない信号は録画できません。

7 「了解」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

見ていた番組一覧（番組表やMYチャンネル番組表など）に戻り、予約した番組に🕘が表示されます。
また、本体前面の予約録画ランプが点灯します。

例：手順1で番組表を表示していたとき

8 番組一覧を消す。

「番組表」のときは番組表ボタンを押す。
「MYチャンネル番組表」や「MYジャンル番組表」、「全ジャンル番組表」のときはMYプラスボタンを押す。

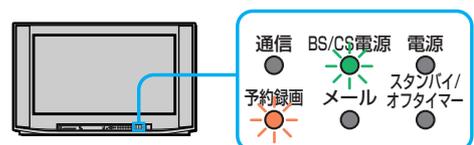
ご注意

テレビ本体の電源スイッチで、主電源を切らないでください。主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、必ず、主電源を入れておいてください。

ちょっと一言

「予約一覧」画面で予約内容を確認することをおすすめします（☞65ページ）。他の予約と重なっていると正しく録画できないためです。

予約した時刻になると

本機と連動してハードディスクレコーダーVRP-T1の電源が入り、録画が終了すると、自動的に電源が切れます。
開始時刻の約1分前に予約したチャンネルに切り換わり、約10秒前から録画が始まります。
録画中は本体前面の予約録画ランプとBS/CS電源ランプが点灯します。
録画中もテレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像を見ることができます。

💡ちょっと一言
- 録画開始時に本機が電源スタンバイ（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）のときは、電源スタンバイのまま（テレビの画面が出ることなく）、BSチューナー部のみ電源が入ります。
- 録画中にリモコンの電源ボタンで本機を電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。

録画実行中のご注意
- 接続した他のi.LINK対応機器の電源を入/切したり、接続を外したりすると、画像が乱れたりとぎれたりすることがあります。
- BSの操作（例：BSチャンネル切換、BSデータの操作、信号切換、番組表の表示など）はできません。
- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞65ページ）
  - 本体の電源スイッチで主電源を切ったとき
  - 「予約一覧」画面（☞65ページ）から実行中の予約を取り消したとき

BSデジタル放送のデジタル録画制限について

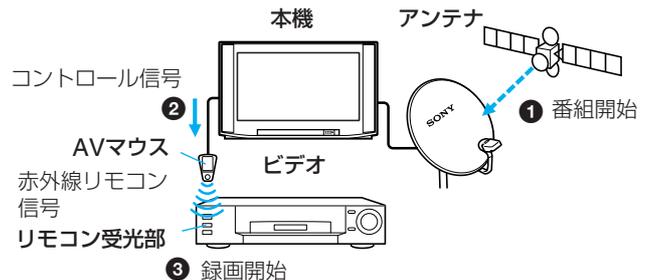
BS放送局が番組によって、次の3段階に設定して、信号を送っています。「番組説明」画面（☞35ページ）の番組情報欄で「コピーコントロール」情報を確認してください。

デジタル録画不可
デジタルハイビジョン信号HD・標準テレビ信号SDのいずれでもデジタル録画できません。ただし、番組によっては、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオでアナログ録画できます（☞59～63ページ）。

デジタル録画可
録画した番組を、さらにデジタルで録画（ダビング）・再生できます。

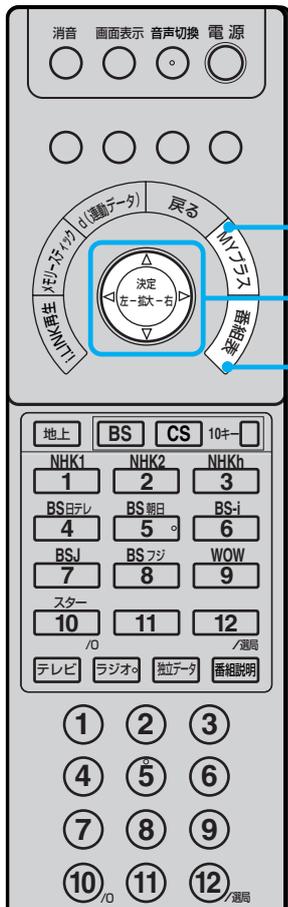
デジタル録画1回可（コピーワンス）
デジタル録画できますが、デジタル録画した番組をさらに録画（ダビング）するときにはアナログ信号になります。

ビデオにAVマウスでアナログ録画予約する

下図のように、付属のAVマウスを使って、ビデオ側で予約設定せずにビデオと本機を連動させ、**BSデジタル放送を現行のテレビ（地上波）と同等の画質でアナログ録画できます。**
なお、**現在放送中の番組（PPVは除く）のときは、予約を設定し終わったと同時に、そのBSチャンネルに固定されて録画が始まります。**
誤って他のBSチャンネルに切り換わることなく録画できます。
他の予約（☞56、64ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

番組開始時間に合わせて、本機がビデオに録画開始の赤外線リモコン信号を送ります。

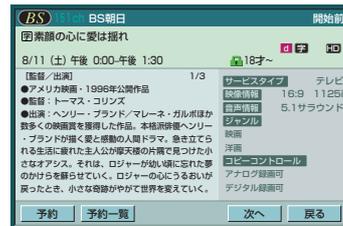
BSテレビやBSラジオと連動しているBSデータは、予約できますが録画はできません。BS独立データは、予約も録画もどちらもできません。

ご注意
次の番組はアナログ録画予約できません。
－放送時間が未定のとき
－コピープロテクションにより録画できない番組のとき
－未契約チャンネルのとき
－視聴できないデータサービスのとき
－すでに予約が15件あるとき（☞65ページ）
－PPV番組ですでに放送開始しているとき
－視聴予約（☞64ページ）を行っているとき

ビデオにAVマウスでアナログ録画予約する（つづき）

予約する前に確認してください。

- **AVマウスを設定し、ビデオを正しく操作できるか確認してください（☞148ページ）。**
  AVマウスでビデオを正しく操作できないときは、☞62ページをご覧ください。
- **ビデオ側で以下の設定をした後、ビデオの電源を切っておいてください。**
  ビデオの電源が入ったままだと、録画できない場合があります。
  －ビデオの入力を、本機をつないだ入力に切り換える。
  －ビデオの録画モード（標準/3倍やSP/LPなど）を選ぶ。
- 二重音声番組を予約するときは、録画する音声をあらかじめ選んでください（☞63ページ）。お買い上げ時は主音声のみが記録されるように設定されています。
- B-CASカード（BSデジタル用ICカード）を正しく入れ、ICカード挿入口のふたを閉めてください（☞144ページ）。
- 前の番組が延長されて、開始時刻が変更される可能性があるときは、「放送開始時刻の変更に対応してBS録画予約する」（☞68ページ）を行ってください。

1 予約したい番組の「番組説明」画面を表示させる。

- 番組表ボタンで「番組表」から
  ☞42～44ページ
- MYプラスボタンで「MYチャンネル番組表」画面から☞47～48ページ
- MYプラスボタンで「MYジャンル番組表」画面から☞49～52ページ
- MYプラスボタンで「全ジャンル番組表」画面から☞53～55ページ

ご注意

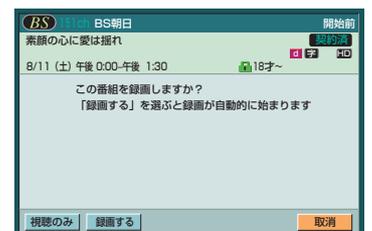
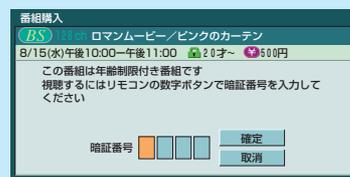
放送中の番組で終了時刻前2分を切っているときは、録画はできません。

2 ◁/▷で「予約」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは

◁/▷で「予約する」を選び、真ん中を押しこんで決定すれば予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞65ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは

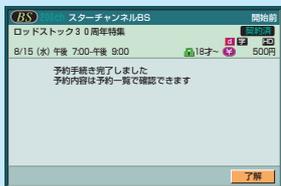
暗証番号入力画面が表示されます。1～10までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

3 ◁/▷で「録画する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

¥録画する のときは

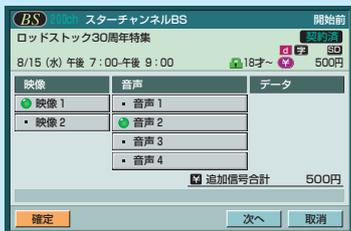
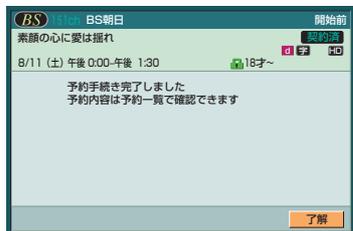
PPV番組のため、別途料金がかかります（☞37～38ページ）。

ハードディスクレコーダーVRP-T1もつないでいるときは、「AVマウス」を選んでください。

① △/▽で「AVマウス」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

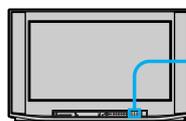
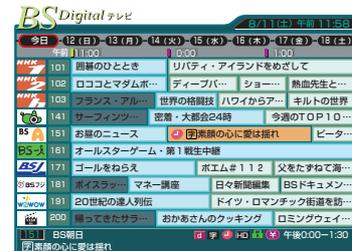
② ◁/▷で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

③ 手順4へ進んでください。

映像/音声信号などが複数ある番組のときは

信号を選ぶ画面が表示されます。△/▽/◁/▷で録画したい信号を1つ選べます（選べない信号は録画できません）。「次へ」を押すと、5種類目以降の信号が表示されます。

4 「了解」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

見ていた番組一覧（番組表やMYチャンネル番組表など）に戻り、予約した番組に 🕘 が表示されます。

また、本体前面の予約録画ランプが点灯します。

例：手順1で番組表を表示していたとき

すでに番組が放送中のときは

予約した番組のBSチャンネルに固定されて録画が始まります。

5 番組一覧を消す。

「番組表」のときは番組表ボタンを押す。「MYチャンネル番組表」や「MYジャンル番組表」、「全ジャンル番組表」のときはMYプラスボタンを押す。

ご注意

テレビ本体の電源スイッチで、主電源を切らないでください。主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。予約した番組の開始時刻前には、必ず、主電源を入れておいてください。

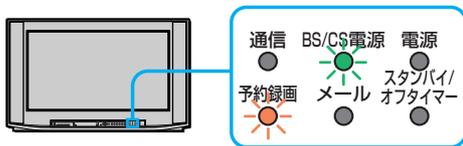
ちょっと一言

「予約一覧」画面で予約内容を確認することをおすすめします（☞65ページ）。他の予約と重なっていると正しく録画できないためです。

次のページにつづく

ビデオにAVマウスでアナログ録画予約する（つづき）

予約した時刻になると

本機と連動してビデオの電源が入り、録画が終了すると、自動的に電源が切れます。
開始時刻の約1分前に予約したチャンネルに切り換わって固定され、約10秒前から録画が始まります。
録画中は本体前面の予約録画ランプとBS/CS電源ランプが点灯します。
録画中もテレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像を見ることができます。ただし、i.LINK対応機器からの再生はできません。

ちょっと一言

- 録画開始時に本機が電源スタンバイ（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）のときは、電源スタンバイのまま（テレビの画面が出ることなく）、BSチューナー部のみ電源が入ります。
- 録画中にリモコンの電源ボタンで本機を電源スタンバイにしても、録画はそのまま実行されます。

ご注意

録画実行中のご注意

- BSの操作（例：BSチャンネル切換、BSデータの操作、信号切換、番組表の表示など）はできません。
- 次のときは録画が解除されます。
  - 他の予約と重なっているとき（☞65ページ）
  - 本体の電源スイッチで主電源を切ったとき
  - 「予約一覧」画面（☞65ページ）から実行中の予約を取り消したとき
- ビデオのAPC（アダプティブ・ピクチャー・コントロール）機能などが働くと、録画の冒頭が途切れることがあります。

AVマウスが使えないときは

お手持ちのビデオの予約機能を使って録画予約してください。

1 **60～61ページの手順1～5を行う。**

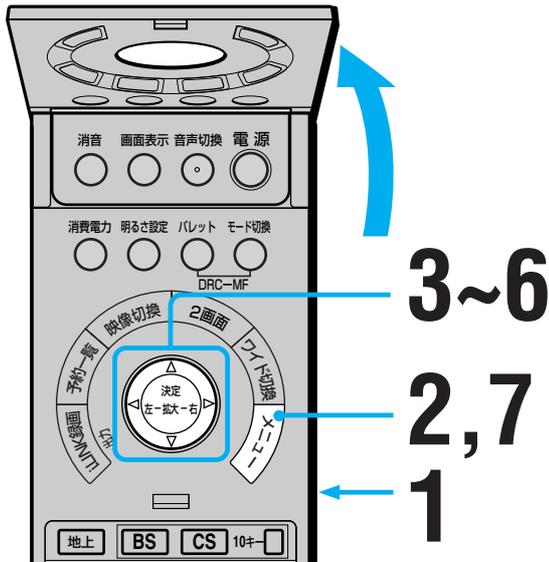
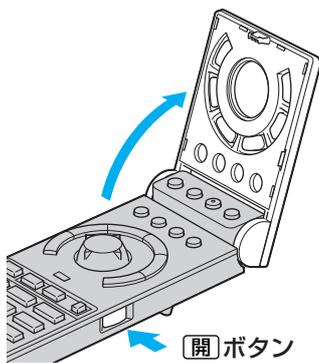
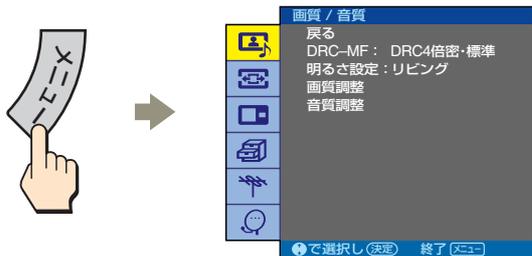
2 **お手持ちのビデオで、録画予約する。**
ビデオ側で、本機をつないだビデオ側の入力を、予約したい番組放送時刻に録画できるように予約します。ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

録画実行中のご注意

予約した番組の放送開始時刻の変更には対応できません。
例：スポーツ番組の延長などのため番組の開始時刻が繰り下がったとき、予約した番組は途中までしか録画されません。PPV番組などの場合は、途中までの録画でも料金がかかりますのでご注意ください。

録画予約する二重音声番組の音声をあらかじめ選ぶ

録画中に音声切換ボタンでスピーカーからの音声を変えても、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子から出力する音声はあらかじめ選んだ音声に固定されます。また、一度設定すると、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。
お買い上げ時は主音声のみが記録されるように設定されています。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「(予約設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「二重音声設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽/◁/▷で「主」、「副」または「主/副」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

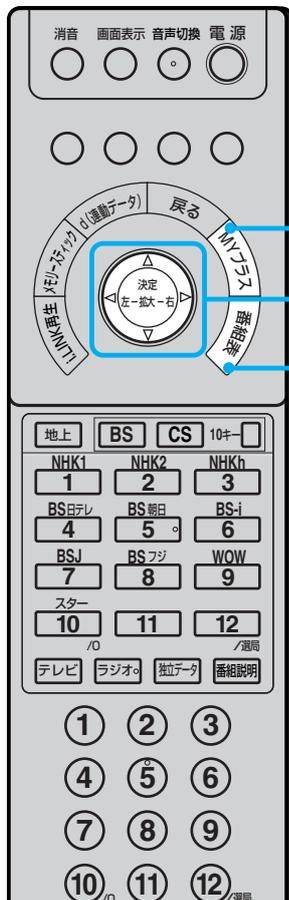
設定を変更しないかぎり、すべての二重音声番組が選んだ音声で録画されます。

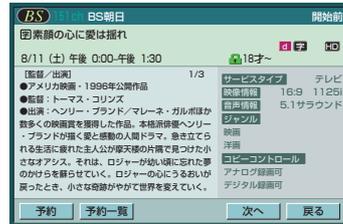
7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

見たいBSの番組を逃さず見る

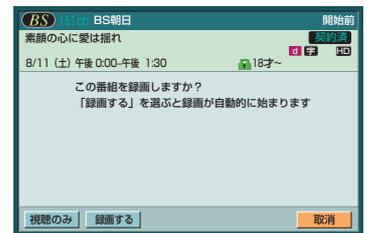
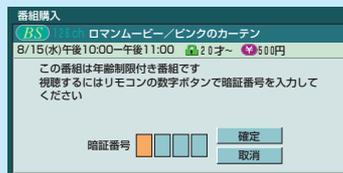
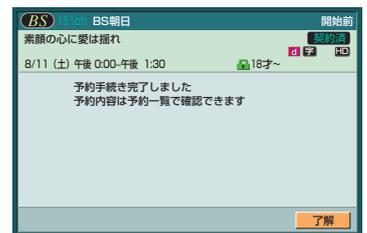
[視聴予約]

本機の電源が入った状態で開始時刻になると、予約したBSチャンネルに自動的に切り換わります。
他の予約（☞56～63ページ）と合わせて、最大15件まで予約できます。

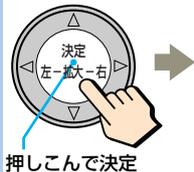
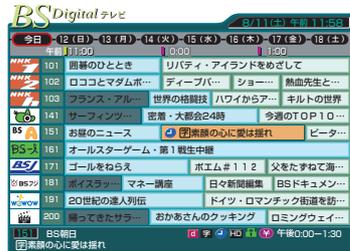
予約開始時刻に本機の電源は自動的に入りません。予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしてください。電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）や電源「切」（本体で主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らないため、見逃してしまいます。

1 **視聴予約したい番組の「番組説明」画面を表示させる。**

- 番組表ボタンで「番組表」から☞42～44ページ
- MYプラスボタンで「 MYチャンネル番組表」画面から☞47～48ページ
- MYプラスボタンで「 MYジャンル番組表」画面から☞49～52ページ
- MYプラスボタンで「 全ジャンル番組表」画面から☞53～55ページ

2 **◁/▷で「予約」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

「予約が重複しています　重なっている予約は、実行されない場合があります　この番組を予約しますか？」と表示されたときは
◁/▷で「予約する」を選び、真ん中を押しこんで決定すれば予約できます。正しく録画されるかは、「予約一覧」画面で予約内容を確認してください（☞65ページ）。

視聴年齢制限付き番組を選んだときは
暗証番号入力画面が表示されます。［1］～［10］までのBS用数字ボタンで4桁の暗証番号を入力してください。

3 **◁/▷で「視聴のみ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 「了解」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

見ていた番組一覧（番組表やMYチャンネル番組表など）に戻り、予約した番組に🕘が表示されます。

例：手順1で番組表を表示していたとき

5 番組一覧を消す。

「番組表」のときは番組表ボタンを押す。
「MYチャンネル番組表」や「MYジャンル番組表」、「全ジャンル番組表」のときはMYプラスボタンを押す。

ちょっと一言

「予約一覧」画面で予約内容を確認することをおすすめします（☞65ページ）。他の予約と重なっていると解除されることがあるためです。

予約した時刻になると

本機の電源が入っていれば、予約したBSチャンネルに切り換わります。
電源スタンバイ（リモコンで電源を切ったとき：本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）や電源「切」（本体で主電源を切ったとき）のままだと、電源が入らないため、見逃してしまいます。

ちょっと一言

映像/音声/データなど信号が複数ある番組のときは、視聴中に信号を切り換えてください（☞77ページ）。

予約が正しく実行されるか確認する

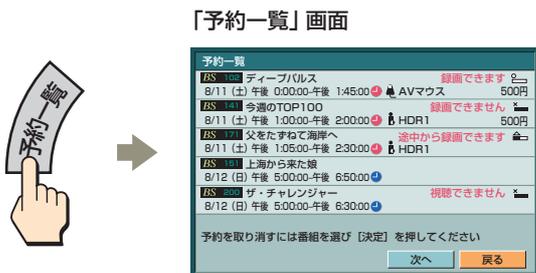
［予約一覧ボタン］

予約が重なっていたり、連続していたりすると、録画予約/視聴予約が正しく実行されないことがあります。
「予約一覧」画面で確認し、予約の変更や取消を行ってください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 予約一覧ボタンを押す。

「予約一覧」画面が表示され、予約状況*が確認できます。

*BS放送局側で放送時刻の変更や中止をすると、予約状況も変更され、予約が実行されるごとに「予約一覧」画面が更新されます。

「予約一覧」画面

3 予約重複マークがないか確認する。

予約重複マーク

予約重複マークが1つも表示されていないときは

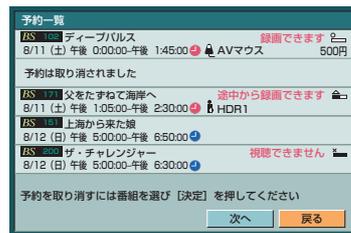
すべての予約が正しく実行されます。
予約一覧ボタンを押して、「予約一覧」画面を消してください。これ以降の手順を行う必要はありません。

予約重複マークが表示されているときは

予約時間が重複しているため、正しく実行されない予約があります。
予約重複マークや、予約がどのように実行されるかについて「重複している予約はどうなるの？」（☞67ページ）で確認してから、手順4に進んでください。

4 △/▽で取り消したい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ◁/▷で「予約取消」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

予約は取り消されます。

6 予約一覧ボタンを押す。

予約一覧が消えます。

ちょっと一言

番組表（EPG）やMYプラス（☞40～55ページ）の番組一覧で、「番組説明」画面から「予約一覧」を選んでも、「予約一覧」画面を表示できます。

「予約一覧」画面について

下記の番組はフィクションであり、実際のBS放送局での放送内容や、実際の人物、地名などとは関係ありません。

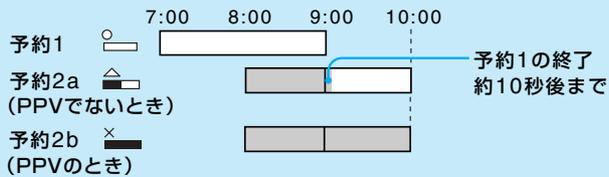
ちょっと一言

「予約一覧」画面では、予約した番組の放送時刻が秒単位まで表示され、秒単位で時刻が重なっていても重複している予約となります。

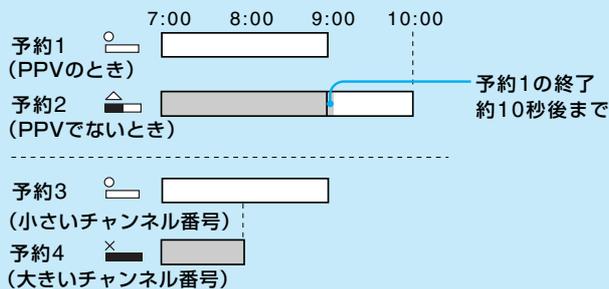
重複している予約はどうなるの？

- ▒▒▒ の部分は実行されません（録画予約のときは録画されません）。
- ペイ・パー・ビュー（PPV）（☞37ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます。

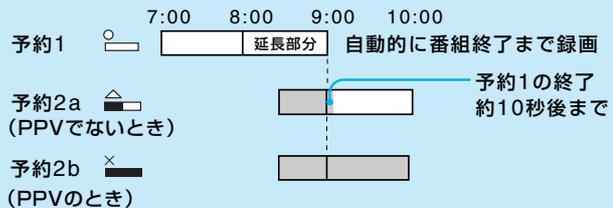
放送時刻が重なっているときは？

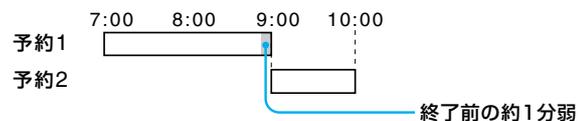
先に始まる番組（予約1）が優先されます（○▭）。
後から始まる番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*後から録画されます（▲▭）。ただし、ペイ・パー・ビュー（☞37ページ）（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます（×▬）。

開始時刻が同じときは？

ペイ・パー・ビュー（☞37ページ）（予約1）が優先されます（○▭）。重なった他の予約（予約2）がペイ・パー・ビューより放送時間が長いときは、予約1の終了約10秒*後から録画されます（▲▭）。
両方ともペイ・パー・ビューのときや、両方ともペイ・パー・ビューでないときは、小さいチャンネル番号（予約3）の予約が優先されます（○▭）。

7:00　8:00　9:00　10:00
予約1（PPVのとき）
予約2（PPVでないとき）　予約1の終了約10秒後まで
予約3（小さいチャンネル番号）
予約4（大きいチャンネル番号）

前の番組が延長されて、他の予約に重複したときは？

延長された番組（予約1）が自動的に番組終了まで録画（視聴）されます（○▭）。
延長により重複した番組（予約2a）は、予約1の終了約10秒*後から録画されます（▲▭）。ただし、ペイ・パー・ビュー（☞37ページ）（予約2b）は、予約自体が自動的に取り消されます（×▬）。

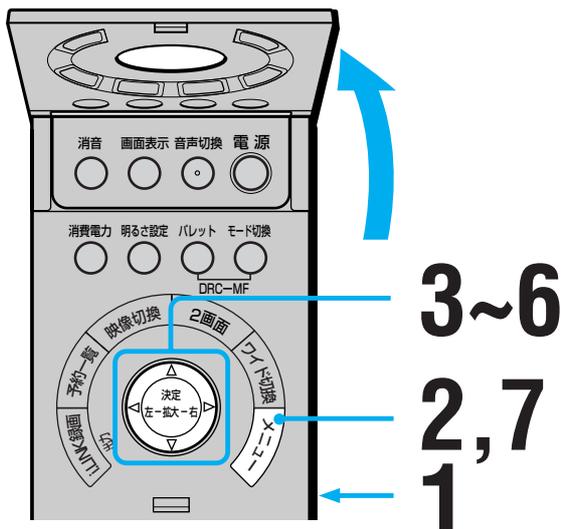
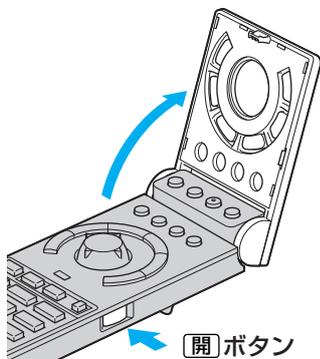
7:00　8:00　9:00　10:00
予約1　延長部分　自動的に番組終了まで録画
予約2a（PPVでないとき）　予約1の終了約10秒後まで
予約2b（PPVのとき）

前の予約の終了時刻と、後の予約の開始時刻が同じとき（予約が連続しているとき）は？

録画予約が重複していないため、予約重複マークは表示されません。
ただし、先に始まる番組（予約1）が録画予約のときは、終了前の約1分弱は録画されません。後から始まる番組（予約2）にチャンネルが切り換わるためです。

* 録画する機器を切り換えたときは、10秒以上かかることがあります。

放送開始時刻の変更に対応してBS録画予約する

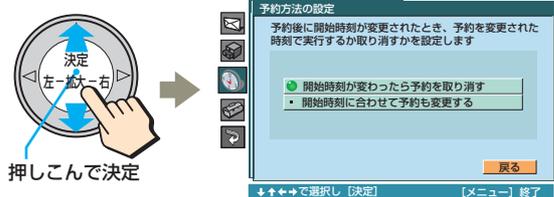
スポーツ番組の延長などで、予約した番組の開始時刻が繰り下がったときに、その時刻に合わせて録画されるように設定できます。
BS放送局が送信する放映時刻情報を本機が検知して、3時間以内の遅れであれば対応できます。
お買い上げ時は、開始時刻が変更されると予約も取り消されるように設定されています。

ご注意

以下のときは、放送時刻の変更に対応しません。
－放送局が放映時刻情報を送信しない番組のとき
－AVマウスやi.LINK接続を使わないで、ビデオの予約機能を使って録画するとき（☞62ページ）

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「(予約設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「予約方法の設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「開始時刻に合わせて予約も変更する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「開始時刻が変わったら予約を取り消す」（お買い上げ時の設定）を選ぶと
開始時刻が変更された場合は、予約自体が取り消されます。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

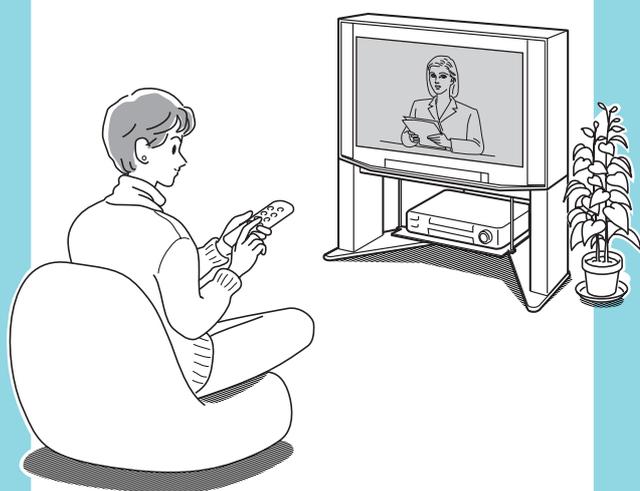
「開始時刻に合わせて予約も変更する」を選び、開始時刻が変更されて、次の予約番組と時間が重複したときは、前の番組が自動的に番組終了まで録画されます。後の番組は前の番組の終了約10秒*後から録画されます。ただし後の番組がPPV番組のときは、予約自体が自動的に取り消されます（☞67ページ）。

* 録画する機器を切り換えるときは、10秒以上かかることがあります。

予約した番組の終了時刻が繰り下がったときは

予約していたスポーツ番組の放送が延長されたなど、終了時刻が繰り下がったときは、どちらの設定でも、自動的に放送終了まで録画されます。

その他の BS操作

ここでは、BSラジオを聞いたり、BSデータを見たりするときの操作について説明しています。
また、BS特有の多彩な機能の操作についても説明しています。音声を切り換えたり、マルチビュー放送や字幕放送を見たりするなどの操作です。
BS放送局からのお知らせを見たりするときの操作も説明しています。

BSラジオを聞く

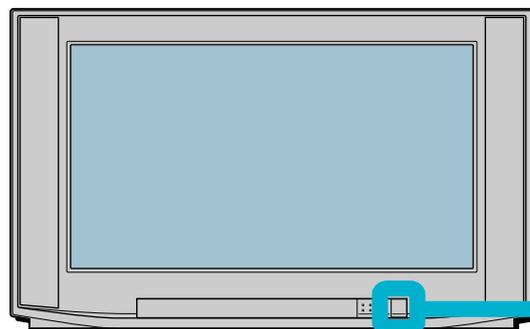
BSラジオでは、静止画像や連動したデータ（☞36ページ）を楽しめるラジオ放送と、音声のみのラジオ放送があり、番組によっては、音楽CD並みの高音質が楽しめます。

次のBS放送局が放送を開始しています。
（2001年9月現在）

BS放送局	チャンネル
ビー・エス・ コミュニケーションズ	300, 301
ミュージックバード	316～319
ジェイエフエヌ衛星放送	320～323
セント・ギガ[1]	333
BS日テレ	444, 445
BS朝日	455, 456
BS-i	461, 462
BSジャパン	471, 472
LFX488	488
BSQR489	489
WOWOW wave[2]	491, 492

[1] 有料放送のため、視聴するには加入申し込みをして契約する必要があります（☞151ページ）。
[2] WOWOW wave（WOWOWのラジオ放送）は無料放送です。

ご注意

- BSデジタルのときは、放送終了後または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎても、テレビ（地上波）と異なり、自動的に電源スタンバイにはなりません（省電力のための「オートシャットオフ」機能が働きません）。
- BSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、BSチャンネルを切り換えた直後（約2分以内）に、本体の電源スイッチでテレビの主電源を切ると、次に電源スイッチを押して電源を入れたときに、最後に見ていたBSチャンネルに戻らないことがあります。

画面表示ボタン
番組タイトル/チャンネルが表示されます。
番組タイトルの表示は数秒後に自動的に消えます。もう1度押すと、チャンネル表示も消えます。

d（連動データ）ボタン
BSラジオに連動しているBSデータを見るときに押します（☞36ページ）。

BSテレビを見たいときは

テレビ ボタンを押す。

1 本機の電源を入れる。

地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が10秒前後で映ります。

リモコン 電源

本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは、リモコンの電源ボタンの代わりに、本体の電源スイッチを押してください。

2 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

最後に見ていたBSチャンネルになります。

3 ラジオボタンを押して、BSラジオに切り換える。

4 チャンネル+/−ボタンを押して、BSラジオチャンネルを選ぶ。

BSテレビやBS独立データに切り換わることなく、BSラジオの中で順送り選局します。

チャンネル

押し続けると、BSラジオ内でチャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのBSラジオチャンネルが映ります。

3ケタのチャンネル番号で直接選ぶには

① 10キー ボタンを押す。

② 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで、BSラジオの3ケタのチャンネル番号を百の位から順に押す。

③ 12 ボタンを押す。（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。）

例）440chを選ぶとき

番組表やMYプラスからBSラジオを選ぶには

「BSの番組を選ぶ」（☞40〜55ページ）をご覧ください。

BSラジオを聞いているときは、BSラジオのチャンネルのみの番組表が表示されます。

5 音量+/−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

音量

BS独立データを見る

BSテレビやBSラジオの番組に連動して見ることができるBSデータ（☞36ページ）とは別に、BSデータのみを専門に放送するBS独立データがあります。
様々なニュースや情報を見たり、クイズやゲームなど双方向サービス*1を楽しんだりできます。

以下のBS独立データ専門局があります（2001年9月現在）。

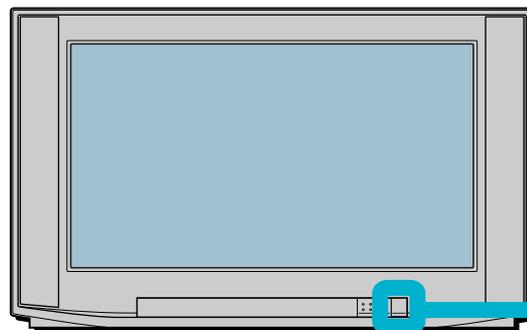
*1 双方向サービスを受けるためには、登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたいBS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

BS放送局	チャンネル
メガポート放送	900, 901, 906, 908, 909
ウェザーニュース	910
デジキャス	933～935
日本データ放送	940, 944, 945
BS955	950～956, 959
Tivi!963	963
ch999	997～999

また、次のBSテレビ/ラジオ局でも、独立データ専用チャンネルがあります。*2の付いたBS放送局もBS独立データ放送は無料です。

BS放送局	チャンネル
セント・ギガ*2	633, 636
BS日テレ	744
BS朝日	755
BS-i	766
BSジャパン	777
WOWOW navi*2	791, 792
スター・チャンネルBS*2	800

ご注意

- あらかじめ電話回線の接続（☞127ページ）と設定（☞146ページ）を行ってください。視聴者参加型の番組に参加できなかったり、情報を選べなかったりする場合があります。
- BS独立データ放送では、本機に接続された電話回線を使って通信を行う場合があるため、電話回線の通話料がかかる場合があります。

画面表示ボタン
番組タイトル/チャンネルが表示されます。番組タイトルの表示は数秒後に自動的に消えます。もう1度押すと、チャンネル表示も消えます。

カラーボタン

戻るボタン

d（連動データ）ボタン
BSテレビやBSラジオに連動しているBSデータを見るときに押します（☞36ページ）。

決定△/▽/◁/▷ボタン

BSテレビを見たいときは

テレビボタンを押す。

- BSデジタルのときは、放送終了後または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎても、テレビ（地上波）と異なり、自動的に電源スタンバイにはなりません（省電力のための「オートシャットオフ」機能が働きません）。
- BSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、BSチャンネルを切り換えた直後（約2分以内）に、本体の電源スイッチでテレビの主電源を切ると、次に電源スイッチを押して電源を入れたときに、最後に見ていたBSチャンネルに戻らないことがあります。

1 本機の電源を入れる。

地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が10秒前後で映ります。

本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは、リモコンの電源ボタンの代わりに、本体の電源スイッチを押してください。

2 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

3 独立データボタンを押して、BS独立データに切り換える。

4 チャンネル+/−ボタンを押して、BS独立データチャンネルを選ぶ。

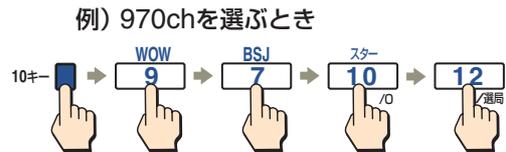
BSテレビやBSラジオに切り換わることなく、BS独立データの中で順送り選局します。

チャンネル

押し続けると、BS独立データ内でチャンネル番号のみ早く切り換わり、離すとそのBS独立データチャンネルが映ります。

3ケタのチャンネル番号で直接選ぶには

① 10キー ボタンを押す。
② 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで、BS独立データの3ケタのチャンネル番号を百の位から順に押す。
③ 12 ボタンを押す。（押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。）

例）970chを選ぶとき

番組表やMYプラスからBS独立データを選ぶには

「BSの番組を選ぶ」（☞40〜55ページ）をご覧ください。
BS独立データを見ているときは、BS独立データのチャンネルのみ番組表が表示されます。

5 音量+/−ボタンで音量を調節する。

音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

6 画面の指示に従ってリモコンを操作する。

BSデータ番組の指示に従って、次のボタンを使ってください。
「データ取得中です」と表示された場合は、しばらくお待ちください。

- 決定△/▽/◁/▷ボタン（選んで決定するときなど）
- 戻るボタン
- 1 〜 10 までのBS用数字ボタン*（数字を入力するときなど）
- カラーボタン（）

NHK1 1 / NHK2 2 / NHKh 3 / BS日テレ 4 / BS朝日 5 / BS-i 6 / BSJ 7 / BSフジ 8 / WOW 9 / スター 10 /0 / 11 / 12 選局

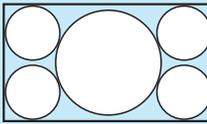
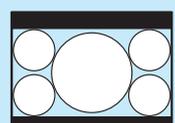
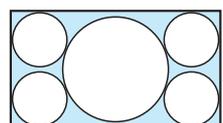
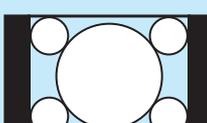
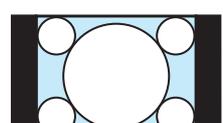
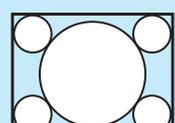
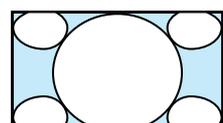
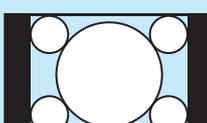
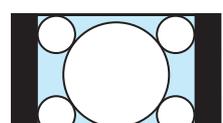
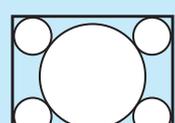
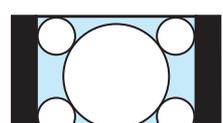
* ①〜⑫選局の地上波用数字ボタンは使わないでください。地上波に切り換わってしまいます。

ご注意

- リモコンや本体のボタンは、BSデータの番組で使うときだけ機能が変わる場合があります。この場合の操作については、テレビ画面に表示されるBSデータ番組の指示にしたがってください。
- BSデータの番組では、本機につないだ電話回線を使って通信を行う場合があります。通信中（本体前面の通信ランプが点灯）は、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。

BSをワイド画面で楽しむ

BSのデジタルハイビジョン信号HDをオリジナル画像を生かした高画質のまま楽しめます。また、標準テレビ信号SDでは、オートワイド機能により、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。下の例では、「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されているとき（☞90～91ページ）を示しています。

オリジナルの映像（映像の種類）		画面モード	オートワイドの映像	
• デジタルハイビジョン信号HDの16:9映像*				オリジナルの映像を16:9で画面いっぱいに表示します。
• 標準テレビ信号SDの16:9映像				オリジナルの映像を16:9で画面いっぱいに表示します。
• 標準テレビ信号SDのレターボックス4:3映像（画面上下の黒帯を除いた映像部分は16:9）で、識別制御信号（☞88ページ）のあるとき				オリジナルの映像を画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。
• デジタルハイビジョン信号HDのサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3）*				オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。
• 標準テレビ信号SDの4:3映像				オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
• 標準テレビ信号SDのサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3）				オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。
• 「（画面モード）」メニューの「オートワイド設定」で、「オートワイド」が「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定したとき（☞90～91ページ）（標準テレビ信号SDの4:3映像）				オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像になります。

* デジタルハイビジョン信号HDのときは、オートワイド設定はフルに固定されます。手動で画面モードを切り換えることはできません。

ご注意

BSデジタルのときは、放送局から送られる信号によって、画面モードを切り換えられないことがあります。

BSの音声を切り換える

[音声切換ボタン]

二か国語番組など二重音声番組のときや、第2音声など、音声信号が複数ある番組（☞77ページ）では聞きたい音声を選べます。

ご注意

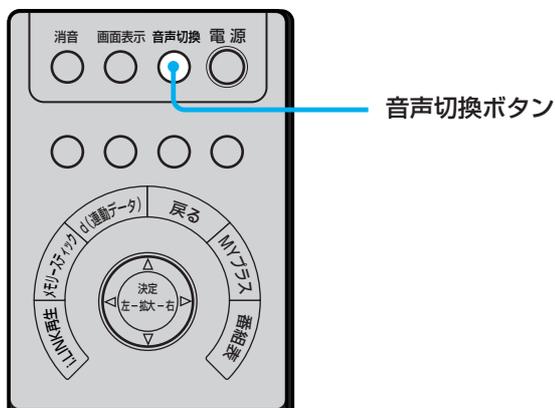
二重音声放送や第2音声などがないときは、切り換わりません。

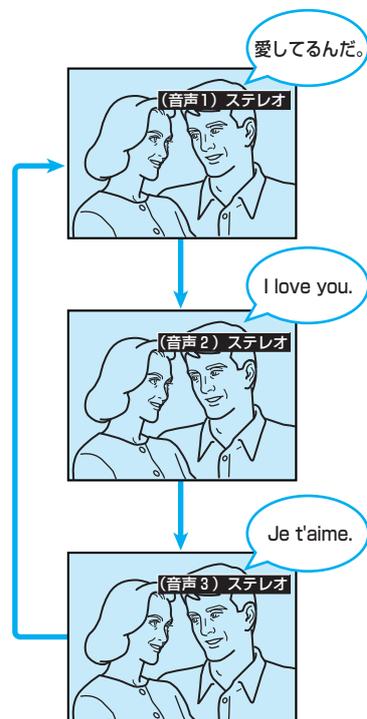
音声切換ボタンをくり返し押して選ぶ。

押すたびに音声が切り換わります。

二か国語番組など二重音声番組のとき

例:「主／副」を選んだとき

画面表示	テレビの左スピーカーの音声	テレビの右スピーカーの音声
主	両方とも主音声	
副	両方とも副音声	
主／副	主音声	副音声

第2音声など音声信号が複数ある番組のとき

音声信号の数（最大で第8音声まで）は番組ごとに異なります。また、テレビの両方のスピーカーから選んだ音声が出ます。

ちょっと一言

- 2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。
- アナログ録画予約時（☞59ページ）は、録画したい音声をあらかじめ選びます（☞63ページ）。

BSのマルチビュー放送や第2映像などを見る［映像切換ボタン］

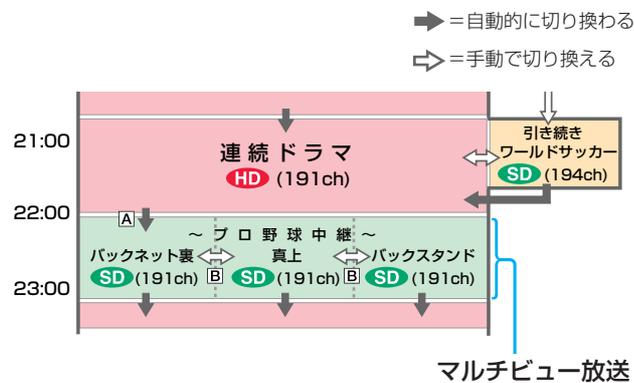
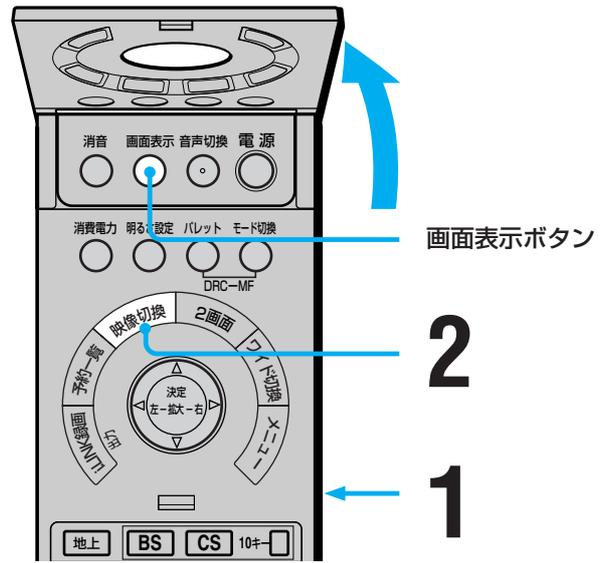
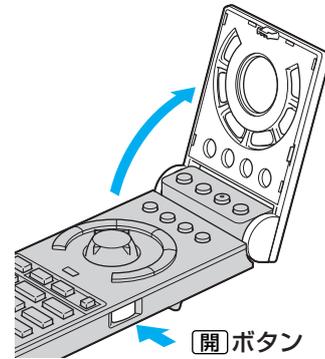
マルチビュー放送や第2映像など、映像信号が複数ある番組（☞77ページ）では、見たい映像を選べます。

ご注意

マルチビュー放送や第2映像などがないときは切り換わりません。

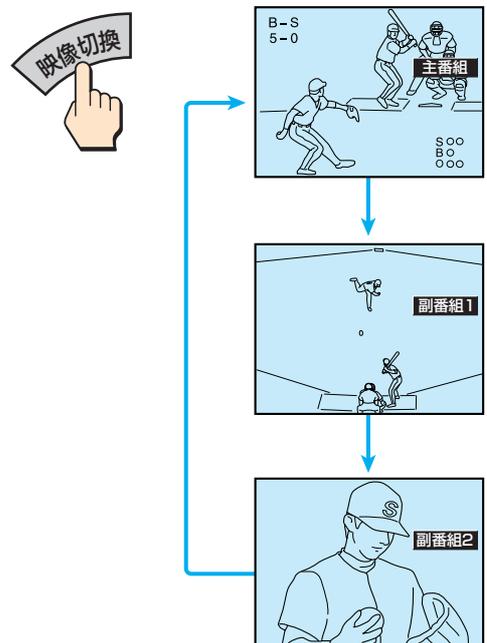
マルチビュー放送って何？

マルチビュー放送とは、生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめる放送です。
それぞれのカメラからの映像を、映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

例：プロ野球中継で、3方向（バックネット裏、真上、バックスタンド）からの画面を切り換えて見る

A マルチビュー放送開始
…主画面へ自動的に移行します。
B マルチビュー放送中の選局
…映像切換ボタンで切り換えます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 映像切換ボタンを押す。

押すたびに映像と音声が切り換わります。

マルチビュー放送のとき

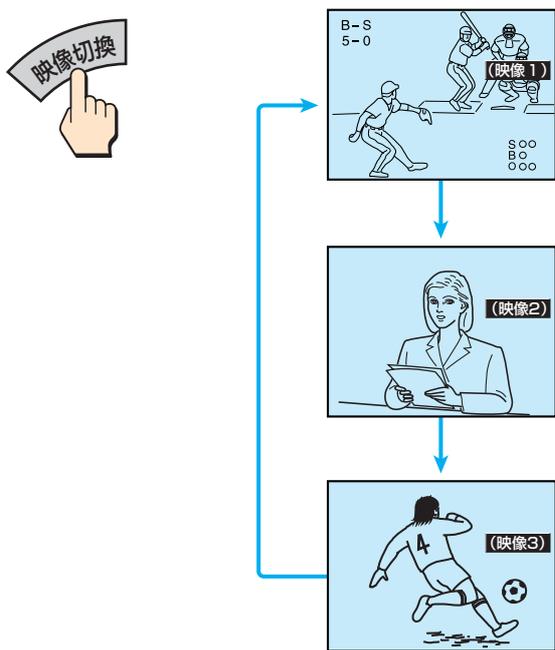
現在視聴中のBS放送局でマルチビュー放送が始まると、画面右端に「マルチビュー放送中」と数秒間表示されます。

マルチビュー放送を行っているか確認するときは、画面表示ボタンを押す。

マルチビュー放送を行っているときは、「主番組（または、副番組1/副番組2）」と表示されます。

また、以下のときもマルチビュー放送が行われています。

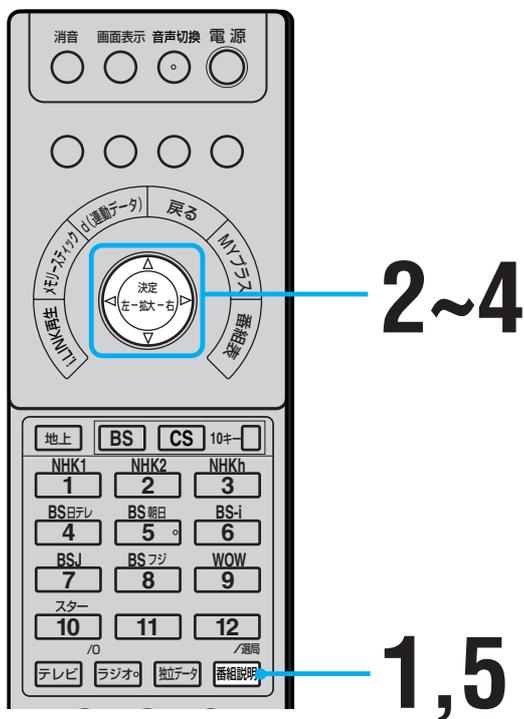
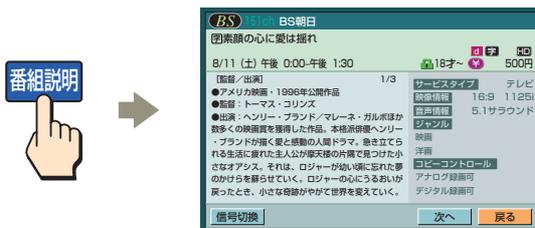
- 「マルチビュー放送中」などと画面に表示されるとき
- 番組表（☞44ページ）でMVが表示されるとき

第2映像など映像信号が複数ある番組のとき

映像信号の数（最大で第4映像まで）は番組ごとに異なります。

第2映像や第2音声、第2データなどを選ぶ
[信号切換]

番組によっては、第2映像や第2音声、第2データなど複数の映像/音声/データ信号の中から視聴したい信号を選べます。

ご注意

- 切り換えられる信号がないときは切り換わりません。
- BS予約の録画実行中は切り換わりません。

1 BSの番組を視聴中に番組説明ボタンを押す。

次のページにつづく

第2映像や第2音声、第2データなどを選ぶ［信号切換］（つづき）

2 ◁/▷で「信号切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

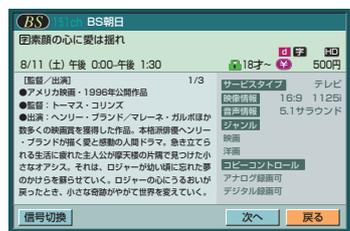
3 △/▽/◁/▷で切り換えたい信号を選び、真ん中を押しこんで決定する。

選んだ信号（第2映像や第2音声、第2データなど）に切り換わります。

ちょっと一言

最大で表示される信号は、映像が4種類、音声が8種類、データが16種類です。5種類目以降の信号は「次へ」を選ぶと表示されます。

4 △/▽/◁/▷で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「番組説明」画面に戻ります。

5 番組説明ボタンを押す。

視聴中のBS番組に戻ります。

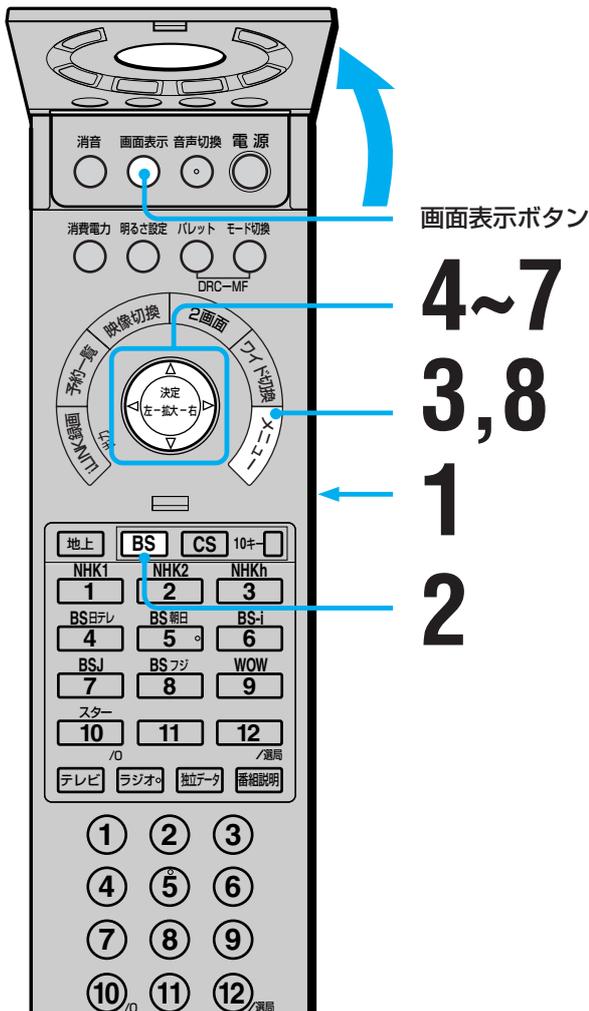
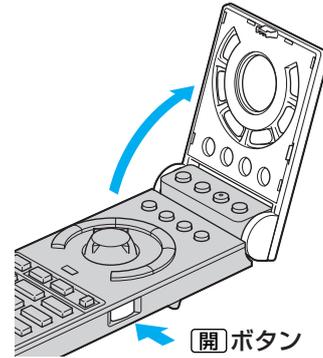
ご注意

- チャンネルを切り換えたとき（例：第2音声に設定中）は、お買い上げ時の設定（第1音声）に切り換わります。
- 切り換えた信号（例：第2音声に設定したとき）の番組が終了し、次の番組にも同じ信号（この例では第2音声）があるときは引き続き、その信号を受信します。
  次の番組では第2音声が購入対象（¥マークが表示される）になる場合があります。このときは、☞77～78ページの手順に沿って、他の購入対象でない信号（例えば第1音声）を選んでください（もちろん、第2音声を購入して引き続き視聴することもできます）。
  ただし、次の番組に切り換えた信号がないときには、お買い上げ時の設定（第1音声）に切り換わります。
- 信号を切り換えることにより、購入（¥マークが表示されます）が必要になることがあります（☞37ページ）。

BS字幕放送を見る

字幕放送は最大2言語の放送が行われます。
字幕放送が行われているときに、お買い上げ時は「第1言語」の字幕が自動的に表示されるように設定されています。
字幕を消したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

字幕放送を行っているか確認するときは

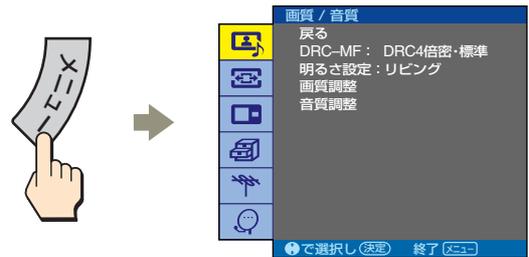
画面表示ボタンを押す。
字幕放送を行っているときは、画面右上に「字幕有」と表示されます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

BS

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

BS字幕放送を見る（つづき）

6 「字幕入切」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

選ばれていないときは、△/▽で選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「第1言語」または「第2言語」、「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

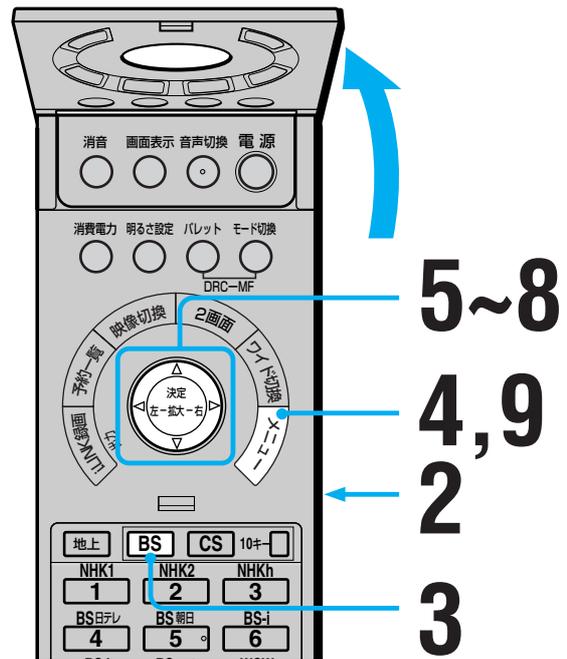
「第1言語」に戻すときは

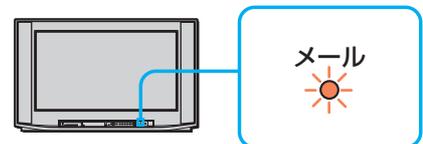
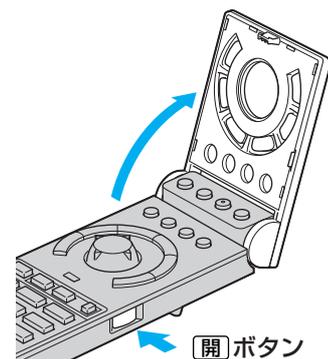
上記の手順7で「第1言語」を選びます。

ご注意

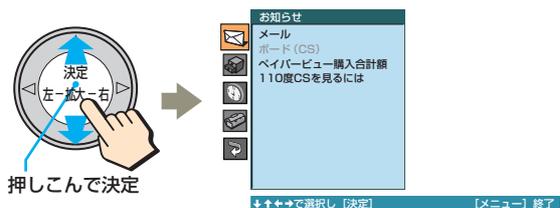
- 本機のBS/CS/ビデオ出力端子からは、字幕放送の字幕は出力されないため、ビデオへは録画できません。
- メニューで「切」を選んでも、BS放送局側で字幕を消せない設定にしている番組もあります。

BS放送局からのお知らせを見る

お客様に宛てた、BS放送局や本機からのお知らせ（メール）を見ることができます。

1 本体前面のメールランプが点灯しているのを確認する。

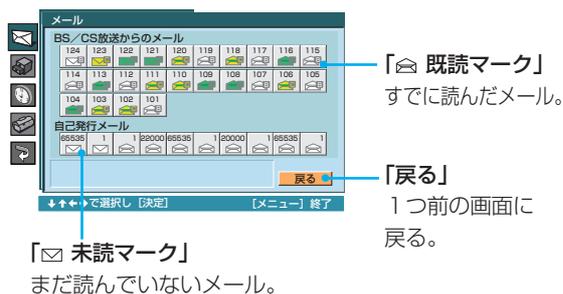
新しいメールや未読のメールがあるときは、本体前面の「メール」ランプが点灯します。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 BSになっていないときは、BS ボタンを押して、BSに切り換える。

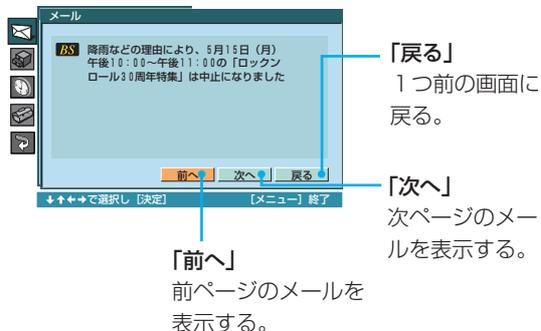
4 メニューボタンを押す。

5 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 「(お知らせ)」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

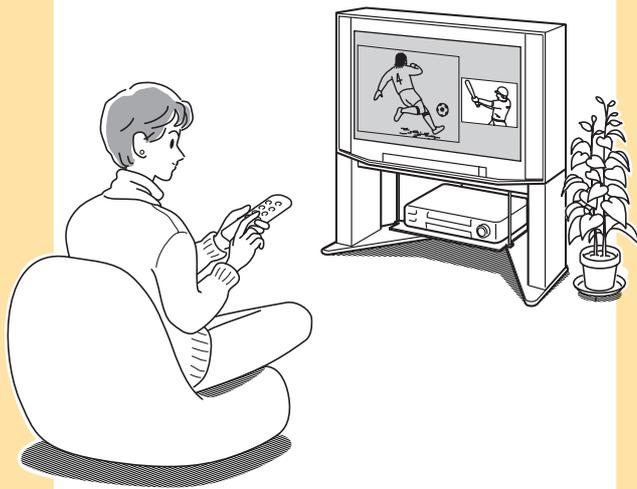
選ばれていないときは、△/▽で選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「メール」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

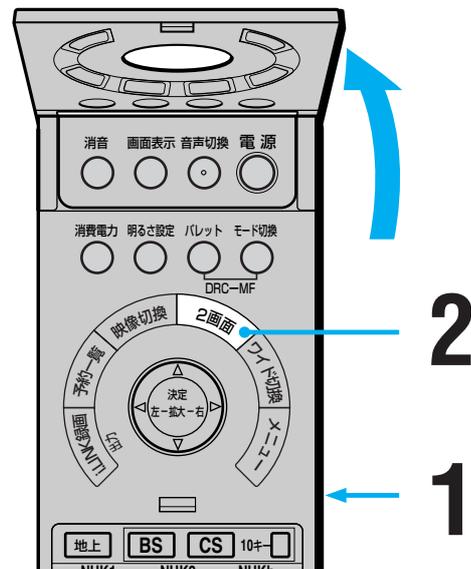
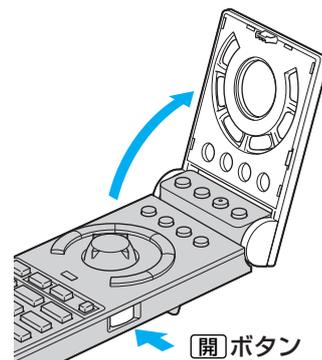
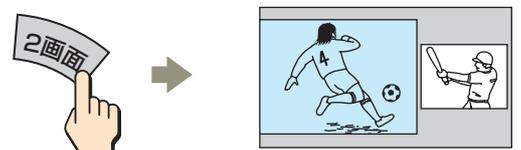
「BS/CS放送からのメール」は24通まで、「自己発行メール」(本機からのメール)は10通まで一覧表示されます。

- 既読の古いメールから順に削除され、新しいメールを追加します。既読メールがないときは、未読の古いメールから順に削除します。
- メールはお客様自身で削除できません。

8 △/▽/◁/▷で見たいメールを選び、真ん中を押しこんで決定する。

9 読み終えたら、メニューボタンを押して、メニューを消す。

2画面

ここでは、テレビ（地上波）やBSテレビをはじめ、ビデオやテレビゲームなど、本機につないだ機器の映像を、2画面で見るときの操作を説明しています。

2画面で見る

[2画面ボタン]

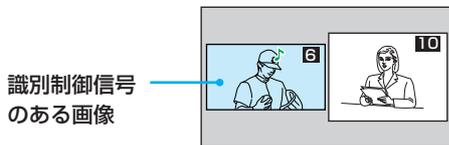
左右の画面サイズを変えて、2つのチャンネルを同時に見ることができます。また、テレビ（地上波）やBSテレビと、本機につないだビデオなどの画像も同時に見ることができます。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。

2 2画面ボタンを押す。
もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 次の画像は、2画面で同時に見ることができません。
  – 同じテレビ（地上波）チャンネル
  – 同じまたは別々のBSテレビチャンネル
  – 同じ入力の画像（ビデオ1とビデオ1など）
  – コンポーネント入力同士の画像の組み合わせ
  – コンポーネント入力とAVマルチ入力、i.LINK入力の画像の組み合わせ
- コンポーネント入力端子とAVマルチ入力端子からの映像は左画面にのみ表示されます。
- 2画面のまま電源を切り、再び電源を入れると1画面に戻ります。
- 2画面の映像は録画できません。
- "メモリースティック"に記録された静止画像（☞109ページ）は、2画面で見ることはできません。

i.LINKについてのご注意

- i.LINK端子からの入力同士の映像は、2画面で同時に見ることはできません。
- i.LINK端子からの映像は左画面にのみ表示されます。
- 2画面で見ているときは、i.LINK録画ボタンやi.LINK再生ボタンを押しても、i.LINKの操作画面を表示できません（☞100ページ）。
- i.LINK録画中は、2画面ボタンを押しても、2画面にはなりません。

画質やワイド画面についてのご注意

- 2画面では、オートワイド機能は働きません。ただし識別制御信号のある画像は判別してワイド画像のまま表示されます。

- 2画面は、左右それぞれ別々の回路で信号処理しています。そのため、映像や音質など左右画面の間に多少の差があります。

BSについてのご注意

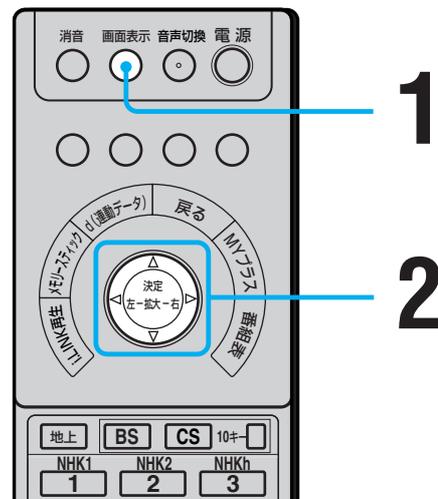
- BSラジオとBS独立データのチャンネルを見ているときは、2画面ボタンを押しても、2画面にはなりません。また、2画面のときに、ラジオ ボタンや 独立データ ボタンを押しても、選んだチャンネルには切り換わりません。ただし、10キー ボタンと 1 〜 12 のBS用数字ボタンで3ケタのチャンネル番号を直接選ぶと、選べますが画面は黒くなり何も映らなくなります。
- BS字幕放送は、2画面では見ることができません。2画面で字幕を表示しようとしても、表示されません。

2画面時に本機後面の端子から出力される信号について

端子名	出力される信号
BS/CS/ビデオ出力端子	「操作画面」に関係なく、つねに、左画面の映像と音声を出力します*。ただし、BS予約の実行中は、予約されたBSチャンネルの映像と音声を出力します。
音声出力端子（5kΩ）（固定）	本機のスピーカーから聞こえる音声と同じ音声を出力します。
光デジタル音声出力端子	通常は、左画面の音声を出力します*。ただし、右画面がBSテレビのときや、BS予約の実行中は、そのBSテレビの音声を出力します。

* 「コンポーネント1」や「コンポーネント2（D端子）」、「AVマルチ Y/CB/CR」の入力の映像信号は出力しません。

操作する画面を選ぶ［左操作/右操作］

チャンネルや入力を選んだり、音量を調節できる画面（操作画面）を選びます。
操作画面の音声がスピーカーから出ます（ヘッドホンの音声は☞85ページ）。

1 画面表示ボタンを押して、操作画面がどちらになっているか確認する。

2画面を表示した直後は、左画面が操作画面になっています。

2画面で見る［2画面ボタン］（つづき）

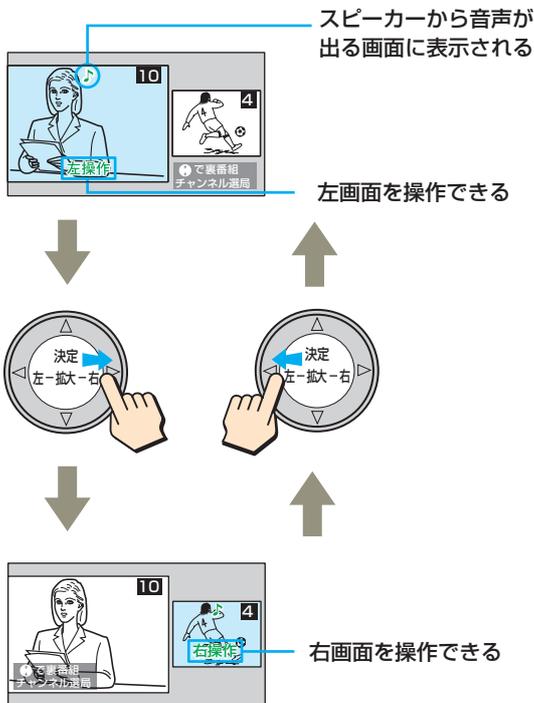
2 操作したい画面が「操作画面」になっているときは

そのまま、チャンネルや入力を選んだり、音量を調節したりしてください。

ご注意

誤って、操作画面になっている方の◁/▷を押すと、画面サイズが変ってしまいます。

操作したい画面を変更したいときは

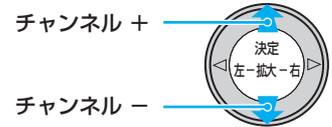
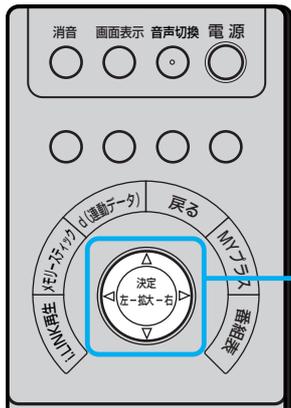
操作画面と逆の◁/▷を押す。
操作画面が入れ換わります。

ちょっと一言

- メニュー画面でも操作できます。「(2画面)」メニューで「操作入替」を選び、「左操作」か「右操作」にしてください。
- 操作画面（ヘッドホンモード「1」のとき☞85ページ）またはスピーカーから音声が出ている画面（ヘッドホンモード「2」のとき☞85ページ）でテレビ（地上波）の放送が終了すると、自動的に消音します。1画面に戻してから、終了していないチャンネルを選ぶと音が出ます。また、省電力のため、操作画面で地上波の放送が終了して（または放送のない地上波のチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイになります。ただし、操作画面にBSデジタルのチャンネルを表示しているときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイにはなりません。

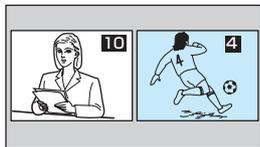
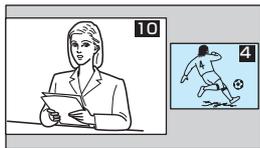
2画面でチャンネルを選ぶには

どちらの画面もそれぞれ別々にチャンネルを選べます。

画面表示ボタンを押して、操作画面を確認し、チャンネルを切り換える。

チャンネルを切り換えたい画面	押すボタン
操作画面のとき（「左操作」または「右操作」と表示されるのが操作画面です）	1画面でのチャンネルの選びかたと同じです。（☞6～7ページ）
操作画面でない画面	

画面サイズを変える［左拡大/右拡大］

大きくしたい側の◁/▷を押し続け、希望のサイズになったら指を離す。

右画面拡大（左画面縮小）

左画面拡大（右画面縮小）

ちょっと一言

左右の画面サイズを変えたときは、その大きさを本機が記憶するため、再び2画面にしたときに、その大きさで表示します。

2画面でヘッドホンの音声を選ぶには

スピーカーから音声を出さずにヘッドホンで聞いたり、ヘッドホンとスピーカーで左右画面の音声を別々に出したりできます。ヘッドホンモードを設定してください。

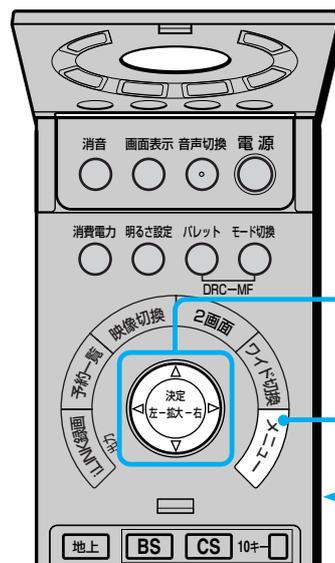
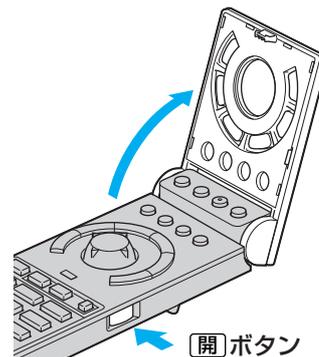
ヘッドホンモード「1」にすると

操作画面の音声がヘッドホンから聞こえます。スピーカーからは音声は出ません。

操作画面を切り換えると、ヘッドホンの音声も切り換わります。

ヘッドホンモード「2」にすると

ヘッドホンとスピーカーから左右それぞれの画面の音声が別々に出ます。

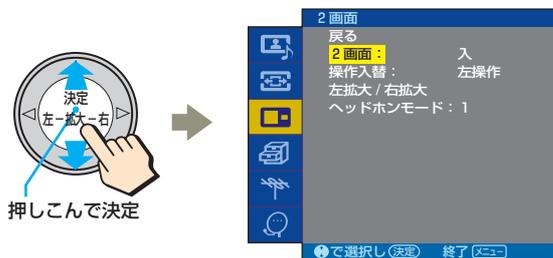
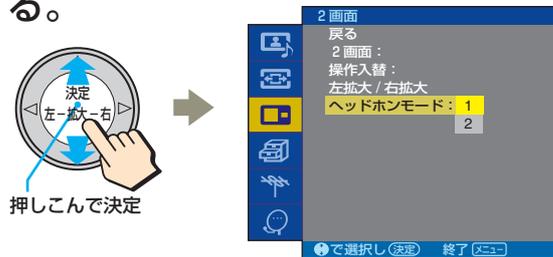
設定後は、操作画面を切り換えても、ヘッドホンの音声は切り換わりません。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。

次のページにつづく

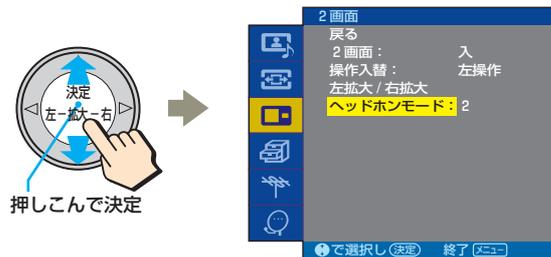
2画面で見る［2画面ボタン］（つづき）

2 ヘッドホンモードを「2」に設定するときは、◁/▷でスピーカーで音声を聞く画面を選ぶ。

（「1」に設定するときは、この操作は不要です。）

3 メニューボタンを押して、メニューを出す。

4 △/▽で「◨(2画面)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「ヘッドホンモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「1」または「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「2」を選んだときは、ヘッドホンからはスピーカーとは逆の画面の音声が出ます。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ヘッドホンモード「2」に設定して一度2画面モードを終了して、再度2画面モードにすると、ヘッドホンモードは「1」に戻ります。
- 本機前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、本機後面の音声出力端子（5kΩ）（固定）からの音声信号が出力されなくなります。音声出力端子（5kΩ）（固定）にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

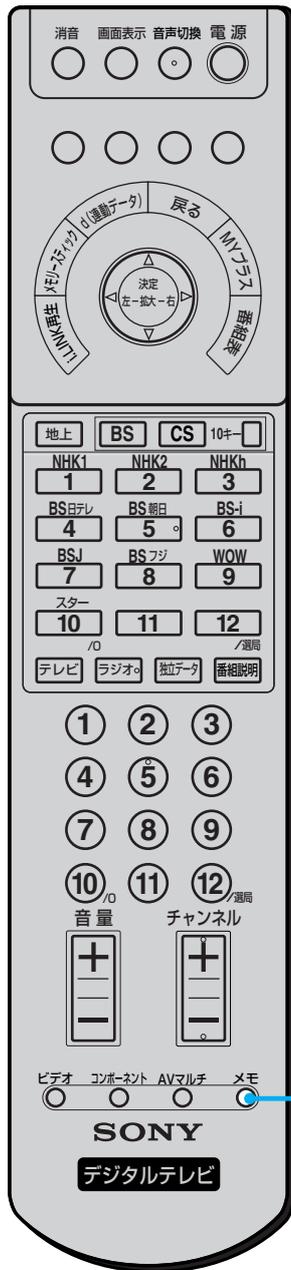
ちょっと一言

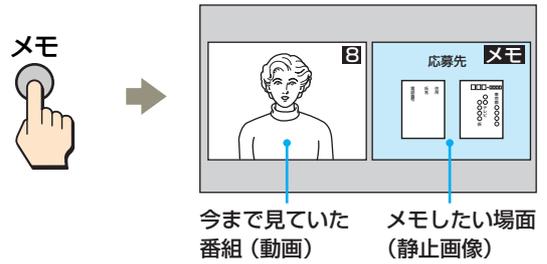
ヘッドホンを抜くと、「ヘッドホンモード」の設定によって、次の音声がスピーカーから出ます。

–「1」のとき:ヘッドホンで聞いていた音声

–「2」のとき:そのままのスピーカーの音声

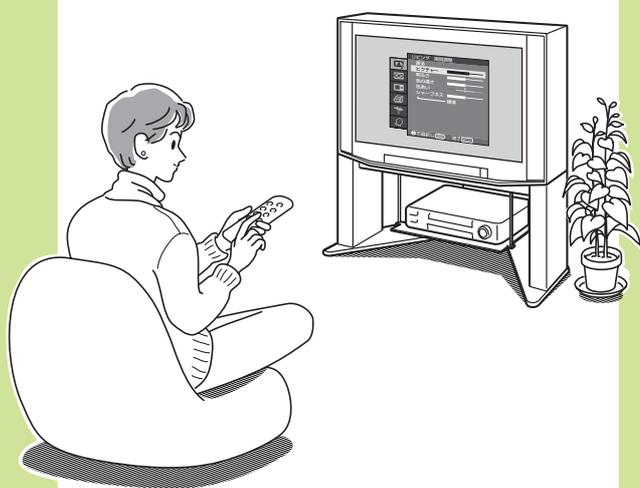
メモするために画面を静止させる［メモボタン］

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画像で確認できます。同時に今まで見ていた番組もお楽しみいただけます。

メモしたい場面で、メモボタンを押す。

2画面になり、メモしたい場面が右に出ます。もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 2画面やBSラジオ、BS独立データの画像や、“メモリースティック”の静止画像を見ているときは、メモはできません。
- メモした静止画像は、“メモリースティック”には記録できません。
- メモ中に、チャンネルや入力を切り換えると、1画面に戻ります。
- 省電力のため、左の通常画面でテレビ（地上波）の放送が終了して（または放送のない地上波のチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイになります。ただし、操作画面にBSデジタルのチャンネルを表示しているときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイにはなりません。

調整/設定

ここでは、画質や音質、および画面の位置やサイズなどを調整する応用的な操作を説明しています。
また、本機に内蔵されているタイマーを使って、自動的に電源を切ったりする操作も説明しています。

オートワイドの設定を変える

オートワイドの設定について

オートワイドの設定には、「1」と「2」があります。

オートワイド「1」
テレビ（地上波）では、ワイドクリアビジョン放送や一部の放送局の通常放送（4:3映像）に、映像を判別するための識別制御信号*[1]が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。
このような識別制御信号を判断して、**忠実に再現する**のが、オートワイドの「1」です。ただし、識別制御信号がないときに、手動で選んだ画面モードによっては、画面の周囲が黒くなったり、映像の一部が欠けたりすることがあります。

オートワイド「2」
次ページのように、識別制御信号の有無に関係なく、最適な画面モードに切り換えるのが、オートワイドの「2」です。

*[1] 識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－BSデジタルの標準テレビ信号 SD
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

テレビ（地上波）や本機につないだ機器の映像の種類による「1」と「2」の画面モードの違い

映像の種類	画面モード	
	オートワイド「1」	オートワイド「2」
通常のテレビ放送	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったテレビ放送*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
映像中に字幕が入った横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ズーム」
映像の外に字幕のある横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「字幕入」
ワイドクリアビジョン放送*3	「ズーム」	
横縦比を16:9（「ズーム」または「フル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS2方式）*3	「ズーム」または「フル」	
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS2方式）*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2

BSデジタルの映像の種類による「1」と「2」の画面モードの違い

映像の種類	画面モード	
	オートワイド「1」	オートワイド「2」
デジタルハイビジョン信号HDの16:9映像	「フル」	
標準テレビ信号SDの16:9映像	「フル」	
標準テレビ信号SDのレターボックス4:3映像（画面上下の黒帯を除いた映像部分は16:9）	「ズーム」*4	
デジタルハイビジョン信号HDのサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3）	「フル」	
標準テレビ信号SDの4:3映像	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
標準テレビ信号SDのサイドパネル16:9映像（画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3）	「フル」	

*2 メニューで設定します（☞90ページ）。
*3 識別制御信号（☞88ページ）の入った映像です。
*4 識別制御信号（☞88ページ）があるとき。識別制御信号の無い場合は、「標準テレビ信号SDの4:3映像」と同じ画面モードになります。

調整／設定

オートワイドの設定を変える（つづき）

ちょっと一言

- ワイド切換ボタンで切り換えたあと（☞11ページ）などは、表のようにならないことがあります。
- オートワイドが働いているときにワイド切換ボタンを1回押すと（☞11ページ）、89ページのオートワイド「1」、「2」にしたがって、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、識別制御信号の有無により、次のようになります。
  - 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  - 識別制御信号のない映像のときは、オートワイドを「2」に設定していても、オートワイドが働かなくなります。ただし、チャンネルや入力を変えたり電源を入/切したりすると、再び働きます。
- 本機は、映画フィルムをより忠実でなめらかな動きのある映像に再現します。これは、映画フィルムの信号の規則性を自動的に識別し、最適な信号処理を行うためです。

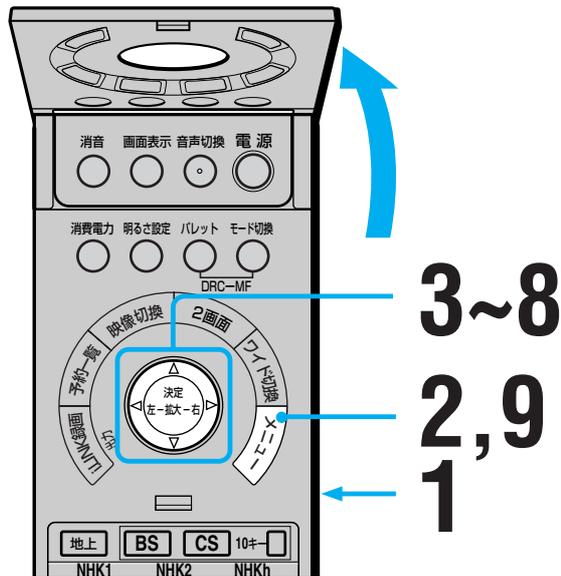
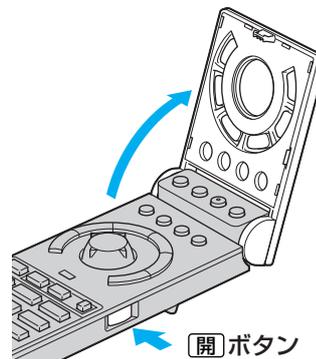
オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わるときは

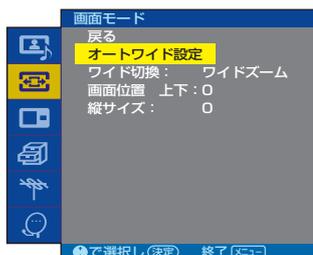
- 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになる（☞10、74ページ）ためです。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断している（☞10、74ページ）ためです。

ワイド画面についてのご注意

- このテレビは、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- このテレビを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、上下位置や縦サイズを調整してください（☞92ページ）。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

オートワイドを設定する/切る

オートワイドについての詳しい説明は、☞10、74ページにもあります。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 「オートワイド設定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

選ばれていないときは、△/▽で選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「オートワイド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 オートワイドを切るときは

△/▽で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順9へ進んでください）。

オートワイドを「1」に設定するときは

△/▽で「1」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順9へ進んでください）。

オートワイドを「2」に設定するときは

△/▽で「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 オートワイド「2」のときは、△/▽で「4:3映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 △/▽で「ノーマル」か「ワイドズーム」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

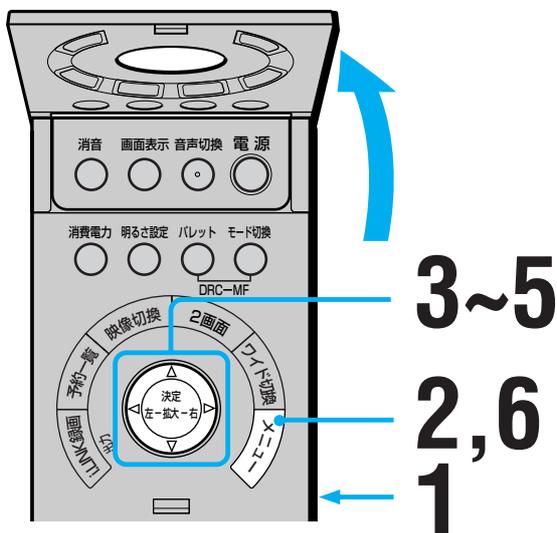
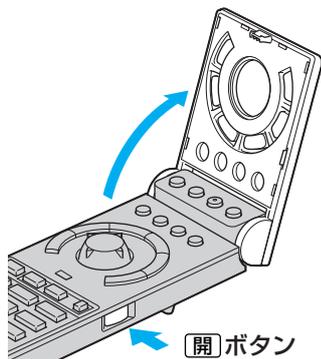
9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

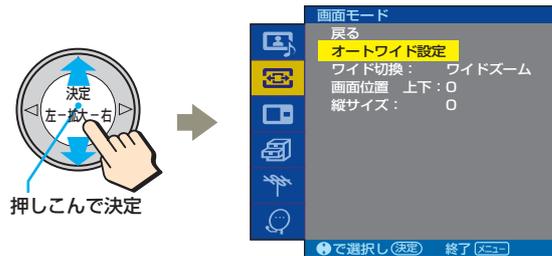
ご注意

- デジタルハイビジョン信号HDや、“メモリースティック”の静止画像のときは、オートワイド設定はフルに固定されているため、メニュー画面やワイド切換ボタンで画面モードを切り換えられません。
- BSラジオやBS独立データのときは、放送内容によってメニュー画面やワイド切換ボタンで画面モードを切り換えられない場合もあります。

画面の上下位置/縦サイズを調整する

ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞10、74ページ）ごとに調整できます。
- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。また、BSのときは調整できません。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で調整したい項目を選ぶ。

画面の上下位置を調整するときは

△/▽で「画面位置 上下」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

サイズを調整するときは

△/▽で「縦サイズ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

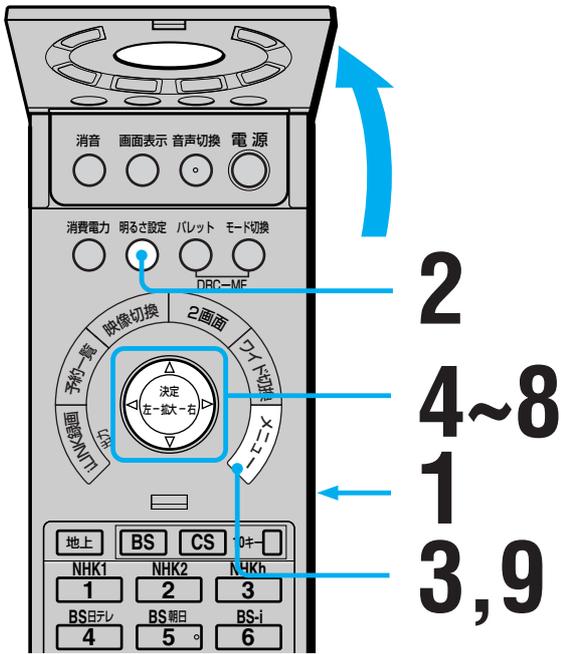
5 △/▽で調整して、真ん中を押しこんで決定する。

画面の上下位置を調整するときは

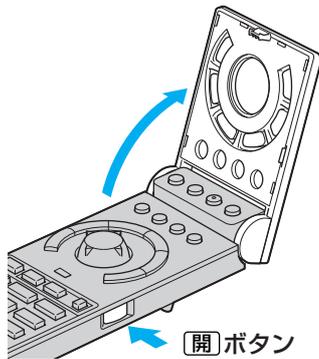
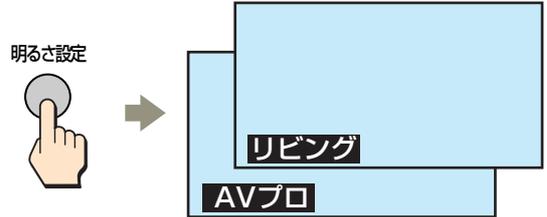
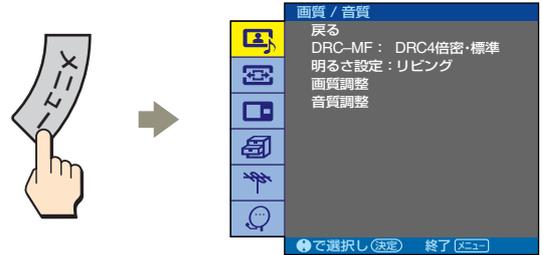
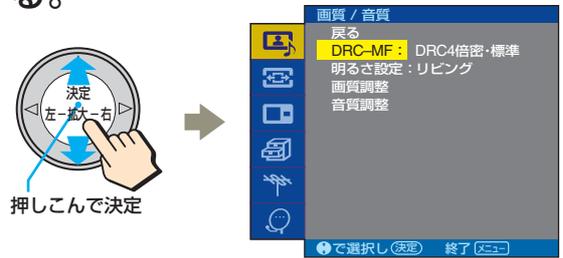
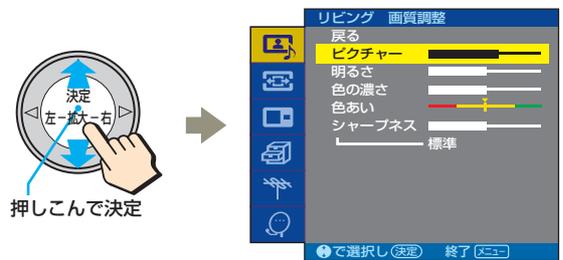
縦サイズを調整するときは

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

より細かく画質を調整する

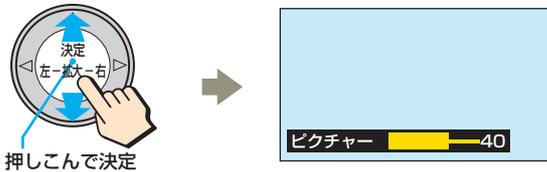
明るさ設定ボタンで「リビング」や「AVプロ」を選ぶ（☞15ページ）と、画質をより細かく調整できます。
画質は、テレビ（地上波）、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 明るさ設定ボタンをくり返し押して、「リビング」または「AVプロ」を選ぶ。

ご注意

「ダイナミック」と「スタンダード」（☞15ページ）では、画質調整できません。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「画質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

調整／設定

より細かく画質を調整する（つづき）

6 △/▽で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽/◁/▷で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

「リビング」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	▽/◁を押すと	△/▷を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

「AVプロ」でのみ調整できる項目

▽を押し続けて「シャープネス」の下まで移動すると、以下の項目が調整できます。

項目	説明	選べる設定
NR（ノイズリダクション）*1	**通常はお買い上げ時の設定にしておいてください。テレビ（地上波）およびビデオ1～4入力端子につないだ機器の映像は「入」、BSデジタルの525i（480i）の標準テレビ信号 SD は「切」に設定されています。***2 「入」:映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。 「切」:元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。	入/切

*1 以下のとき「NR（ノイズリダクション）」は調整できません。
- BSデジタルやi.LINK端子につないだi.LINK対応機器から、525i（480i）の標準テレビ信号 SD 以外の信号を受信しているとき
- AVマルチ入力端子、コンポーネント1入力端子およびコンポーネント2（D4映像）入力端子につないだ機器から525i（480i）の標準テレビ信号 SD 以外の信号を受信しているとき
- "メモリースティック"に記録された静止画像を表示しているとき（☞109～117ページ）

*2 BSデジタルの525i（480i）の標準テレビ信号 SD は「切」で、十分な画質でお楽しみいただけますが、オリジナル映像の種類によっては、「入」のほうが、きれいに見えることがあります。ただし、BS予約した録画の実行中（☞56～64ページ）は、「入」と「切」を切り換える際、i.LINK端子やBS/CS/ビデオ出力端子からの信号にノイズが出る可能性があるため、切り換えないでください。

項目	説明	選べる設定
ベロシティモジュレーション VM（速度変調）	映像の輪郭を強調する。	強/中/弱/切
色温度	「4（高）」から「1（低）」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。	4（高）/3（中）/2（中）/1（低）
ハイパー Hホワイト	白の鮮明さを強調する。	入/切
色補正	美しく、健康的な肌色を再現します。	入/切
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。	強/中/弱/切
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。	強/中/弱/切
ファイン*3	輪郭強調などの映像処理を軽減し、ファインピッチブラウン管の性能をより引き出す映像にする。	入/切

*3 以下のときのみ、「ファイン」は選べて調整できます。
- BSテレビの信号を受信しているとき
- AVマルチ入力端子、コンポーネント1入力端子およびコンポーネント2（D4映像）入力端子、i.LINK端子につないだ機器からの信号を受信しているとき
- “メモリースティック”に記録された静止画像を表示しているとき（☞109～117ページ）

8 他の項目を調整するときは、手順6と7をくり返す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

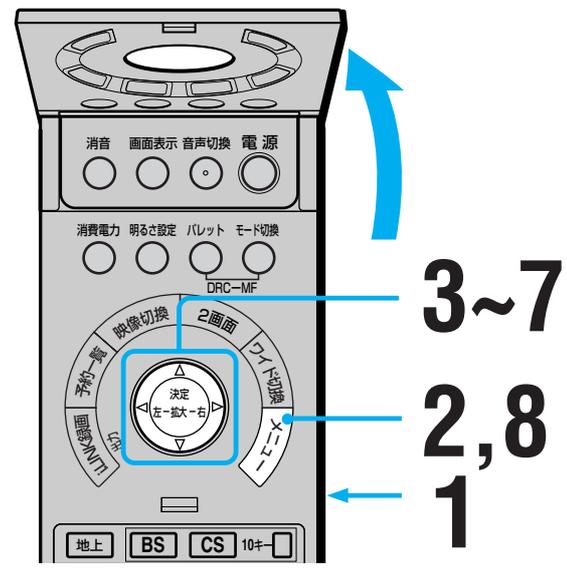
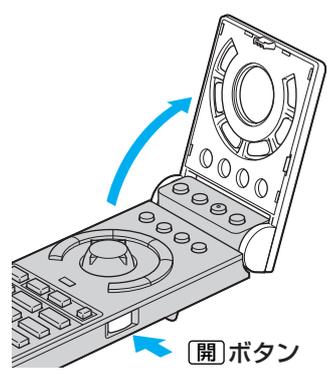
手順6で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

音質を調整する

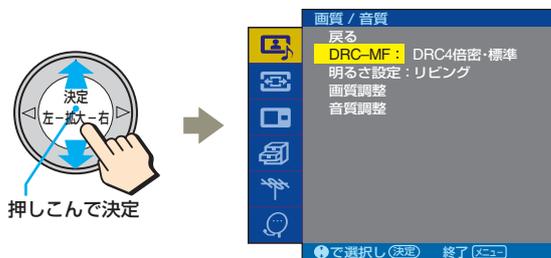
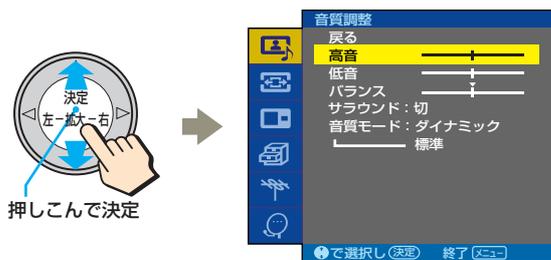
調整／設定

音質は、テレビ（地上波）、BSデジタル、入力切換用のボタンで選べる入力ごとに、別々に設定できます。

ちょっと一言

「高音」「低音」「バランス」以外の音質調整も同時にできます。詳しくは、「音質で選ぶ［音質モード］」（☞16ページ）や「立体感のある音声にする［サラウンド］」（☞17ページ）をご覧ください。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

音質を調整する（つづき）

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「音質モード」（☞16ページ）や「サラウンド」（☞17ページ）も同様に調整できます。

6 △/▽/◁/▷で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

項目	▽/◁を押すと	△/▷を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる

ちょっと一言

調整バーの横に表示される数値も調整の目安になります。

7 他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

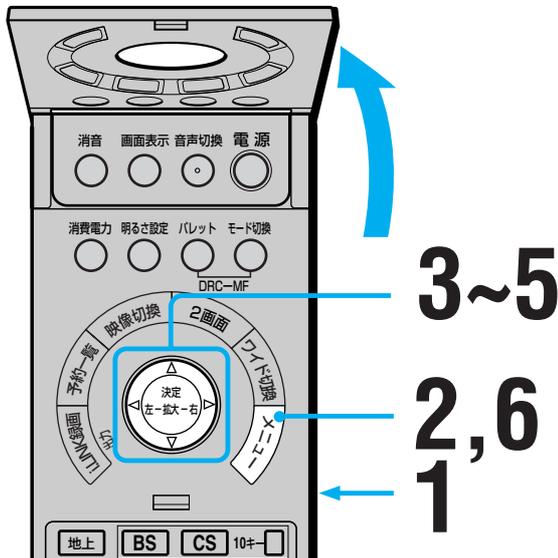
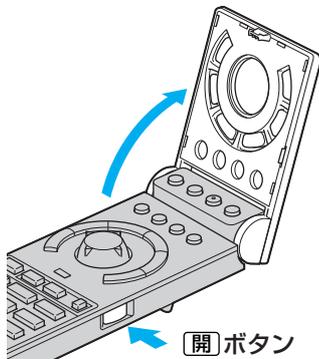
お買い上げ時の状態に戻すには

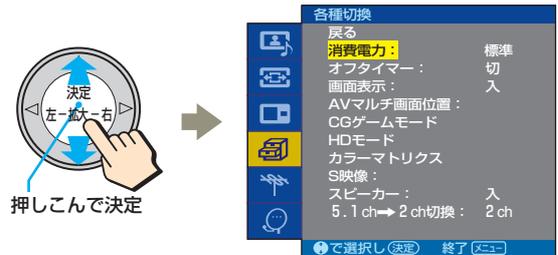
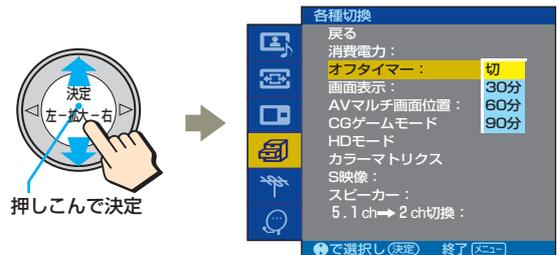
手順5で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

- ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンで聞いているときに音質調整をすると、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。
- “メモリースティック”に記録された静止画像を表示しているとき（☞109〜117ページ）は、音質調整はできません。

自動で電源を切る［オフタイマー］

本機をつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れ、電源スタンバイ（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）になります。
お買い上げ時は、「切」に設定されています。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「オフタイマー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で設定したい時間を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

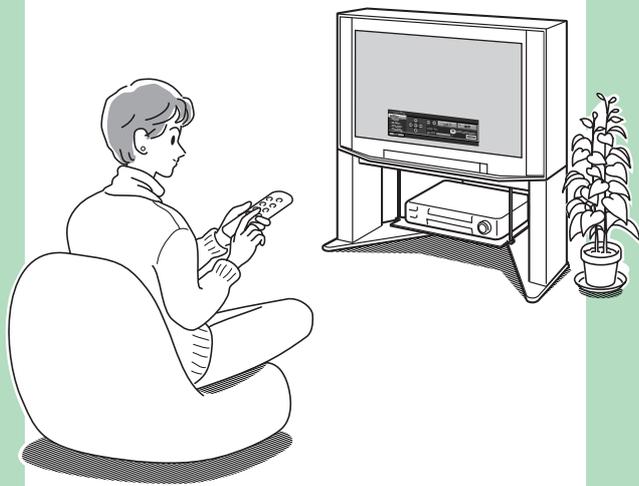
オフタイマーを途中でやめるには

手順5で「切」を選ぶ。

ちょっと一言

電源を入れ直したときは、「オフタイマー:切」に戻ります。

i.LINKで操作する

ここでは、ハードディスクレコーダーVRP-T1や、MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7をi.LINKで操作する方法について説明しています。
本機のi.LINK操作画面を使って、受信中のBSデジタル放送をハードディスクレコーダーVRP-T1にデジタル録画したり、ハードディスクレコーダーVRP-T1や、MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7に録画された映像をデジタル再生したりできます。
あらかじめ、「i.LINKでの接続」（☞180～191ページ）を行ってください。

本機でi.LINK操作できる機器について

本機でi.LINK操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器などを操作できます（2001年9月現在）。

ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1

ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）のことです。
i.LINK操作画面（☞102、104ページ）では「HDR」と表示されます。
なお、ソニー製ハードディスクレコーダーClip-Onは、i.LINK対応機器でないため、つなげません。

ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7

i.LINK操作画面（☞108ページ）では「M-MV」と表示されます。

上記以外のi.LINK対応機器について

- D-VHSデッキなどのi.LINK対応機器は、本機のi.LINK操作画面では操作できません（☞184ページ）。なお、ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1（HD録画未対応）も、本機のi.LINK操作画面では操作できません。
- 次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
  - DV方式デジタルビデオカメラ
  - パソコン
  - MDデッキ

本機から操作画面でi.LINK接続した機器を簡単操作

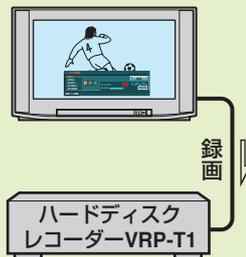
ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1

ハードディスクレコーダーVRP-T1にBSデジタル放送をデジタル録画する（☞100ページ）

「i.LINK録画」操作画面

i.LINK録画
HDR1
HDR2
M-MV1
OTHER1
OTHER2
電源
XXXXX
2H07M15S
残 85%
i.LINK
設定

本機受信中の
BSデジタル画面

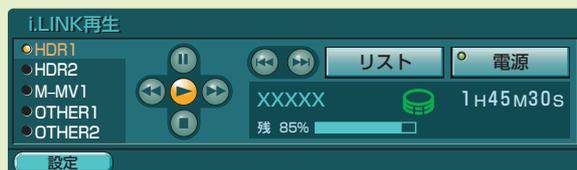
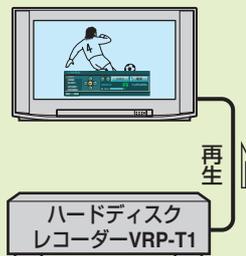
録画

ハードディスク
レコーダーVRP-T1

ハードディスクレコーダーVRP-T1に録画した番組をデジタル再生する（☞103ページ）

「i.LINK再生」（HDR）操作画面

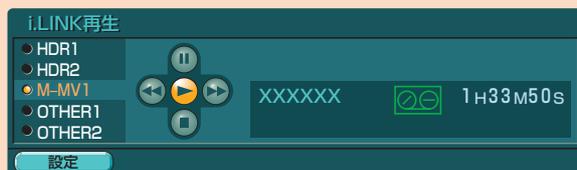
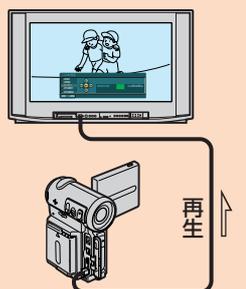
i.LINK再生
HDR1
HDR2
M-MV1
OTHER1
OTHER2
リスト
電源
XXXXX
1H45M30S
残 85%
設定

本機で再生画面を表示

再生

ハードディスク
レコーダーVRP-T1

：映像・音声信号の流れ

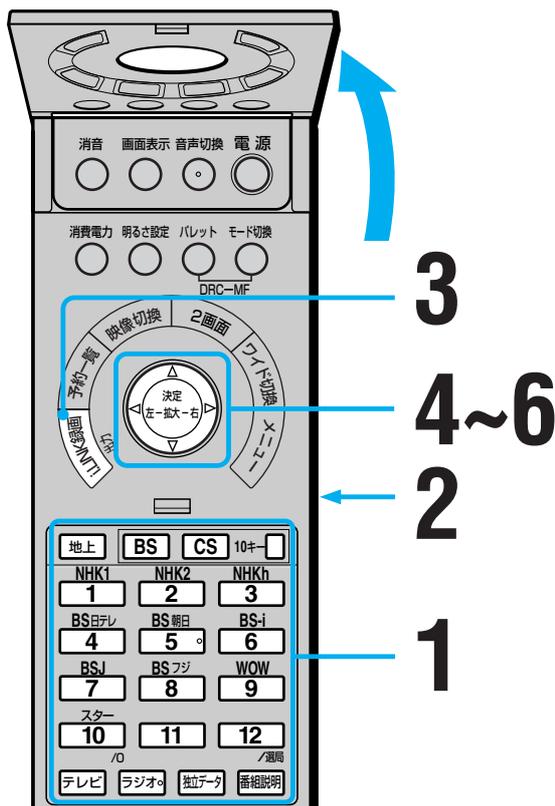
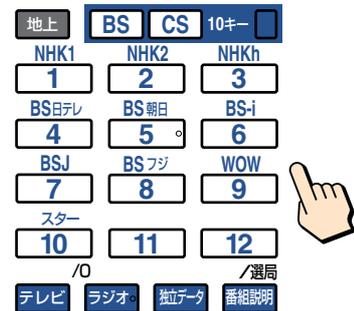
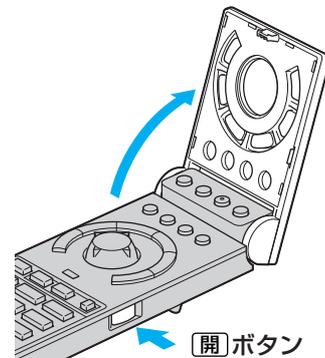
ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラ

MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7の映像をデジタル再生する（☞107ページ）

ハードディスクレコーダーVRP-T1をi.LINKで操作する

i.LINK操作画面を使って、本機からハードディスクレコーダーVRP-T1を操作できます。
あらかじめ、ハードディスクレコーダーVRP-T1の接続と設定を行っておいてください（☞182、186ページ）。

ハードディスクレコーダーVRP-T1にBSデジタル放送をデジタル録画する［i.LINK録画ボタン］

「i.LINK録画」操作画面を使って、受信中のBSデジタル放送をハードディスクレコーダーVRP-T1にデジタル録画します。
通常のテレビ（地上波）放送は録画できません。

BSデジタル放送を予約してデジタル録画するときは、☞56ページをご覧ください。

1 **録画したいBSデジタルのチャンネルを選ぶ。**
BSチャンネルの選びかたについては、☞6～7ページなどをご覧ください。

2 **開ボタンを押して、フタを開ける。**

3 **i.LINK録画ボタンを押す。**
「i.LINK録画」操作画面が表示されて、接続中の機器と接続されたことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

4 △/▽/◁/▷でLINC*したい（操作したい）「HDR」を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」に◯が付きます。

すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞180〜181ページ）をご覧ください。

「HDR」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞186ページ）。

5 LINCしたハードディスクレコーダーVRP-T1の電源を入れる。

操作画面右下に◯が表示されていないときは
◁/▷で「電源」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「電源」ボタン
電源が入ると左上が緑色に点灯します。

操作画面右下に◯が表示されているときは
手順6以降を行う。

6 △/▽/◁/▷で「◉（録画）」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

録画が始まります。

「ディスクがいっぱいです」と表示されたときは
ハードディスクレコーダーVRP-T1に空き容量がありません。不要な番組を削除してください（☞106ページ）。

録画実行中のご注意
- BSの操作（例：BSチャンネル切換、番組表の表示など）はできません。
- テレビ本体の電源スイッチを押して、主電源を切らないでください。

「i.LINK録画」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK録画ボタンを押す。

次のページにつづく

ハードディスクレコーダーVRP-T1を i.LINKで操作する（つづき）

「i.LINK録画」操作画面について

操作	ボタン
録画	●
録画停止	■
録画一時停止	❚❚

ハードディスクレコーダーVRP-T1に録画した番組をデジタル再生する [i.LINK再生ボタン]

「i.LINK再生」(HDR)操作画面を使って、ハードディスクレコーダーVRP-T1に録画した番組をデジタル再生します。

1 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されて、接続中の機器と接続されたことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

2 △/▽/◁/▷でLINC*したい(操作したい)「HDR」を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」に●が付きます。

すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK(アイリンク)について」(☞180~181ページ)をご覧ください。

「HDR」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは

登録機器を変更してください(☞186ページ)。

3 LINCしたハードディスクレコーダーVRP-T1の電源を入れる。

操作画面右下に⛁が表示されていないときは

◁/▷で「電源」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

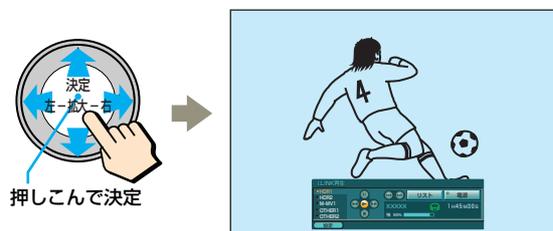
操作画面右下に⛁が表示されているときは

手順4以降を行う。

4 ◁/▷/△/▽で「▶(再生)」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

再生が始まります。

ちょっと一言

再生中に番組説明ボタンを押すと、「番組説明」画面が表示されます。ただし、「サービスタイプ」や「映像情報」などの番組情報は表示されないことがあります。

「i.LINK再生」操作画面を消すときは

もう1度、i.LINK再生ボタンを押す。

テレビ(地上波)に戻すときは

1~12/選局の地上波用数字ボタンまたは

地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1~12/選局のBS用数字ボタンまたは

BS ボタンを押す。

ちょっと一言

チャンネル+/−ボタンを押すと最後に見ていたBSのチャンネルになります。

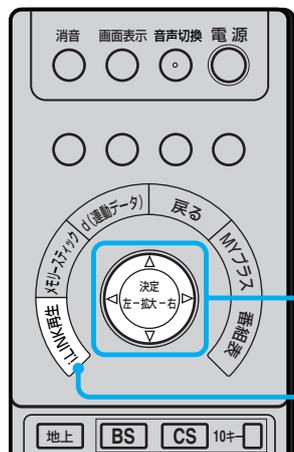
次のページにつづく

「i.LINK再生」（HDR）操作画面について

操作	ボタン
再生	▶
再生停止	■
再生一時停止	II
早送り	▶▶
早戻し	◀◀
次の番組を頭出し	▶▶I
今の番組を頭出し	I◀◀*

* くり返し押すと、その前の番組を頭出しします。

ハードディスクレコーダーVRP-T1に録画した番組のリスト（番組一覧）からデジタル再生する [リスト]

ハードディスクレコーダーVRP-T1の「リスト」画面から、見たい番組を選んで、デジタル再生します。

1 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されて、接続中の機器と接続されたことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

2 △/▽/◁/▷でLINC*したい（操作したい）「HDR」を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「HDR」に●が付きます。

すでにLINC中のときは、メッセージは表示されません。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK（アイリンク）について」（☞180～181ページ）をご覧ください。

「HDR」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは

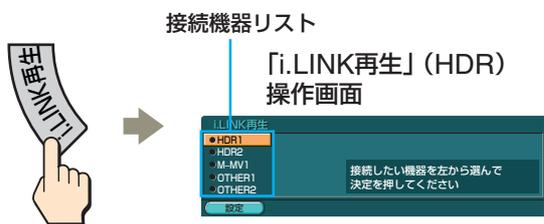
登録機器を変更してください（☞186ページ）。

3 LINCしたハードディスクレコーダーVRP-T1の電源を入れる。

操作画面右下に⛁が表示されていないときは

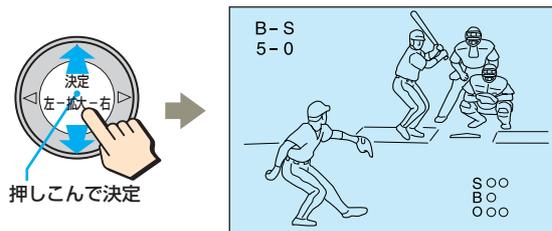
◁/▷で「電源」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

操作画面右下に⛁が表示されているときは

手順4以降を行う。

4 △/▽/◁/▷で「リスト」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「リスト」（番組一覧）画面が表示されます。

5 △/▽で再生したい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「リスト」画面が消え、選んだ番組の再生が始まります。

テレビ（地上波）に戻すときは

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは

地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1～12/選局のBS用数字ボタンまたは

BS ボタンを押す。

ちょっと一言

チャンネル＋/－ボタンを押すと最後に見ていたBSのチャンネルになります。

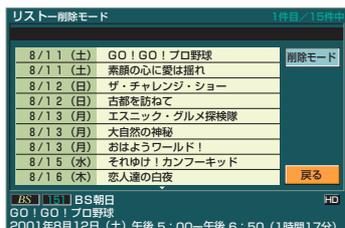
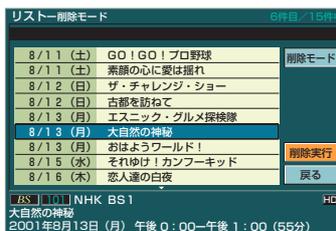
i.LINKで操作する

次のページにつづく

ハードディスクレコーダーVRP-T1をi.LINKで操作する（つづき）

リストから不要な番組を削除するには［削除モード］

1 105ページの手順1～4を行う。

2 △/▽/▷で「削除モード」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽/◁で削除したい番組を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 「削除実行」ボタンが選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。
リストから番組が削除されます。

5 △/▽/▷で「戻る」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。
「i.LINK再生」操作画面に戻ります。

6 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」操作画面を消す。

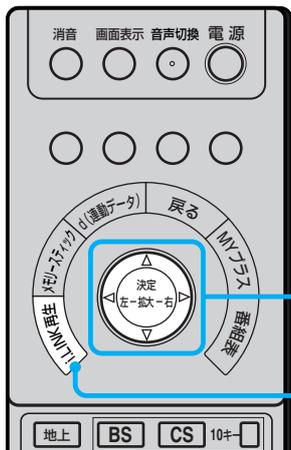
「リスト」画面について

（カーソル）で選んでいる番組の情報です。

HD ： デジタルハイビジョン信号 HD（☞27ページ）
SD ： 標準テレビ信号 SD（☞27ページ）
🔒 ： 録画時に視聴年齢制限付きだった番組
再生時に暗証番号入力画面は表示されません。

MICROMV方式デジタルビデオカメラの映像をデジタル再生する [i.LINK再生ボタン]

「i.LINK再生」(M-MV)操作画面を使って、MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7に録画された映像をデジタル再生します。
i.LINK操作画面(☞108ページ)では「M-MV」と表示されます。

本機で受信中のBSデジタル放送は、i.LINK接続しても、MICROMV方式デジタルビデオカメラにデジタル録画できません。

1 MICROMV方式デジタルビデオカメラの電源スイッチをビデオモードにする。

2 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されて、接続中の機器と接続されたことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

3 △/▽/◁/▷でLINC*したい(操作したい)「M-MV」を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「M-MV」に●が付きます。

* LINCについて詳しくは、「i.LINK(アイリンク)について」(☞180〜181ページ)をご覧ください。

「M-MV」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください(☞186ページ)。

[QO]が表示されないときは
MICROMV方式デジタルビデオカメラのカセットが正しく入っているかを確認する。

4 △/▽/◁/▷で「▶(再生)」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

再生が始まります。

「i.LINK再生」操作画面を消すときは
もう1度、i.LINK再生ボタンを押す。

テレビ(地上波)に戻すときは
①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは
[地上]ボタンを押す。

BSに戻すときは
[1]〜[12]/選局のBS用数字ボタンまたは
[BS]ボタンを押す。

ちょっと一言
チャンネル+/−ボタンを押すと最後に見ていたBSのチャンネルになります。

i.LINKで操作する

「i.LINK再生」（M-MV）操作画面について

接続機器リスト
「M-MV」の右の数字は、MICROMV方式デジタルビデオカメラの中で何番目につないだかを示します。

「設定」ボタン
i.LINK対応機器の登録変更などのときに使います（☞186ページ）。

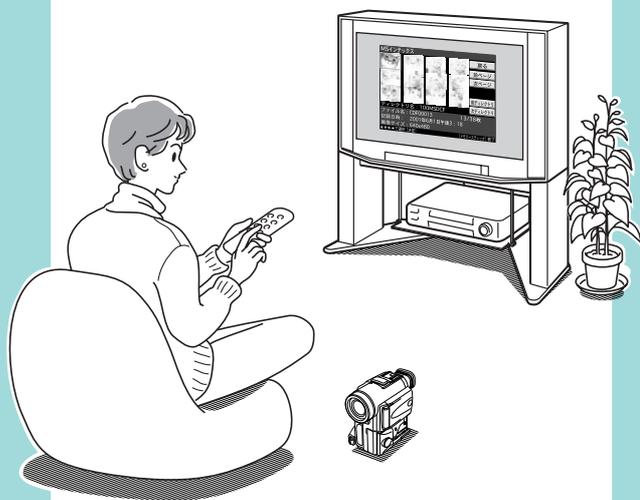
再生操作用のボタン
△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定する。

操作	ボタン
再生	▶
再生停止	■
再生一時停止	⏸
早送り再生	⏩（押しこみ続ける）
早戻し再生	⏪（押しこみ続ける）
早送り	⏩（停止中に1度押しこむ）
早戻し	⏪（停止中に1度押しこむ）

MICROMV方式デジタルビデオカメラの状態

（アイコン）	：停止時
（アイコン）（回転）	：再生時
（アイコン）（停止）	：再生一時停止時
（アイコン）（高速回転）	：早送り再生/早戻し再生時
（アイコン）（高速回転）	：早送り/早戻し時
（アイコン）	：録画時 MICROMV方式デジタルビデオカメラで撮影中は、その映像が本機の画面に表示されます。本機のBSデジタル放送を録画しているのではありません。
（アイコン）	：録画一時停止時
表示無し	：LINCしているMICROMV方式デジタルビデオカメラの電源が入っていないとき、または、MICROMV方式デジタルビデオカメラにカセットが入っていないとき

“メモリースティック”

ここでは、別売りの“メモリースティック”にJPEG形式で記録されている静止画像を一覧表示したり（MSインデックス）、その中の1枚を全画面で表示したりする操作について説明しています。
また、記録されている静止画像を順番に全画面で自動表示したり（MSスライドショー）、画像の向きを回転して表示したりする操作についても説明しています。

“メモリースティック”について

別売りの“メモリースティック”（“Memory Stick”、本機の画面表示では「MS」と省略）は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。
“メモリースティック”対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言
“メモリースティック”および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。

本機ではデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなど“メモリースティック”対応機器で**“メモリースティック”にJPEG形式で記録された静止画像を、見ることができます。**

ご注意
“メモリースティック”の静止画像を見ているときは、本機のスピーカーからは音声は出力されません。音量＋/－ボタンで音量を調節しないでください。
また、本機後面のBS/CS/ビデオ出力端子からは出力されません。

JPEG形式とは
デジタルスチルカメラなどで採用されている静止画像を圧縮する代表的な方式です。この方式を決定した団体（Joint Photographic Experts Group）の名前がそのまま使われています。

次のページにつづく

“メモリースティック” について（つづき）

本機で表示できる静止画像

圧縮形式　　　：JPEG形式

ファイル名形式：DCF規格*

例：ソニー製のデジタルスチルカメラなどで撮影した静止画像のとき

本機で画面表示されるディレクトリ名：100MSDCF

本機で画面表示されるファイル名：DSC00001

*（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“Design rules for Camera File sysetms” のことです。

本機で表示できない静止画像

- TIFF形式など、JPEG形式以外の圧縮方式を使った静止画像
- DCF規格に対応していない以下の機器で記録された静止画像
  －デジタルスチルカメラDSC-D700、DSC-D770
  －デジタルビデオカメラDCR-TRV900
- JPEG形式であっても、パソコンで以下をした静止画像
  －パソコンで加工した静止画像
  －パソコンでファイル名やディレクトリ名を変更した静止画像
  －パソコンでフォーマット（初期化）した“メモリースティック”の静止画像
- 画像サイズの横または縦が16ドットより小さいとき
- 画像サイズの横または縦が4096ドットより大きいとき

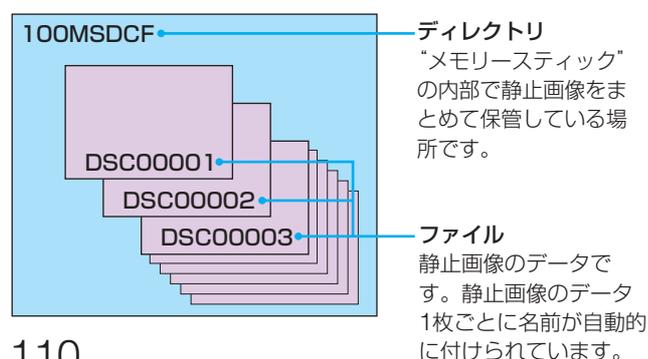
“メモリースティック” には、次のように静止画像が記録されています。

下の図は、ソニー製のデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどで記録した場合の“メモリースティック”の内容を示しています。

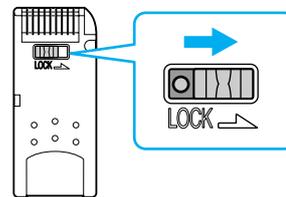
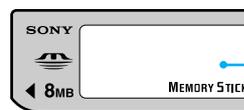
“メモリースティック”に静止画像を記録すると、ディレクトリの中に静止画像がファイルとして保管されていきます。このとき、ディレクトリとファイルにはDCF規格に基づいて、自動的に名前が付きます。

パソコンでファイル名やディレクトリ名などを変更しないでください。変更すると、静止画像を表示できない場合があります。

ディレクトリ
“メモリースティック”の内部で静止画像をまとめて保管している場所です。

ファイル
静止画像のデータです。静止画像のデータ1枚ごとに名前が自動的に付けられています。

記録されている静止画像を誤って消さないためには

誤消去防止スイッチをスライドさせて、「LOCK」にする。
ただし、画像の回転（☞116ページ）は、できなくなります。

“メモリースティック”裏

“メモリースティック” についてのご注意

ラベル貼り付け部
専用ラベルをはみ出さないように貼ってください。

以下の場合、静止画像のファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。

－静止画像のファイルを読み込み中（アクセスランプが点滅中または画面に「アクセス中」と表示されているとき）に、“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
－静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

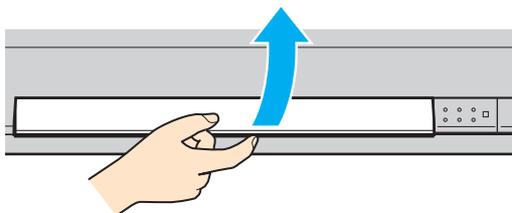
取り扱いについて

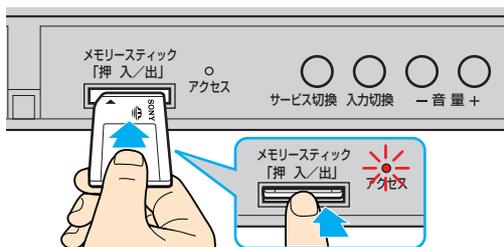
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”に付属の収納ケースに入れてください。
- 画面の端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

使用場所について

以下の場所での使用や保存は避けてください。
－高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
－直射日光のあたる場所
－湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック”を本機に入れる

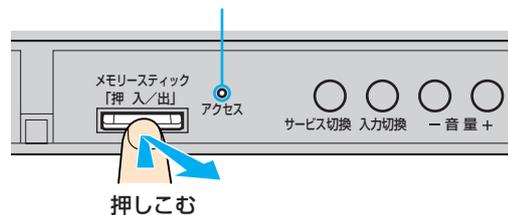
1 本機前面のパネルを開ける。

2 “メモリースティック”を▲がある面を上にしてメモリースティック挿入口にしっかり入れる。

アクセスランプが点滅します。

ご注意

- 逆向きに無理に入れると、メモリースティック挿入口が破損することがあります。
- 故障の原因となりますので、メモリースティック挿入口には“メモリースティック”以外の異物を入れないでください。

“メモリースティック”を本機から取り出すときは

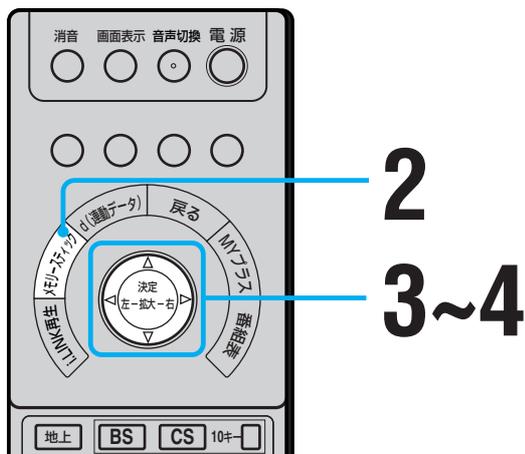
アクセスランプが赤色に点滅していないことを確認して、“メモリースティック”を1度奥に押しこむ。

“メモリースティック”が出てきます。

ご注意

- アクセスランプが赤色点滅中のときや、画面に「アクセス中」と表示されているときに、本機の電源を切ると“メモリースティック”が破損する場合があります。
- 奥に押しこまずに取り出すと、“メモリースティック”や本機のメモリースティック挿入口が破損する場合があります。

静止画像を一覧表示して見る

[MSインデックス]

“メモリースティック”に記録されている静止画像を12枚ずつ一覧表示できます。また、その中から1つの画像を選んで、拡大表示できます。

1 “メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れる。

2 メモリースティックボタンを押す。

「メモリースティック」メニューが表示されます。

ご注意

2画面やメモ画面を表示しているときは、メモリースティックボタンを押しても、画面は切り換わりません。

3 △/▽で「MSインデックス」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

“メモリースティック”に入っている静止画像*を12枚ずつ一覧表示します。

* 表示できる静止画像については、☞110ページをご覧ください。

静止画像が12枚以上あるときは

△/▽/◁/▷で「次ページ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次の12枚が一覧表示されます。

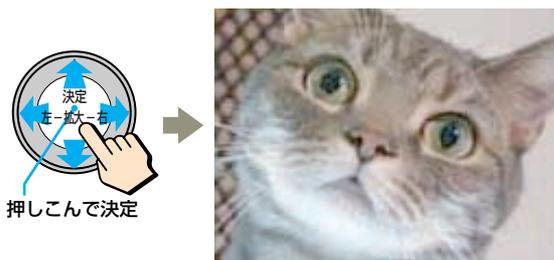
ディレクトリが複数あるときは

画面右端に「次ディレクトリ」が表示されます。詳しくは、☞113ページをご覧ください。

ちょっと一言

画面の表示について詳しくは、☞113ページをご覧ください。

4 全画面で表示したい静止画像があるときは、△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこんで決定する。

選んだ静止画像が、画像サイズに合った大きさに調整されて全画面表示されます。

💡ちょっと一言
- 全画面で表示した後は、◁/▷で前の静止画像や次の静止画像を表示できます。
- 画像サイズの大きさによって、静止画像を表示するまでの時間が異なります。
- 記録日時などを画面に表示できます（☞116ページ）。
- 画像サイズについては、下記の「静止画像の表示画面について」をご覧ください。
- 画像サイズが小さいJPEG画像は、本機が表示に適した大きさに拡大して表示します。
- 画像サイズの縦が870ドットまたは横が1545ドット以上の大きいJPEG画像は、そのまま表示すると画面に入らないため、本機では画面に入る大きさに縮小して表示します。

ご注意

静止画像がちらついて見えることがありますが、故障ではありません。

「MSインデックス」画面に戻るときは

もう1度、真ん中を押しこんで決定します。

「メモリースティック」メニューに戻るときは

△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

テレビ（地上波）に戻すときは

①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは

地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1 〜 12/選局 のBS用数字ボタンまたは

BS ボタンを押す。

💡ちょっと一言
チャンネル＋/－ボタンを押すと最後に見ていた地上波またはBSのチャンネルになります。

静止画像の表示画面について

静止画像の向きを回転して表示させるとき（☞116ページ）は、「MSインデックス」の代わりに「画像回転」と表示され、背景が白色になります。

カーソル（選ばれているところ）
黄色の枠が表示され、リモコンの△/▽/◁/▷で移動できます。

一覧表示できない静止画像
（☞110ページ）

ディレクトリ名
（☞110ページ）

静止画像の情報欄
□カーソルで選んでいる静止画像の情報です。

「戻る」ボタン
「メモリースティック」メニューへ戻ります。

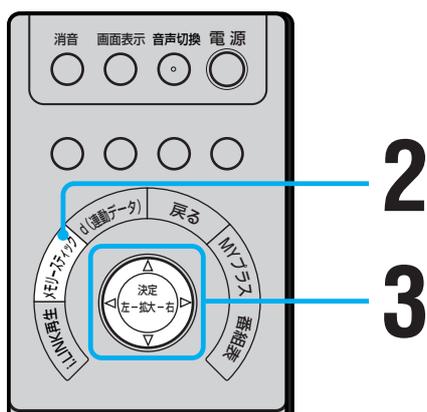
「前ページ」ボタン
「次ページ」ボタン
静止画像が12枚以上あるときに、前後の12枚を一覧表示します。

「前ディレクトリ」ボタン
「次ディレクトリ」ボタン
“メモリースティック”にディレクトリが複数あるときのみ表示されます。他のディレクトリを選べます。

画像サイズ：
横×縦のドット（点）数が表示されます。静止画像は、いくつかのドット（点）で構成され、その数が多いほど画像サイズが大きくなります。

枚数表示：
選んでいるディレクトリ内の枚数を表示します。
上の例では、38枚中の13枚目を表します。

静止画像を順番に自動表示する
[MSスライドショー]

“メモリースティック”に記録されている静止画像を一定の間隔で順番に表示します。

1 **“メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れる。**

“メモリースティック”の入れかたについては、「“メモリースティック”を本機に入れる」（☞111ページ）をご覧ください。

2 **メモリースティックボタンを押す。**

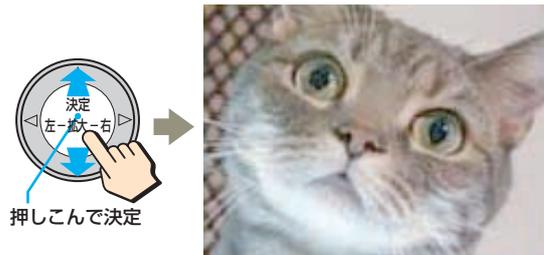
「メモリースティック」メニューが表示されます。

ご注意

2画面やメモ画面を表示しているときは、メモリースティックボタンを押しても、画面は切り換わりません。

3 **△/▽で「MSスライドショー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

“メモリースティック”に記録されている静止画像*を順番に表示します。
最後の静止画像を表示し終わると、自動的に最初の静止画像に戻り、再びMSスライドショーをくり返します。

* 表示できる静止画像については、☞110ページをご覧ください。

MSスライドショーを途中で止めるときは

MSスライドショー実行中に、真ん中を押しこんで決定する。
「メモリースティック」メニューが表示されます。

ご注意

最初の静止画像の画像サイズが大きいときは、MSスライドショーの実行開始までに時間がかかることがあります。静止画像を表示する前に真ん中を押しこんでも、すぐには「メモリースティック」メニューは表示されません。

ちょっと一言

- MSスライドショーを自動的にくり返さないように設定できます（☞115ページ）。
- 記録日時などを画面に表示できます（☞116ページ）。
- 画像サイズについては、☞113ページをご覧ください。
- MSスライドショーで静止画像を表示する順番は、本機が自動的に設定するため、変更できません。ディレクトリが複数あるときも、本機が自動的に表示する順番を設定して静止画像を表示します。

テレビ（地上波）に戻すときは

①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは

地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1 〜 12/選局 のBS用数字ボタンまたは

BS ボタンを押す。

ちょっと一言

チャンネル+/−ボタンを押すと最後に見ていた地上波またはBSのチャンネルになります。

MSスライドショーの表示間隔を変更するときは

MSスライドショーの表示間隔は、「5秒」（お買い上げ時の設定）、「10秒」、「1分」、「5分」、「15分」から選べます。

1 メモリースティックボタンを押す。

「メモリースティック」メニューが表示されます。

MSスライドショーを表示しているときは

真ん中を押しこんで決定する。

MSスライドショーが終わり、「メモリースティック」メニューが表示されます。

2 △/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で「MSスライドショー間隔」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で表示間隔を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ◁を押す。

6 △/▽で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「メモリースティック」メニューに戻ります。

ご注意

静止画像の画像サイズが大きいときは、1枚の静止画像の表示に時間がかかるため、設定した表示間隔どおりにならないことがあります。

MSスライドショーを自動的にくり返さないようにするときは

お買い上げ時は、最後の静止画像を表示し終わると、自動的に最初の静止画像に戻り、再びMSスライドショーをくり返すように設定されています。

1 メモリースティックボタンを押す。

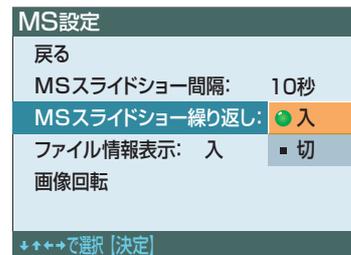
「メモリースティック」メニューが表示されます。

MSスライドショーを表示しているときは

真ん中を押しこんで決定する。

MSスライドショーが終わり、「メモリースティック」メニューが表示されます。

2 △/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 △/▽で「MSスライドショー繰り返し」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ◁を押す。

6 △/▽で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「メモリースティック」メニューに戻ります。

“メモリースティック”

次のページにつづく

静止画像を順番に自動表示する［MSスライドショー］（つづき）

静止画像の情報を表示するときは

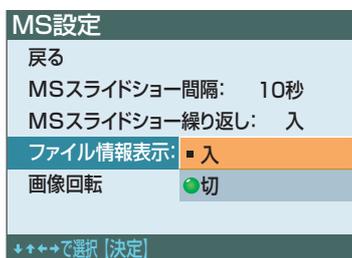
静止画像の枚数や、記録日時を画面に表示できます。MSスライドショーでの静止画像の表示やMSインデックスから拡大して表示した静止画像の画面で表示されます。

• 静止画像枚数（図の例で38枚中の1枚目）
• 記録日時

1 **メモリースティックボタンを押す。**
「メモリースティック」メニューが表示されます。

MSスライドショーを表示しているときは
真ん中を押しこんで決定する。
MSスライドショーが終わり、「メモリースティック」メニューが表示されます。

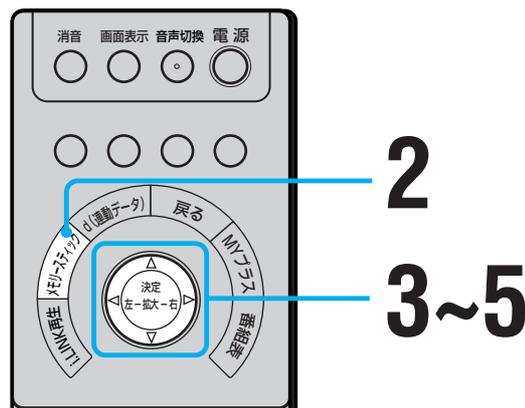
2 **△/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **△/▽で「ファイル情報表示」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

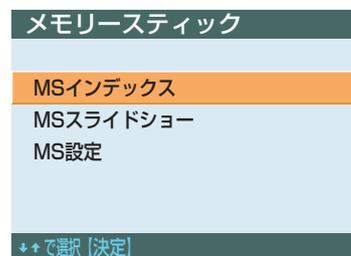
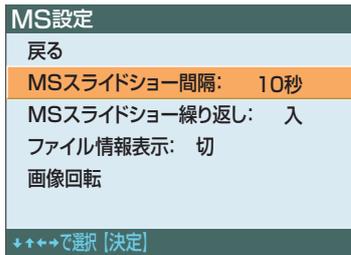
5 **◁を押す。**

6 **△/▽で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
「メモリースティック」メニューに戻ります。

静止画像の向きを回転して表示させる

“メモリースティック”に記録されている静止画像を、回転（90°）させて表示できます。

1 **“メモリースティック”をメモリースティック挿入口に入れる。**
“メモリースティック”の入れかたについては、「“メモリースティック”を本機に入れる」（☞111ページ）をご覧ください。

2 **メモリースティックボタンを押す。**
「メモリースティック」メニューが表示されます

ご注意
2画面やメモ画面を表示しているときは、メモリースティックボタンを押しても、画面は切り換わりません。

3 △/▽で「MS設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「画像回転」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

“メモリースティック”に入っている静止画像*を12 枚ずつ一覧表示します。

* 表示できる静止画像については、☞110ページをご覧ください。

静止画像が12枚以上あるときは

△/▽/◁/▷で「次ページ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次の12枚が一覧表示されます。

ディレクトリが複数あるときは

画面右端に「次ディレクトリ」が表示されます。詳しくは、☞113ページをご覧ください。

ちょっと一言

画面の表示について詳しくは、☞113ページをご覧ください。

5 △/▽/◁/▷で回転させる静止画像を選び、真ん中を押しこんで決定する。

1回押すたびに、右方向に90°ずつ回転します。

ちょっと一言

一度回転させた静止画像の情報は“メモリースティック”に記録されるため、次に表示するときは自動的に回転して表示されます。

回転させた静止画像を全画面で表示するときは

△/▽/◁/▷で「戻る」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「静止画像を一覧表示して見る［MSインデックス］」（☞112〜113ページ）を行ってください。

テレビ（地上波）に戻すときは

①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは 地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1 〜 12/選局 のBS用数字ボタンまたは BS ボタンを押す。

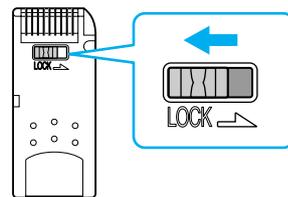
ちょっと一言

チャンネル＋/−ボタンを押すと最後に見ていた地上波またはBSのチャンネルになります。

静止画像が回転しないときは

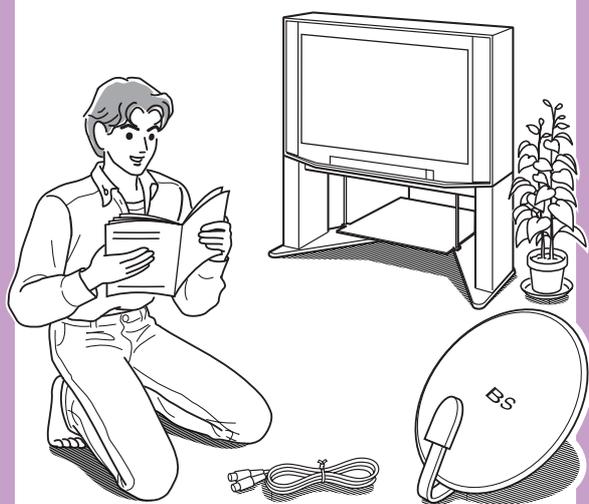
“メモリースティック”が書き込み禁止になっているか確認してください。

1. テレビ画面に戻す。
2. アクセスランプが赤色に点滅していないことを確認して、“メモリースティック”を取り出す。
3. 誤消去防止スイッチをずらして、「LOCK」の位置を解除する。

“メモリースティック”裏

4. 116ページの手順1からやり直す。

“メモリースティック”

接続

ここでは、テレビ（地上波）アンテナとBSアンテナのつなぎかた、電話回線へのつなぎかたを説明しています。
他の機器をつないで、お使いになるときは、「他機との接続」（☞164〜179ページ）をご覧ください。

テレビを設置するときは、必ず、「準備5：地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する」（☞131ページ）を、行ってください。

地磁気などの影響により、画像が傾いたり、上下位置がずれたり、色むらなどが発生したりする場合があります。

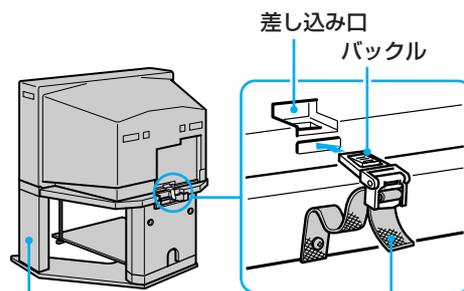
テレビの転倒を防ぐために

お子さまが、テレビスタンドなどに載せた本機に登ったり、本機を押したりすると、テレビスタンドなどから、本機が落ちる恐れがあります。
以下の方法に従って、テレビの転倒を防いでください。

テレビは壁から10cm以上離して設置してください

壁から10cm以上離して置いてください。風とおしをよくするためです。壁などに近づけ過ぎて、空気の対流が悪くなると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。また、通風孔がふさがれると、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

専用のテレビスタンドを使うときは

テレビスタンドに付属しているテレビラック固定ベルトのバックルを、本機後面の差し込み口にカチッと音がするまで差し込んでください。

⚠注意

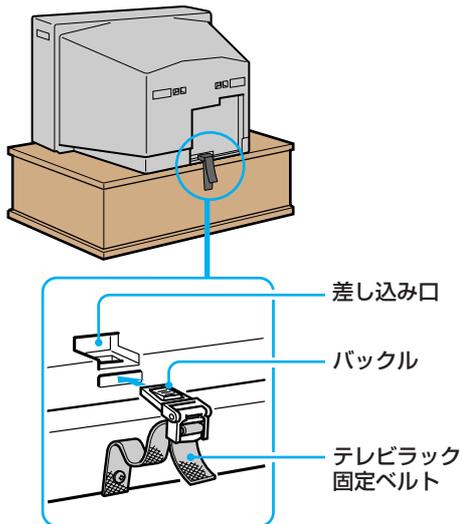
テレビスタンドにテレビを設置するときは、テレビとテレビスタンドの間に、指などが挟まれないように、気を付けてください。

テレビスタンドの取扱説明書もあわせてご覧ください。

市販のテレビスタンドやラックを使うときは

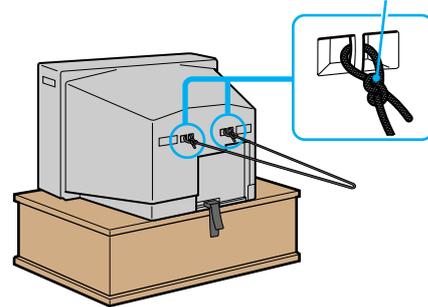
別売りのテレビラック固定ベルトBLT-R10*で固定してください。テレビラックのバックルを、本機後面の差し込み口にカチッと音がするまで差し込んでください。
市販のスタンドやラックに設置する場合は、本機の底面よりも広くて水平なスタンドやラックをお使いください。また、耐重量や載せられるサイズも必ずご確認ください。
詳しくは、本機やテレビスタンド、ラックをお買い上げいただいたお店に、ご相談ください。

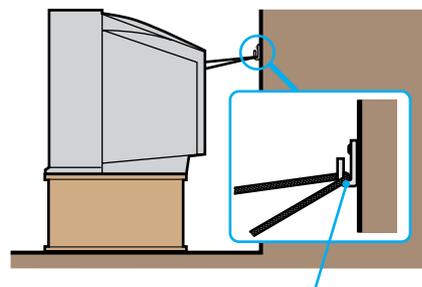
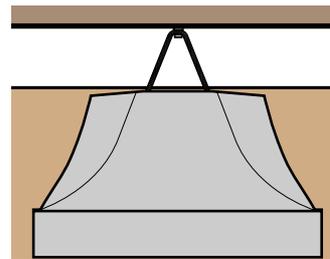
ご注意

段差やデコボコ、うねりがある台に置かないでください。キャビネットの変形やきしみの原因になり、破損することがあります。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

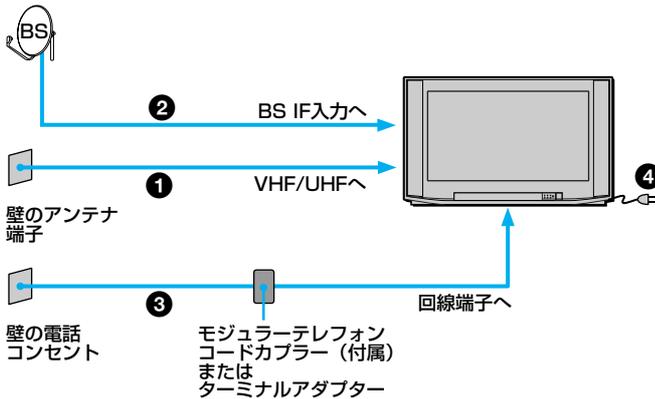
市販のひもやクサリなどで固定するときは

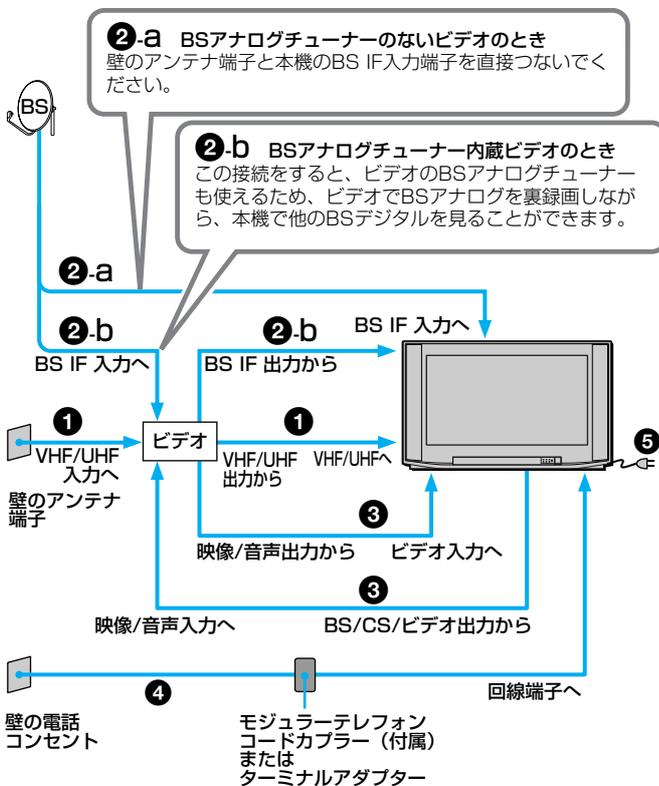
丈夫なひもやクサリなどを、本機後面の2つの穴に通して、壁や柱などに固定してください。
詳しくは、本機やテレビスタンド、ラックをお買い上げいただいたお店に、ご相談ください。

① 丈夫なひもやクサリなどを、本機後面の穴に通して、しっかり付ける。

② 壁や柱などの安定した場所に、①で取り付けたひもやクサリなどを、しっかり固定する。

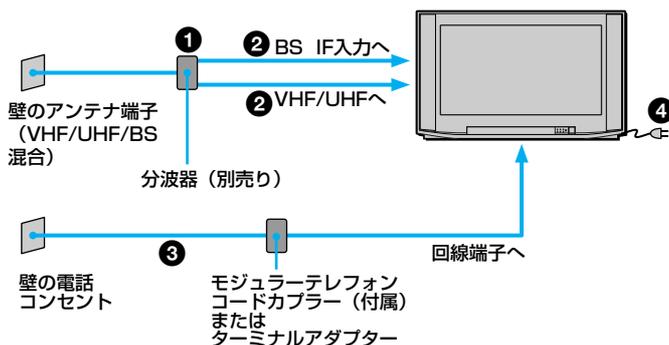
横から見たところ

上から見たところ

接続と準備の早わかり

接続と準備のしかたは、放送の種類や接続する機器によって異なります。
ここでは代表的な組み合わせをあげていますので、参考にしてください。詳しくは（　）内のページ、および接続するビデオなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。

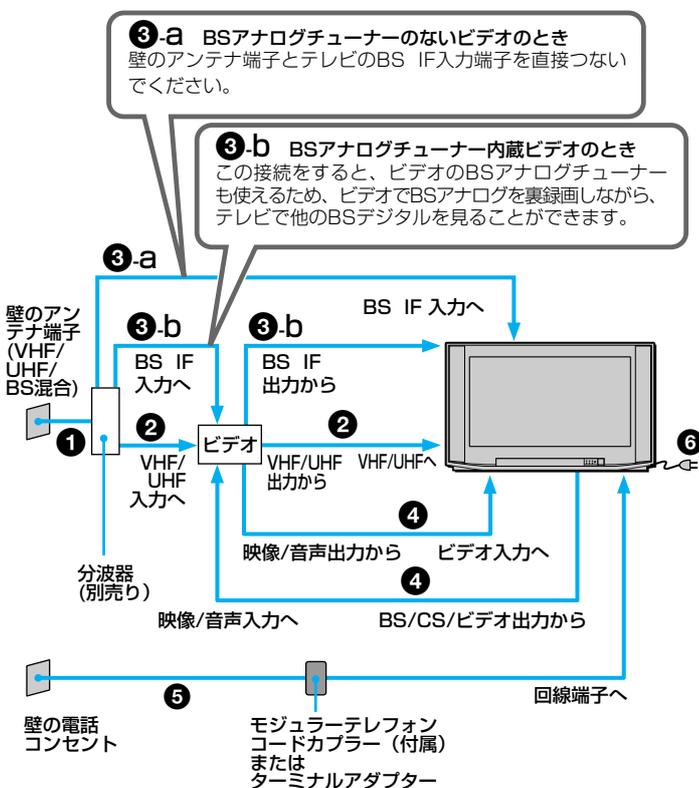
テレビ

❶ テレビ（地上波）アンテナをつなぐ（☞123ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞125ページ）
❸ 電話回線をつなぐ（☞127ページ）
❹ 電源コードをつなぐ
❺ テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（☞133ページ）
❻ BSアンテナの設定をする（☞137ページ）

テレビ＋ビデオ

❶ テレビ（地上波）アンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞168〜169ページ、およびビデオの取扱説明書）
❷ BSアンテナをつなぐ
　❷-a BSアナログチューナーのないビデオのとき: BSアンテナをテレビにつなぐ（☞125ページ）
　❷-b BSアナログチューナー内蔵ビデオのとき: BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞169ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ ビデオをつなぐ（☞168〜169ページ）
❹ 電話回線をつなぐ（☞127ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（☞133ページ）
❼ BSアンテナの設定をする（☞137ページ）

ちょっと一言
i.LINKでハードディスクレコーダーVRP-T1などi.LINK対応機器をつなぐときは、「i.LINKでの接続」（☞180〜191ページ）をご覧ください。

マンションなどの共同受信システム*

* 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSに分波する（☞124ページ）
❷ 分波したVHF/UHFとBSの信号をテレビにつなぐ（☞124ページ）
❸ 電話回線をつなぐ（☞127ページ）
❹ 電源コードをつなぐ
❺ テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（☞133ページ）
❻「衛星アンテナ設定」を「切」にする（☞137ページ）

マンションなどの共同受信システム*＋ビデオ

* 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSに分波する（☞124ページ）
❷ テレビ（地上波）アンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞168〜169ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ BSアンテナをつなぐ
　❸-a　BSアナログチューナーのないビデオのとき: BSアンテナをテレビにつなぐ（☞125ページ）
　❸-b　BSアナログチューナー内蔵ビデオのとき: BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞169ページ、およびビデオの取扱説明書）
❹ ビデオをつなぐ（☞168〜169ページ）
❺ 電話回線をつなぐ（☞127ページ）
❻ 電源コードをつなぐ
❼ テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（☞133ページ）
❽「衛星アンテナ設定」を「切」にする（☞137ページ）

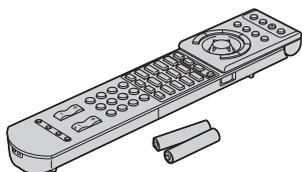
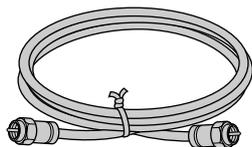
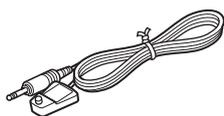
ちょっと一言
i.LINKでハードディスクレコーダーVRP-T1などi.LINK対応機器をつなぐときは、「i.LINKでの接続」（☞180〜191ページ）をご覧ください。

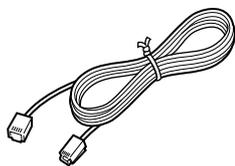
ケーブルテレビ

ケーブルシステムによって接続や準備のしかたが異なります。ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

準備1:
付属品を確かめる

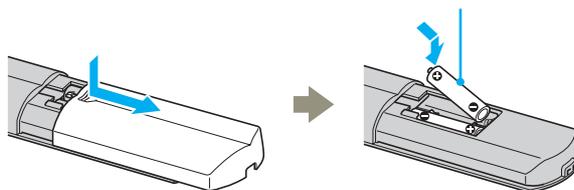
箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

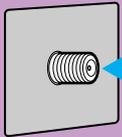
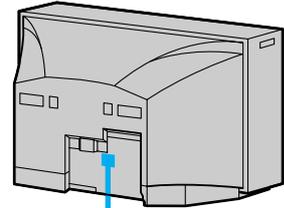
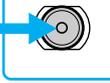
リモコン（1個）と
単4型乾電池（2個）

VHF/UHF用
アンテナ接続ケーブル（1本）

AVマウス（1本）

モジュラーテレホン
コードカプラー（1個）

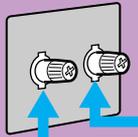
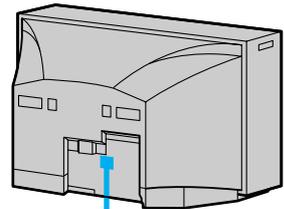
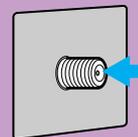
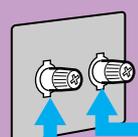
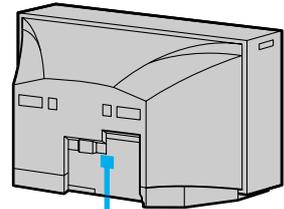
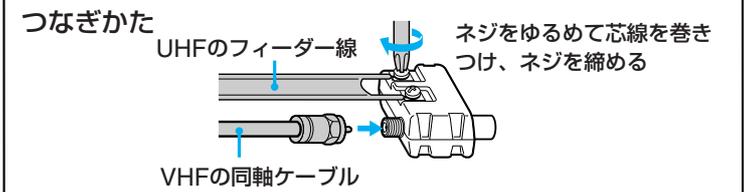
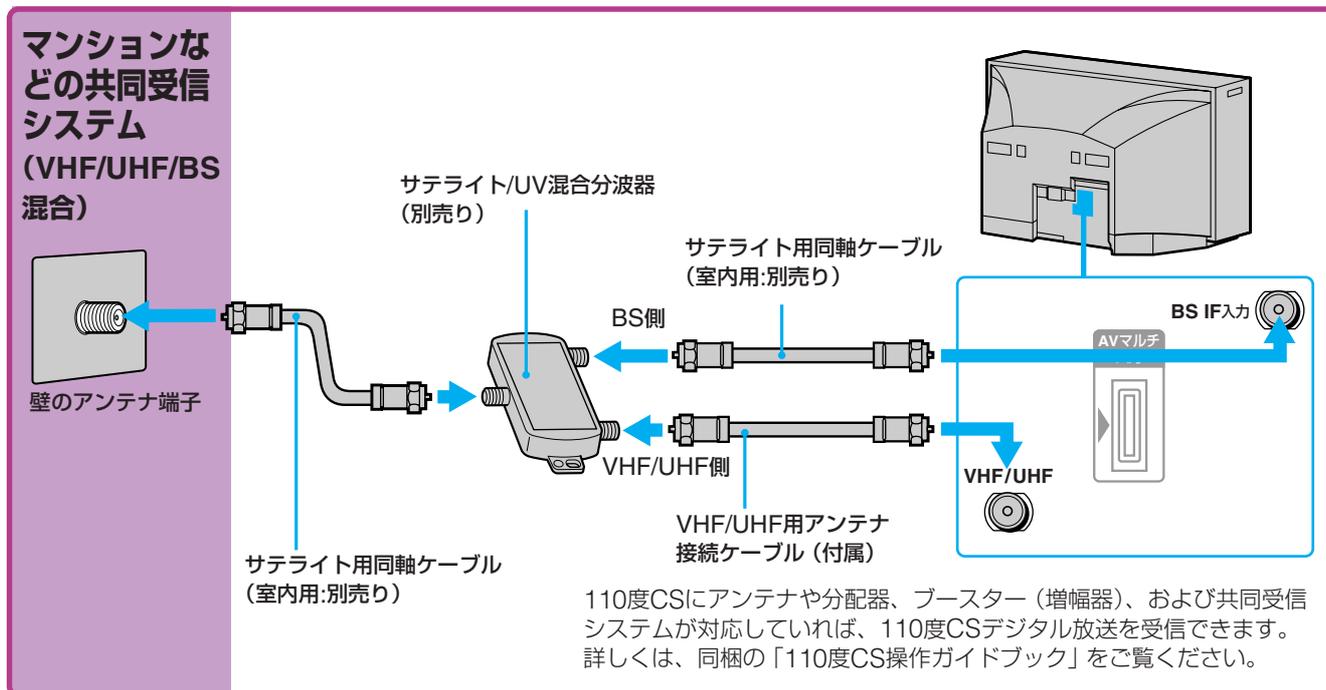
テレホンコード（10m）（1本）

B-CAS（ビーキャス）カード
（BSデジタル用ICカード）（1）と
B-CAS用ユーザー登録はがき台紙（1）

取扱説明書
110度CS操作ガイドブック
簡単操作ガイド
安全のために
安全点検のおすすめ
ソニーご相談窓口のご案内
ソニー用お客様ご登録カード
保証書
（各1部）

リモコンに電池を入れるには

必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

準備2:
テレビ（地上波）アンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

次のページにつづく

準備2: テレビ（地上波）アンテナをつなぐ（つづき）

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、電波妨害を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- 本機後面のVHF/UHF端子への接続は、アンテナ線がフィーダー線または同軸ケーブルのどちらであっても、**必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

デジタルCS放送[*1]を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞137ページ）を行ってください。

ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用:別売り）をつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2[*2]またはEAC-BC4[*2]など）を必ずお使いください。特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSアナログチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

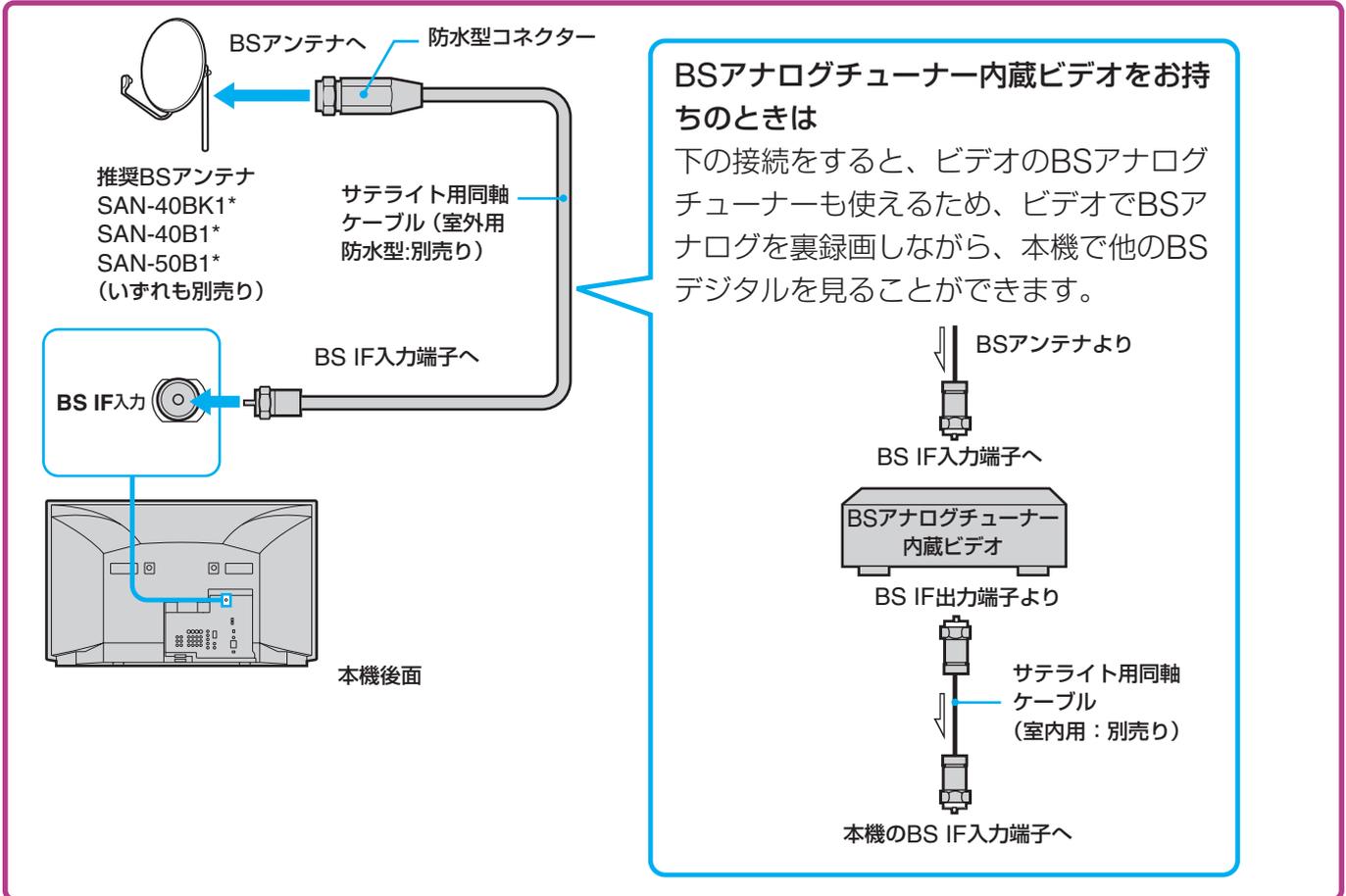
ちょっと一言

マンションなどの共同受信システムで、BS放送のアンテナレベルが低いときは、サテライトブースターをつなぐなど、信号の流れを見直す必要があります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に確認してください。

[*1] 2001年9月現在放送されているスカイパーフェクTV!のことです。110度CS放送ではありません。

[*2] 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

準備3: BSアンテナをつなぐ

BSアンテナを本機に直接つなぎます。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS混合のときは、☞124ページをご覧ください。
本機の電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

すでにBSアナログ放送をご覧いただいているときは

お持ちのBSアンテナの向きを変えることなく、そのままBSデジタルもBSアナログもそれぞれに対応したBSチューナーで受信できます。
ただし、一部のBSアンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないこともあります。受信状況が悪い場合は、BSアンテナ製造元のお客様窓口や、BSアンテナを購入した電気店などにお問い合わせください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ご注意

- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型:SAK-C10/C20/C30*など
- 次のようなときはBSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – お住まいの地域またはBSを送信する放送衛星会社（☞24ページ）の地域が雷雨、強風などの悪天候のとき
  – BSアンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（BSアンテナの向きを調整してください。☞139ページ）
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2*またはEAC-BC4*など）を必ずお使いください。
- アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが110度CSに対応していても、お使いのビデオによっては110度CSデジタル放送を受信できないことがあります。

準備3:
BSアンテナをつなぐ（つづき）

マンションなどの共同受信システムのときは

壁のアンテナ端子ひとつでBS放送とテレビ放送を受信できる共同受信システムのときは、BS放送とテレビ放送を分波して接続してください。
接続のしかたについてくわしくは「準備2：テレビ（地上波）アンテナをつなぐ」の☞124ページをご覧ください。
また、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞137ページ）。

ケーブルテレビに加入されているときは

受信契約をされているケーブルテレビ放送会社に、BSデジタル放送に対応しているかを確認してください。ケーブルテレビ放送会社が対応していれば、BSデジタルはご覧いただけます。詳しくは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

デジタルCS放送*を含めた共同受信システムのときは

お住まいのマンションの共同受信システムによって、壁のアンテナ端子への接続のしかたが異なります。マンション管理会社（または管理人や管理組合など）に、共同受信システム方式を確認して、その指示に従って、接続および受信方法の設定（☞137ページ）を行ってください。

* 2001年9月現在放送されているスカイパーフェクTV!のことです。110度CS放送ではありません。

110度CSデジタルを受信するには

110度CSにアンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが対応していれば、110度CSデジタル放送を受信できます。詳しくは、同梱の「110度CS操作ガイドブック」をご覧ください。

「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」という表示が出たら

「(メニュー切換)」メニューの、「(初期設定)」の中にある「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」が自動的に「切」になります。

1 いったん本機の電源を切る。

2 以下のことを確認する。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS IF端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。

芯線がBS-IF入力端子やケーブルのまわりの金属部分に触れないように、気をつけてください。

- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS IF端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
それでも表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

3 再び電源を入れた後、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナ設定」を設定する（☞137～138ページ）。

- BSアンテナを本機につないでいるときは、「オート」または「入」にする。
- マンションなどの共同受信システムのときは、「切」にする。

準備4：電話回線につなぐ

次のときのために、**必ず本機を電話回線につなぐ必要があります。**

- B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）に記憶された番組購入・契約状況などの情報を、電話回線を通じて定期的に本機から放送局へ自動送信するため
- ペイ・パー・ビュー（PPV）契約をして、番組単位で購入するとき（☞37ページ）
- BSデータを見ているときに、放送局と通信を行うとき（☞36、72ページ）（本体前面の通信ランプが点灯します。）

ご注意

次の電話回線には、つなげません。
- 公衆電話および、共同電話、地域集団電話
- 携帯電話および、PHS、自動車電話
- 船舶電話
- 外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」または「9」以外の数字を付けるとき

ちょっと一言

番組購入・契約状況などの情報の送受信について
- 購入情報などの送受信中には、本体前面の通信ランプが点灯します。
- 本機が電源スタンバイ（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中のとき）のまま、自動的に購入情報などを送受信することがあります。
- 購入情報などの送信には、1回あたり約30秒程度かかります。このときは、本体前面の通信ランプが点灯し、電話がかかってきたときは話し中になります。
- 本機が放送局と、購入情報などを送受信しているときは、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。
その際、一部の通信機器で呼び出し音が鳴ることがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーの代わりに、別売りの自動転換機TL-P20*を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器SMD-AP20*（2口用）をご使用ください。
また、このときに緊急に電話をかけたいときなどは、本体の電源スイッチを押して主電源を切ってください。
- 放送局によっては、ナンバーディスプレイで電話番号を「回線ごと非通知設定」にしていると通信できないことがあります。NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。
- 電話機やファクシミリを使っているときは、購入情報などの送受信はできません。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

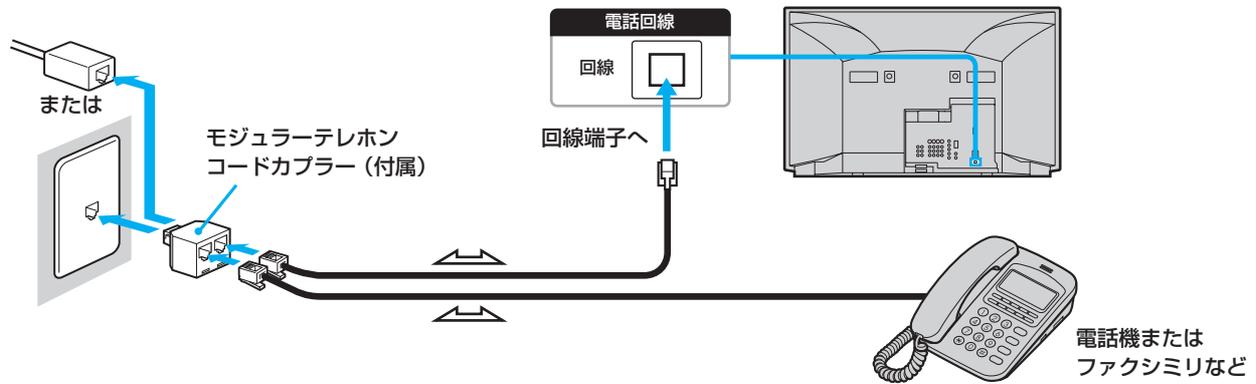
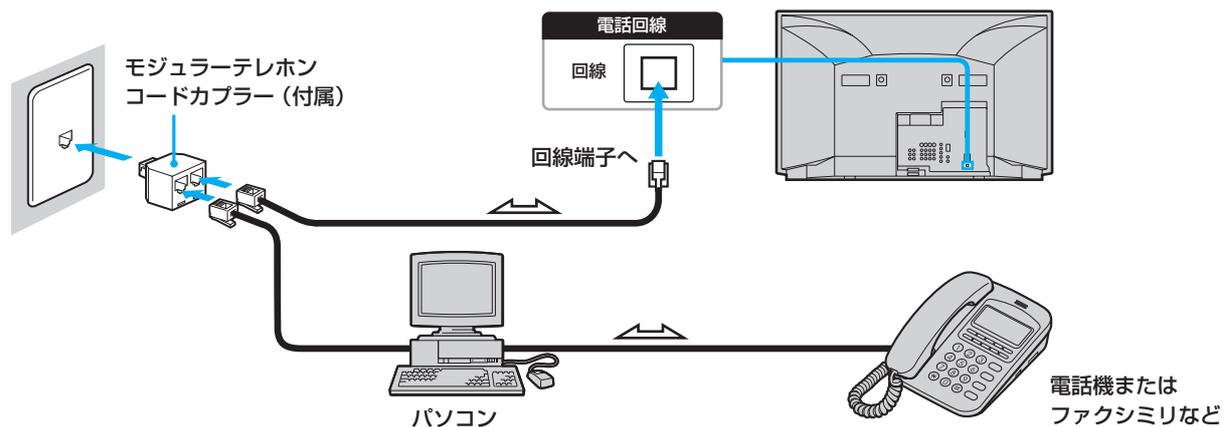
電話回線の使用状況に合わせてつなぐ

お住まいの電話回線の状況を次ページから選んで、つないでください。
また、**壁の電話コンセントがモジュラージャック式でないときは「その他のとき」（☞130ページ）をご覧ください。**

モジュラージャック

ご注意

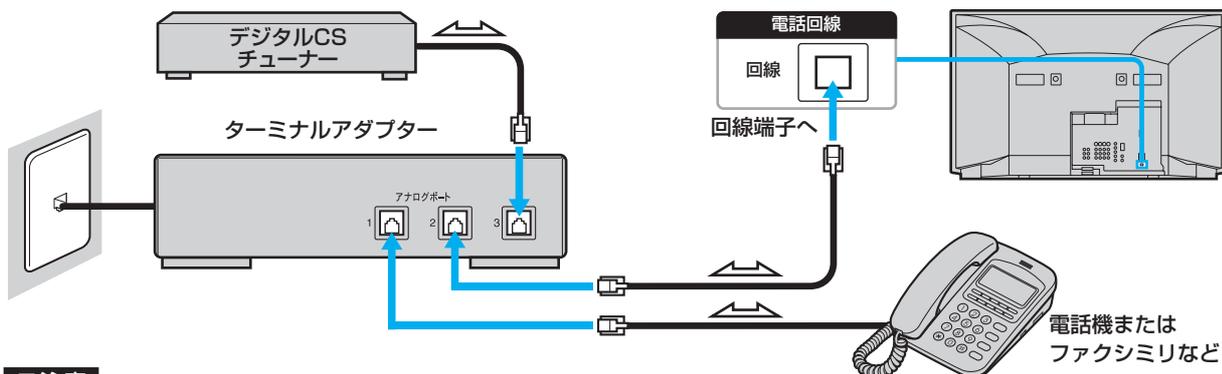
ホームテレホンのときは、壁の電話コンセントがモジュラージャック式でも専門業者による工事が必要です。

次のページにつづく

準備4:
電話回線につなぐ（つづき）

ちょっと一言

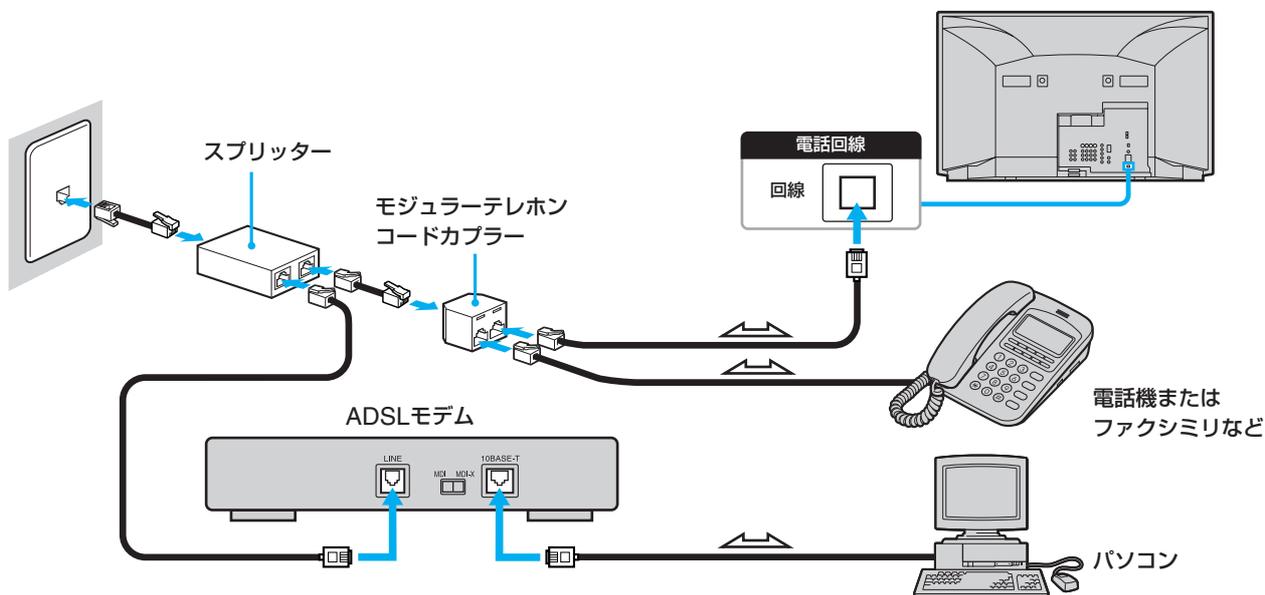
パソコンなどの通信や、すでに電話機やファクシミリなど通信機器を2台以上電話回線につないでいるときは、接続された通信機器がお互いに影響しあって、通信がうまくできないことがあります。このときは、付属のモジュラーテレホンコードカプラーの代わりに、別売りの高速データ通信用自動転換器SMD-AP20*（2口用）やSMD-AP300*（3口用）を使ってください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ISDN回線を使っているとき

お手持ちのターミナルアダプターやダイヤルアップルーターのアナログポートに直接、本機をつないでください。

ご注意

- アナログポートには、付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。2分配すると、正しく本機が働かないことがあります。
- ISDN回線端子に付属のモジュラーテレホンコードカプラーをつながないでください。無理に押し込むと破損することがあります。
- ターミナルアダプターによっては、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ターミナルアダプターの製造元にお問い合わせください。
- 本機の電話回線を「トーン」に設定してください（☞146ページ）。
- 別売りのコードレス通信ユニットCTU-50*とは併用できません。また、別売りのコードレス通信ユニットSPP-TU1*と併用するときは、うまく通信できないことがあります。

ADSL回線を使っているとき

ご注意

ADSLモデムと本機を直接つながないでください。本機はADSL回線には対応していません。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

次のページにつづく

準備4:
電話回線につなぐ（つづき）

その他のとき

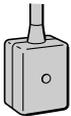
壁の電話コンセントが3ピンプラグ式のとき

3ピンプラグ式

電話コンセントと付属のモジュラーテレホンコードカプラーの間に、別売りのテレホンモジュラーアダプターTL-30*をつないでください。

壁の電話コンセントがローゼット式ジャックのとき

ローゼット式

別売りのモジュラーアダプター（TL-36*など）でつなげます。この方式の電話工事は、「工事担任者」資格者（NTT116番）に依頼してください。

壁の電話コンセントが直付けタイプのとき

直付けタイプ

「工事担任者」資格者（NTT116番）に、モジュラージャックへの変換工事を依頼してください。

壁の電話コンセントと本機を使う場所が離れているとき

別売りのコードレス通信ユニットCTU-50*やSPP-TU1*などが使えます。

壁の電話コンセントに3つの通信機器をつなぐとき

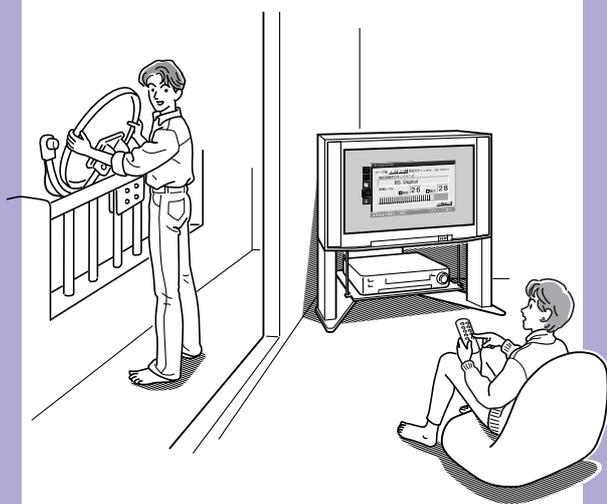
別売りのテレホンモジュラートリプルアダプターTL-23*を使ってください。なお、パソコンなどをお使いの場合は、高速データ通信用自動転換器SMD-AP300*（3口用）を使ってください。

壁埋め込みタイプのホームテレホン（電話機、ターミナルボックス、ドアホンアダプター）のとき

専門業者による工事が必要です。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

受信設定

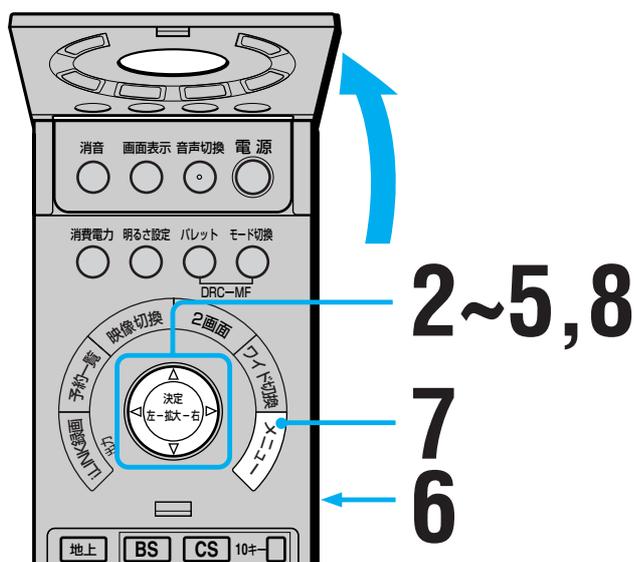
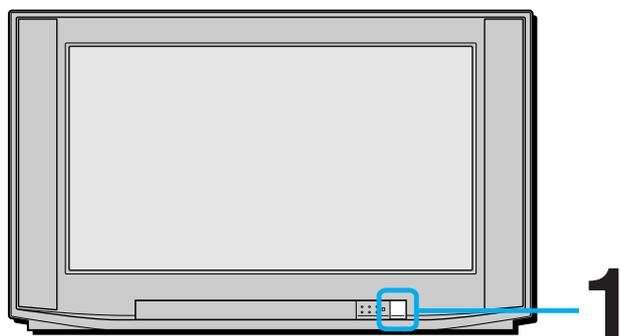
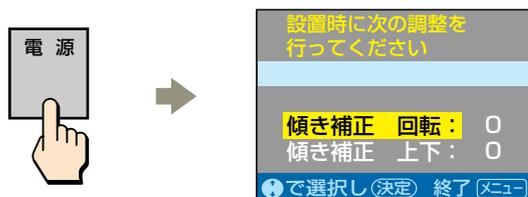
ここでは、テレビ（地上波）のチャンネル設定や、BSデジタルを視聴するための設定を説明しています。
準備5〜6（☞131〜137ページ）まで行えば、地上波を見ることができます。
準備7〜12（☞137〜151ページ）まで行えば、BSを視聴することができます。

準備5:
地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する

初めて本機の電源を入れると、「傾き補正」のメニューが表示され、地磁気など磁界によって発生する画像の傾きや画面上下位置のずれ、色むらを補正できます。これらの症状は、本機の故障ではありません。
お買い上げ時は、テレビ（地上波）アンテナやBSアンテナをつないでから、必ず画像の傾きや上下位置を補正してください。
お引っ越し後や、本機の設置場所を変えたときも、必ずメニュー画面で補正し直してください。

補正される前に確認してください。

- 外部のスピーカー（防磁型も含む）は、テレビから30cm以上離して置いてください。スピーカーの磁気により、うまく補正されなかったり、スピーカーから雑音が出たりするためです。
- 磁界の強い場所（高圧電線や電車、金属製の雨戸、鉄筋コンクリート、鉄製機材の近辺など）では、うまく補正されないことがあります。
  このときは、磁界の影響を受けない場所に設置されるか、お買い上げ店やソニーサービス窓口などにご相談ください。

次のページにつづく

準備5: 地磁気による画像の傾きや上下位置を補正する（つづき）

1 本体の電源スイッチを押す。

画面が正常に映っているときは

補正する必要はありません。手順6以降を行ってください。

2 △/▽で「傾き補正 回転」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

画面上下に表示されているバーを目安にして、傾きを補正してください。

3 △/▽で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

画面上下のバーができる限り水平になるようにします。数値は−7〜+7の範囲で変わります。

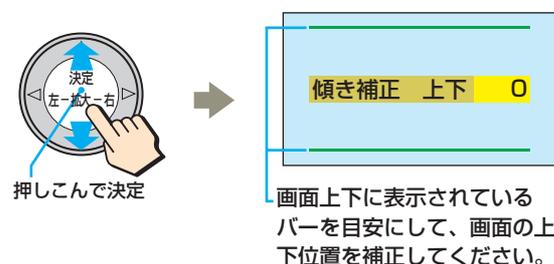
補正中の画面モードは、補正に適した「フル」になります。

ご注意

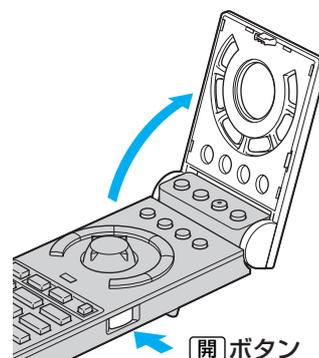
調整をするときは、一度に大きく回転させないで、1段階ずつ数値を変えてください。

一度に大きく回転させて水平を越えると、調整前と逆に傾き、色むらなどの原因になることがあります。

4 △/▽で「傾き補正 上下」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

画面上下に表示されているバーを目安にして、画面の上下位置を補正してください。

5 △/▽で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

画面の上下のバーが、画面の上下の端からできるだけ均等になるように、位置を補正します。数値は−5〜+5の範囲で変わります。

6 開ボタンを押して、フタを開ける。

7 メニューボタンを押す。

電源コードを今後抜き差しするたびに、「傾き補正」画面を表示させるかどうかを確認するメッセージが出ます。

8 「いいえ」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。

テレビの設置場所を変えたときは

画像の傾きや画面上下位置のずれを補正してください。

1. リモコン右横の[開]ボタンを押して、フタを開ける。
2. メニューボタンを押して、メニューを出す。
3. △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
4. △/▽で「画像傾き補正」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
5. △/▽で「傾き補正　回転」または「傾き補正上下」を選び、調整する。
6. 操作終了後、メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

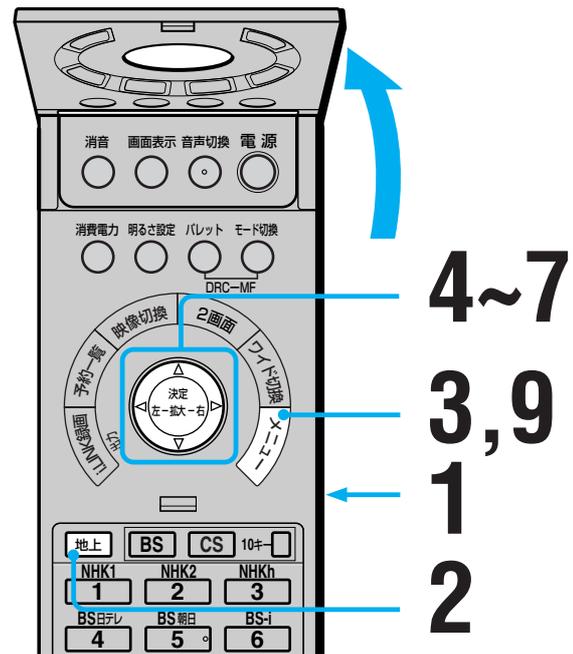
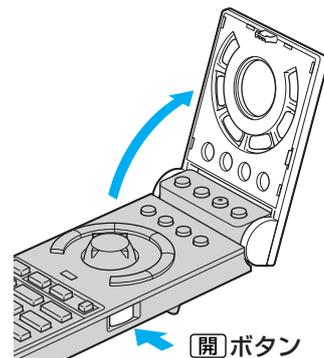
うまく補正しきれないときは、いったん本体の電源スイッチで主電源を切り、設置の場所を変えるか、本機の向きを変えてから、もう1度、傾き補正の手順を行ってください。
主電源を切らずに移動したり、向きを変えたりすると、補正がうまくされなかったり、色むらを起こす原因になります。
色むらが出たときは、移動したり、向きを変えたあとに、いったん主電源を切って30分以上待ってから本体の電源スイッチで主電源を入れてください。または、主電源を入れたままで30分以上待ってから、いったん本体の電源スイッチで主電源を切って、もう1度、主電源を入れ直してください。

準備6: テレビ(地上波)のチャンネルを設定する

受信設定

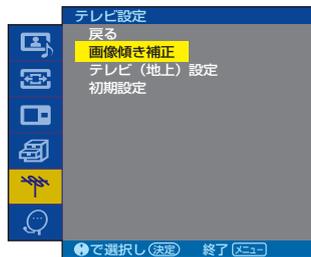
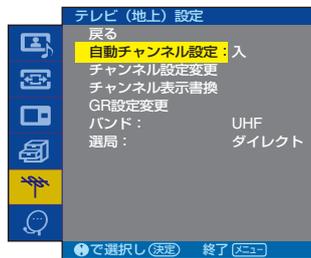
テレビ（地上波）は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

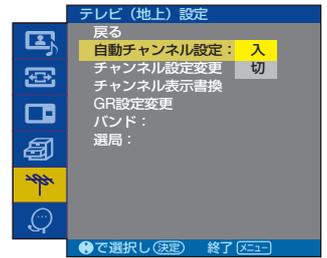
自動設定する

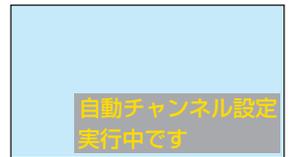
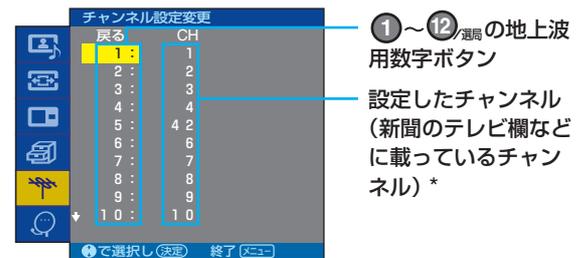
受信できる地上波を、①～⑫/選局の地上波用数字ボタンに自動的に設定します。地上波のある時間帯に行ってください。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞135～137ページをご覧ください。

1 [開]ボタンを押して、フタを開ける。

準備6: テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（つづき）

2 地上波になっていないときは、地上ボタンを押して、地上波に切り換える。

3 メニューボタンを押す。

4 ∆/∇で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ∆/∇で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 「自動チャンネル設定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

選ばれていないときは、∆/∇で選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 「自動チャンネル設定」が「入」になっていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

「切」になっているときは、∆/∇で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

* 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

8 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞135ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞154ページをご覧ください。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順7で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、リモコンのメニューボタンを押す。

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13～C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

1. ダイレクト選局になっていることを確認する（☞152ページ）。
2. リモコン右横の[開]ボタンを押して、フタを開ける。
3. メニューボタンを押して、メニューを出す。
4. △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
5. △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
6. △/▽で「バンド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
7. △/▽で「CATV」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
8. △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
9. △/▽でケーブルテレビを映したい地上波用数字ボタンの数字をメニューから選び、真ん中を押しこんで決定する。
10. △/▽で「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、真ん中を押しこんで決定する。
    ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
    例：C24
11. メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞152ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
①～⑫/選局の地上波用数字ボタンのすべてを、手動で設定できます。

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

①～⑫/選局の地上波用数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

1. リモコン右横の[開]ボタンを押してフタを開ける。
2. メニューボタンを押して、メニューを出す。
3. △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
4. △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
5. △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6. △/▽で変更したい地上波用数字ボタンの数字をメニューから選び、真ん中を押しこんで決定する。

受信設定

準備6: テレビ（地上波）のチャンネルを設定する（つづき）

7 △/▽で設定したチャンネルを変更し、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言
手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、「(テレビ設定)」メニューで「テレビ（地上）設定」を選び、「バンド」を「UHF」から「CATV」にしてください。詳しくは、☞135ページをご覧ください。

チャンネル表示を書き換えるには

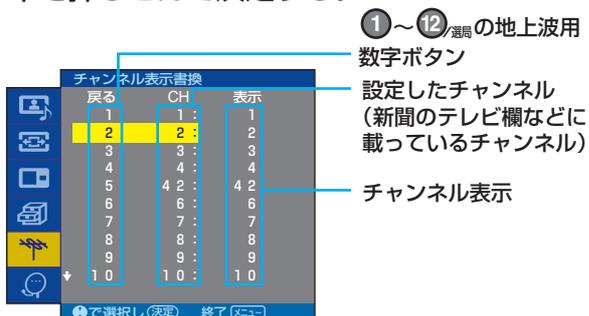
画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

1 リモコン右横の[開]ボタンを押してフタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「チャンネル表示書換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で書き換えたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽でチャンネル表示を書き換え、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言
チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。

放送のないチャンネルをとばすには

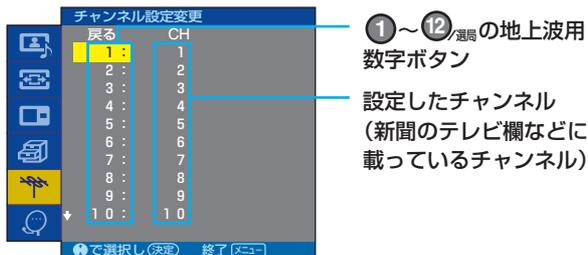
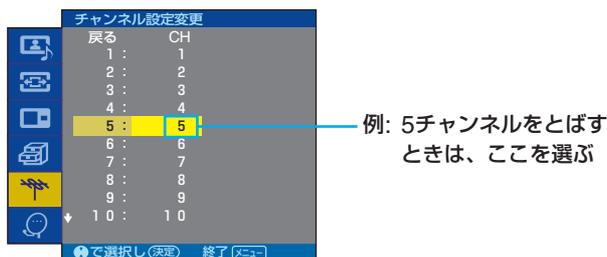
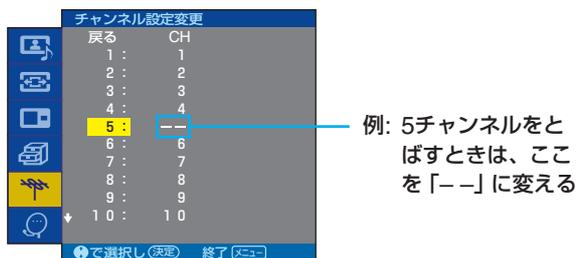
チャンネル＋/－ボタンで地上波のチャンネルを選ぶときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

1 リモコン右横の[開]ボタンを押してフタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽でとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「CH」を「– –」に変えて、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

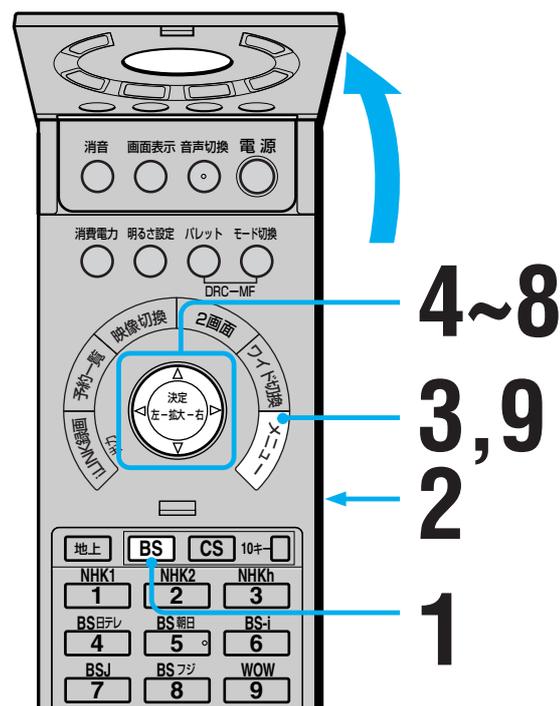
準備7: BSアンテナの設定をする

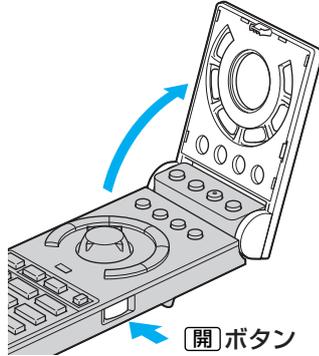
BSデジタルを見るときは、BSアンテナ電源（コンバーター電源）の設定と、BSアンテナの向きの調整を行ってください。
また、お住まいの地域に特有の放送を受信するために、地域設定を行ってください。

BSアンテナ電源を設定する

BSアンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、本機などに直接つないでいるかなど）に合わせて、BSアンテナへの電源供給を設定します。

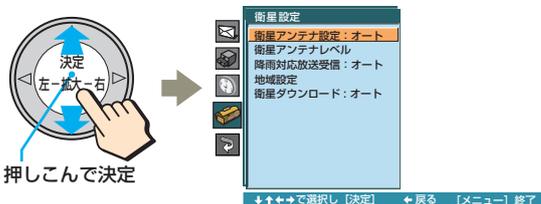
1 BSになっていないときは、BS ボタンを押して、BSに切り換える。

次のページにつづく

準備7: BSアンテナの設定をする（つづき）

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「衛星設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「衛星アンテナ設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 マンションなどの共同受信システムのときは

△/▽で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

BSアンテナをつないでいるときは

△/▽で「オート」（お買い上げ時の設定）または「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。BSが映ったり消えたりするときは「入」を選んでください。

設定	BSアンテナへの電源供給のしかた
オート（お買い上げ時の設定）	本機の電源が入っているときに、本機がBSアンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。本機の電源が切れているときは供給しない。
入	本機の電源が入っているときはつねに電源を供給する。本機の電源が切れているときは供給しない。
切	電源を供給しない。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

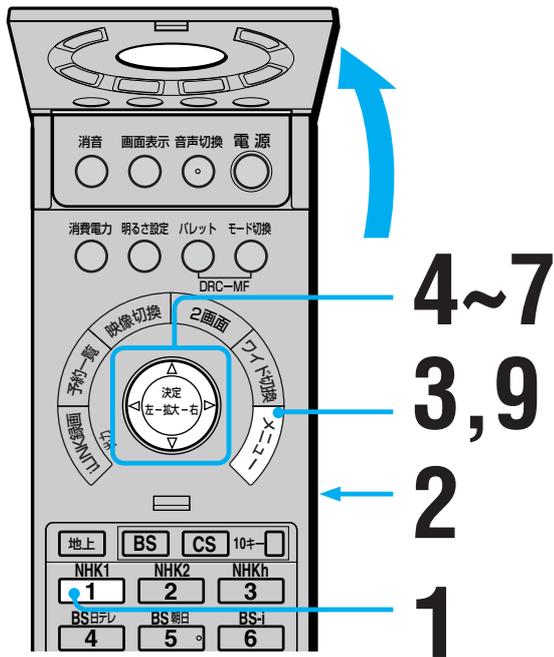
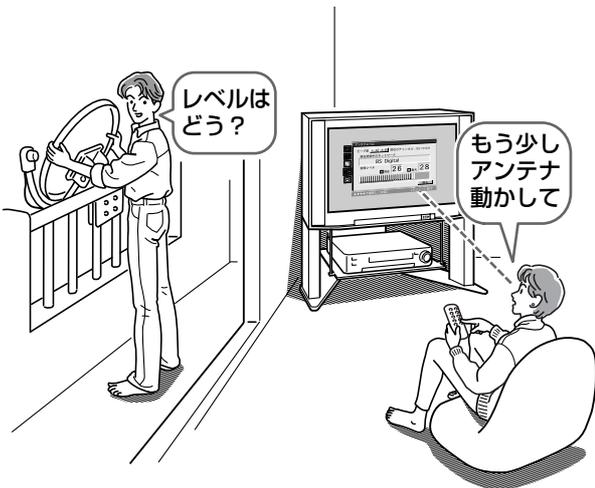
- 「オート」にしていても、BSアンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「入」にしてください。
- 1本のBSアンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「入」（または「連動」）にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器からBSアンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

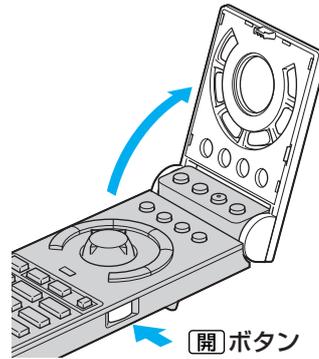
BSアンテナの向きを調整する

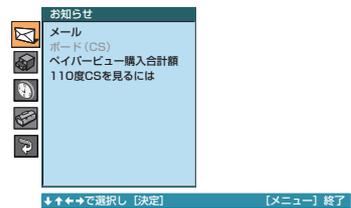
BSアンテナを本機に直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面のレベル表示を見て、もう1人がBSアンテナを動かしながら、レベル表示が最大になるように調整します。
向きや角度については、BSアンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

一部のBSアンテナでは、性能の劣化やデジタル化に必要な性能が確保されていないことがあります。受信状況が悪い場合は、BSアンテナ製造元のお客様窓口や、BSアンテナを購入した電気店などにお問い合わせください。

ご注意

「衛星アンテナ設定」が「切」になっているときは、「オート」または「入」にした後、電源を入れ直してください（☞137ページ）。

1 BS用数字ボタンの 1 を押して、NHK BS1を選局する。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

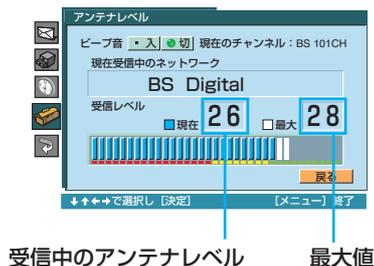
準備7: BSアンテナの設定をする（つづき）

5 △/▽で「（初期設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「衛星設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「衛星アンテナレベル」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 BSアンテナを動かして、アンテナレベルを調整する。

アンテナレベルが、できるかぎり最大の数値になるように、アンテナの向きを調整し固定します。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

BSテレビ（NHK BS1）の画面が映ります。画面がきれいに映らない場合はお買い上げ店やソニーサービス窓口などにご相談ください。

110度CSのアンテナレベルを確認するには

はじめに、BSアンテナの設定を行ってから確認してください。

1 CS ボタンを押す。

2 004chに切り換える。

3 手順2〜7を行う。

「現在受信中のネットワーク」に名称が表示されて、アンテナレベルを確認できます。

ご注意

アンテナレベルがBSと比べて低いときは、アンテナや分配器、ブースターなどが110度CSに対応していないことがあります。詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。

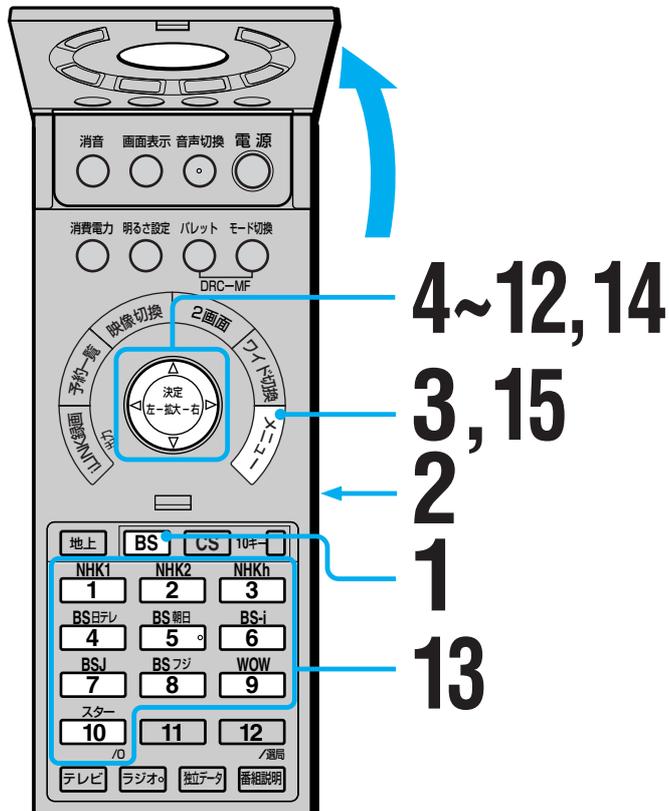
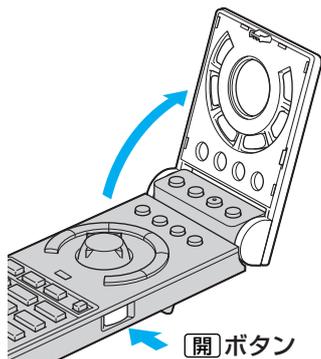
音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

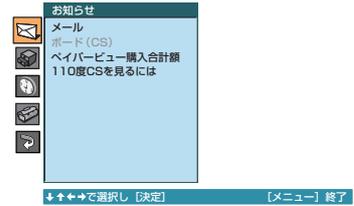
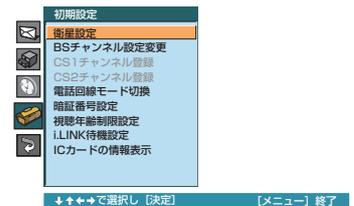
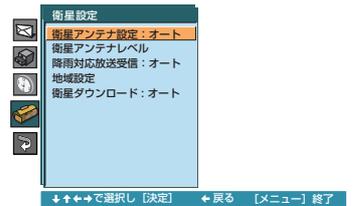
1 手順7のあと、△/▽/◁/▷で「ビープ音」の「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

2 手順8で最も高い音階の音になるよう、BSアンテナを調整する。

お住まいの地域に設定する

BSデジタルでは、地域ごとに特有の放送が行われる場合があります。お住まいの地域の放送を受信できるように、地域設定を行っておく必要があります。

1 BSになっていないときは、BS ボタンを押して、BSに切り換える。

2 開 ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「衛星設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「地域設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

準備7: BSアンテナの設定をする（つづき）

8 「県域設定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

9 △で「受信都道府県」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

都道府県名の表示欄がオレンジ色になります。

10 △/▽で、お住まいの都道府県名を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ちょっと一言

「東北海道」と「西北海道」は下記の地域です。

「東北海道」：宗谷、上川、留萌、網走、根室、釧路、十勝の各支庁

「西北海道」：石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、桧山の各支庁

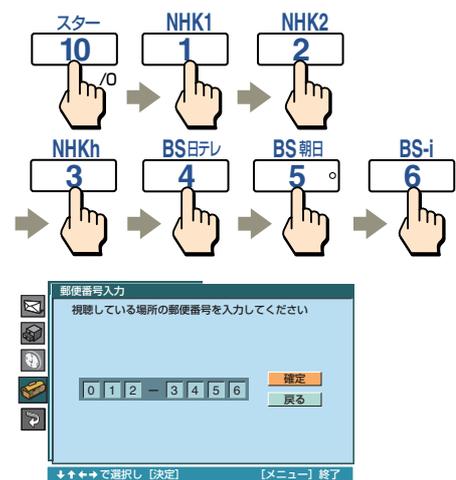
11 △/▽で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

12 ▽で「郵便番号入力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

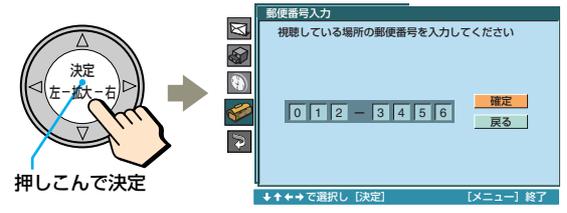
13 [1]～[10] までのBS用数字ボタンで、お住まいの地域の郵便番号7ケタを入力する。

「0」を入力するときは、[10] ボタンを押す。

郵便番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

例）郵便番号が　012-3456

ご注意

お住まいの地域の郵便番号７ケタを正しく入力してください。間違った郵便番号を入れると、お住まいの地域に密着した情報が受信できなかったり、お住まいでない地域の情報を誤って受信したりするためです。

14 「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

15 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

郵便番号を入力するときは、リモコンの△/▽/◁/▷/決定ボタンでも行えます。◁/▷で入力するケタを選び、△/▽で0〜9の数字が選べます。▷ボタンを押すと、数字が決定して次のケタに移動します。7ケタすべての数字を入力したら、最後に真ん中を押しこんで決定します。

準備8: ソニー用お客様ご登録カードを登録する

ソニーでは、BSデジタル放送の環境の変化に対応して、本機内部のソフトウェアの機能改善（バージョンアップ）サービスを行うことがあります。ソニー用お客様ご登録カードは、その際のご連絡を差し上げる際に必要となるため、必要事項を記入し、必ずご返送ください。

ご注意

- 返送していただかないと、バージョンアップのサービスが受けられなくなることがあります。
- 転居されたときは、お手数ですが、☞144ページの「デジタルベガお客様ご登録窓口」まで、忘れずにご連絡ください。

1 テレビ本体上面に貼り付けられている「ソニー用お客様ご登録カード」を取り出す。

郵便はがき

料金受取人払

葉栗局承認

差出有効期間
平成15年9月
24日まで

491-0190

愛知県一宮市大字高田字池尻６番地

ソニー 株式会社
「デジタルベガお客様ご登録」係 行

SONY

お客様へ

ご登録のお願い

この度は、BSデジタル製品をご購入いただきありがとうございました。

裏面をご記入の上、
必ずご返送下さいますようお願いいたします。

本製品では、BSデジタル放送などの環境の変化に対応して製品の性能改善を行うために、ソフトウェアのバージョンアップサービスを行う場合があります。
ソフトウェア書換えの際にはご連絡を差し上げています。

ご登録頂けない場合には、バージョンアップサービスの連絡を差し上げることができず、BSデジタル放送などの環境の変化に伴う一部の機能がご利用できなくなることがあります。

なお、バージョンアップサービスには有償の場合と、無償の場合があります。また、サービスの内容によっては対応できないものもありますのでご了承ください。

登録完了通知はお送りしませんのであらかじめご了承ください。

ご協力を心から感謝申し上げます。

準備8: ソニー用お客様ご登録カードを登録する（つづき）

2 「ソニー用お客様ご登録カード」の必要事項を記入し、投函する。

ソニー用お客様ご登録カードに関する
お問い合わせは、
「デジタルベガお客様ご登録窓口」へ

ナビダイヤル................................ 0570-00-6470
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
携帯電話・PHSでのご利用は................0586-25-6470
受付時間：月～金 9:00～18:00（年末年始祝日を除く）

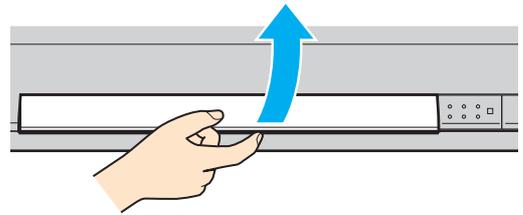
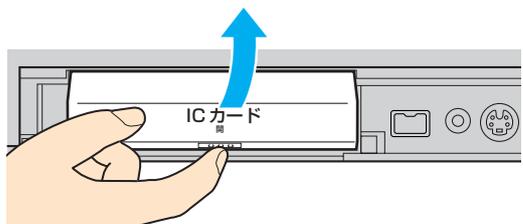
準備9：B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）を入れて登録する

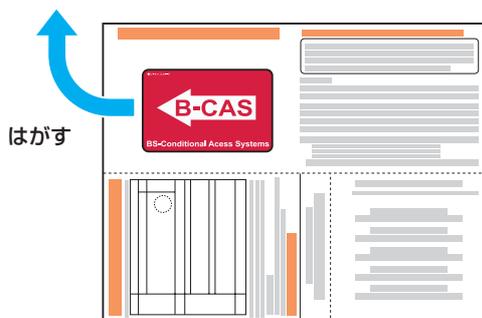
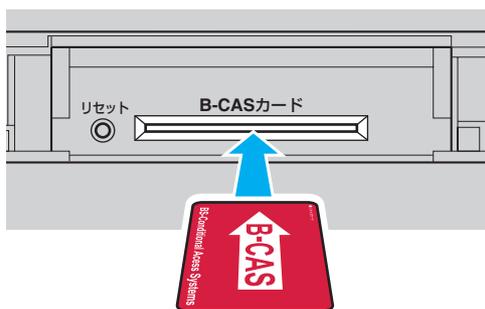
B-CAS*カード（BSデジタル用ICカード）はお客様とBS放送局をつなぐカードで、個々のお客様独自の番号などが記録されています。
BSデジタルでは、このカードを利用してCAS（限定受信システム）が採用されています。
ご登録いただくと各種サービスが利用できるようになります。
B-CASカードを本機に入れた後、必ずユーザー登録はがきを記入し、投函してください。

* B-CASは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。

ご注意

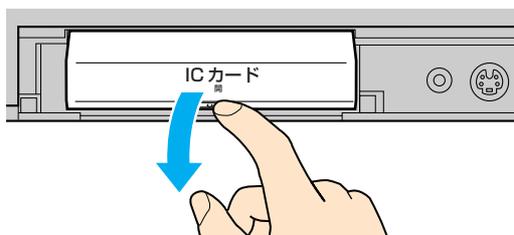
ユーザー登録をしないと、PPV番組（☞37ページ）が視聴できなかったり、BSデータ放送の双方向サービスが受けられなかったりします。また、連絡先不明のため、カードの交換や更改などのサービスが受けられません。

1 本機前面のパネルを開ける。

2 本機前面パネル内にあるICカード挿入口のふたを開ける。

3 同封の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容をお読みになり了解された上で、台紙からB-CASカードをはがす。

B-CAS用ユーザー登録はがき台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。

4 B-CASカードを奥までしっかり挿入する。

B-CASと描かれた面を上にして、
印刷された矢印の方向に挿入する。

5 ICカード挿入口のふたを閉める。

ご注意

ふたは必ず閉めてください。B-CASカードが正しく挿入されていると本機が判断できないためです。

6 同梱のB-CAS用ユーザー登録はがきに必要事項を記入し、投函する。

B-CAS用ユーザー登録はがきの登録作業が終了すると、各種サービスが利用できるようになります。

ご注意

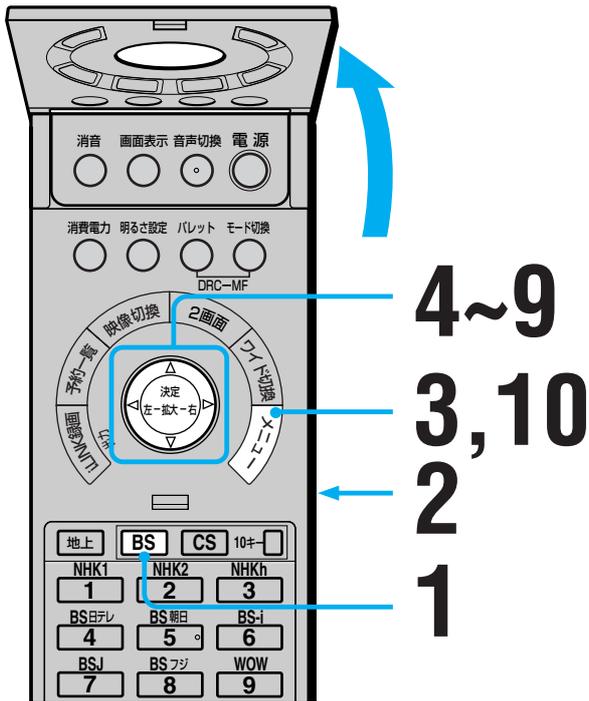
- B-CASユーザー用登録はがき台紙は、大切に保管しておいてください。有料放送に視聴を申し込む（☞151ページ）ときに必要なバーコードシールが付いていたり、B-CASカスタマーセンターへのお問い合わせ先が案内されていたりするためです。
- 転居などの際には、B-CASカスタマーセンターに連絡してください。

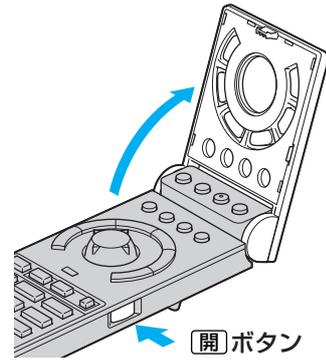
ちょっと一言

こんなメッセージが表示されたら...
（ICカードはB-CASカードのことです。）

- 「ICカードとのアクセスが成立しません
ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください：XXXX」
→ B-CASカードが奥までしっかり入っていない。
→ B-CASカードが前後逆向きに入っている。
→ B-CASカードが表裏逆向きに入っている。
→ B-CASカードが破損している。
→ B-CASカードとは別の種類のカードが入っている。
→ 上記のことをすべて確認しても表示が消えず、メッセージの終りの部分に「：FFFF」と表示されているときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口へお問い合わせください。
→ ご覧になっている各BS放送局のカスタマーセンター（☞151ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号 0570-000-250）へお問い合わせください。
- 「ICカード挿入口のふたを閉めてください」
→ ICカード挿入口のふたが開いている。
- 「ICカードを入れてください」
→ B-CASカードが奥までしっかり入っていない。
- 「このICカードは使用できません」
「ICカードを交換してください」
→ ご覧になりたいBS放送局のカスタマーセンター（☞151ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号 0570-000-250）へお問い合わせください。

準備10：電話回線を設定する

電話回線の設定と、接続テストを行います。
お買い上げ時は、「自動設定」で「通常発信」の電話回線に設定されています。

1 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「電話回線モード切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/◁/▷で、電話回線を選び、真ん中を押しこんで決定する。

お買い上げ時は「自動設定」に設定されています。

- **「自動設定」でうまく通信できないときは**
  NTTの料金明細書で「プッシュホン回線使用料」が請求されているときは、**「トーン」**を選んでください。
  請求されていないときは、**「20pps」**を選んでください。
- **ISDN回線などによるターミナルアダプターやダイヤルアップルーターを使っているときは（☞129ページ）**
  「トーン」を選んでください。
- **ADSL回線を使っているときは（☞129ページ）**
  「自動設定」（お買い上げ時の設定）のままお使いください。
- **別売りのコードレス通信ユニットCTU-50やSPP-TU1を使っているときは（☞130ページ）**
  「Sony無線通信ユニット／10pps」を選んでください。

8 ◁/▷で、発信方法を選び、真ん中を押しこんで決定する。

お買い上げ時は「通常発信」に設定されています。

外線に電話するときに、相手の電話番号にそのままかけるときは

手順9に進んでください。

外線に電話するときに、電話番号の前に「0」または「9」を付けるときは

寮や会社、学校、団体、法人などでPBX（交換機）を使い、外線に電話するときに、電話番号の頭に「0」を付ける（0発信する）、または「9」を付ける（9発信する）場合のみ、次のように設定します。
0発信するとき → 「0発信する」を選ぶ。
9発信するとき → 「9発信する」を選ぶ。

ご注意

- 会社や法人などでビジネス回線を使っているときは、本機をつなげません。寮やビルの電話を管理している担当の方に「2線式一般アナログ回線」を依頼してください。通常、ファクシミリはこの回線に接続されています。
- 引っ越しなどで外線に電話する方法が変わったときは、必ず発信方法の設定を行ってください。
- BS放送局によっては、ナンバーディスプレイで電話番号を「回線ごと非通知設定」にしていると通信できないことがあります。NTTに問い合わせて、「回線ごと非通知設定」を解除してください。

準備10: 電話回線を設定する（つづき）

9 ▽で「電話回線接続テスト」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

正しい接続であれば、「電話回線は正しく接続されています」と表示されます。

「電話回線を他の機器で使用中か、正しく接続されていません　接続を確認してください」と表示されたときは

接続を確認し、また電話回線を他の機器で使っていないか確認してください（☞127～130ページ）。

ご注意

「電話回線接続テスト」は、本機と電話回線が物理的に接続されてやり取りできるかをテストするもので、実際に電話が放送局へつながるかどうかはテストされていません。

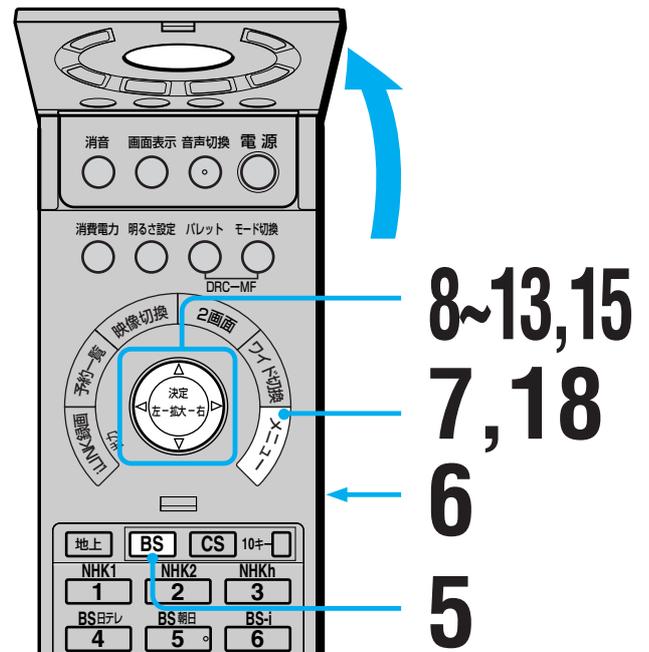
そのため、本機と電話回線が接続されていても電話がつながらないことがあります。

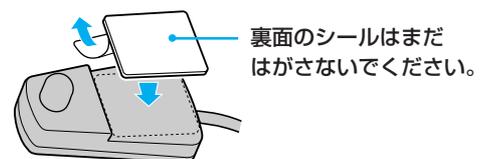
このときは、再び、手順7で電話回線の種類（「トーン」や「20pps」、「Sony無線通信ユニット／10pps」）を正しく設定し直してください。

10 メニューボタンを押して、メニューを消す。

準備11：AVマウスを設定する

AVマウスは、テレビと連動してビデオでアナログ録画予約できるように（☞59ページ）信号を出します。そのため、AVマウスから発信される信号を、お手持ちのビデオのリモコンコードに合わせて設定します。

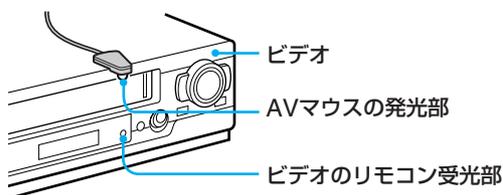
テレビと連動してビデオにアナログ録画予約するときは、必ずAVマウスを設定してください。

1 AVマウスに付属のシールを貼る。

AVマウスに付属のシールの代わりに、市販の両面テープも使えます。

2 AVマウスを本機後面のAVマウス端子につなぐ。

接続のしかたについて、詳しくは「ビデオをつなぐ」(☞167～170ページ)をご覧ください。

3 AVマウスの取り付け予定位置を決める。

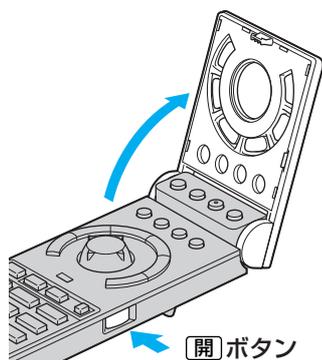
ビデオの取扱説明書でビデオのリモコン受光部位置を確認し、受光部の真上にAVマウスを置きます。

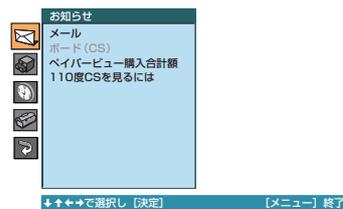
ご注意
- AVマウス裏面のシールは、まだはがさないでください。
- 取り付け位置によっては、動作しにくいビデオがあります。できるだけ受光部に近い位置に取り付けてください。

ちょっと一言
- AVマウスがビデオに届かない場合は、別売りの接続コード RK-G131* (3m) で延長してください。
- ソニー製ビデオのリモコン受光部には🅁マークが付いています。

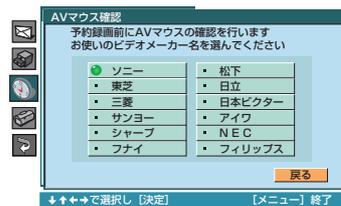
* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

4 ビデオの電源を切っておく。

5 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

6 開ボタンを押して、フタを開ける。

7 メニューボタンを押す。

8 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

9 △/▽で「(予約設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

10 △/▽で「AVマウス確認」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

11 △/▽/◁/▷でお使いのビデオのメーカー名を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

準備11：AVマウスを設定する（つづき）

12 **△/▽/◁/▷でリモコンコードを選び、真ん中を押しこんで決定する。**

お買い上げ時はソニーの「VTR3」を操作できるように設定されています。

リモコンコード表

メーカー	リモコンコード番号
ソニー	VTR1 VTR2 VTR3 VTR4 VTR5 VTR6
松下	1 2 3 4 5
東芝	1 2
日立	1 2
三菱	1 2 3 4
日本ビクター	1 2 3 4
サンヨー	1 2 3 4
アイワ	1 2 3
シャープ	1 2 3
NEC	1 2 3 4
フナイ	1
フィリップス	1

13 **△/▽/◁/▷で「電源オン／オフ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

AVマウスの動作テストが始まります。

ビデオの電源が自動的に入ると、テストは完了です。手順15に進んでください。電源が入らないときは、手順3でAVマウスの位置を再確認してから、もう1度手順13を行ってください。

14 **ビデオにリモコンコードが2個以上ある場合は、ビデオを操作できるまで、リモコンコードの設定を変えてテストする。**

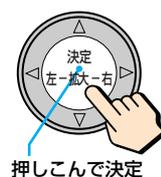
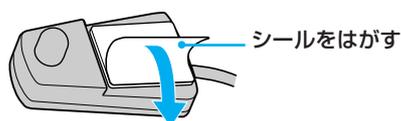
ちょっと一言

手順12で選んだ番号とビデオのリモコンコードの番号を合わせてください。その番号で操作できないときは、本機とビデオのリモコンコード番号を変えてください。本機とビデオのリモコンコード番号が異なっていても、操作できる場合があります。

ご注意

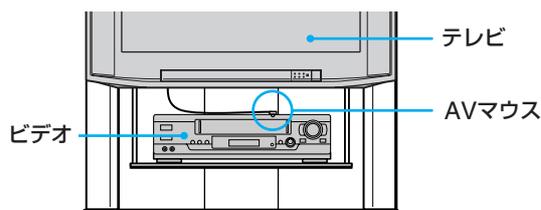
- **次のときはAVマウスは使えないため、取り付ける必要はありません。お手持ちのビデオの予約機能を使って録画予約してください（☞62ページ）。**
  - – ビデオ一体型テレビ（テレビデオやビデオコンボなど）のとき
  - – AVマウスのリモコンコードでビデオが操作できないとき（メーカーによっては、本機で操作できないリモコン信号が採用されているためです）
  - – 電源スイッチが入/切の2つの状態切換でなく、入/スタンバイ/切など3つの状態切換になるビデオのとき
- AVマウスが使えないときは、はずしておいてください。

15 **「電源オン／オフ」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。**

ビデオの電源が切れます。

16 **動作テストが終わったら、AVマウスの裏面のシールをはがす。**

17 手順3で決めた取り付け予定位置にAVマウスを固定する。

無料番組などで録画予約できる（☞59ページ）ことを、もう1度確かめてから、使うことをおすすめします。

ご注意

ビデオにほこりが付いているときちんと固定できません。ビデオのほこりを取り除いてからAVマウスを固定してください。

18 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低いビデオによっては、AVマウスでのアナログ録画予約（☞59～62ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

準備12：各局に視聴を申し込む

受信設定

加入申し込みが必要な有料BS放送局のカスタマーセンター（お問い合わせ先）一覧

以下のBSは有料放送（NHKのBS受信料も含む）のため、視聴するには、各局へ加入申し込みをして契約する必要があります。

加入申し込み方法はBS放送局により異なります。詳しくは、ご覧になりたいBS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

なお、無料放送でも登録が必要な場合があります。詳しくは、ご覧になりたいBS放送局へお問い合わせください。

また、B-CAS（ビーキャス）カード（BSデジタル用ICカード）を本体のICカード挿入口に入れて、B-CAS用ユーザー登録はがきを投函してください（☞144ページ）。

2001年9月現在の電話番号とホームページアドレスです。

BS放送局	お問い合わせ電話番号/ホームページアドレス
NHK BS1 NHK BS2 NHK デジタルハイビジョン	03-3465-1111 受付 9:00～23:00（平日） 9:00～22:00（土日） http://www.nhk.or.jp/
WOWOW	0570-008080 （携帯電話などをお使いの方は、045-683-8080） 受付 9:00～20:00 http://www.wowow.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。ラジオ放送（WOWOW wave：491、492ch）と独立データ放送（WOWOW navi：791、792ch）は無料放送です。	
スター・チャンネルBS	0570-010-110 （携帯電話などをお使いの方は、045-339-1555） 受付 10:00～20:00 http://www.star-ch.co.jp/
テレビ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（800ch）は無料放送です。	
セント・ギガ	0120-336-765 受付 10:00～21:00 http://www.stgiga.co.jp/
ラジオ放送のみが、視聴申込が必要な有料放送です。独立データ放送（633、636ch）は無料放送です。	

ご注意

加入申し込みを行わずに、NHK（BS1、BS2、デジタルハイビジョン）を受信すると、テレビ画面に連絡をお願いする案内が、自動表示されることがあります。

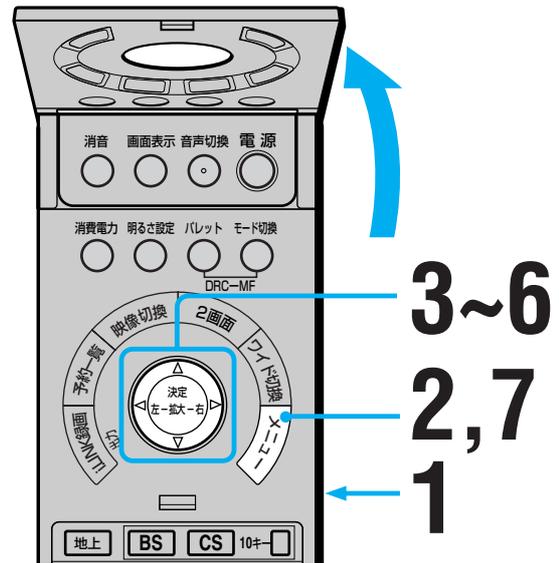
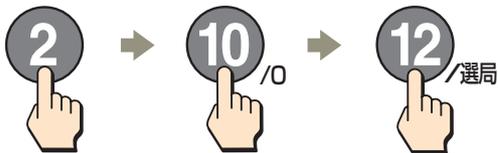
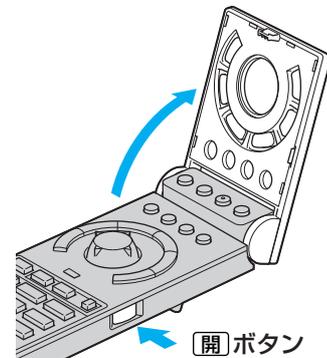
①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ [10キー選局]

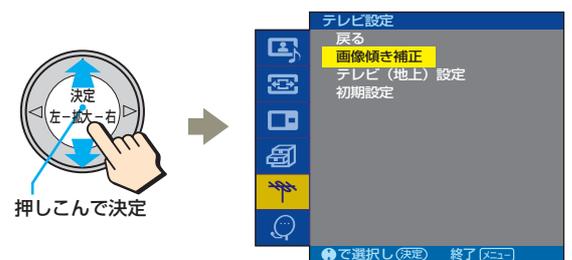
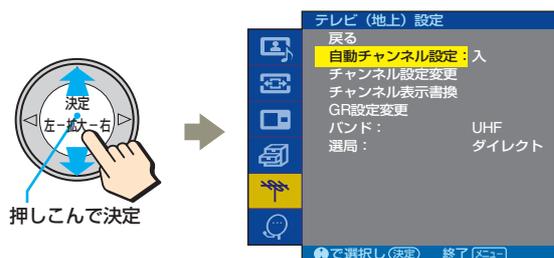
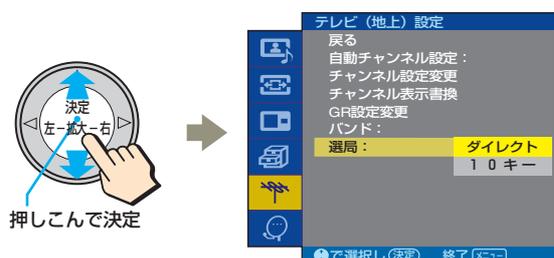
お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。
「ダイレクト選局」は、リモコンの①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大12局です。

そのため、ケーブルテレビなど見たいテレビ（地上波）チャンネルの数が12局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、①〜⑩/0の地上波用数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫/選局（＝選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0は⑩/0ボタンを使います。

ちょっと一言
①〜⑩/0までの地上波用数字ボタンを押した後、⑫/選局（＝選局）ボタンを押さなくても、約3秒後に切り換わりますが、押すとすぐに切り換わります。

例）14チャンネル

20チャンネル

1 [開]ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(テレビ設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「選局」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「10キー」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ダイレクト選局に戻すには

手順6で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞133ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順4の後に下記の操作をした後、手順5以降を行ってください。
  1 △/▽で「バンド：UHF」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
  2 △/▽で「CATV」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
  3 手順5以降を行う。

チャンネル+/−ボタンで選べる地上波チャンネルを設定するには

お買い上げ時は1〜12チャンネルが順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどで、これ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。

1 リモコン右横の［開］ボタンを押してフタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「チャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「– –」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

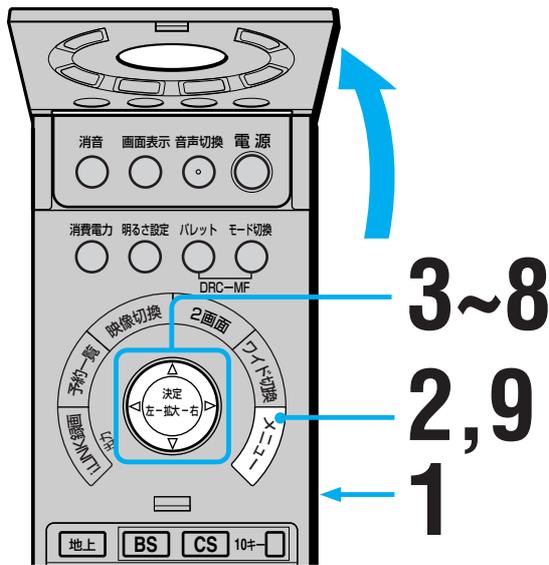
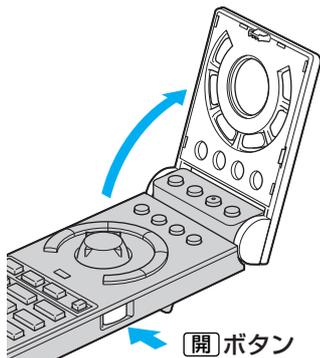
8 複数のチャンネルを設定するときは、手順6と7をくり返す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

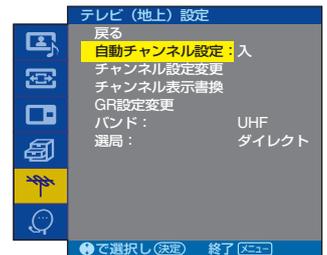
テレビ（地上波）をゴーストの少ない画像にする［ゴースト・リダクション］

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

ご注意

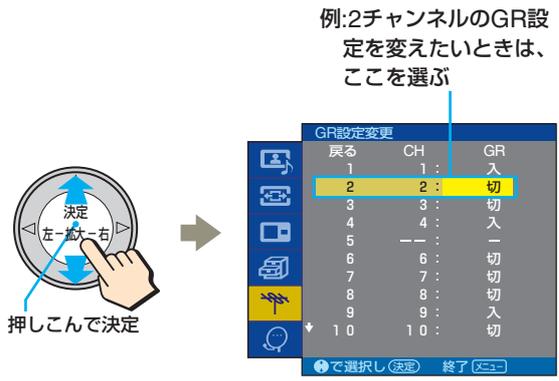
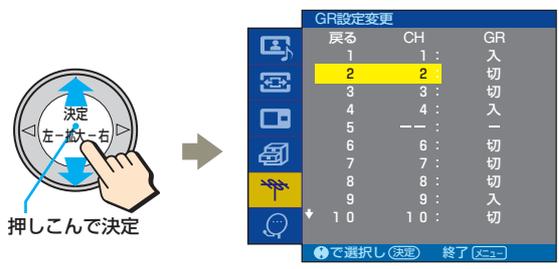
- BSデジタルにはゴーストがないので、設定の必要はありません。
- ビデオ機器の再生画像など、テレビにつないだ機器の映像に対しては設定できません。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押す。

3 △/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「テレビ（地上）設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「GR設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

設定したチャンネル（新聞のテレビ欄などに載っているチャンネル）
10キー選局のときは、「受信」または「−−」と表示されます。

1〜12/選局 の地上波用数字ボタン　GR設定

6 △/▽で設定を変えたいチャンネルを選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「入」または「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 複数のチャンネルを設定するときは、手順6と7をくり返す。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ご注意

- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が十分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ゴーストが大きすぎるとき
  - ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞82ページ）のときは左画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。

BSチャンネルを手動で設定する

11ボタン、12/選局ボタンに好みのBSチャンネルを登録する

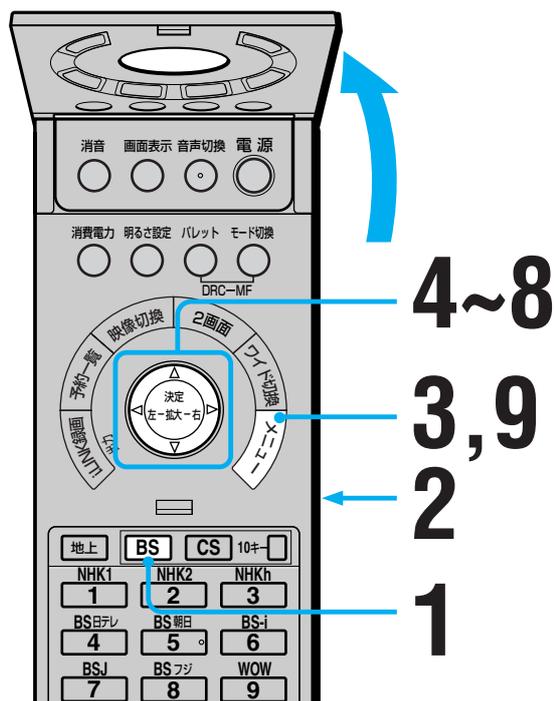
お買い上げ時は、1〜10/0のBS用数字ボタンを押せば、あらかじめ登録されているBSテレビの代表チャンネル（☞31ページ）を選局できます。

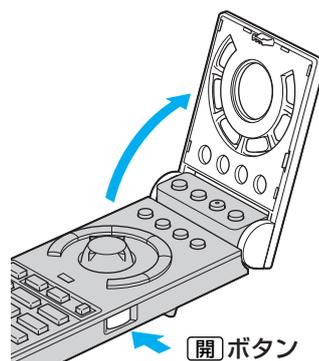
本機は、これに加えて、**11ボタンと12/選局ボタンにお好きなBSチャンネルを登録して、選局できます。**

また、次のようなときに、1〜10/0ボタンに登録されているチャンネルを変更もできます。

- BSラジオやBS独立データのチャンネルを、1〜12/選局のBS用数字ボタンで選びたいとき
- 1〜10/0ボタンに、好みの別のBSチャンネルを登録したいとき

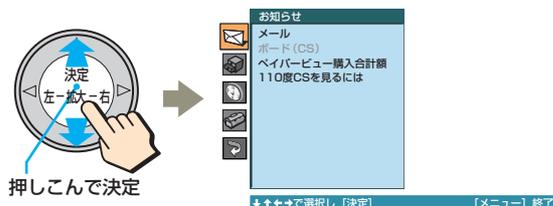
ちょっと一言

10キー■ボタンを使って、3ケタのBSチャンネル番号で選局する方法もあります（☞7、31ページ）。

ここでは、例として11ボタンに新しくBSチャンネルを登録する手順を説明します。

1 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

開ボタン

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「（初期設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「BSチャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

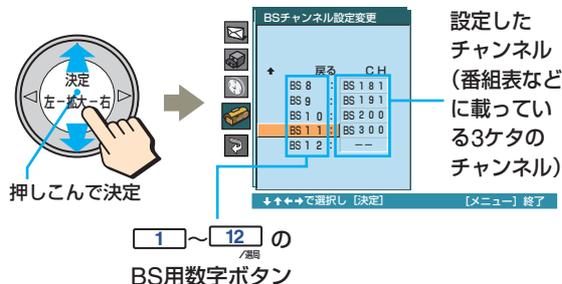
7 △/▽で「BS11」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 △/▽で、登録したいBSチャンネル番号を選び、真ん中を押しこんで決定する。

放送のあるチャンネルから選べます。

1〜12/選局 のBS用数字ボタンを押したとき、この操作で選んだチャンネルが選局されます。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

受信設定

登録されているBSチャンネルを変更したいときは

1. 手順7で、変更したい 1〜12/選局 のBS用数字ボタンを選び、決定する。
2. 手順8で、変更したいBSチャンネル番号を選び、決定する。

お買い上げ時の設定に戻すには

手順7で「BSチャンネル設定の初期化」を選び、決定する。

1〜10/0 のBS用数字ボタンで選べるBSチャンネルが、お買い上げ時の設定（各BSテレビ局の代表チャンネル）に戻ります。

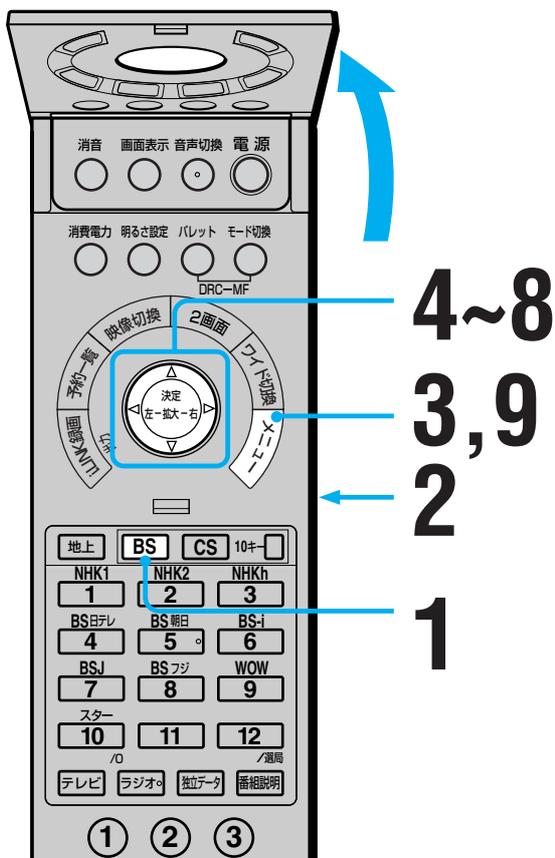
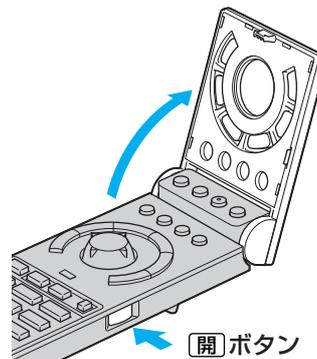
次のページにつづく

BSチャンネルを手動で設定する（つづき）

チャンネル+/–ボタンや番組表で選べるBSチャンネルを設定する

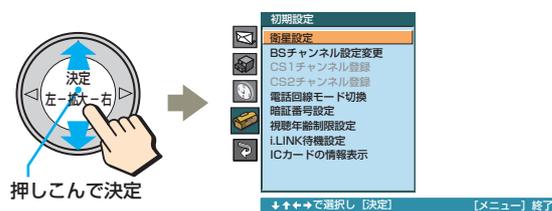
1 ～ 12 のBS用数字ボタンで選べないチャンネルを、チャンネル+/ーボタンで選んだり、番組表で表示したりするように追加できます。
また、「自動登録」に設定するだけで、現在視聴できるBSチャンネルをすべて自動登録し、リモコンのチャンネル+/ーボタンや番組表で選べるようにできます。

ご注意

1 ～ 12 のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、次の操作で追加しないと番組表に表示されません。

1 BSになっていないときは、BS ボタンを押して、BSに切り換える。

2 開 ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

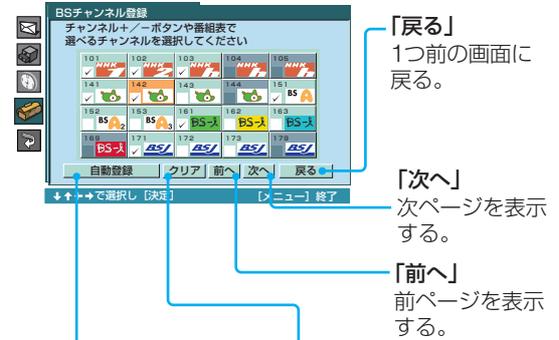
4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「BSチャンネル設定変更」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 △/▽で「BSチャンネル登録」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

BSのすべてのチャンネルが3ケタのチャンネル番号順に表示されます。

8 △/▽/◁/▷で、変更したいチャンネルにカーソルを合わせ、真ん中を押しこんで決定する。

選んだBSチャンネルの□に✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるようになります。

ちょっと一言

- ［　］のように明るく表示されるチャンネルは、契約済みまたは無料のチャンネルです。
- ［　］のように暗く表示されるチャンネルは、未契約のチャンネルまたは臨時チャンネルです。
- □の付いているチャンネルにだけ、✓を付けられます。
- 新しくBS放送局が開設されると、チャンネルが自動で追加されます。

現在視聴できるBSチャンネルをすべて自動登録するには

「自動登録」を選び、決定する。
現在視聴できるすべてのBSチャンネルに✓が付き、リモコンのチャンネル＋/－ボタンや番組表で選べるようになります。

✓をはずすには

✓の付いているチャンネルを選び、決定する。

ご注意

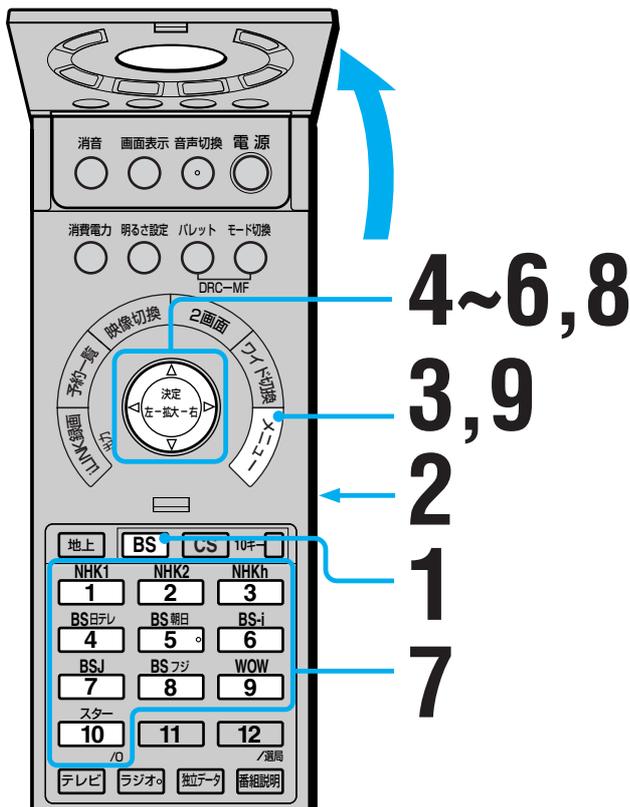
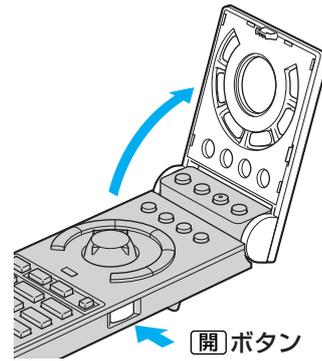
- ［1］～［12/選局］のBS用数字ボタンに登録されたチャンネルには、あらかじめ□のない✓が付いていて、✓は、はずせません。
- 臨時チャンネルは選べません。□も表示されません。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

暗証番号を設定する

視聴年齢制限付き番組を視聴制限する（☞30ページ）ためには、暗証番号の設定が必要です。

ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。
視聴年齢制限付き番組を見るときに入力が必要です。
万一、忘れたときは、ご覧になりたいBS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

1 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「（初期設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

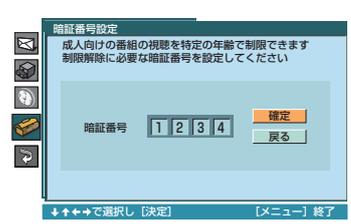
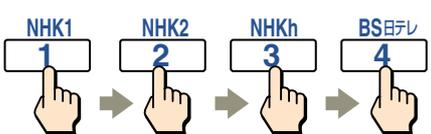
6 △/▽で「暗証番号設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで4ケタの暗証番号を入力する。

「0」を入力するときは、10 ボタンを押す。
暗証番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

ご注意

設定した暗証番号は、忘れないようにしてください。
万一、忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

例）暗証番号が1234の場合

8 「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

9 メニューボタンを押して、メニューを消す。

暗証番号を変更するには

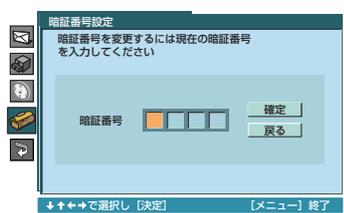
1 BSになっていないときは、BS ボタンを押して、BSに切り換える。

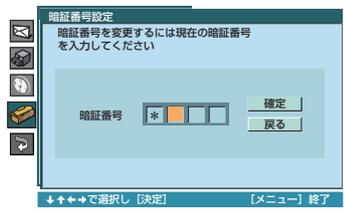
2 リモコン右横の 開 ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「暗証番号設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで変更前の4ケタの暗証番号を入力する。

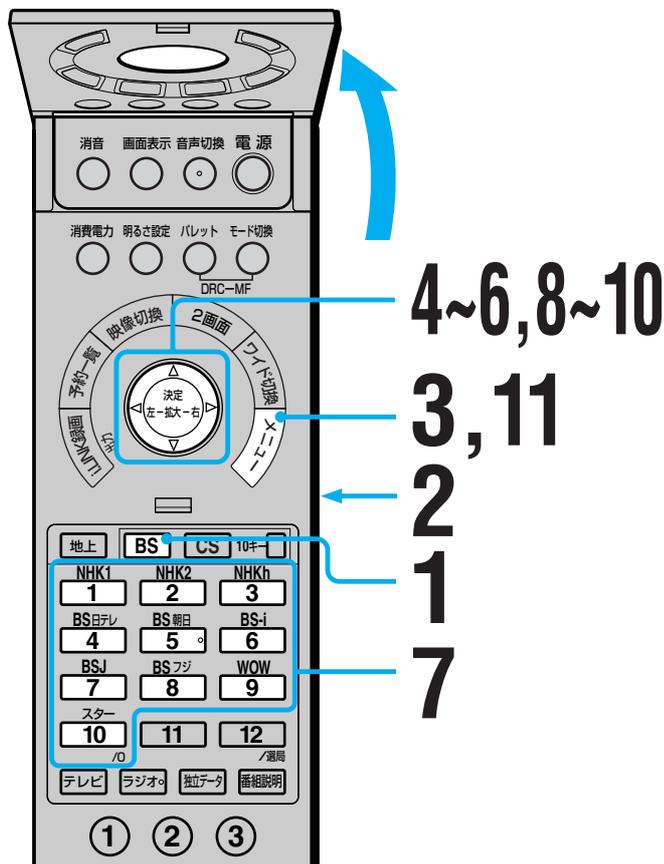
変更前の暗証番号は、＊マークで表示されます。

変更前の暗証番号を忘れたときは、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください。

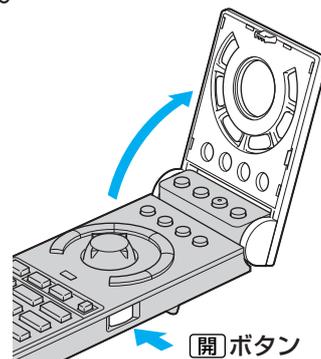
8 「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

9 1 〜 10 までのBS用数字ボタンで好みの数字を入力し、△/▽で「確定」を選んで真ん中を押しこんで決定する。

暗証番号が変更されます。

視聴年齢制限を設定する

視聴年齢制限付き番組（番組表☞42ページやMYプラス☞47、49、53ページ、「番組説明」画面☞34ページで🔒のついている番組）を視聴できる年齢を制限できます。
制限すると、設定した暗証番号（☞160ページ）を入れないと、視聴できなくなります。
お買い上げ時、視聴年齢制限は設定されていません。

1 BSになっていないときは、BSボタンを押して、BSに切り換える。

2 開ボタンを押して、フタを開ける。

3 メニューボタンを押す。

4 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

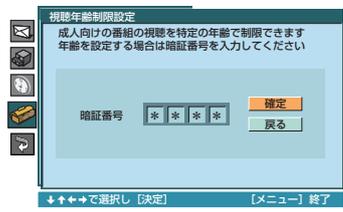
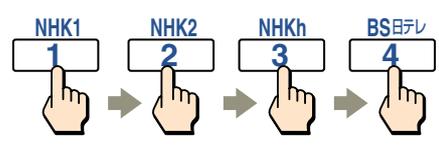
6 △/▽で「視聴年齢制限設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 [1]～[10]までのBS用数字ボタンで、設定してある4ケタの暗証番号(☞160ページ)を入力する。

「0」を入力するときは、[10]ボタンを押す。

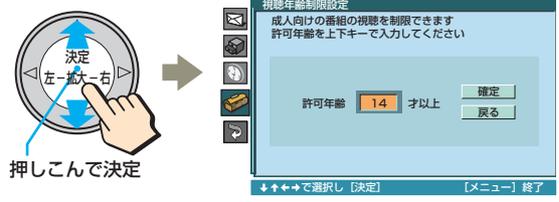
暗証番号を間違えたときは◁で戻り、入力し直してください。

入力された数字は＊マークで表示されます。

例）暗証番号が1234の場合

8 「確定」が選ばれていることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

9 △/▽で年齢制限を設定し、真ん中を押しこんで決定する。

4歳～19歳で設定できます。

例えば「14歳以上」に設定すると、15歳から視聴可能な番組を視聴するときに暗証番号の入力が必要です。15歳から視聴可能な番組は、番組表（☞42ページ）やMYプラス（☞47、49、53ページ）、「番組説明」画面（☞34ページ）では「🔒15才～（15歳以上視聴可能）」と表示されます。

すべての成人向け番組の視聴を制限するときは

「4歳以上」などの低い年齢に設定する。

視聴年齢制限付き番組を選ぶと、暗証番号を入力しないと見ることができなくなります。

視聴制限をしないときは

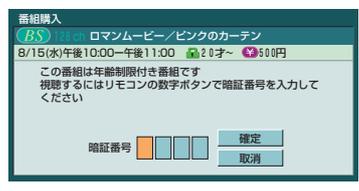
許可年齢を「なし」に設定する。

視聴年齢制限付き番組でも暗証番号を入力しないで、見ることができます。

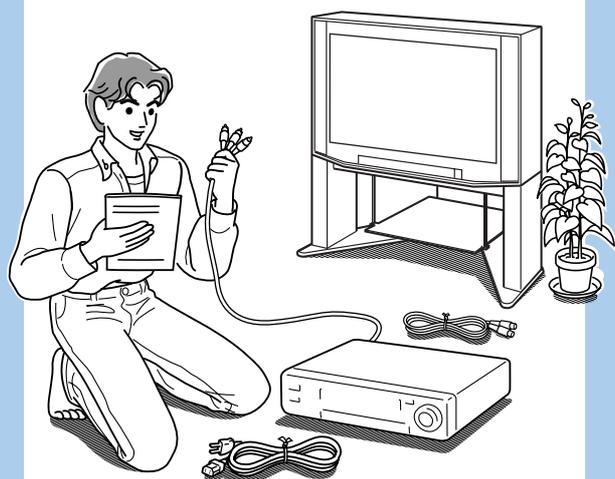
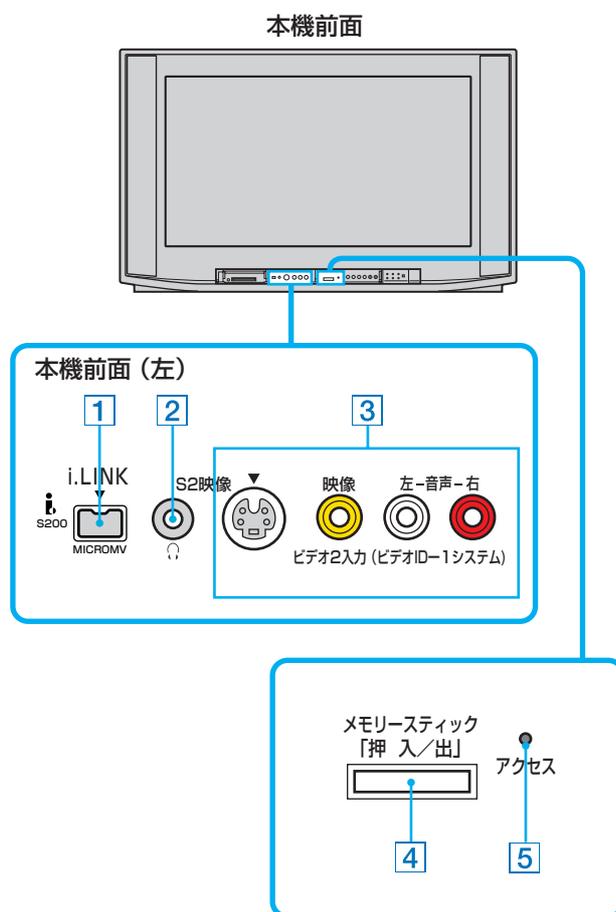
10 △/▽/◁/▷で「確定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

11 メニューボタンを押して、メニューを消す。

視聴年齢制限付き番組を選ぶと

暗証入力画面が表示されます。設定した暗証番号を[1]～[10]の数字ボタンで入力すると、番組を見ることができます。

受信設定

他機との接続

ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
i.LINK端子へのi.LINK対応機器のつなぎかたについての説明は、「i.LINKでの接続」（☞180〜191ページ）をご覧ください。
テレビを見るための接続と準備については、「接続」（☞118〜130ページ）と「受信設定」（☞131〜163ページ）をご覧ください。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 i.LINK S200（MICROMV）端子（☞183、184ページ）

MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7などのi.LINK対応機器につなぎます。デジタル信号が入出力されます。詳しくは「i.LINKでの接続」（☞180〜191ページ）をご覧ください。

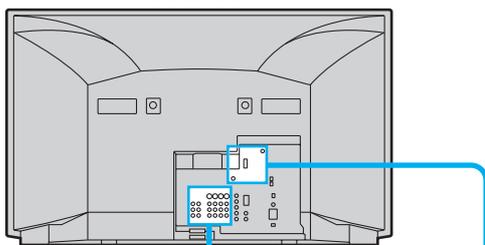
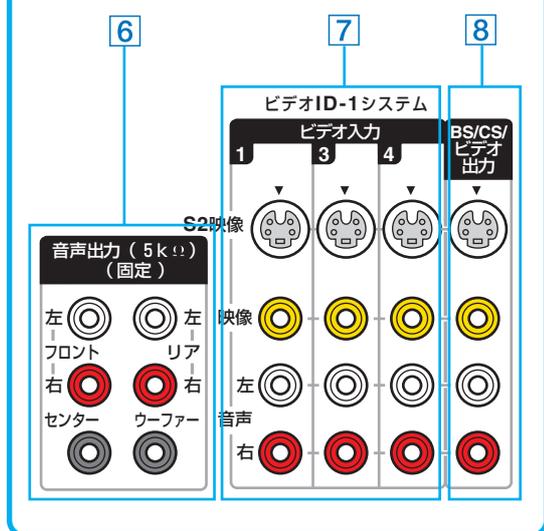
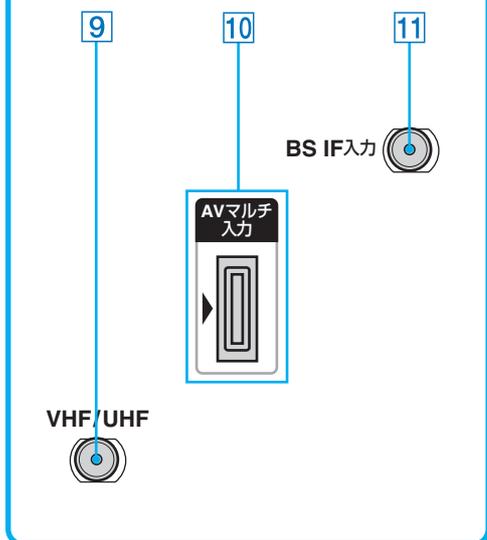
2 ヘッドホン端子

ヘッドホンをつなぎます。

3 ビデオ2入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞174ページ）

テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

4 “メモリースティック” 挿入口（☞111ページ）

5 “メモリースティック” アクセスランプ（☞111ページ）

☞のページに詳しい説明があります。

6 音声出力端子（5kΩ）（固定）（フロント左/フロント右/リア左/リア右/センター/ウーファー）（☞177、179ページ）

オーディオ機器の音声入力端子につなぎます。
BS録画予約（☞63ページ）の設定に関係なく、スピーカーから聞こえる音声が出力されます。

5.1ch入力対応のオーディオ機器につなぐときは
☞177ページをご覧ください。

その他のオーディオ機器（2ch）につなぐときは
☞179ページをご覧ください。

ご注意
本機前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子（5kΩ）（固定）からの音声信号が出力されなくなります。音声出力端子（5kΩ）（固定）にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

7 ビデオ1、3、4入力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞167～172、175ページ）

ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

8 BS/CS/ビデオ出力端子（S2映像/映像/音声）（ビデオID-1システム）（☞167～172ページ）

ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
テレビ（地上波）、BS、ビデオ1～4入力*1、AVマルチ（RGB）入力の信号が出力されます。

*1 ただし、ビデオ1入力の信号については、「📡（テレビ設定）」メニューで「初期設定」を選び、「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」にする必要があります（☞170ページ）。

ご注意
- 次の入力端子につないだ機器の映像/音声信号は出力されません。
  – コンポーネント入力
  – AVマルチ（Y/CB/CR）入力
- “メモリースティック”に記録された静止画像は出力されません。
- BS字幕放送やiLINKで録画した番組の字幕の映像信号は出力されません。
- BSラジオやBSデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。
- i.LINKで録画したBSラジオやBSデータの音声は、記録できますが、画像は正しく記録されません。

BS録画予約実行中（☞59～63ページ）のご注意
通常は、テレビに映っている映像と音声を出力します。ただし、BS録画予約実行中はテレビに映っている映像と音声には関係なく、予約したBSチャンネルの映像と音声が出力されます。

9 VHF/UHFアンテナ端子（☞123～124ページ）

VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

10 AVマルチ入力端子（☞173ページ）

別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250*2）を使って、“プレイステーション 2”、“プレイステーション”（PS one）および“プレイステーション”のAVマルチ出力端子につなぎます。RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

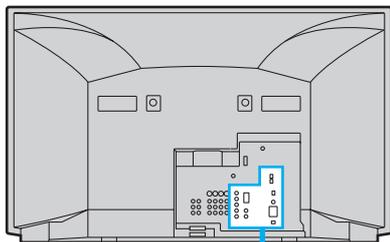
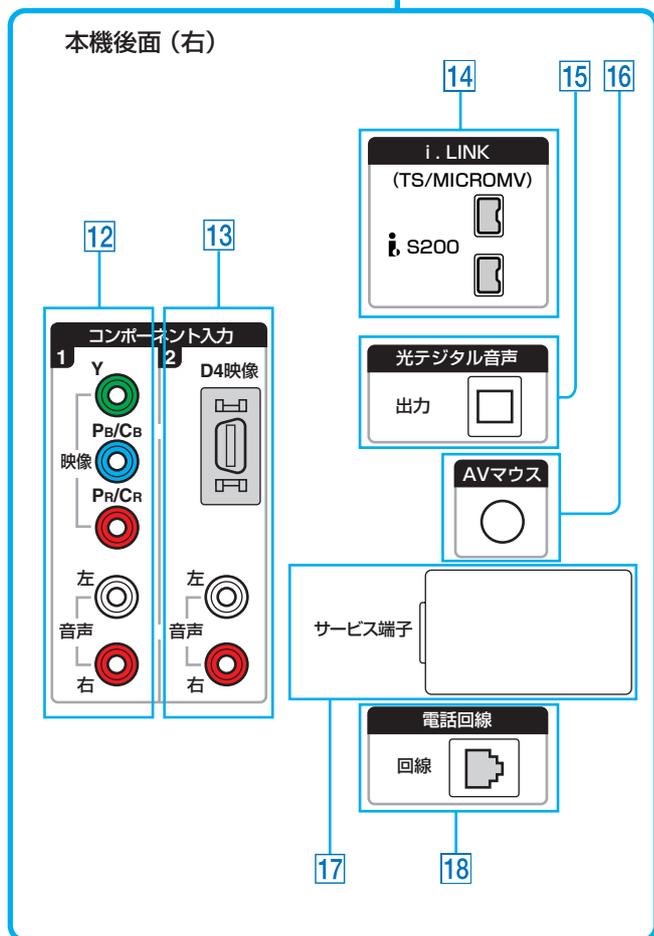
11 BS IF入力端子（☞124～126、168～169ページ）

BSアンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。BSアンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

*2 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

他機との接続

次のページにつづく

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

12 コンポーネント1入力端子（Y PB/CB PR/CR 映像/音声）（☞174～176ページ）

Y PB/CB PR/CR 映像入力端子

DVDプレーヤーのコンポーネントビデオ出力端子（Y/CB/CRまたは、Y/B-Y/R-Y、Y/PB/PR)、またはハイビジョン機器の映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

DVDプレーヤーまたはハイビジョン機器の音声出力端子につなぎます。

コンポーネント1入力端子にハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐときは☞176ページをご覧ください。

13 コンポーネント2入力端子（D4映像/音声）（☞171、175ページ）

D4映像入力端子

デジタルCSチューナーやビデオ機器などのD映像出力端子につなぎます。

音声入力端子

デジタルCSチューナーやビデオ機器などの音声出力端子につなぎます。

D4映像入力端子での入力信号切換について（HDモード）

通常は、お買い上げ時の設定「HDモード：オート」のままでお使いください。
D4映像入力端子に入力される以下の2種類の信号を自動的に判別して、本機画面に映すためです。

- **デジタルハイビジョン放送**（有効走査線数1080本）：D4映像入力端子に他のBSデジタルチューナーなどデジタルハイビジョン放送機器がつながっているとき。
- **従来のハイビジョン放送**（有効走査線数1035本）：D4映像入力端子に従来のハイビジョン（ベースバンド）機器がつながっているとき。デジタルハイビジョンの識別制御信号がない映像信号は、有効走査線数1035本の画像で表示します（☞176ページ）。

なお、「(各種切換)」メニューで「HDモード」を選び、「HDモード:1080」や「HDモード:1035」に設定できます。このときは、設定していない方の信号は正しく映りません。

D端子について

BSデジタルには次のような信号フォーマットがあります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i（480i）	525本	480本
525p（480p）	525本	480本
1125i（1080i）	1125本	1080本
750p（720p）	750本	720本

iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です（☞27ページ）。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

BSデジタルの信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×
D4端子	○	○	○	○

14 i.LINK S200（TS/MICROMV）端子

ハードディスクレコーダーVRP-T1などのi.LINK対応機器とつなぎます。
デジタル信号を入出力します。詳しくは「i.LINKでの接続」（☞180~191ページ）をご覧ください。

15 光デジタル音声出力端子（☞178ページ）

AACデコーダー内蔵のAVアンプなどや、サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの、光デジタル音声入力端子につなぎます。
BSデジタル放送のデジタル音声が出力されます。
また、テレビ（地上波）やビデオ機器などからのアナログ音声などはPCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

AACデコーダー内蔵のAVアンプなどにつなぐときは
☞178ページをご覧ください。

サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどにつなぐときは
☞178ページをご覧ください。

16 AVマウス接続端子（☞148、168、169ページ）

付属のAVマウスをつなぎます。

17 サービス端子

修理のときなどサービス業務に使います。ふたを開けないでください。

18 電話回線端子（☞127～130ページ）

付属のモジュラーテレホンコードカプラーを使って電話コンセントにつなぎます。また、ISDN回線をお使いのときは、ターミナルアダプターのアナログポートにつなぎます。ADSL回線をお使いのときは、スプリッターとモジュラーテレホンコードカプラーを使ってつなぎます。

コンポーネント1、2入力端子につないだ機器の画像の色合いについて（カラーマトリクス）

コンポーネント入力につないだデジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどの出力が、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の各信号フォーマットのとき、映像が自然な色あいになるように設定できます。
通常はお買い上げ時の設定のままでお使いください。色あいが不自然になったときには、設定し直してください。
「（各種切換）」メニューで「カラーマトリクス」を選び、コンポーネント1、2の各入力ごとに、480p、1080i、720pの信号フォーマットを選んで、「Y/CB/CR」または「Y/PB/PR」で、自然な色あいになる方に設定してください。
お買い上げ時は、「480p」は「Y/CB/CR」、「720p」は「Y/PB/PR」、「1080i」では「Y/PB/PR」に設定されています。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S2映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、S2映像端子につないでください*。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

* レーザーディスクプレーヤーのときは映像端子につないでください。三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

BSアナログチューナーのないビデオのとき

BSデジタルのBSテレビをアナログ録画予約したり（☞59ページ）、ビデオ機器の再生画像を見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

①ビデオの再生画像を見るための接続です（☞21ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。
②BSデジタルをビデオにアナログ録画するための接続です（☞59～63ページ）。ビデオにS映像入力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。
③BSデジタルを本機と連動してBS録画予約するための接続です（☞59ページ）。AVマウスの設定については「準備11：AVマウスを設定する」（☞148ページ）をご覧ください。
* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ビデオを見るには

ビデオボタンを押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

ご注意

- BSテレビを録画するときは、BS録画予約することをおすすめします（☞59ページ）。BS録画予約をしないと、録画中にチャンネルを選んだりしたときなどに、画像が切り換わったり乱れたりします。
- BSラジオやBSデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。
- BS字幕放送の字幕は録画されません。
- 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3、4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/CS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞170ページ）。

BSアナログチューナー内蔵ビデオのとき

BSデジタルのBSテレビをアナログ録画予約したり（☞59ページ）、ビデオ機器の再生画像を見たりするための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

本機後面

BS IF入力
AVマルチ入力
VHF/UHF
ビデオ入力 1 3 4
BS/CS/ビデオ出力
AVマウス
S2映像
映像
左
音声
右

S映像・音声コード
（別売り:YC-810S*など）
ビデオにＳ映像出力端子がないときは、Ｓ映像コードの代りに映像コードでつないでください。

S映像・音声コード
（別売り:YC-810S*など）
ビデオにＳ映像入力端子がないときは、Ｓ映像コードの代りに映像コードでつないでください。

AVマウス（付属）
ビデオのリモコン受光部の近くへ

S映像・音声出力端子へ
S映像・音声入力端子へ
BS IF出力端子へ
VHF/UHF出力端子へ
BSアナログチューナー内蔵ビデオ
BS IF入力端子へ
VHF/UHF入力端子へ
BSアンテナより
アンテナより

⇀：映像・音声信号の流れ

① ビデオの再生画像を見るための接続です（☞21ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。

② BSデジタルをビデオにアナログ録画するための接続です（☞59~63ページ）。BSアナログ放送の録画は、ビデオ自身に内蔵のBSアナログチューナーで受信し録画してください。ビデオにS映像入力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。

③ BSデジタルを本機と連動してBS録画予約するための接続です（☞59ページ）。AVマウスの設定については「準備11：AVマウスを設定する」（☞148ページ）をご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ビデオを見るには

ビデオボタンを押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

ご注意

- BSテレビを録画するときは、BS録画予約することをおすすめします（☞59ページ）。BS録画予約をしないと、録画中にチャンネルを選んだりしたときなどに、画像が切り換わったり乱れたりします。
- BSラジオやBSデータの音声は記録できますが、画像は正しく記録されません。
- BS字幕放送の字幕は録画されません。
- 本機から録画した16:9の映像を、画面の縦横比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き延ばされて出力されます。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3、4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/CS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞170ページ）。
- アンテナや分配器、ブースター（増幅器）、および共同受信システムが110度CSに対応していても、お使いのビデオによっては110度CSデジタル放送を受信できないことがあります。

ビデオをつなぐ（つづき）

本機ビデオ1〜4入力のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S2映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 **ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。**

2 **リモコン右横の［開］ボタンを押して、フタを開ける。**

3 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

4 **△/▽で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「S映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **S2映像入力端子から入力された画像を見るときは**
△/▽で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

映像入力端子から入力された画像を見るときは
△/▽で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ビデオ1入力の信号をBS/CS/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS/CS/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。
そのため、BS/CS/ビデオ出力端子につないだビデオ機器などで、ビデオ1入力の映像や音声を楽しむときなど（☞168〜169ページ）は、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS/CS/ビデオ出力端子から出力されます。

1 **リモコン右横の［開］ボタンを押して、フタを開ける。**

2 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

3 **△/▽で「（テレビ設定）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

4 **△/▽で「初期設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

5 **△/▽で「ビデオ出力設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

6 **△/▽で「ビデオ1あり」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

デジタルCSチューナーをつなぐ

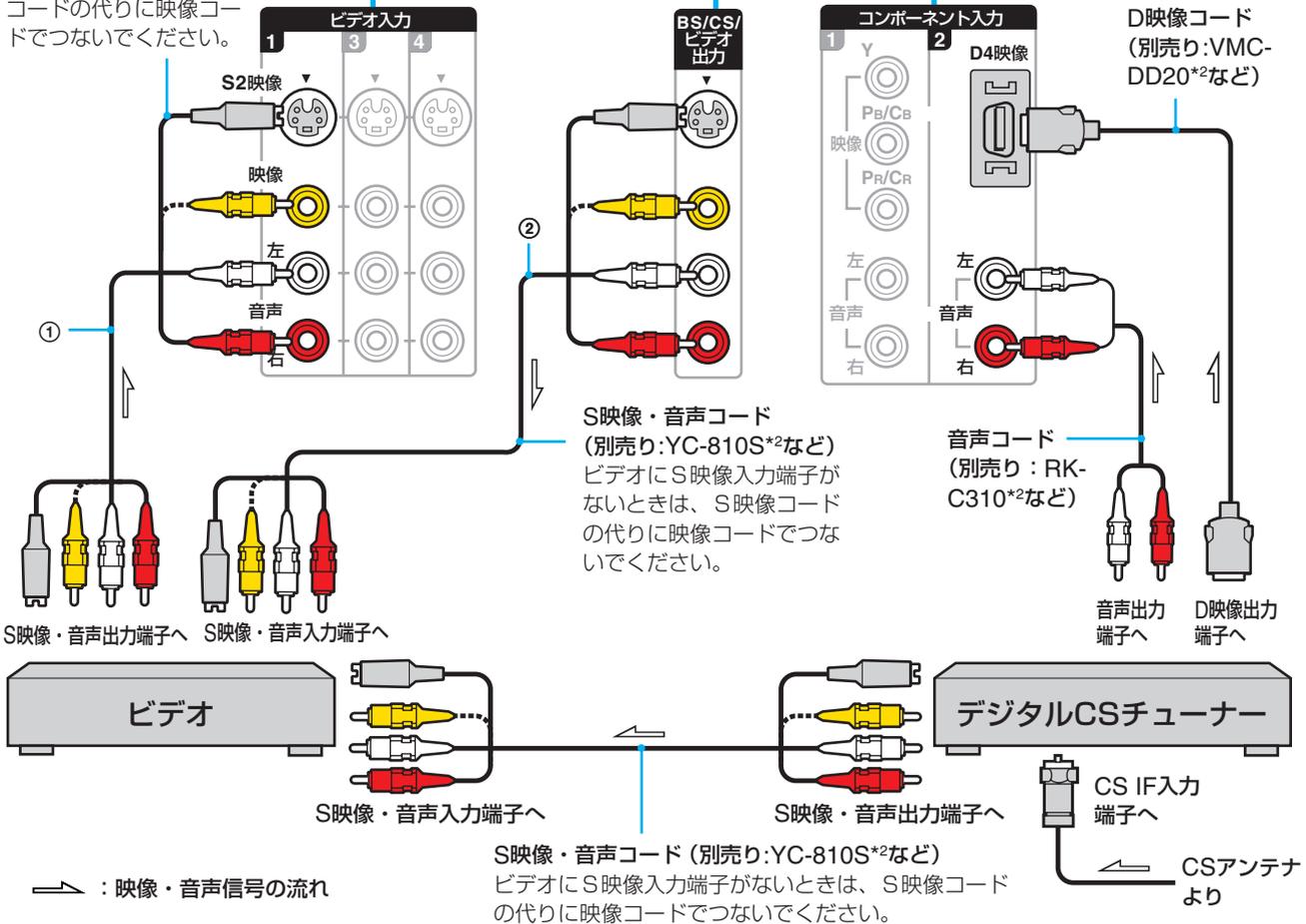
デジタルCS放送*[1]を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

*[1] 2001年9月現在放送されているスカイパーフェクTV!のことです。110度CS放送ではありません。

D映像出力端子のあるデジタルCSチューナーのとき

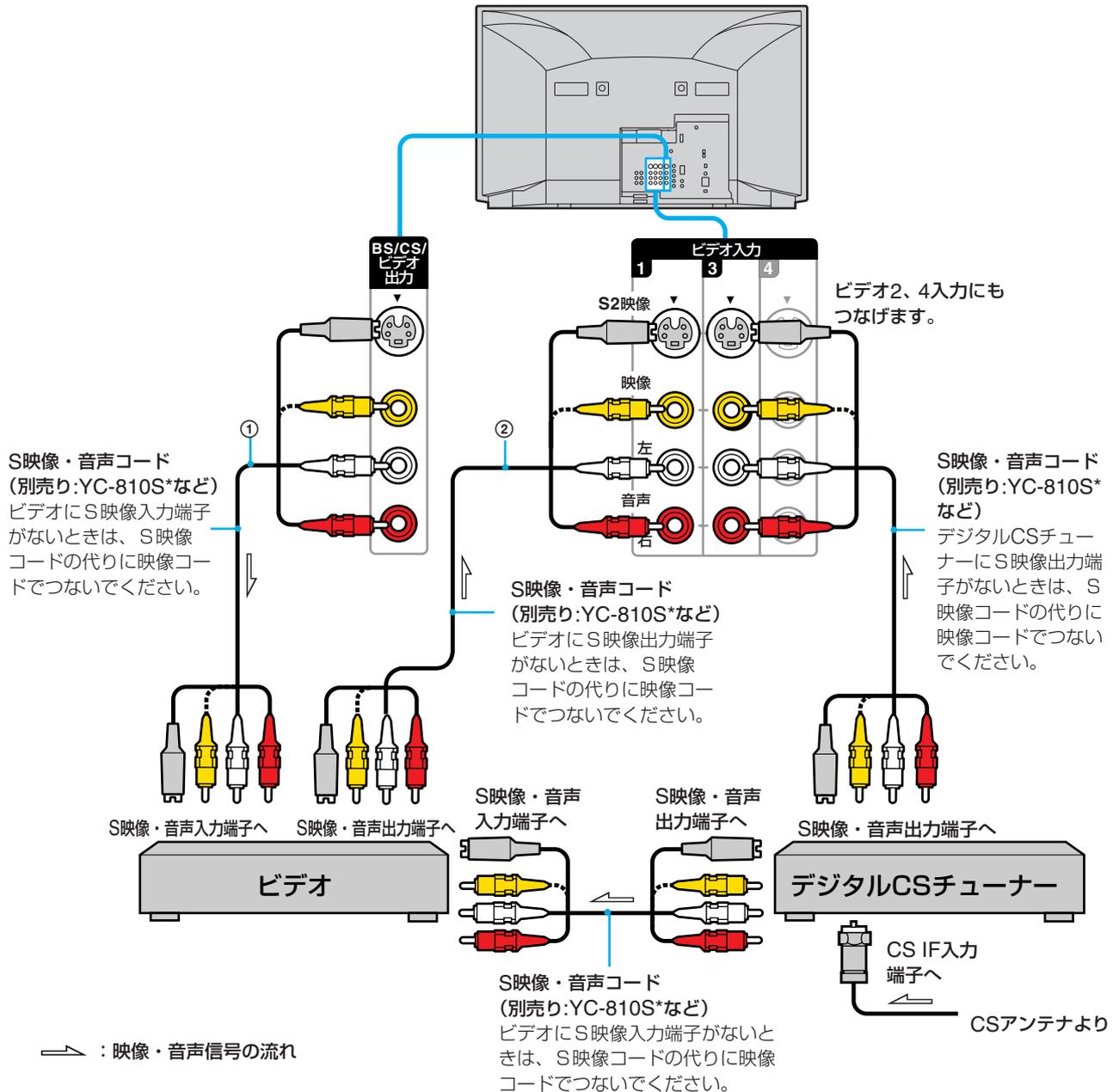
①ビデオの再生画像を見るための接続です(☞21ページ)。ビデオにS映像出力端子がないときは、映像・音声コード(別売り:VMC-810S*など)でつないでください。

②BSデジタルをビデオにアナログ録画するための接続です(☞59～63ページ)。ビデオにS映像入力端子がないときは、映像・音声コード(別売り:VMC-810Sなど)でつないでください。

*[2] 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

デジタルCS放送を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだコンポーネント入力「コンポーネント2(D4端子)」を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

デジタルCSチューナーをつなぐ（つづき）

D映像出力端子のないデジタルCSチューナーのとき

①BSデジタルをビデオにアナログ録画するための接続です（☞59～63ページ）。ビデオにS映像入力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞21ページ）。ビデオにS映像出力端子がないときは、映像・音声コード（別売り:VMC-810S*など）でつないでください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

デジタルCS放送を見るには

ビデオボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだビデオ入力（「ビデオ2」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション ”(PS one) および“プレイステーション”をつなぐ

“プレイステーション 2”、
“プレイステーション ”（PS one）および
“プレイステーション ”の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

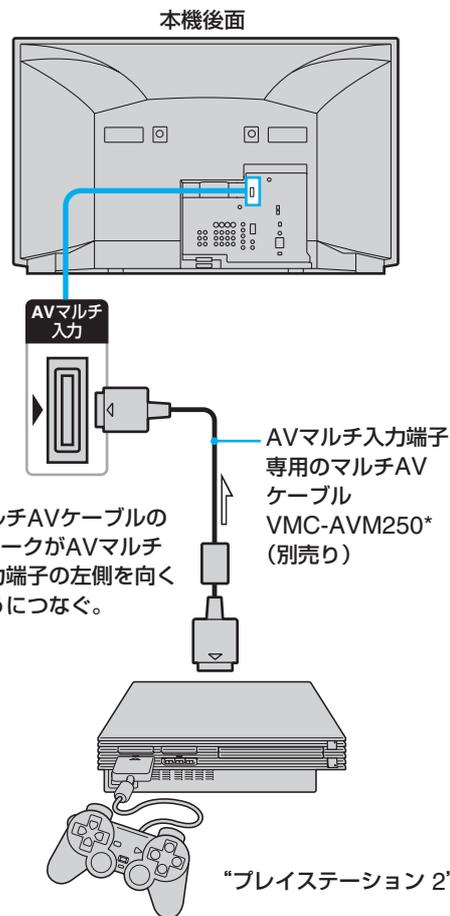
“プレイステーション 2”の一部の機種では、マルチAVケーブル（VMC-AVM250*）で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号（RGB）がコンポーネント映像信号（Y CB/PB CR/PR）に固定されるため、画面が乱れる場合があります。このテレビのAVマルチ入力端子は、このコンポーネント映像信号に対応していますが、「AVマルチ入力」が「AVマルチRGB」に選択されているとDVDが正しく再生されません。AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチY/CB/CR」を表示させ、入力を切り換えてください。
詳しくは、“プレイステーション 2”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

株式会社　ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-000-929
携帯電話・PHSでのご利用は 03-3475-7444
受付時間：10:00～18:00（土日祝日を除く）

別売りのマルチAVケーブルでつなぐときは

RGB接続またはY/CB/CR接続になり、高画質な画像でゲームを楽しめます。

ご注意

- AVマルチ入力端子は、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なって見える場合がありますが、本機に影響はありません。
- ソフトウェアの信号によっては、AVマルチ入力端子のRGBやY/CB/CR信号に適していないものもあります。

“プレイステーション 2”を使うには

“プレイステーション 2”側のシステム設定画面の「コンポーネント映像出力」の設定に合わせます。
AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」または「AVマルチY/CB/CR」を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

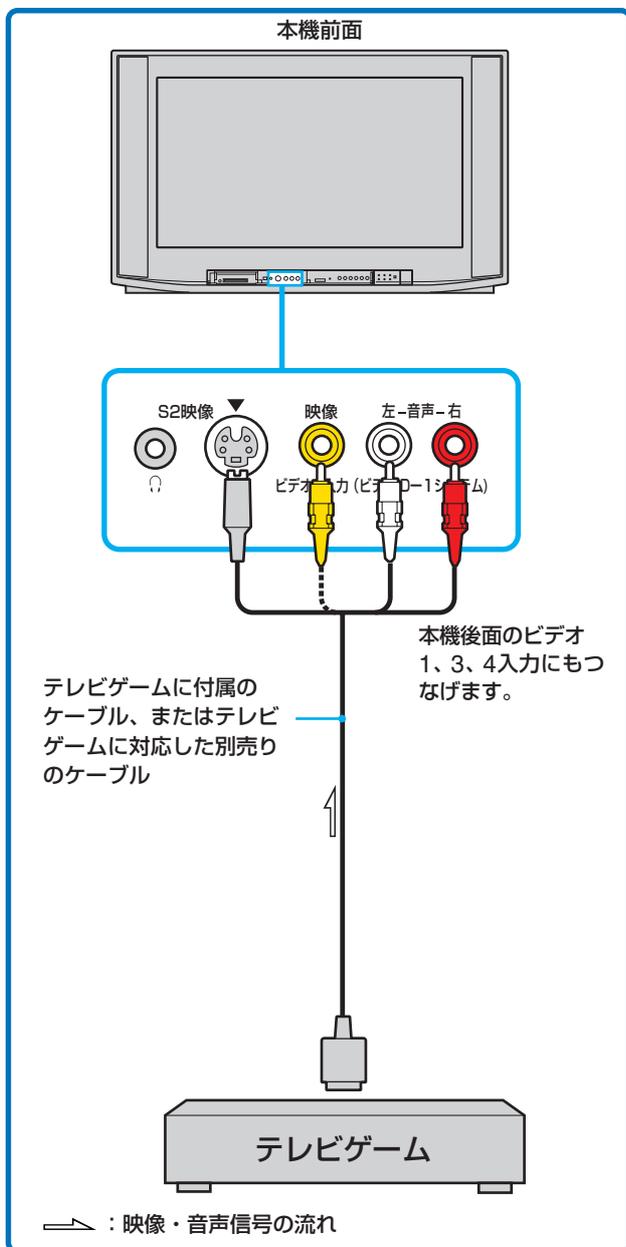
“プレイステーション ”（PS one）および“プレイステーション”を使うには

AVマルチボタンをくり返し押して、「AVマルチRGB」を表示させる。
詳しくは、☞22ページをご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。
万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

次のページにつづく

その他のテレビゲームなどをつなぐ

本機前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もあわせてご覧ください。

テレビゲームをするには

ビデオボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力(「ビデオ1」〜「ビデオ4」のいずれか)を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

ご注意

電子的なライフルやガン(銃)などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

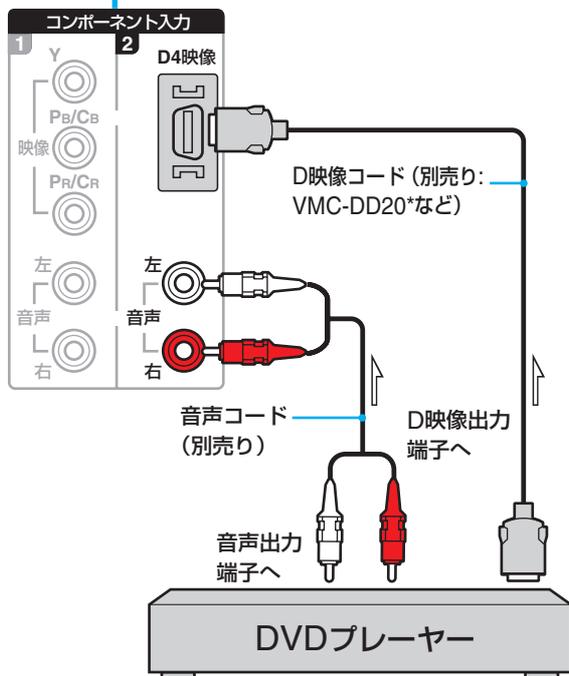
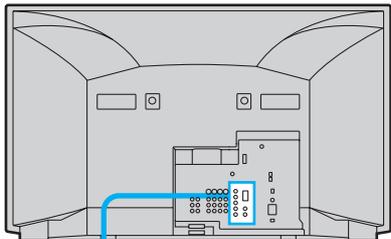
DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーは本機のコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVDプレーヤーの映像端子	本機の映像端子
Y端子	Y端子
CB、B-Y、PB端子	PB/CB端子
CR、R-Y、PR端子	PR/CR端子

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

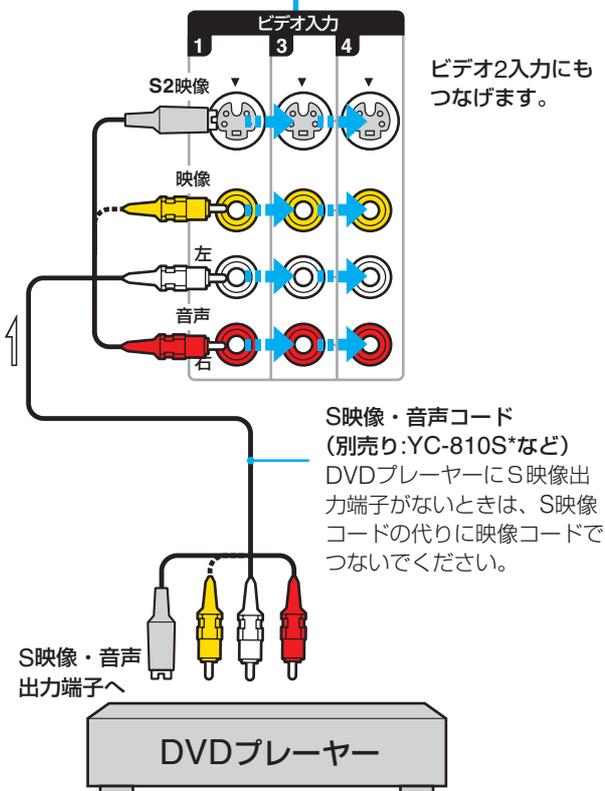
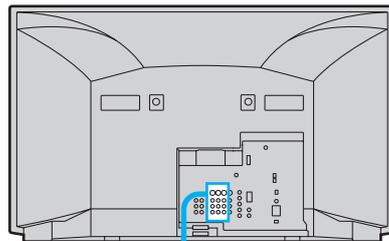
コンポーネントビデオ出力端子にD端子のあるDVDプレーヤーのときは

D映像コードでつなぐとき

デジタルチューナーをつながないときは、コンポーネント1入力にもつなげます。
D映像コードの代わりに、映像コード（別売り：VMC-DP20*など）を使ってY端子、CB端子、CR端子とD端子をつなぐこともできます。

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント1」、「コンポーネント2（D端子）」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

ビデオボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

ハイビジョン機器をつなぐ

ハイビジョン（ベースバンド）機器をつなぎます。ハイビジョン機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）をつなぐ

ハイビジョン・ビデオデッキ（ベースバンド）を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、ベースバンド機器をつないだコンポーネント1入力（「コンポーネント1」）を表示させる。

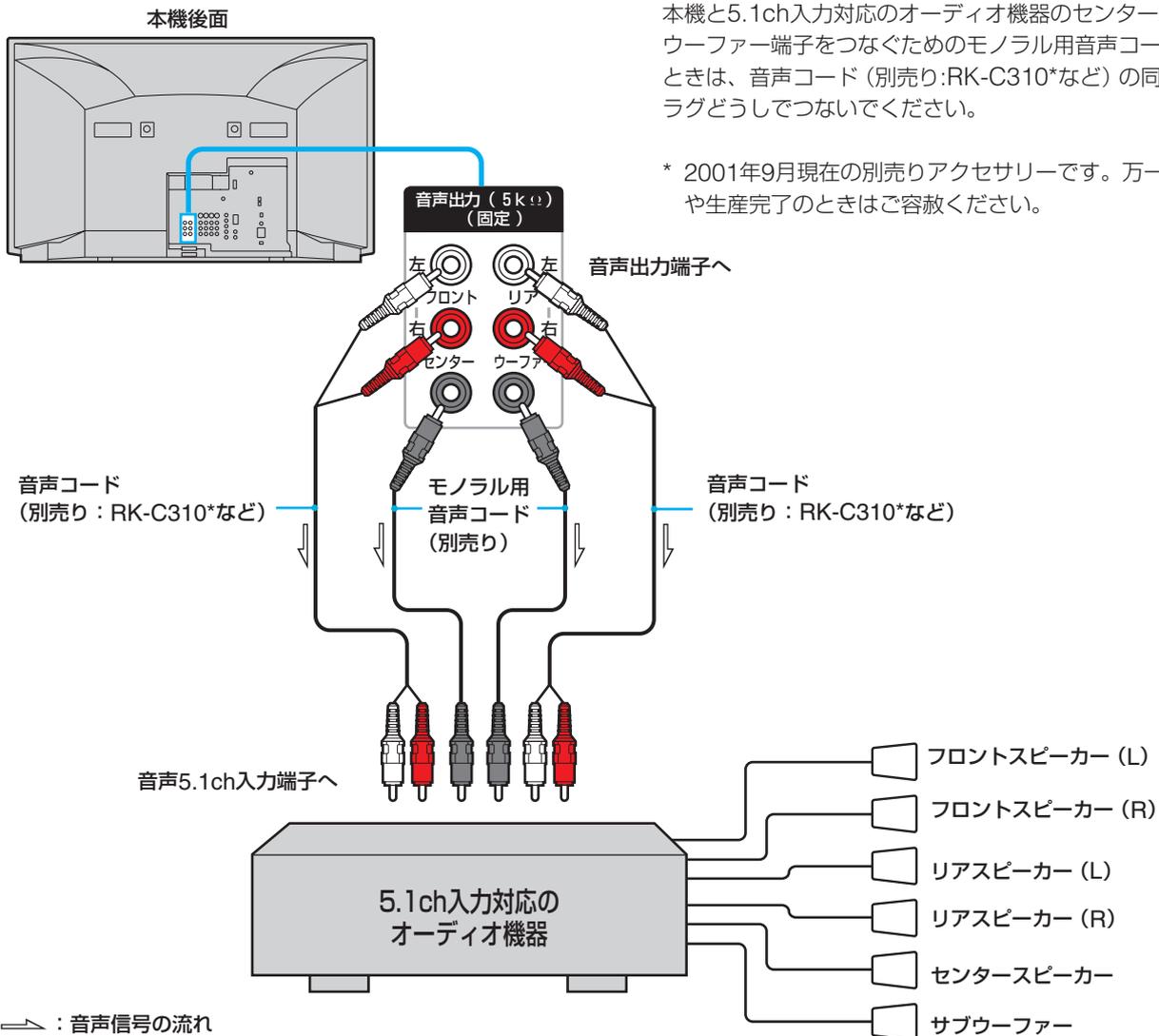
詳しくは、☞21ページをご覧ください。

「(各種切換)」メニューの「HDモード」を、お買い上げ時の設定「HDモード:1035」のままにしてください。

「1080」(BSデジタル用)に設定すると、正しく映像が映りません。これは、デジタルハイビジョンの有効走査線数が1080本であるのに対し、従来のハイビジョン(ベースバンド)が1035本になっているためです。

オーディオ機器をつなぐ

5.1ch（チャンネル）入力対応のオーディオ機器をつなぐ

本機後面の音声出力端子に5.1ch（チャンネル）入力対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドなどの音声を楽しめます。
サラウンドを充分に楽しむためには、5.1ch入力対応のオーディオ機器に加えて、5本のスピーカーとサブウーファーが必要です。詳しくは、5.1ch入力対応のオーディオ機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

「(各種切換)」メニューで、音声出力端子から出る音声を「5.1ch」に切り換えてください。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。
2 メニューボタンを押して、メニューを出す。
3 ∆/∇で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
4 ∆/∇で「5.1ch→2ch切換」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
5 ∆/∇で「5.1ch」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。

ちょっと一言

本機と5.1ch入力対応のオーディオ機器のセンター端子やウーファー端子をつなぐためのモノラル用音声コードがないときは、音声コード（別売り:RK-C310*など）の同じ色のプラグどうしでつないでください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

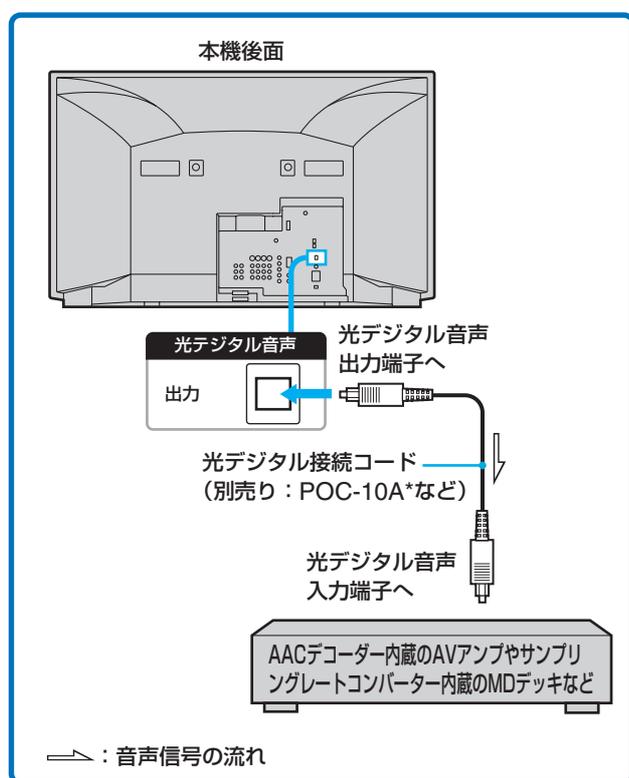
他機との接続

次のページにつづく

オーディオ機器をつなぐ（つづき）

光デジタル入力対応のオーディオ機器をつなぐ

光デジタル音声入力端子を持つ**AACデコーダー内蔵のAVアンプ**などや、**サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキ**などをつなぎます。

本機はAAC音声信号に対応しているため、本機後面の光デジタル音声出力端子からBSデジタル放送などのデジタル音声が出力されます。詳しくは、つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

AACデコーダー内蔵のAVアンプなどをつなぐときは

「(メニュー切換)」メニューで「(各種切換)」を選び、「光デジタル出力」を「オート」にしてください。

放送の種類	本機後面の光デジタル出力端子から出力する信号
BSデジタルのデジタル音声	AAC音声（BSデジタル放送用音声方式）がそのまま出力されます。
地上波やビデオ機器などからのアナログ音声	PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(メニュー切換)」選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「光デジタル出力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「オート」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言
BSデジタル放送の番組によっては、5.1chサラウンドなどの音声を楽しめます。詳しくは、つなぐオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどの機器をつなぐときは

「(メニュー切換)」メニューで「(各種切換)」を選び、「光デジタル出力」を「PCM」（お買い上げ時の設定）にしてください。

BSデジタルのデジタル音声も、地上波やビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声（2ch）のデジタル信号に変換して出力されます。

1 リモコン右横の開ボタンを押して、フタを開ける。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 △/▽で「(メニュー切換)」選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「光デジタル出力」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 △/▽で「PCM」(お買い上げ時の設定)を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

BS録画予約実行中(☞56〜63ページ)のご注意

音声信号が1つのときは

本機のスピーカーから聞こえる音声には関係なく、予約されたBSチャンネルの音声を出力します。
ただし、「PCM」に設定されているときは、二重音声番組では、「(予約設定)」メニューの「二重音声設定」(☞63ページ)で設定した音声が出力されます。

第2音声など音声信号が複数あるときは

i.LINKでデジタル録画予約したとき(☞56、100ページ)は、第1音声が出力されます。
AVマウスでアナログ録画予約したとき(☞59ページ)は、予約時に設定した音声が出力されます。

光デジタル音声入力対応のオーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

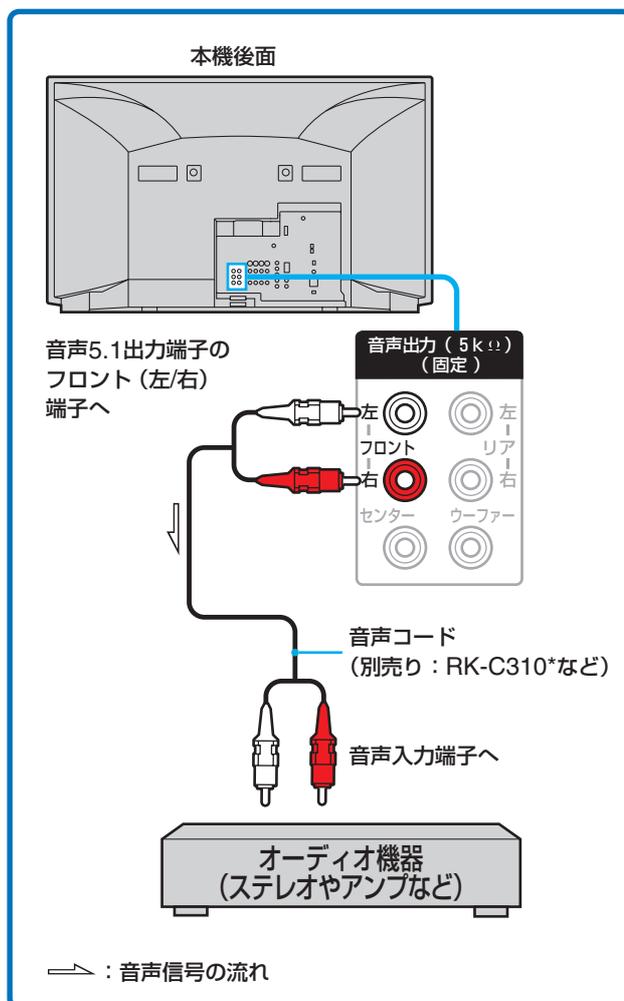
ヘッドホンで音声を聞くときは

本機前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、BSデジタル放送とi.LINK端子からの入力以外は、光デジタル音声出力端子からは出力されなくなります。

ご注意

- BSデジタル放送では、「光デジタル出力」を「オート」にすると、光デジタル音声出力はAAC音声で出力されます。サンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどのAAC音声出力に対応していない機器につなぐときは、正しく出力されません。必ず、「PCM」に設定してください。
- 本機は、録画防止機能(コピープロテクション)が付いています(☞38、181ページ)。そのため、音声に関しても、本機後面の光デジタル音声出力端子からの信号を、録音できない番組があります。
- 光デジタル音声出力端子からは、BSデータでの効果音(ピンポンとかブーなど)は出力されません。

その他のオーディオ機器(2ch入力対応)をつなぐ

オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

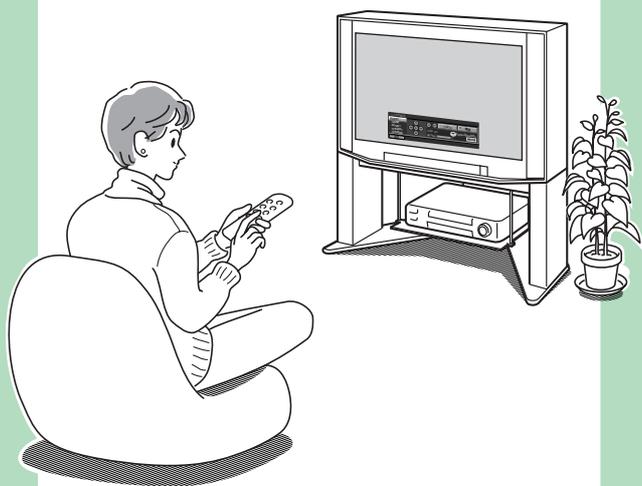
オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「切」にしてください。本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。オーディオ機器側で音量を調節してください。

ご注意

- 「(各種切換)」メニューで、「5.1ch→2ch切換」が「2ch」(お買い上げ時の設定)になっていることをご確認ください。
- 本機前面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぐと、音声出力端子(5kΩ)(固定)からの音声信号が出力されなくなります。音声出力端子(5kΩ)(固定)にカセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

i.LINKでの接続

ここでは、本機とi.LINK対応機器の接続方法や設定について説明しています。
i.LINK対応機器の操作については、「i.LINKで操作する」（☞98～108ページ）をご覧ください。

i.LINK（アイリンク）について

i.LINKで何ができるの？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などの信号を双方向でやりとりしたり、他機を操作したりできます。次のような特徴があります。

① i.LINKケーブル1本だけでi.LINK対応機器間をつなげます。

② 複数のi.LINK対応機器をつないだときは、他の機器を介してつないでも、操作やデータのやりとりができます。このため、接続順序は気にする必要ありません。

③ ただし、つなぐ機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、つないでも操作やデータのやりとりができない場合があります。

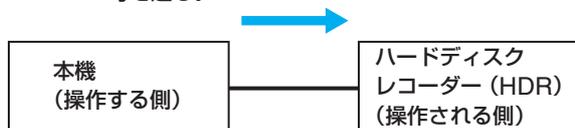
④ i.LINK操作するときは、操作する相手を1台だけ選ぶ必要があります（「LINCする」といいます）。すなわち、1度に1台だけi.LINK対応機器を操作でき、同時に複数の機器を操作できません。

LINC（リンク）する：操作したいi.LINK対応機器を選ぶ

i.LINKケーブルでつないだだけでは、つないだi.LINK対応機器を本機は操作できません。
まず操作したい相手を1台だけ選ぶ必要があります。これを「LINCする」といいます。
「LINCする」と、本機と操作したい相手の機器間で、次の図のように信号のやりとりが行われます。

例）本機がハードディスクレコーダー（HDR）をLINCするとき

呼びかけ①と返答②でLINCが成立して初めて、i.LINK対応機器を操作できるようになります。

①本機が「これから操作してもいいですか？」と、ハードディスクレコーダー（HDR）に信号を送る。

② ハードディスクレコーダー（HDR）が「了解です」と、本機に信号を送る

ちょっと一言

LINCは、Logical Interface Connection（ロジカル・インターフェース・コネクション：「論理的な接続を行う」の意）の略です。
i.LINK（アイリンク）および i はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

コピープロテクションについて（☞59ページもご覧ください。）

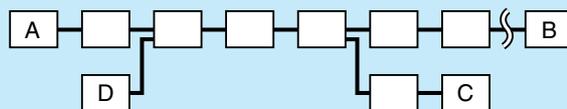
本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています。
著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピープロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
このDTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像/音声/データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像/音声/データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにします（「デイジー・チェーン」と呼びます）。

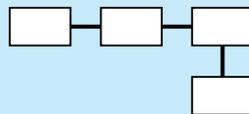
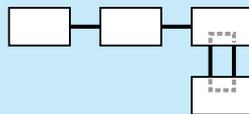
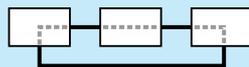
2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行えます。

途中から分岐してつなげます

- i.LINK端子を3つ以上持つi.LINK対応機器の場合、途中から分岐してもつなげます。
- i.LINKの規格上、一番長い経路は17台までつなげます（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用できます）。
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器をつなげます（最大16ホップ）。

接続が輪（ループ）にならないようにつないでください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

次のページにつづく

i.LINKでの接続

i.LINK（アイリンク）について（つづき）

接続についてのご注意

- i.LINKのデジタル信号は、その機器で取り扱えるかどうかに関わらず、つないだ他のi.LINK対応機器に中継されます。ただし、コンピューターなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っていると、データを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、つなぐ機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINKは、すべてのi.LINK対応機器間での接続動作を保証するものではありません。i.LINK対応機器間でデータやコントロール信号がやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400Mbps*が定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps（メガビーピーエス）とは、「Mega bits per second」の略で、1秒間に通信できるデータの容量を示しています。200Mbpsでは、1秒間に200メガビットのデータを転送します。

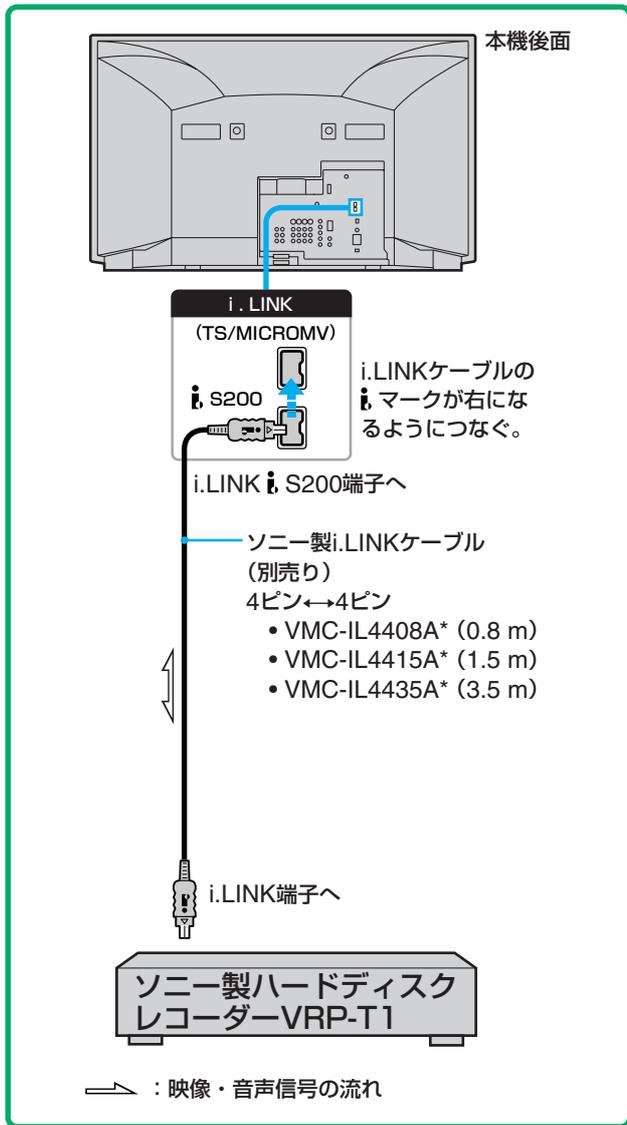
ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1をつなぐ

ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ（Digital Recording HDD）VRP-T1とつなぎます。

i.LINK操作画面（☞102、104ページ）などでは「HDR」と表示されます。

i.LINK接続をすると、本機のi.LINK操作画面を使って、受信中のBSデジタル放送をハードディスクレコーダーVRP-T1にデジタル録画したり（☞56、100ページ）、ハードディスクレコーダーVRP-T1に録画した番組をデジタル再生したりできます（☞103、105ページ）。

なお、ソニー製ハードディスクレコーダーClip-On（2001年9月現在）は、i.LINK対応機器でないため、つなげません。

ハードディスクレコーダーVRP-T1の取扱説明書もあわせてご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

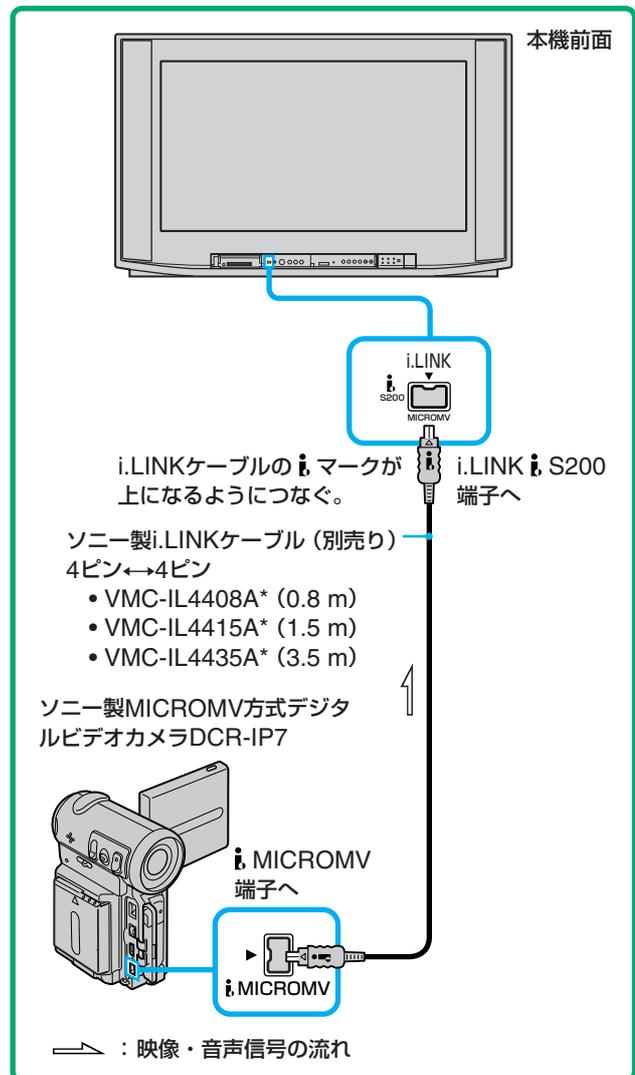
本機でハードディスクレコーダーVRP-T1を操作するには

☞56、100ページをご覧ください。

ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラをつなぐ

ソニー製のMICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7をつなぎます。**i.LINK操作画面（☞108ページ）などでは「M-MV」と表示されます。**

i.LINK接続をすると、本機の「i.LINK再生」（M-MV）操作画面を使って、MICROMV方式デジタルビデオカメラの映像をデジタル再生できます（☞107ページ）。

MICROMV方式デジタルビデオカメラの取扱説明書もあわせてご覧ください。

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

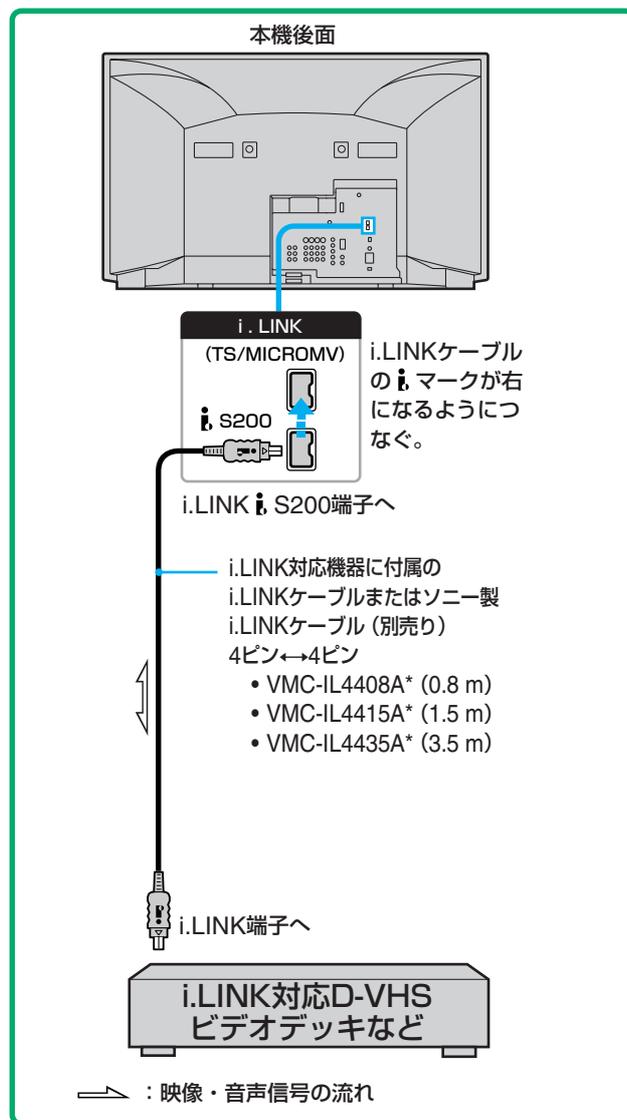
本機でMICROMV方式デジタルビデオカメラを操作するには

☞107ページをご覧ください。

その他のi.LINK対応機器をつなぐ

ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1と、ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7以外のi.LINK対応機器をつないで、LINCする操作を説明します。本機でLINCしても、つないだ機器を本機では操作できません。**つないだ機器側で操作してください。**
つないだi.LINK対応機器の取扱説明書も必ずご覧ください。

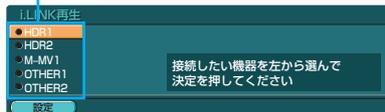
ご注意

- D-VHSデッキなどのi.LINK対応機器は、本機の操作画面では操作できません。また、ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1（HD録画未対応）も、本機の操作画面では操作できません。
- 次のi.LINK対応機器は、本機が対応していないため、つながないでください。
  - DV方式デジタルビデオカメラ
  - パソコン
  - MDデッキ
- 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK端子からは、受信中のBSデジタル放送のデジタル信号が出力されます。（地上波放送やテレビにつないだビデオやDVDの映像などは出力されません。）

* 2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

つないだi.LINK対応機器をLINCするには

1　再生するときはi.LINK再生ボタンを押して「i.LINK再生」操作画面を、録画するときはi.LINK録画ボタンを押して「i.LINK録画」操作画面を表示する。

接続中の機器とつないだことのある機器が「接続機器リスト」に表示されます。

接続機器リスト

2　△/▽/◁/▷でLINCしたい（操作したい）「OTHER」*を1台選び、真ん中を押しこんで決定する。

「LINC中です」と表示されて、選んだ「OTHER」に●が付きます。

* ソニー製のハードディスクレコーダーVRP-T1と、MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7以外で本機とLINCできるi.LINK対応機器は、すべて「OTHER」と表示されます。

「OTHER」が表示されないときや、6台以上のi.LINK対応機器をつないでいるときは
登録機器を変更してください（☞186ページ）。

3　i.LINK操作画面を消す。

「i.LINK再生」操作画面を表示しているときは
i.LINK再生ボタンを押す。
「i.LINK録画」操作画面を表示しているときは
i.LINK録画ボタンを押す。

4　つないだi.LINK対応機器側で操作する。

テレビ（地上波）に戻すときは

①〜⑫/選局の地上波用数字ボタンまたは
地上 ボタンを押す。

BSに戻すときは

1〜12/選局のBS用数字ボタンまたは
BS ボタンを押す。

ちょっと一言
チャンネル+/−ボタンを押すと最後に見ていた地上波またはBSのチャンネルになります。

本機とLINCすると

LINCしたi.LINK対応機器との間で、デジタル信号の入出力ができるようになります。

ご注意
一部のi.LINK対応機器は、「OTHER」と表示されて本機とLINCできても、デジタル信号が正しくやりとりできない場合があります。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。

本機とLINCできないときは

△/▽で「設定」ボタンを選び、接続機器の情報を確認してください。
本機が対応していないi.LINK対応機器のときは、設定画面に「操作できない機器です」というメッセージが表示されます。つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご確認ください。

i.LINK対応「機器設定」画面

本機が対応していないi.LINK対応機器の場合

i.LINKでの接続

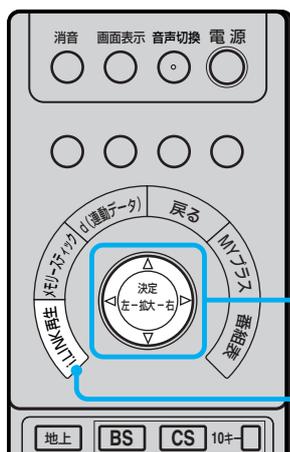
i.LINK対応機器の設定をする

本機はつないだ順に最大5台までi.LINK対応機器を自動登録し、i.LINK操作画面にそれらの機器を表示できます。
この5台の中から、1度に操作できる（LINCできる）のは1台です。

6つ以上のi.LINK対応機器をi.LINKでつなぐときは［登録変更］

6台目のi.LINK対応機器をつなぐときは、すでにつないだ順に自動登録されている5台のいずれかと入れ換えて登録し直さないと、本機のi.LINK操作画面に表示されず、操作もできません。

ご注意

5台以内のときは、この操作はできません。

ここでは例として、「HDR2」の代わりに、別のハードディスクレコーダーVRP-T1を登録する場合

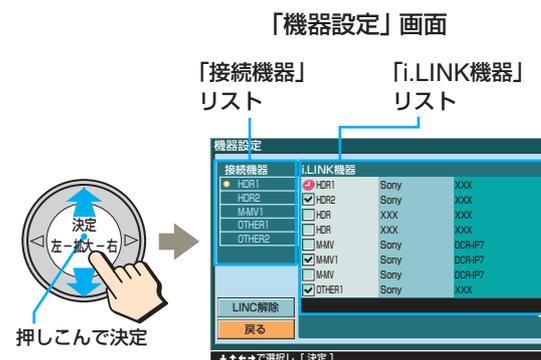
1 LINCしているi.LINK対応機器の動作を停止させるか、電源を切る。

2 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

「i.LINK再生」操作画面

3 △/▽/◁/▷で「設定」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「機器設定」画面が表示されます。

「機器設定」画面

「機器設定」画面についての詳しい説明は☞189ページをご覧ください。

4 △/▽/◁/▷で入れ換えたいi.LINK対応機器（ここでは「HDR2」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

- 「接続機器」リストには、i.LINKで接続中の機器とつないだことのある機器が表示されています。そのため、リストに表示されていても、LINCするには、実際にi.LINKケーブルでつなぐ必要があります。
- 現在LINC中の機器および録画予約されている機器（マーク）は、入れ換えられません。

5 △/▽/◁/▷で新たに登録したいi.LINK対応機器（ここでは未登録の「HDR」）を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

「操作できない機器です」と表示されるi.LINK対応機器は登録できません。

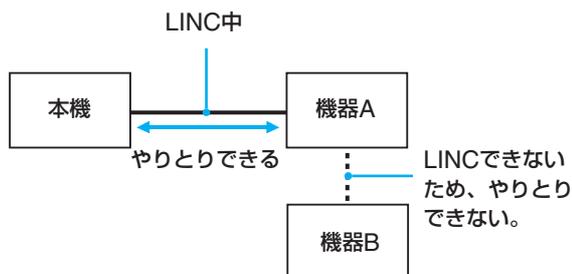
6 △/▽/◁/▷で「戻る」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「i.LINK再生」操作画面に戻ります。

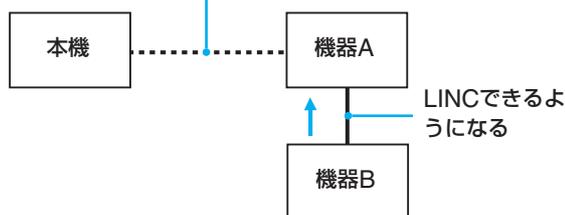
7 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」操作画面を消す。

LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除するときは［LINC解除］

下の図①で、本機とLINC中の「機器A」は、本機とだけ、デジタル信号のやりとりができます。

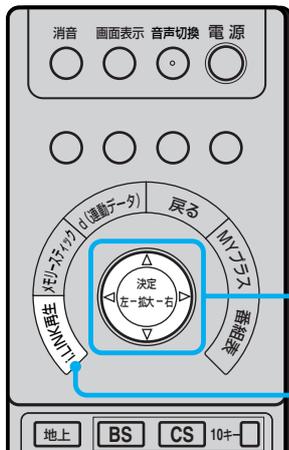
図①

「機器B」が「機器A」とやりとりする（図②）ためには、本機と「機器A」間のLINCをいったん解除する必要があります。

テレビ本体の電源スイッチで主電源を切るか、電源スタンバイ（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）にする、または以下の手順を行ってください。

図②

ご注意

- i.LINK対応機器の録画予約終了後は、予約したi.LINK対応機器がLINCされたままになる場合があります。
- 上の図で本機と機器Aがデジタル信号のやりとりをしているときは、リモコンの電源ボタンを押して本機を電源スタンバイにしても、LINCを解除できません。ただし、本体の電源スイッチを押して本機の主電源を切れば、LINCは解除されます。

次のページにつづく

i.LINK対応機器の設定をする（つづき）

1 LINCしているi.LINK対応機器の動作を停止させる。

2 i.LINK再生ボタンを押す。

「i.LINK再生」操作画面が表示されます。

「i.LINK再生」操作画面

3 △/▽で「設定」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「機器設定」画面が表示されます。

「機器設定」画面

「機器設定」画面についての詳しい説明は☞189ページをご覧ください。

4 △/▽で「LINC解除」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

LINCしていたi.LINK対応機器の●が消えて、LINCが解除されます。

5 △/▽/◁/▷で「戻る」ボタンを選び、真ん中を押しこんで決定する。

「i.LINK再生」操作画面に戻ります。

6 i.LINK再生ボタンを押して、「i.LINK再生」操作画面を消す。

「機器設定」画面について

「接続機器」リスト
i.LINK操作画面から操作できるi.LINK対応機器を表示します。つないだ順に5台まで自動的に登録されます。
接続機器の右の数字は、同じHDRや同じM-MVの中で何番目につないだ機器かを示します。HDR、M-MV、OTHERの順に表示します。

- ● ： 現在LINC中のi.LINK対応機器
- HDR： ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1（☞100ページ）
- M-MV： ソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7（☞107ページ）
- OTHER： 上記以外のi.LINK対応機器（☞184ページ）

✓：登録中のi.LINK対応機器（5台まで登録できます）

●：録画予約されているi.LINK対応機器（「接続機器」リストから登録を削除できません。）

□：未登録のi.LINK対応機器

「i.LINK機器」リストの件数

カーソル（選ばれているところ）
黄色で表示され、リモコンの△/▽/◁/▷で移動させて、i.LINK対応機器を選びます。

「i.LINK機器」リスト
つないだすべてのi.LINK対応機器と、その情報が表示されます。上下に▲/▼があるときは、リモコンの△/▽で前後の機器を見ることができます。

メッセージ欄
本機が対応していないi.LINK対応機器は、「操作できない機器です」と表示され、「接続機器リスト」に登録できません。

「LINC解除」ボタン
LINC中のi.LINK対応機器をいったん解除します（☞187ページ）。

「戻る」ボタン
i.LINK操作画面に戻ります。

製品型名

メーカー名

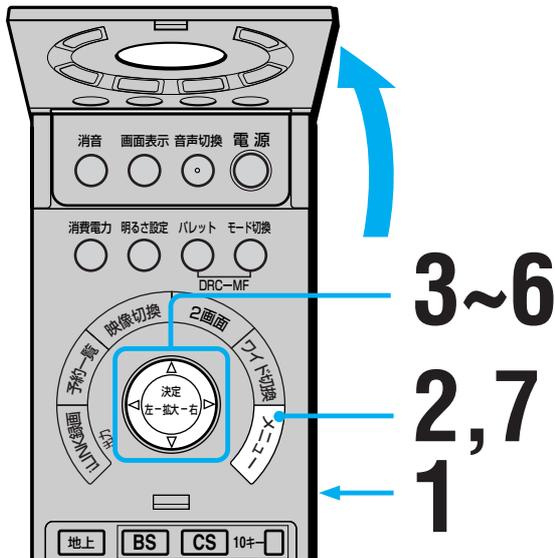
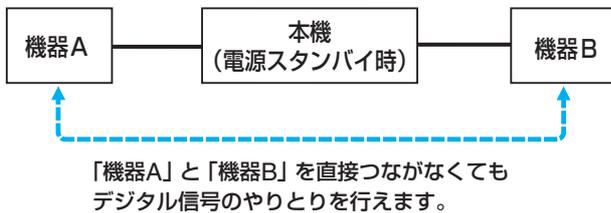
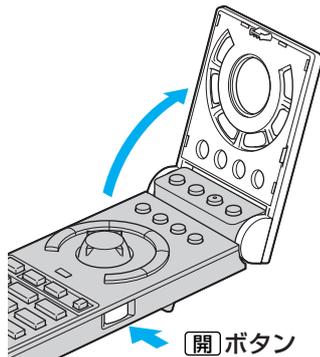
i.LINK対応機器の登録名
つないだ機器の登録名として、本機が決めた名前です。

i.LINKでの接続

次のページにつづく

i.LINK対応機器の設定をする（つづき）

電源スタンバイ時に本機を中継してデジタル信号のやりとりをするには［i.LINK待機設定］

本機の電源スタンバイ時（本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）でも、「機器A」と「機器B」が本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えるように設定できます。

「機器A」と「機器B」を直接つながなくてもデジタル信号のやりとりを行えます。

1 開ボタンを押して、フタを開ける。

開ボタン

2
メニューボタンを押す。

3 △/▽で「(メニュー切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 △/▽で「(初期設定)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 △/▽で「i.LINK待機設定」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

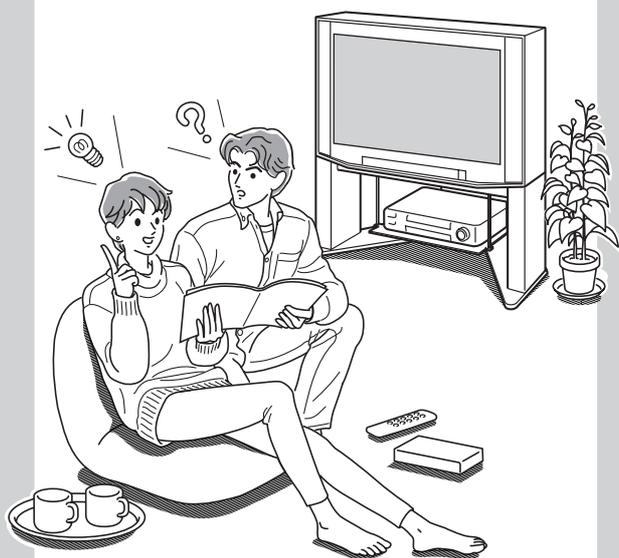
6 △/▽で「する」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

「する」：　本機が電源スタンバイ時でも、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えます。
「しない」設定よりも、電源スタンバイ時の消費電力が上がります。

「しない」（お買い上げ時の設定）：本機が電源スタンバイ時は、本機を中継してデジタル信号のやりとりを行えません。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

その他

ここでは、本機が正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

テレビ本体の型名：

ケーディー　エイチディー
KD-28HD800,
ケーディー　エイチディー
KD-32HD800,
ケーディー　エイチディー
KD-36HD800

画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

リモコンの型名：

アールエム　ジェイ
RM-J401

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

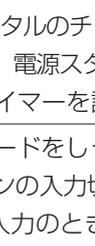
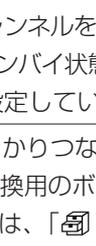
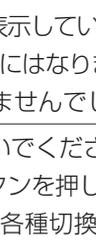
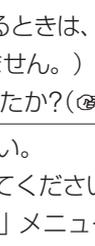
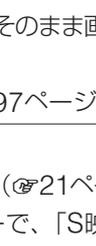
自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプの点滅およびその回数でテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。ご相談の内容によっては、修理が必要な場合があります。

1. 本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプの点滅回数を数えてください。3秒おきに点滅します。
   たとえば、2回点滅→3秒あき→2回点滅…この場合の点滅回数は2回です。
2. テレビ本体の電源スイッチで主電源を切り、電源コンセントを抜いてから、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅回数を知らせてください。

映像について

BSデジタルを視聴しているときは、「BSについて」（☞196ページ）をご覧ください。

症状		対処のしかた
画像が出ない	すべてのチャンネルが映らない。	● 電源コードをしっかりつないでください。 ● テレビ本体の電源スイッチを押して、主電源を入れてください。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	● チャンネルを合わせ直してください（☞133ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた（電源スタンバイ状態になった）。	● テレビの消し忘れを防ぐため、テレビ（地上波）放送終了後（2画面では操作画面、メモでは左画面放送終了後）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的に電源スタンバイ状態になります。（ただし、BSデジタルのチャンネルを表示しているときは、そのまま画面が表示され、電源スタンバイ状態にはなりません。） ● オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞97ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	● 接続コードをしっかりつないでください。 ● リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞21ページ）。 ● S映像入力のときは、「（各種切換）」メニューで、「S映像」を「入」にしてください（☞170ページ）。 ● “プレイステーション 2”をAVマルチ入力端子につないでいるときは、“プレイステーション 2”のコンポーネント出力の設定と本機のAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください（☞22ページ）。
きれいに映らない	画像が二重、三重になる。	● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 ● 「テレビ設定」メニューで「GR設定変更」を選び、「GR」を「入」にしてください（☞154ページ）。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	● アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 ● アンテナの寿命を確認してください（通常3〜5年、海辺では1〜2年）。
	斑点や点模様が走る。	● ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	● 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞15ページ）。 ● 「（画質/音質）」メニューで、画質を調整してください。 ● 「消費電力:減」のときは、画面が暗くなります（☞20ページ）。
	画面がまぶしい。	● 明るさ設定ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞15ページ）。
	画面の一部に色むらがある。	● テレビをマンションの壁、金属製の雨戸、金属スタンド、ビデオまたはスピーカーなどから離して置いてください。 ● テレビをしばらく見た後、テレビの向きを変えると色むらが発生することがあります。このときは、地磁気の影響を受けています。1度電源を切り、約30分後にテレビを見る向きにしてから電源を入れ直すと、自動消磁回路が働き、地磁気の影響が軽減されます。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
きれいに映らない	画像が傾いている/上下にかたよっている。	• 「（テレビ設定）」メニューで「画像傾き補正」を選び、「傾き補正 回転」と「傾き補正　上下」を調整してください（☞131ページ）。 • 磁界の強い場所（高圧電線や電車、金属製の雨戸、鉄筋コンクリート、鉄製機材の近辺など）では、「画像傾き補正」ではうまく補正されないことがあります。 このときは、磁界の影響を受けない場所に設置されるか、お買い上げ店やソニーサービス窓口などにご相談ください。
	縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるか確認してください。 • アンテナ線は、他の電源コードや接続ケーブルから、できるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 「DRC-MFパレット」で「くっきり」と「すっきり」を調整してください（☞12ページ）。
	ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。	• ビデオとテレビが近いため、干渉しあっています。ビデオをテレビからできるだけ離して置いてください。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”、“プレイステーション”（PS One）および“プレイステーション”の画像がずれる。	• 「（各種切換）」メニューで「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞23ページ）。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”の画像がきれいに映らない	• “プレイステーション 2”をAVマルチ入力につないでいるときは、“プレイステーション 2”のコンポーネント出力の設定とテレビのAVマルチ（RGBまたはY/CB/CR）入力を合わせてください（☞22ページ）。
ワイド画面が切り換わる	オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。	• CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断しているためです（☞10ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞10ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的にワイド画面に切り換わります。ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、「（画面モード）」メニューで「オートワイド設定」を選び、「オートワイド」を「切」にしてください（☞88ページ）。
画面が一瞬光る	暗い部屋で電源を入れたときに、画面周辺が一瞬光って見える。	• ブラウン管内で、電源が入る際に発生する高電圧のために、ブラウン管内の蛍光部が光るためです。本機の性能その他に影響はありません。

音声について

症状		対処のしかた
音が出ない／雑音が多い	画像は出るが、音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。 • 「(各種切換)」メニューの「スピーカー」を「入」にしてください。「切」のときは、本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。
	雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 「(テレビ設定)」メニューで、「初期設定」を選び、「オートステレオ」を「切」にしてください（☞19ページ）。
	聞きたい音声になっていない。	• 二か国語放送などで、副音声や第2音声*になっていませんか？（☞19、75ページ）*BSデジタル時のみ
テレビから異音がする	「ピシッ」というきしみ音が出る。	• 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
	電源を入れたときにブーンやカチッという音がする。	• 地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能の動作音です。ソニーのテレビは、トリニトロン管を使用しているため、音が大きく感じられることがありますが、異常ではありません。ご安心ください。
	テレビの電源を切った直後にテレビの後ろからパチパチ音がする。	• テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
	電源スタンバイ時「カチッ」と音がする。	• 故障ではありません。これは衛星からのデータを取得するために本機の電源が自動的に入るためで、本機に影響はありません。（このときBS/CS電源ランプが点灯します。）（☞202ページ）

次のページにつづく

BSについて

症状		対処のしかた
BSが映らない／乱れる	アンテナの受信設定ができない/衛星が受信できない。	● BSアンテナの前方に障害物がないところに設置してください。 ● BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 ● BSアンテナと本機は、指定された別売りのサテライト用同軸ケーブルでつないでください（☞125ページ）。 ● BSアンテナの方向・角度を調整してください（☞139ページ）。 ● 雨の強い日は衛星から電波が届きにくく、受信設定ができないことがあります。
	BSが映らない/画像が乱れている。	**BSアンテナを直接つないでいる場合** ● BSアンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 ● BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ● 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてください（☞137ページ）。 ● BSアンテナの方向・角度を調整してください（☞139ページ）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ● サテライト/UV分波器でVHF/UHFとBSを分波してください（☞124ページ）。 ● 「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください（☞137ページ）。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** ● BSアンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** ● 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、晴れていても、BSを送信する放送衛星会社（☞24ページ）の地域で雨や雪が降っても映りが悪くなることがあります。 ● 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 ● BS専用のケーブルを使ってください（☞125ページ）。 ● 加入申し込みが必要なBSチャンネルもあります（☞151ページ）。
	BSのチャンネルが映らない。	● B-CASカードは正しい向きで入っていますか？（☞145ページ） ● ICカード挿入口のふたは閉まっていますか？（☞145ページ） ● 放送日や時間を確認してください。 ● 受信契約（加入申し込み）をしていますか？（☞151ページ） ● 長期間、コンセントやアンテナ、電話線を抜いたままにしないでください。視聴データなどの伝送ができなくなり、放送をご覧いただけなくなることがあります。

症状		対処のしかた
BSが映らない／乱れる	チャンネル＋/－ボタンで選局できない。	● 本機では、BSテレビとBSラジオ、BS独立データの、それぞれのチャンネル内で順送り選局します。ご覧になっているBSをご確認ください（☞6～7ページ）。 ● ［1］～［12］のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、設定しないとチャンネル＋/－ボタンで選局できません（☞158ページ）。 ● マルチチャンネル放送の臨時放送（☞32ページ）や緊急放送（☞33ページ）は選局できません。
	BSのチャンネルが切り換わらない。	● 予約一覧でBS予約した録画の実行中かを確認してください（☞65ページ）。
	画面が黒くなり何も映らない。	● 音声だけのBSラジオのチャンネルが選ばれたためです。故障ではありません。 ● 2画面のとき、操作画面でBSラジオやBS独立データを選ぶと、操作画面は黒くなり何も映らなくなります。
	映像が、通常に比べ画質/音質が低下した映像に勝手に切り換わる。	● 激しい雨など受信状態が悪いときなどに、降雨対応放送に切り換わる場合があります。ひんぱんに切り換わるときは、「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で、「降雨対応放送受信」を「切」にしてください（☞32ページ）。
	BSチャンネルを切り換えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る。	● デジタルハイビジョン信号HDと標準テレビ信号SDなど映像の解像度が変化するときに、同期信号などの白い線が見えることがありますが、故障ではありません。
BSの音声が乱れる／おかしい	音声が出ない/音声がおかしい。	● 二か国語放送などで、副音声や第2音声になっていませんか？（☞75ページ）
	二か国語が混じってビデオに録音されていた。	● BS/CS/ビデオ出力端子からビデオに録画するときは、あらかじめ「（メニュー切換）」メニューで「（予約設定）」を選び、「二重音声設定」で「主」、「副」または「主/副」を選んでください（☞63ページ）。「主/副」を選んだときは再生時にビデオのリモコンで聞きたい音声を選んでください。
BS番組表に表示されない	番組表に表示されないチャンネルがある。	● 本機では、番組表ボタンで番組表を表示したときは、BSテレビとBSラジオ、BS独立データで、それぞれの番組表が表示されます。ご覧になっている番組表をご確認ください（☞42ページ）。 ● リモコンの△/▽で、番組表を上下に送って表示したいチャンネルを選んでください。 ● ［1］～［12］のBS用数字ボタンで選べないチャンネルは、設定しないと番組表に表示されません（☞158ページ）。
	MYチャンネル番組表に表示されないチャンネルがある。	● MYチャンネル番組表のチャンネルは、あらかじめ登録しないと表示されません。「よく視聴するBSチャンネルをあらかじめMYチャンネルに登録する」（☞45ページ）を行ってください。
	MYチャンネル番組表やMYジャンル番組表に表示される番組数が少ない。	● お買い上げ時、または長時間本体の電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れた後は、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときはBS放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。
	ジャンル検索した番組のジャンルが「番組説明」画面で表示されるジャンルと違っている。	● 「番組説明」画面（☞35ページ）では、代表的なジャンルが1つしか表示されませんが、1つの番組が最大3つのジャンル情報を持っており、それぞれのジャンルで検索できるためです。

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
BS番組の購入などができない	ペイ・パー・ビュー（PPV）が購入できない。	● 本機と電話回線が正しくつながれているか確認してください（☞127～130ページ）。 ● 電話回線の種類などが正しく設定されているか確認してください（☞146ページ）。 ● 番組によっては購入可能時間が決まっているものがあります。 ● 番組の購入可能件数を越えると購入できなくなります。
BS／CS電源ランプが点滅する／表示が消えない	BS/CS電源ランプが点滅する。または、「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」と表示される。	**BSアンテナをつないでいるときは** ①☞126ページの内容を確認してください。それでも表示が消えないときは、本機の電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。 ②表示が消えたときは、もう1度、受信設定してください（☞137ページ）。そのときに、「（メニュー切換）」メニューで「（初期設定）」を選び、「衛星設定」で、「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてから行ってください。 **マンションなど共同受信システムのときは** ①☞126ページ下の手順1～2に従って操作し、手順3で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください。 ②それでも表示が消えないときは、本機の電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
予約した番組が録画・視聴できない	録画予約した番組が録画されない。	● 本機と連動させずにビデオ側の予約機能を使って予約したとき、ビデオ側で予約を設定しましたか？（☞62ページ） ● 予約した番組の開始時刻が変わったとき、「（メニュー切換）」メニューの「（予約設定）」で、「予約方法の設定」が「開始時刻が変わったら予約を取り消す」に設定されていると、予約は取り消されます（☞68ページ）。 ● 予約が重複しているときは、PPV番組（☞37ページ）は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます（☞67ページ）。 ● 著作権が保護されている番組では、録画できない場合があります（☞38ページ）。 ● メール（☞80ページ）が送られていることがあります。メールを読んで録画されなかった理由を確認してください。
	i.LINKでソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1にデジタル録画予約した番組が録画されない。	● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていたりすると、i.LINK対応機器が使えなくなります（☞181ページ）。 ● 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞183～184ページ）。 ● 他のi.LINK対応機器をLINCしていませんか？録画実行中に、予約したハードディスクレコーダーVRP-T1以外のi.LINK対応機器をLINCすると、予約が取り消されることがあります（☞181ページ）。
	AVマウスを使ってアナログ録画予約した番組が録画されない。	● お使いのビデオのメーカー名とリモコンコードが正しく入っていて、AVマウスで操作できるか確認してください（☞150ページ）。 ● お使いのビデオは、電源スイッチを押すたびに電源が入/切するタイプですか？入→スタンバイ→切のように切り換わるタイプのビデオでは、正しく録画できないことがあります（☞62ページ）。 ● 予約後、開始時刻までにテレビ本体の電源スイッチで主電源を切っていると、電源が入らないため、録画が実行されません。 ● 予約の際、ビデオの電源を「切」にしましたか？（☞60ページ） ● ビデオの入力切換は正しいですか？（☞60ページ） ● AVマウスの取り付け位置は正しいですか？（☞148ページ） ● 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低いビデオによっては、AVマウスでのアナログ録画予約（☞59～62ページ）がうまくいかないことがあります。詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

症状		対処のしかた
予約した番組が録画・視聴できない	視聴予約した番組に切り換わらない。	● 予約開始時刻までに本機の電源を入れた状態にしておきましたか？視聴予約した番組は、電源スタンバイや主電源を切った状態のままだと、自動的に電源が入らないため、番組を見逃してしまいます（☞65ページ）。
	録画予約した番組の再生した映像が映らない、乱れる。	● メール（☞80ページ）が送られていることがあります。メールを読んで録画時の状況を確認してください。

メニューやリモコンについて

症状		対処のしかた
メニューが選べない／表示が消えない	メニューで選べない項目がある。	● 黒く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
	設定した「（メニュー切換）メニュー」の項目が正しく反映されていない。	● BSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、「（メニュー切換）」メニューの項目を設定した直後（約2分以内）に、本体の電源スイッチでテレビの主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、再度設定し直してください。
	「ICカードとのアクセスが成立しません　ICカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターへ連絡してください」と表示される。	● B-CASカードが奥までしっかり入っているか、入れる向きが前後、表裏逆向きになっていないか確かめてから、もう1度正しい向きで入れ直してください（☞145ページ）。 入れ直してもメッセージが表示されるときは、ご覧になっている各BS放送局のカスタマーセンターへお問い合わせください（☞151ページ）。 ● B-CASカードが破損している場合は、ご覧になっている各BS放送局のカスタマーセンター（☞151ページ）またはB-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）へお問い合わせください。 ● 付属のB-CASカード以外は使えません（☞145ページ）。
リモコンが働かない	リモコンで操作できない。	● 電池を交換してください。 ● 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 ● 本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、本体の電源スイッチを押してください。 ● リモコンをリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 ● リモコン受光部（☞211ページ）に蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具またはテレビの位置を調整してください。
	リモコンの①～⑫/選局の地上波用数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞133ページ）** ● 「（テレビ設定）」メニューで「テレビ（地上）設定」を選び、「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞152ページ）** ● 「（テレビ設定）」メニューで「テレビ（地上）設定」を選び、「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 ● 11チャンネルは ① を2回、12チャンネルは ① と ② を続けて押してから、⑫/選局 を押してください。 ● ①～⑩/0の地上波用数字ボタンに続けて ⑫/選局を押してください。

次のページにつづく

i.LINKについて

症状		対処のしかた
i.LINK対応機器を操作できない	i.LINK対応機器をLINCできない。	● 次のi.LINK機器は本機が対応していないため、つながないでください。 －DV方式デジタルビデオカメラ －パソコン －MDデッキ ● 接続に異常はありませんか？i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください（☞183～184ページ）。また、i.LINK対応機器の電源ケーブルがはずれていないかご確認ください。 ● i.LINK操作画面の「接続機器」リストにLINCしたいi.LINK対応機器が登録されていない場合は、「機器設定」画面で登録変更を行ってください（☞186ページ）。 ●「機器設定」画面で、LINCしたい機器が「i.LINK機器」リストに表示されていますか？（☞186ページ） ● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていると、i.LINK対応機器を使用できなくなります（☞181ページ）。 ● 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。
	i.LINK操作画面が操作できない。	● 本機のi.LINK操作画面を使って操作できるのはソニー製のハードディスクレコーダーVRP-T1と、MICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7のみです（☞98ページ）。 ● D-VHSデッキなどのi.LINK対応機器は、本機の操作画面では操作できません。また、ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1（HD録画未対応）も、本機の操作画面では操作できません。
デジタル録画・再生ができない	ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1にデジタル録画できない。	●「i.LINK録画」操作画面で、ハードディスクレコーダーVRP-T1をLINCしてください（☞100ページ）。 ● 著作権が保護されている番組では、記録できない場合があります（☞56、181ページ）。
	ソニー製ハードディスクレコーダーVRP-T1またはソニー製MICROMV方式デジタルビデオカメラに録画された番組や映像を再生できない。	●「i.LINK再生」操作画面で、ハードディスクレコーダーVRP-T1、またはMICROMV方式デジタルビデオカメラDCR-IP7をLINCしてください（☞103、105、107ページ）。

“メモリースティック”について

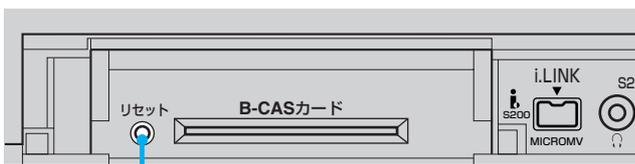
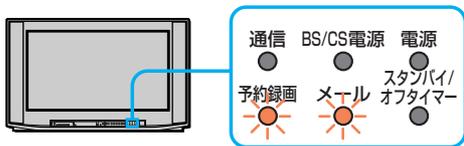
症状		対処のしかた
“メモリースティック”が使えない	“メモリースティック”の画像が出ない。	● “メモリースティック”は正しく挿入されていますか？（☞111ページ） ● メモリースティックボタンを押してください（☞112ページ）。 ● “メモリースティック”に静止画像が記録されていますか？
	「メモリースティックがありません」と表示される。	● “メモリースティック”は正しく挿入されていますか？（☞111ページ）
	「メモリースティックエラー」と表示される。	● “メモリースティック”の異常です。“メモリースティック”を一度抜いて、入れ直してみてください。 ● “メモリースティック”が壊れていることがあります。他の“メモリースティック”を入れてみてください。
	「ファイルエラー」と表示される。	● 静止画像が壊れている可能性があります。 ● 静止画像が、DCF規格に準拠しているJPEG形式でない可能性があります。デジタルカメラなど他の“メモリースティック”対応機器で再生できるか確認してください。
	「フォーマットが必要です」と表示される。	● “メモリースティック”が正しくフォーマット（初期化）されていません。デジタルカメラなど他の“メモリースティック”対応機器で“メモリースティック”をフォーマットし直すか、別の“メモリースティック”を入れてください。
	「再生できるファイルがありません」と表示がされる。	● “メモリースティック”に再生できる静止画像が入っていません。“メモリースティック”に静止画像が記録されていますか？ ● “メモリースティック”の他のディレクトリに移動してください（☞113ページ）。
	「メモリースティックタイプエラー」と表示がされる。	● 本機では使用できない“メモリースティック”です。
	「ファイルがありません」と表示がされる。	● “メモリースティック”に静止画像がありません。
	「ファイルがプロテクトされています」と表示がされる。	● 静止画像がプロテクトされています。デジタルカメラなど他の“メモリースティック”対応機器で静止画像データプロテクトを解除してください。
	「メモリースティックがロックされています」と表示がされる。	● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを左側にしてください（☞110ページ）。

リセットボタンについて

過大な静電気や落雷による電源電圧の異常により、まれに、本機が操作を受け付けなくなったり、映像や音声が正常に出なくなった場合は、ICカード挿入口近くにあるリセットボタンをペンの先などで1回押してください。
テレビ本体がリセットされて、正常に動作するようになります。
リセットボタンを押すと、本体前面のメールランプと予約録画ランプが数秒間交互に点滅し、リセットされるのに約15秒間かかります。

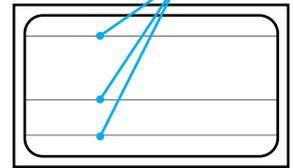
また、リセット後に異常が改善されず、かつ、以下の表示が出た場合はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にお知らせください。

- 本体前面のメールランプと予約録画ランプが、同時に点滅した場合は、点滅回数。
- 「デジタル自己診断メニュー」画面が表示された場合は、緑色の数字。

本機前面（ICカード挿入口のフタを開けたところ）

電源スタンバイ時のデータ取得について

電源スタンバイ時に、「カチッ」と音がして、本体前面のBS/CS電源ランプが点灯したときは、衛星からのデータを取得するための動作です。故障ではありません。
データ取得が終わったら、自動的に電源スタンバイ状態に戻り、本体前面のBS/CS電源ランプも消灯します。

画面に細い横線が出たら（ダンパーワイヤー）

画像によっては、極めて細い水平線が見えることがあります。これは、ダンパーワイヤーと呼ばれる線材の影で、位置は下図に示されているとおりです。ダンパーワイヤーはトリニトロン管内部のアパチャーグリルの振動を抑えるために取り付けられており、より高画質な映像をお楽しみいただけるように工夫されたものです。

自動で衛星ダウンロードする機能について

衛星ダウンロードとは、BSから送信されてくるソフトウェア書き換え用のデータ信号を本機が受信し、**電源スタンバイ中（本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯中）に、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換える機能です。**ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、BSデジタル放送電波の中に含まれて送信されます。

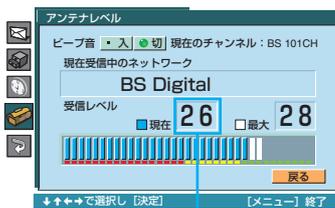
お買い上げ時は、本機が衛星ダウンロードを自動で行う設定（「衛星ダウンロード：オート」）になっているため、お客様が操作や設定することなく、常に最新版に書き換えられたソフトウェアで、BSデジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

ご注意

- 手動では衛星ダウンロードできません。
- 衛星ダウンロードを行わないように設定すると、BSデジタル放送が正しく受信できなくなることがあります。そのため、自動で衛星ダウンロードできる設定のままお使いいただくよう、強くお勧めします。
- BS予約した録画の実行中（☞56～63ページ）は、電源スタンバイ中でも、衛星ダウンロードは行われません。
- 本体の電源スイッチを押して、主電源を切ると、衛星ダウンロードは行われません。

次の2つの条件を満たしていれば、電源スタンバイ中に、自動で衛星ダウンロードが行われます。

● **BSアンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっている。**

20未満のときは、衛星ダウンロードが正しく行われません。アンテナの向きを調整して、受信レベルを20以上にしてください。
BSアンテナの「現在の受信レベル」は、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星アンテナレベル」を選ぶと、画面に表示されます。

20以上であれば、衛星ダウンロードが正しく行われます。

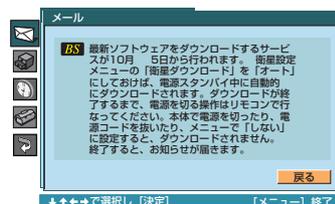
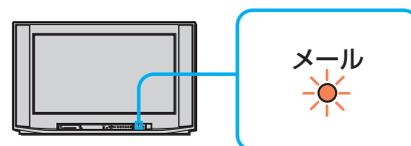
● **「衛星ダウンロード：オート」の設定*になっている。**

「衛星ダウンロード：しない」に設定されていると、衛星ダウンロードが行われません。
なお、「衛星ダウンロード」設定は、「(メニュー切換)」メニューで「(初期設定)」を選び、「衛星設定」で「衛星ダウンロード」を選ぶと、画面に表示されます。

* お買い上げ時の設定です。

衛星ダウンロードの流れについて

衛星ダウンロードが行われるときは

放送衛星（BS）からソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信されてきたときは、本体前面のメールランプが点灯し、次のような**「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが届きます。**

文面は異なる場合があります。

次のページにつづく

衛星ダウンロードの流れについて（つづき）

「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールを確認したいときは

1 **本体前面のメールランプが点灯しているのを確認する。**

2 **BSになっていないときは、リモコンの BS ボタンを押して、BSに切り換える。**

3 **リモコン右横の 開 ボタンを押して、フタを開ける。**

4 **メニューボタンを押して、メニューを出す。**

5 **△/▽で「（メニュー切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

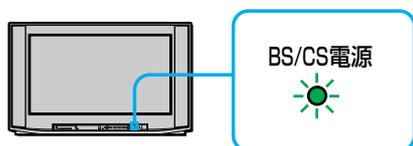
6 **「（お知らせ）」が選ばれていることを確認し、真ん中を押しこんで決定する。**

7 **△/▽で「メール」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

8 **△/▽◁/▷で新しいメールを選び、真ん中を押しこんで決定する。**
「衛星ダウンロードのお知らせ」のときは、☞203ページのような内容のメールが表示されます。

9 **メールを読んだ後、メニューボタンを押して、メニューを消す。**

衛星ダウンロードの実行中は

衛星ダウンロードは電源スタンバイ時（テレビ本体前面のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているとき）にのみ、自動的に行われます。
電源スタンバイ中、数時間ごとに、衛星から数分程度のソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信され、本機がその信号を受信し、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換えます。書き換えは、30分前後かかります（内容により時間は異なります）。
また、衛星ダウンロード中は、本体前面のBS/CS電源ランプが点灯します。

ご注意
衛星ダウンロード中は、本機の電源を入れたり、本体の電源スイッチで主電源を切ったり、電源コードを抜いたりしないでください。衛星ダウンロードの中断により、ソフトウェアの書き込みが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

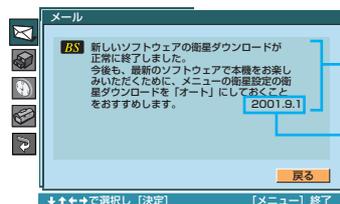
衛星ダウンロードについてのQ&A

「1回目の信号でうまく衛星ダウンロードできなかったら？」
ご安心ください。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、一定の期間内に何回も送信されます。

「電源コードを抜いておくと衛星ダウンロードされないの？」
電源コードが抜かれていたり、本体の電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、衛星ダウンロードは行われません。

「衛星ダウンロードによって、設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったりしないの？」
ご安心ください。お客様が設定した内容は書き換えられることなく、保持されます。

衛星ダウンロードが正常に終了すると

「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが自動的に削除され、その代わりに、**「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届きます。**

ちょっと一言
新しく「衛星ダウンロードのお知らせ」のメールが送られてくると、その代わりに「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールは、自動的に削除されます。

「衛星ダウンロード終了のお知らせ」のメールが届かないときは
まず、次のことをご確認ください。
- BSアンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっていますか。
- 電源スタンバイ状態になっていましたか。

それでも、メールが届かないときは、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口へご相談ください。

「i.LINK待機設定」を「する」に設定しているときは ☞190ページ
「衛星ダウンロードにより最新ソフトウェアが
取り込まれています。
本体の電源スイッチを入れ直せば新しいプロ
グラムが有効になります。
終了すると、お知らせが届きます。」
のようなメールが届きます。メールの指示に従って、本体の電源スイッチで主電源を入/切してください。

テレビ表面の取扱上のご注意

別冊の「安全のために」もあわせてご覧ください。

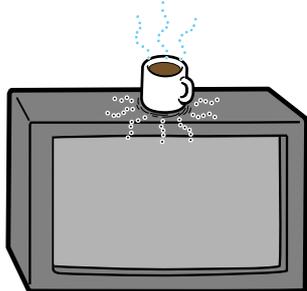
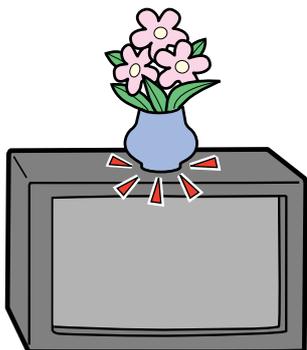
ブラウン管表面のお手入れについて

ブラウン管表面が汚れているときは、市販のガラスクリーナー、または研磨剤の入っていない中性洗剤を水で薄め、柔らかい布に含ませ固く絞ってから、拭き取ってください。
表面を傷つけることがあるため、固い布の使用や、から拭きはやめてください。また、塩素系や塩酸などの酸性洗浄液や、クレンザーや歯磨粉など研磨剤入りの洗浄剤も使わないでください。

テレビ本体の光沢塗装について

本体表面は、光沢感のある仕上がりになっています。
塗装表面の変色や変質、傷の原因になるおそれがあるため、次のことを守ってください。

- テレビに物をぶつけない。
- テレビの上に熱くなったコーヒーカップや、花瓶など重いものなどを置かない。
（内部に水が入ると、火災や感電の原因にもなります。）

禁止

禁止

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。ただし、ブラウン管代およびブラウン管の交換にともなう技術料、出張料は2年間無料です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
各BS局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターやB-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）に問い合わせてください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
型名：KD-28HD800, KD-32HD800, KD-36HD800
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 TEL.
お近くのサービスステーション TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
BSデジタル放送方式
110度CSデジタル放送方式
受信チャンネル　VHF 1〜12チャンネル
UHF 13〜62チャンネル
CATV C13〜C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
BS・110度CSデジタル（テレビ、ラジオ、独立データ）の各チャンネル
BS/110度CS対応周波数
1022〜2072 MHz
BS/110度CS対応ローカル周波数
10.678 GHz
ブラウン管*　KD-28HD800:スーパーファインピッチ
FDトリニトロン102度偏向 28型
KD-32HD800:スーパーファインピッチ
FDトリニトロン102度偏向 32型
KD-36HD800:スーパーファインピッチ
FDトリニトロン102度偏向 36型

* テレビの型（28型など）は画面寸法を表すものではなく、ブラウン管の外径対角寸法を基準とした大きさの目安です。

画面寸法　KD-28HD800:57.5×32.4、66cm対角
KD-32HD800:66.2×37.3、76cm対角
KD-36HD800:75.2×42.3、86.2cm対角
（幅×高さ、対角径）
使用スピーカー　ウーファー 12cm 丸（2）
フルレンジスピーカー 5×9cm楕円（2）
ツイーター 5cm 丸（2）
音声出力　実用最大（JEITA）:
ウーファー 7.5W×2
ミッドレンジ/ツイーター 7.5W×2

入出力端子

アンテナ端子　VHF/UHF、BS IF 75Ω F型コネクター（コンバーター用電源出力、DC15V最大4W、芯線側＋、オート/入/切、メニュー切り換え）
ビデオ1、2、3、4入力端子
S2映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、
インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント1入力端子
映像: ピンジャック
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
PB/PR、CB/CR:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
コンポーネント2入力端子
D4映像:
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
CB/CR:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上

AVマルチ入力端子 12ピン
BS/CS/ビデオ出力端子
S2映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像: ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声: ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100％変調時、またはBS放送の最大出力 –12dB時の数値です。
音声出力端子　5.1ch出力、ピンジャック
最大出力レベル 2.0 Vrms
出力インピーダンス 5 kΩ
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上
光デジタル音声出力端子
AAC/PCM対応
電話回線端子　モジュラージャック
i.LINK端子　4ピン　S200（3）
AVマウス出力端子　ミニジャック

電源部・その他

モデム通信速度　2400 bps
消費電力　KD-28HD800:235W
KD-32HD800:245W
KD-36HD800:274W
消費電力（リモコン待機時）: KD-28HD800/KD-32HD800/KD-36HD800共通です。
BS予約した録画の実行中：37W
i.LINK待機中：37W
上記の2つ以外の電源スタンバイ中：0.3W
年間消費電力量**　KD-28HD800:296kWh/年
KD-32HD800:310kWh/年
KD-36HD800:347kWh/年

** 年間消費電力量とは:省エネルギー法に基づいて、型サイズや受信機の種類別の算定式により、一般家庭での平均視聴時間(4〜5時間)を基準に算出した、一年間に使用する電力量です。

最大外形寸法　KD-28HD800:80.4×51.4×56.4cm
KD-32HD800:89.8×57.6×56.4cm
KD-36HD800:99.4×62.2×59.2cm
（幅×高さ×奥行き）
質量　KD-28HD800:約57.9kg
KD-32HD800:約76.2kg
KD-36HD800:約97.2kg
電源　AC100V、50/60Hz
付属品
- リモートコマンダー　RM-J401（1）
- 乾電池　単4型（2）
- アンテナ接続ケーブル（1）
- AVマウス（1）
- テレホンコード（10m）（1）
- モジュラーテレホンコードカプラー（1）
- B-CASカード（BSデジタル放送用ICカード）とB-CAS用ユーザー登録はがき台紙（各1）
- 取扱説明書（1）
- 110度CS操作ガイドブック（1）
- 簡単操作ガイド（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- ソニー用お客様ご登録カード（1）
- 安全のために（1）
- 安全点検のおすすめ（1）

別売りアクセサリー

2001年9月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

テレビスタンド　KD-28HD800:SU-28HD
KD-32HD800:SU-32HD
KD-36HD800:SU-36HD
ステレオヘッドホン
MDR-AV305
テレビラック固定ベルト
BLT-R10
BSアンテナなど
接続ケーブルなど

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省･資源エネルギー庁の定めた「家電･汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計･製造した製品です。
- "SUPER FINE PITCH FDトリニトロン管"は、従来の"FDトリニトロン管"からアパチャーグリルのピッチを高精細化したソニー独自のブラウン管の名称です。
- 本機は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。
BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ " " は商標です。
- "Memory Stick" ("メモリースティック") および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- 本機は電気通信事業法第50号第1項の規定に基づく技術基準適合認定モデルです。

機器名	KD-28HD800、KD-32HD800、KD-36HD800
認証番号	A01-1003JP

- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル（☞139ページ）

BSアンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）（☞27ページ）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRC4倍密（標準）モード」は、走査線を通常のNTSC映像の2倍の1050本にして、1フィールド目で走査線の525本全部（本来の1フレーム分）を1/60秒で描き、次のフィールドは、1フィールド目の間を525本で飛び越し走査します。

カ行

緊急放送（☞33ページ）

BSデジタルの標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用した放送です。
緊急放送には、地震などの災害時に放送される緊急ニュース番組などがあります。

ケーブルテレビ（CATV）（☞135ページ）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBSアナログに加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

降雨対応放送（☞32ページ）

激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に並行して、降雨に強い方式で同じ番組を送るものです。
本機では、お買い上げ時、番組によって降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

ゴースト（☞154ページ）

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路

本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

識別制御信号（☞88ページ）

識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

シネマビジョン（☞10ページ）

画面の横縦比が2.35:1になっている映像ソフトのことです。一般的には黒帯に字幕が入る映画などに使われています。

字幕放送（☞79ページ）

画面上に、セリフなどの字幕を表示できる放送です。
本機では、字幕を入/切したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

走査線（☞27ページ）

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。本機はテレビ（地上波）チューナーおよびBSデジタルチューナーを内蔵しています。

デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション（DRC-MF）（☞12、14ページ）

テレビ放送やビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、通常のNTSC映像の4倍の情報量で映し出す「DRC4倍密（標準）モード」と、順次走査を行い、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。
さらに、このテレビでは、DRC-MFパレットで映像に合った好みの画質に調整できます。

デジタルCS放送（☞171ページ）

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

デジタルハイビジョン信号HD（☞27ページ）

BSデジタルの放送で1125iと750pの画像方式があり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、35mm映画なみの臨場感あふれる高精細画質を楽しめます。

ハ行

ハイビジョン放送（☞5ページ）

BSアナログでのBS9チャンネル（NHKハイビジョン）の放送です。BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン信号HDではありません。

ビスタビジョン（☞10ページ）

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

標準テレビ信号SD（☞27ページ）

BSデジタルの放送で525pと525iの画像方式があり、525iはテレビ（地上波）放送と同等の画質です。

プログレッシブ（順次走査）（☞27ページ）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRCプログレッシブモード」は、走査線525本の順次走査を行い、静止画の文字やグラフィック、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた映像にします。

マ行

マルチチャンネル放送（☞25、32ページ）

BSデジタルの標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用した放送です。
同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送する「タイプ1」と、同じBS放送局の別のチャンネルで臨時放送を行う「タイプ2」があります。

マルチビュー放送（☞25、76ページ）

BSデジタルの標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用した放送です。
生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめます。
それぞれのカメラからの映像を、本機のリモコンの映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

ヤ行

有効走査線数（☞27ページ）

走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ（地上波）放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。BSアナログのハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン信号HDでは、1125本中1080本となっています。
なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

ラ行

臨時放送（☞25、32ページ）

BSデジタルの標準テレビ信号SDの多チャンネル放送を利用した放送です。
同じBS放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。

数字・アルファベット順

5.1ch（チャンネル）サラウンド（☞28、177ページ）

左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。
本機の音声出力端子に5.1ch入力対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドの音声を楽しめます。

AAC（☞29、178ページ）

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現します。

B-CASカード（ICカード）（☞144ページ）

プラスチック・カードに集積回路を埋め込んだものです。チャンネルの契約、購入内容などの情報がB-CASカードに記憶されます。記憶された情報は、電話回線を通じて放送局に送信されます。

BSアナログ放送（☞5ページ）

従来からのBSアナログチューナー内蔵テレビやビデオで受信できるBSアナログ放送の4チャンネル（NHK BS1／BS2、ハイビジョン、WOWOW）と、独立音声ラジオ放送1チャンネル（St.GIGA）です。

BSデジタル放送（☞24ページ）

2000年12月から始まった、放送衛星（BS）によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

D端子（☞166ページ）

デジタルCS放送やDVDプレーヤーなどに対応したコンポーネント映像端子です。デジタルCSチューナーやDVDプレーヤーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。
D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD4入力端子が付いてます。

- D1端子：525i（480i）の信号に対応
- D2端子：525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子：525i（480i）と 525p（480p）、1125i（1080i）の信号に対応
- D4端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号に対応
  本機では 750p の画像方式を 1125i の画像方式に変換して表示します。

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

EPG（☞40、42ページ）

「エレクトロニック・プログラム・ガイド（Electronic Program Guide）」の略で、BS放送局から送信される番組表（タイトルや番組説明、放映時間など）のことです。

ID-1方式（ビデオID-1システム）（☞10、89ページ）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1～4入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

NTSC方式

日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

PCM（☞29、178ページ）

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。「パルス・コード・モジュレーション（Pulse Code Modulation）」の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

PPV（ペイ・パー・ビュー）（☞37ページ）

「見るたびに支払う」という意味で、一回視聴するごとに購入する番組のことです。

S2方式（S2映像）（☞10、88ページ）

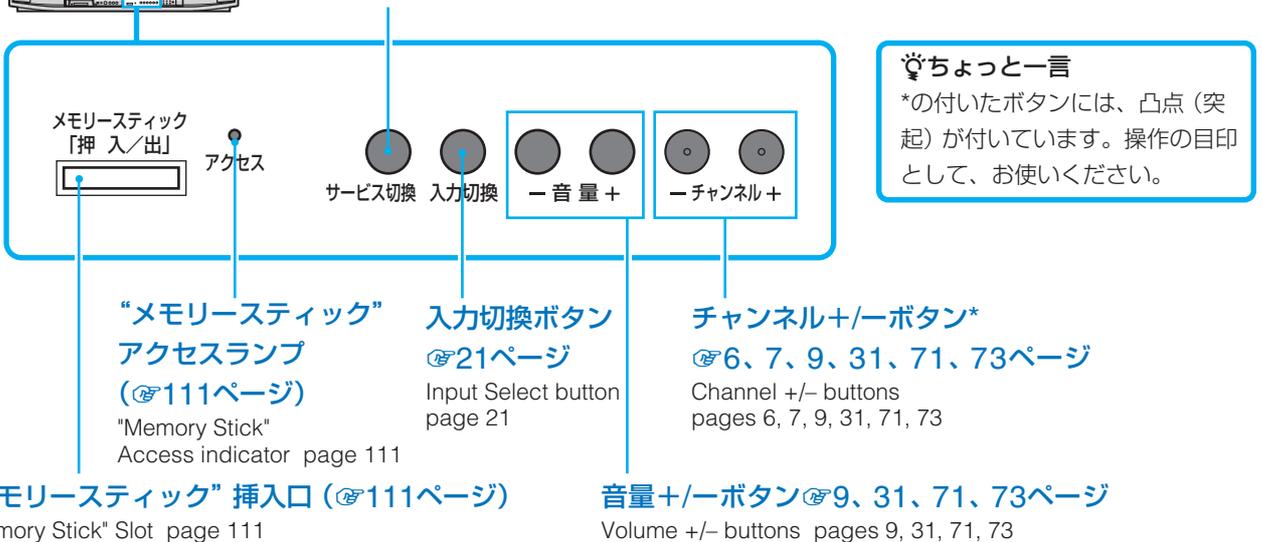
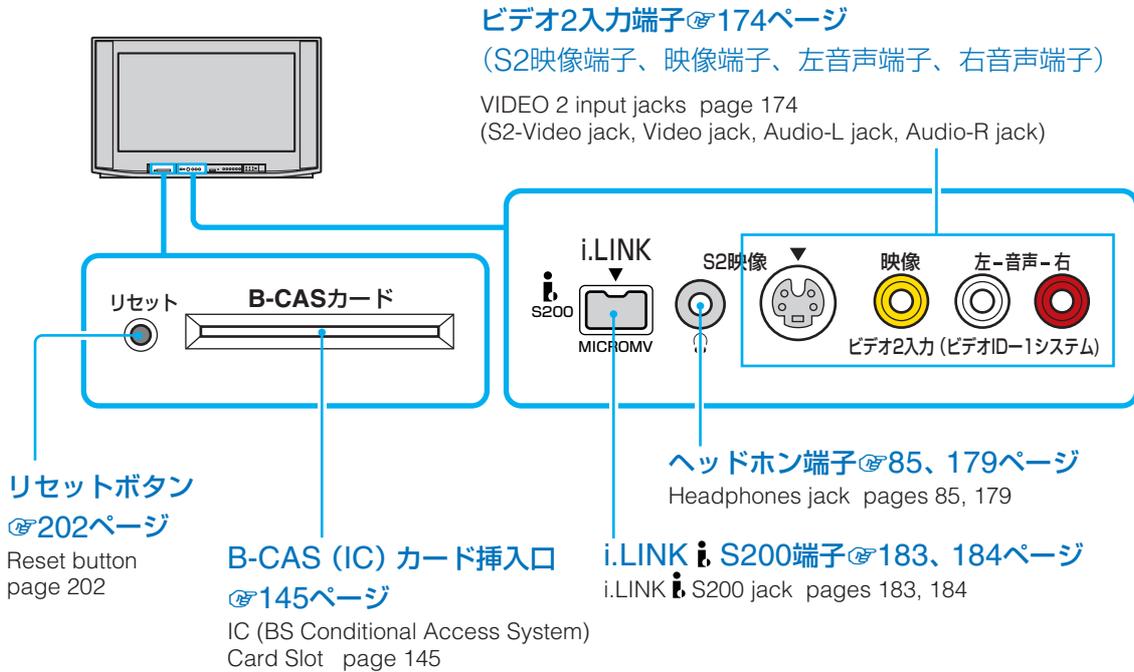
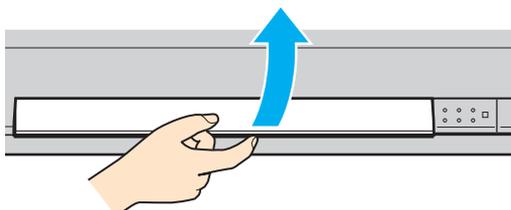
S映像のC端子へ直流電圧を重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。
縦長に圧縮された画像は「フル」モードに、レターボックスの映像は「ズーム」モードに自動的に戻す識別制御信号が入っています。
本機はS2方式に対応しています。
S2映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS2映像入力端子につなぐと、S2方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前
Identifying parts and controls

本機前面/TV Front Panel

リモコンにある同名のボタンと、同じ働きをします。

ちょっと一言

*の付いたボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

本機前面のパネルの開けかた

ICカード挿入口のフタの開けかた

ランプの点灯について

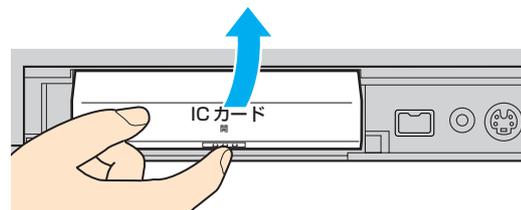
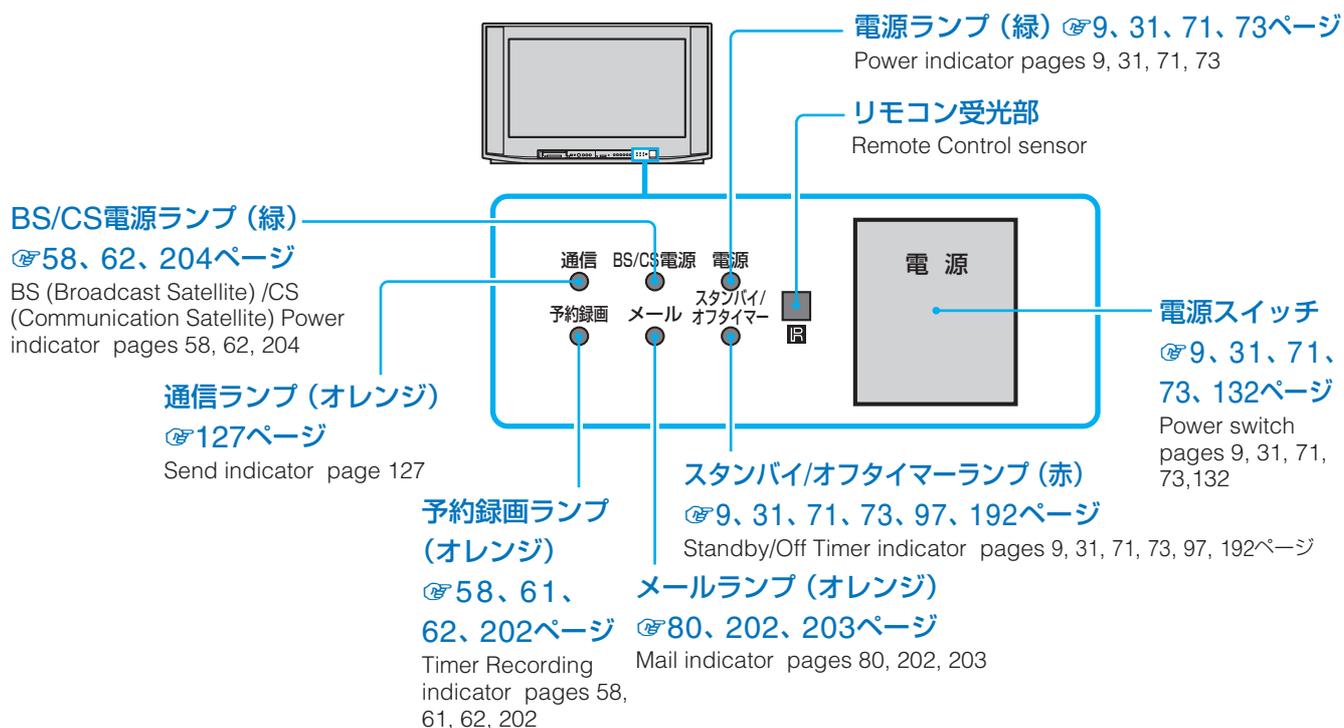
主電源「切」のとき

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

電源スタンバイのとき

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

電源が入っているとき

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

オフタイマー「入」のときは、赤く点灯（☞97ページ）

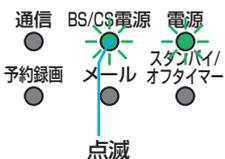
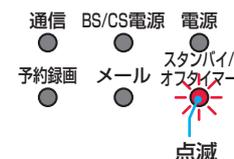
衛星ダウンロード中（☞204ページ）/データ取得中（☞202ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

BSアンテナ電源のショートなど（☞126ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー
点滅

自己診断表示（☞192ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー
点滅

主電源「切」以外のときは、上記に加えて、次のランプも点灯します。

録画予約待機中（☞58、61ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

予約した録画の実行中（☞58、62ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

通信中（☞127ページ）（電源スタンバイ時は点灯しません）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

未読メールがあるとき（☞80、203ページ）

通信 BS/CS電源 電源
予約録画 メール スタンバイ/オフタイマー

次のページにつづく

リモコン/Remote Control

本体にある同名のボタンと、同じ働きをします。

画面表示ボタン☞8、30、70、72ページ
Display button　pages 8, 30, 70, 72

消音ボタン☞8、30ページ
Muting button　pages 8, 30

カラーボタン☞36、72ページ
Color buttons　pages 36, 72

d（連動データ）ボタン
☞6、36ページ
Linkage Data button　pages 6, 36

メモリースティックボタン
☞112、114、116ページ
Memory Stick button　pages 112, 114, 116

i.LINK再生ボタン
☞103、107ページ
i.LINK Play button　pages 103, 107

音声切換ボタン*☞19、75ページ
Audio Select button　pages 19, 75

電源スイッチ
☞9、31、71、73ページ
Power switch　pages 9, 31, 71, 73

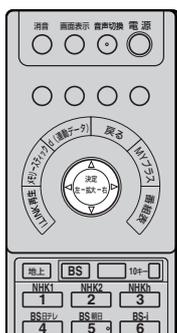
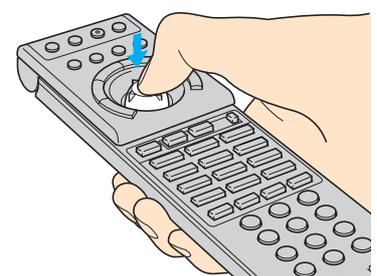
戻るボタン☞36、72ページ
Return button　pages 36, 72

MYプラスボタン☞41ページ
MY Plus button　page 41

番組表ボタン☞40、42ページ
TV Program button　pages 40、42

△/▽/◁/▷/決定/左拡大/右拡大
☞83、85、212ページ
△/▽/◁/▷/Select/Left Enlarge/Right Enlarge　pages 83, 85, 212

地上波用数字ボタン*☞6、9ページ
Terrestrial Broadcasting Channel Number buttons　pages 6, 9

ちょっと一言
- 青いボタンや青い文字のボタンは、BSの操作専用ボタンです。
- 黄色い文字のボタンは、2画面の操作専用ボタンです。
- * の付いたボタン（数字ボタンは「5」のみ）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

明るさ設定ボタン
☞15、93ページ
Brightness Mode button pages 15, 93

消費電力ボタン☞20ページ
Power Saving button page 20

映像切換ボタン☞76ページ
Video Select button page 76

予約一覧ボタン☞66ページ
Reservation List button page 66

i.LINK録画ボタン☞100ページ
i.LINK Recording button page 100

BS ボタン☞6、30、70、72ページ
BS Select button pages 6, 30, 70, 72

地上 ボタン☞6、8ページ
Terrestrial Broadcasting Select button pages 6, 8

テレビ ボタン☞6、30、70、72ページ
BS TV Select button pages 6, 30, 70, 72

ラジオ ボタン☞6、70ページ
BS Radio Select button pages 6, 70

音量+/−ボタン
☞9、31、71、73ページ
Volume +/– buttons
pages 9, 31, 71, 73

入力切換用ボタン☞21ページ
ビデオボタン
コンポーネントボタン
AVマルチボタン
Input Select buttons page 21
Video button
Component button
AV Multi button

DRC-MFパレットボタン
☞12ページ
DRC-MF Palett button page 12

DRC-MFモード切換ボタン
☞14ページ
DRC-MF Mode Selection button page 14

2画面ボタン☞82ページ
Picture-and-Picture button page 82

ワイド切換ボタン☞11ページ
Wide Mode Select button page 11

メニューボタン☞214ページ
Menu button page 214

開 ボタン☞213ページ
Open button page 213

CS ボタン
詳しくは、同梱の「110度CS操作ガイドブック」をご覧ください。
CS select button
For details, see the supplied 110 degrees CS operating guide book.

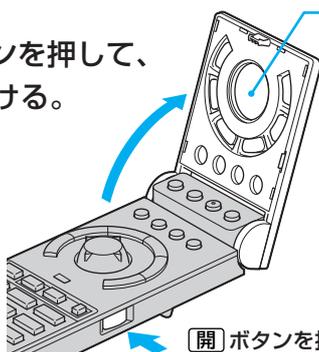
10キー ボタン☞6、30、70、72ページ
10 Key button pages 6, 30, 70, 72

BS用数字ボタン*☞6、30、142、160、163ページ
BS (Broadcast Satellite) Channel buttons pages 6, 30, 142, 160, 163

番組説明ボタン☞34、77ページ
Program Explanation button pages 34, 77

独立データ ボタン☞72ページ
Data Select button page 72

チャンネル+/−ボタン*☞6、7、9、31、71、73ページ
Channel +/– buttons pages 6, 7, 9, 31, 71, 73

メモボタン☞87ページ
Memo button page 87

メニュー一覧

- メニューは△/▽/◁/▷で選び、真ん中を押しこむか、または▷で決定します。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 灰色で表示される部分は選べません。
- もう1度メニューボタンを押すと、メニューが消えます。

(メニュー切換) メニューの一覧

お知らせ（☞39、81、204ページ）

お知らせ
メール
ボード(CS)
ペイパービュー購入合計額
110度CSを見るには

メール
(☞81ページ)

ボード(CS)

詳しくは、同梱の「110度CS操作ガイドブック」をご覧ください。

ペイ・パー・ビュー購入合計額
(☞39ページ)

110度CSを見るには

操作ガイドが表示されます。

各種切換（☞29、79、178、179ページ）

各種切換
字幕入切：　第1言語
光デジタル出力：　オート

字幕入切
(☞80ページ)

光デジタル出力
(☞29、178、179ページ)

ご注意

BSデジタル信号には、多くの情報が含まれています。そのため、「(メニュー切換)」メニューの項目を設定した直後（約2分以内)に、本体の電源スイッチでテレビの主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、再度設定し直してください。

メニュー一覧
(つづき)

予約設定（☞63、68、149ページ）
予約設定
予約方法の設定
AVマウス確認
二重音声設定
↓↑←→で選択し［決定］
［メニュー］終了
予約方法の設定
（☞68ページ）
予約後に開始時刻が変更されたとき、予約を変更された時刻で実行するか取り消すかを設定します
開始時刻が変わったら予約を取り消す
開始時刻に合わせて予約も変更する
戻る
AVマウス確認
（☞149ページ）
予約録画前にAVマウスの確認を行います
お使いのビデオメーカー名を選んでください
ソニー
東芝
三菱
サンヨー
シャープ
フナイ
松下
日立
日本ビクター
アイワ
NEC
フィリップス
二重音声設定
（☞63ページ）
二重音声番組の予約時に、ビデオへ録音する音声を設定します
主
副
主／副

初期設定（☞138、140、141、146、157、158、160、162、190ページ）

初期設定
- 衛星設定
- BSチャンネル設定変更
- CS1チャンネル登録
- CS2チャンネル登録
- 電話回線モード切換
- 暗証番号設定
- 視聴年齢制限設定
- i.LINK待機設定
- ICカードの情報表示

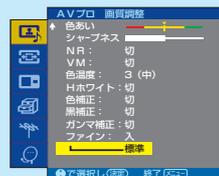
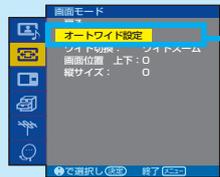
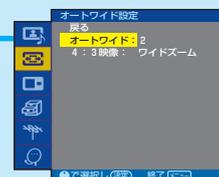
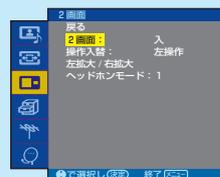
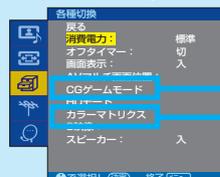
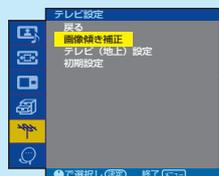
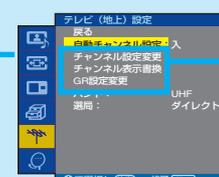
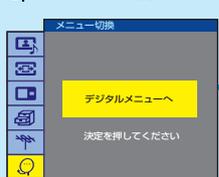
↓↑←→で選択し［決定］　［メニュー］終了

メニュー切換

メニュー切換

メインメニューへ

決定を押してください

↓↑←→で選択し［決定］　［メニュー］終了

テレビ（地上波）メニュー（☞214ページ）を表示するときは、真ん中を押しこんでください。

衛星設定（☞138、140、141、157、159ページ）

- 衛星アンテナ設定（☞138ページ）
- 衛星アンテナレベル（☞140ページ）
- 降雨対応放送受信（☞32ページ）
- 地域設定（☞141ページ）
- 衛星ダウンロード（☞203ページ）

電話回線モード切換（☞146ページ）

BSチャンネル設定変更（☞157、159ページ）

BSチャンネル登録（☞159ページ）

CS1チャンネル登録
CS2チャンネル登録

詳しくは、同梱の「110度CS操作ガイドブック」をご覧ください。

暗証番号設定（☞161ページ）

視聴年齢制限（☞163ページ）

i.LINK待機設定（☞190ページ）

ICカードの情報表示

索引

ちょっと一言
青色の文字は、メニュー中の項目です。

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

数字・アルファベット順

数字

アルファベット

その他

本商品に関するお問い合わせは、お客様ご相談センターへ

●ナビダイヤル 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。）
●携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311
●FAX 0466-31-2595
●受付時間：月～金　9:00～20:00／土・日・祝日　9:00～17:00

ソニー用お客様ご登録カードに関するお問い合わせは、デジタルベガお客様ご登録窓口へ

●ナビダイヤル 0570-00-6470
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。）
●携帯電話・PHSでのご利用は 0586-25-6470
●受付時間：月～金　9:00～18:00（年末年始祝日を除く）

同梱のソニー用お客様ご登録カードは、必要事項をご記入の上、必ずご返送ください。

廃棄時にご注意願います。

2001年4月施行の家電リサイクル法では、お客様がご使用済みのテレビ（ブラウン管方式）を廃棄される場合は、収集・運搬料金と再商品化等料金をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan

この説明書は再生紙を使用しています。